

Yukar
Retar Mokorir

英雄叙事詩
白い巻貝（1）

金成マツ

切替英雄・高橋靖以 訳

北海道教育委員会

英雄叙事詩
白い巻貝（1）

Yukar
Retar Mokorir

目次

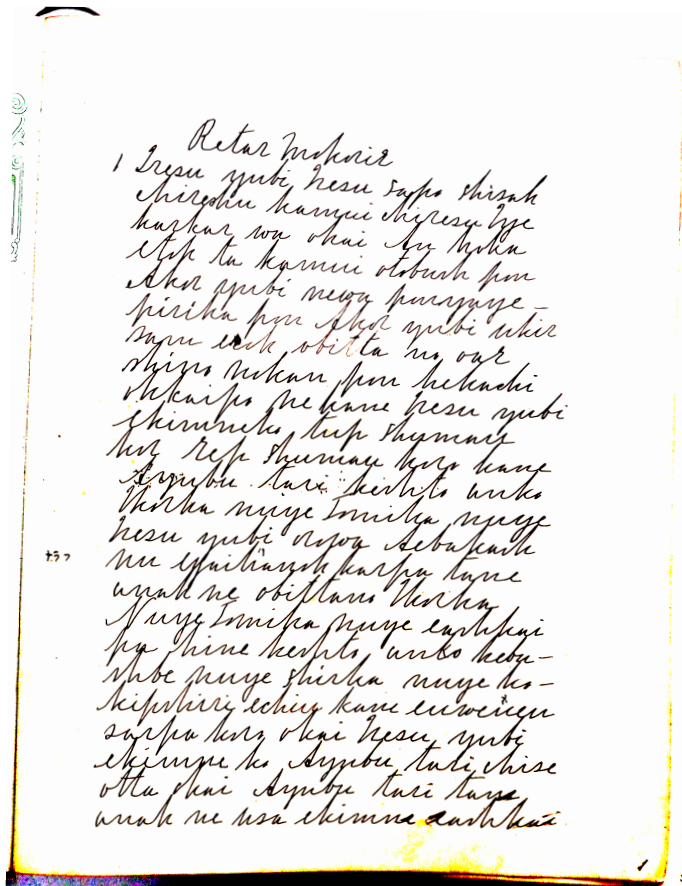
| | |
|---------------------------|----|
| 例言 | 1 |
| 原テキスト | 1 |
| 原テキスト第1ページ（影印と翻刻） | 1 |
| 表題 | 2 |
| 編集要綱 | 2 |
| 分担 | 4 |
| 参考文献 | 4 |
| 物語 白い巻貝 | 7 |
| 第1章 兄たちと姉から授かった養い | 7 |
| 1.1 兄たちの暮らし | 7 |
| 1.2 寢床から見えるしつらい | 7 |
| 1.3 掛けられている衣装 | 7 |
| 1.4 鞆に彫られた文様 | 7 |
| 1.5 女物の品々 | 8 |
| 1.6 炉と座のありさま | 8 |
| 1.7 兄姉の姿 | 8 |
| 1.8 成長する | 8 |
| 1.9 兄姉との暮らし | 8 |
| 第2章 恐るべき女との戦い | 8 |
| 2.1 女が現れる | 8 |
| 2.2 白い巻貝で装った女 | 9 |
| 2.3 白い巻貝の女の挑発 | 9 |
| 2.4 育ての兄が白い巻貝の女に挑む | 9 |
| 2.5 育ての兄が白い巻貝の女に敗れる | 10 |
| 2.6 カムイオトブシが白い巻貝の女に挑み敗れる | 10 |
| 2.7 白い巻貝の女が負かした者を嘲る | 10 |
| 2.8 ポンヤイエピリカが白い巻貝の女に挑み敗れる | 10 |
| 2.9 育ての姉が白い巻貝の女に挑む | 10 |
| 2.10 育ての姉のいまはの言葉 | 11 |
| 2.11 白い巻貝の女との戦い | 11 |
| 2.12 白い巻貝の女が逃げる | 12 |
| 2.13 シヌタプカの城 | 12 |
| 2.14 白い巻貝の女を追跡する | 12 |

| | | |
|-------------|-----------------------|-----------|
| 2.15 | 白い巻貝の女を捕まえる | 13 |
| 2.16 | 白い巻貝の女を見失う | 13 |
| 第3章 | 狼神の妹の語り | 14 |
| 3.1 | 年かさの女の家 | 14 |
| 3.2 | 家の中をのぞきみする | 14 |
| 3.3 | 招き入れられる | 14 |
| 3.4 | 狼神の妹とシヌタブカ彦が結ばれる | 15 |
| 3.5 | 狼神の妹が幸せを妬まれる | 15 |
| 3.6 | 神の世界へ去る | 15 |
| 3.7 | 再び人間の世界へ降る | 16 |
| 3.8 | 白い巻貝の裏切り | 16 |
| 3.9 | 戦闘の発端 | 17 |
| 3.10 | トミサンペチでの戦闘 | 18 |
| 3.11 | これからの戦闘 | 18 |
| 第4章 | キムント村 | 19 |
| 4.1 | ポンヤウンベの回想 | 19 |
| 4.2 | 母との別れ | 21 |
| 4.3 | キムントの館 | 21 |
| 4.4 | 白い巻貝とキムント彦 | 22 |
| 4.5 | 白い巻貝の話 | 22 |
| 4.6 | 年長のキムント彦が語る | 23 |
| 白い巻貝 | | 25 |
| 第1章 | | 25 |
| 1.1 | 兄たちの暮らし | 25 |
| 1.2 | 寢床から見えるしつらい | 26 |
| 1.3 | 掛けられている衣装 | 27 |
| 1.4 | 鞆に彫られた文様 | 27 |
| 1.5 | 女物の品々 | 29 |
| 1.6 | 炉と座のありさま | 29 |
| 1.7 | 兄姉の姿 | 30 |
| 1.8 | 成長する | 31 |
| 1.9 | 兄姉との暮らし | 33 |
| 第2章 | 恐るべき女との戦い | 33 |
| 2.1 | 女が現れる | 33 |
| 2.2 | 白い巻貝で装った女 | 35 |
| 2.3 | 白い巻貝の女の挑発 | 37 |
| 2.4 | 育ての兄が白い巻貝の女に挑む | 38 |
| 2.5 | 育ての兄が白い巻貝の女に敗れる | 40 |
| 2.6 | カムイオトブシが白い巻貝の女に挑み敗れる | 41 |
| 2.7 | 白い巻貝の女が負かした者を嘲る | 42 |
| 2.8 | ポンヤイエピリカが白い巻貝の女に挑み敗れる | 43 |

| | | |
|------|------------------|-----|
| 2.9 | 育ての姉が白い巻貝の女に挑む | 44 |
| 2.10 | 育ての姉のいまはの言葉 | 46 |
| 2.11 | 白い巻貝の女との戦い | 48 |
| 2.12 | 白い巻貝の女が逃げる | 51 |
| 2.13 | シスタプカの城 | 51 |
| 2.14 | 白い巻貝の女を追跡する | 54 |
| 2.15 | 白い巻貝の女を捕まえる | 58 |
| 2.16 | 白い巻貝の女を見失う | 61 |
| 第3章 | 狼神の妹の語り | 62 |
| 3.1 | 年かさの女の家 | 62 |
| 3.2 | 家の中をのぞきみする | 63 |
| 3.3 | 招き入れられる | 66 |
| 3.4 | 狼神の妹とシスタプカ彦が結ばれる | 68 |
| 3.5 | 狼神の妹が幸せを妬まれる | 72 |
| 3.6 | 神の世界へ去る | 72 |
| 3.7 | 再び人間の世界へ降る | 75 |
| 3.8 | 白い巻貝の裏切り | 77 |
| 3.9 | 戦闘の発端 | 82 |
| 3.10 | トミサンペチでの戦闘 | 87 |
| 3.11 | これからの戦闘 | 91 |
| 第4章 | キムント村 | 97 |
| 4.1 | ボンヤウンベの回想 | 97 |
| 4.2 | 母との別れ | 105 |
| 4.3 | キムントの館 | 109 |
| 4.4 | 白い巻貝とキムント彦 | 111 |
| 4.5 | 白い巻貝の話 | 117 |
| 4.6 | 年長のキムント彦が語る | 120 |

例言

1. 原テキスト



Retar Mokorir

1 Iresu yubi iresu sapa shisak
 chireshu kamui chiresu Iye
 karkar wa okai An hoka
 etok ta kamui otobush pon
 Akor yubi newa ponyaye-
 pirika pon Akor yubi ukir
 sam erok obitta no oar
 shino nokan pon hekachi
 okkaipo ne kane Iresu yubi
 ekimne ko tup shumau
 kor rep shumau koro kane
 Ayubu tari keshto anko
 Ikorka nuye Tomika nuye
 Iresu yubi orowa Aebakash
 nu eyaihanok karpa tane
 anak ne obittano Ikorka
 Nuye Tomika nuye eashkai
 pa hine keshto anko kebu-
 shbe nuye shirka nuye ko-
 kipshiri echiu kane euwe^{neu}
 sarpa koro okai Iresu yubi
 ekimne ko Ayubu tari chise
 otta okai Ayubu tari tane
 anak ne usa ekimne eashkai

ナラフ

原テキスト「白い巻貝」の第1ページ（影印と翻刻）。ll. 1-45.

本書で紹介するアイヌ語テキストは、アイヌ英雄叙事詩（ユーカラ）の一編であって、萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）が所蔵するいわゆる「金成マツノート」（金成マツ遺稿）に依っている。2018年7月19日に編集者ら（切替・高橋）は二風谷アイヌ資料館に赴き、萱野氏のご厚意により、遺稿の閲覧・写真撮影を行った。翻訳・編集は、この写真（影印）を用いて行った。撮影にあたって、北海道アイヌ協会のご協力もえた。

手帳は幅 192mm、高さ 228mm である。

「金成マツノート」は、アイヌの婦人^{かんなり}金成マツ（1875-1961）が金田一京助宛に書いた自身が伝承するアイヌ口承文芸のローマ字によるテキスト群である。ここに紹介する「白い巻貝」は手帳の1ページから208ページに記されたものである。この2019年度の報告書では、1ページから105ページまでを紹介する。

このテキストの執筆時については、我々の調査が十分でなかったためか、確認できなかった。

編集・翻訳にあたって、編集者らは影印によって作業した。影印から知り得ることを記し、かつ編集方針を示す。

手帳のINDEX欄には以下の記載がある（アイヌ語表題は金成マツ、日本語訳は金田一京助による）。

- 1 Retar mokorir 巻貝ノ名
- 2 Ramat chish hawe anu menoko yukar
- I. 白い巻貝
- II. 魂の泣き音が聞こえる 女の物語

影印2行目、Iresuの左の1は、INDEX欄の1ないしI.に照応している。

ところどころに、上の影印にみられる「ナラフ」のように、金田一による書き込みが見られる。

2. 表題

前項で述べたように、手帳のINDEX欄、また本文1ページ目の冒頭にも

Retar mokorir

と書かれている。知里真志保「分類アイヌ語辞典動物編」の腹足類項（マキ貝の総称）にmokoririという語形があがっている(p.127)。幌別ではツブのことだという。また、同じく幌別で、カタツムリはkina mokoririと呼ばれていた。知里は末尾にiを加えて書き表しているが、マツのテキストではiはない。

この報告書では、金田一にしたがってmokorirには「巻貝」という訳語を与え、ア・日両表題として

アイヌ語表題 Retar Mokorir

日本語表題 白い巻貝

とした。

また、参照の便を考慮して、ア・日両表題にそれぞれYukarと「英雄叙事詩」というジャンルを示す句を加えた。

3. 「白い巻貝」を理解するために

平穏で幸せな生活が続いていたシヌタブカに娘（白い巻貝の娘）が乱入して兄たち、姉を斬殺した。幼いヒーローは、娘と激しく戦う。酸鼻を極める争いの後、娘は逃れて姿を消した。

二人の母親である狼神の妹は、息子であるヒーローに、争いの原因が白い巻貝の娘がキムント彦の弟と結託し、シヌタブカの神の宝物を強奪しようとしたことにあると語る。

姿を消した娘はキムントの家で傷を癒している。

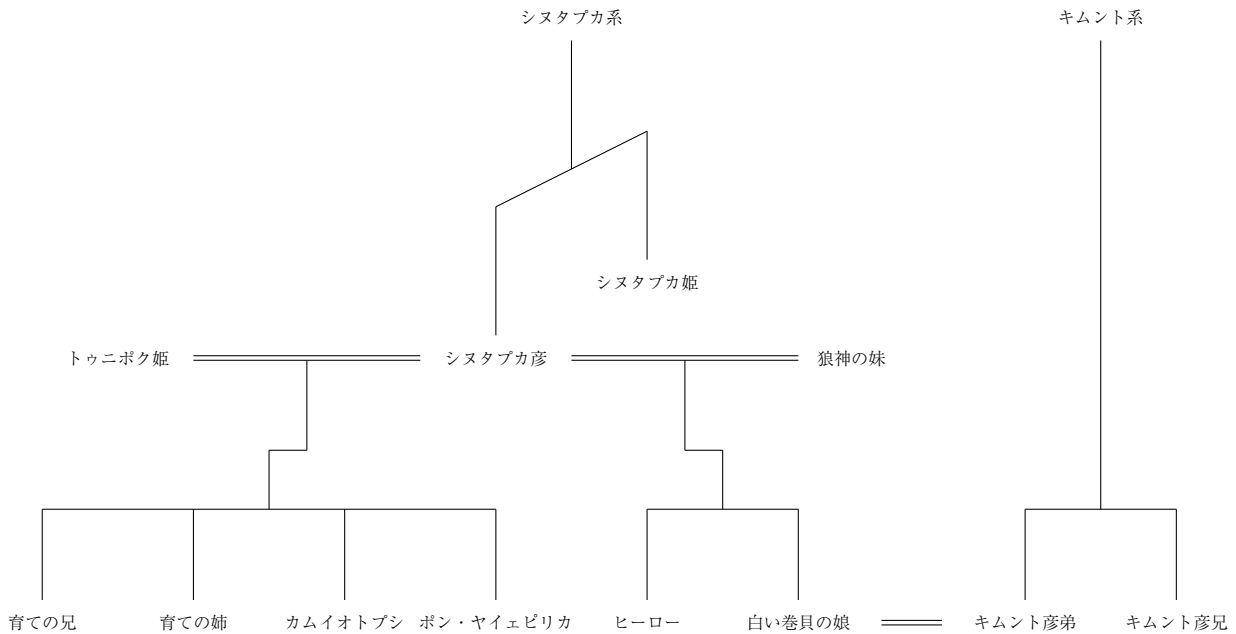
キムント彦の兄がシヌタブカと戦うことを主張する。その発言のなかで、ヒーローがボンヤウンベ (II. 4915) と呼ばれることが明らかになる。

シヌタブカ彦と第一夫人トゥニポク姫 (II. 2239) の間には、男3人と女1人が生まれた。狼神の妹が天から降りてきて、第二夫人となり、ヒーローと白い巻貝の娘を産んだ。シヌタブカ彦には妹（シヌタブカ姫）(II. 2222) が一人いる。ところが、トゥニポク姫とシヌタブカ姫については説明がなく、一行触れて済まされている。

p.3に掲げた系譜は物語の内容を理解するのに資すると信じる。

4. 編集要綱

マツのテキスト（原テキスト）が記されている最初のページを複写してp.1左に掲げた（影印）。「白い巻貝」



II. 1-45 に相当する冒頭部分である。原テキストの紙面の体裁はこれから推し量れよう。これを忠実に翻刻したとすれば p. 1 右のようなものとなるか（翻刻）。本書ではこのようなものを以下の要領で提示した。

- (a) 原テキストが記された手帳のページ番号を、例えば最初のページなら (p. 1) のように示した。
- (b) 行を改めた。叙事詩のリズムに合わせ、1 行が 4 音節ないし 5 音節に収まるように改行した。これはアイヌ語の詩句（詩行）に一致する。但し、例外もきわめて多く、6 音節以上になることがある。
- (c) 大文字の使用を固有名詞の頭に限定した。そのほかの大文字は、文の頭を除いてすべて小文字に換えた。マツの大文字の使用については、よくわからない点が多い。大文字が文頭で用いられると決まったわけではない。但し、人名、地名などの最初の文字は大文字となっている。人称接頭辞 (a-, an-, i-, e-, echi-) のつけられた語がたいい大文字で始まっていることが注意される (例：影印 2-3 行目の Iyekarkara (i-y-ekarkar) 「我にほどこす」)。また、小文字の母音字のうち o は、点を打ち忘れた i と紛らわしく、a と u の違いもしばしば紛らわしい。行頭およびスペース直後の大文字の繁用はそのような曖昧さを回避するためと推察される。
- (d) 原テキストには句読法を指示するピリオド、コンマ、また、引用符 “——” など、いわゆる約物が用いられていないが、適宜補った。文の頭は大文字に替えた。
- (e) 語、助詞は、その境界で切った。但し、強固な語や助詞連結の表記にあたり、この原則に従わないこともある。影印 12 行目の harki sotta 「左座に」は、harkiso ot ta の短縮形であるが、これを harkiso t ta などとはせず、一つの副詞として扱って harkisotta とした。
- (f) 語、助詞が空白（スペース）や改行によって途中で切断している場合はそれらの断片を結合した。たとえば影印 6 行目から 7 行目にわたる ukir と sam erok は 1 語であるから ukirsamerok 「膝を接して座る」と 1 行におさめた。
- (g) 原ノートの行末に見られるハイフンはすべて落とした。たとえば影印 18 行目から 19 行目にわたる kebu- と shbe は kebushbe 「鞆」として 1 行におさめた。
- (h) 長大な動詞が 2 行にまたがるときは、1 行目の末尾にハイフンを補った。
- (i) 原テキストでは人称を示す接頭辞は多くの場合、人称語幹と結合されて示されているが、本書ではこの境界にハイフンを挿入した。たとえば影印 5 行目の Akor 「私の」は、これが文頭になれば a-kor に、Ireshba 「我を育てる」は同様に i-reshba に改めた。

- (j) 人称を示す接尾辞 **-an** は固有のアクセントを持つため、それを反映して人称語幹と離されて示されることが多いが、現在の習慣にしたがい、ここにもハイフンを挿入した。たとえば影印3目行の **okai An** は **okai-an** 「いる・我」となる。
- (k) 各行（詩句）に通し番号をつけた。手帳のページ番号は、該当する行の上を示した。
- (l) 原テキストには一切の章立てはない。ここでは、内容によって4つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (m) アイヌ語片仮名文は原テキストにはないものである。マツは **ne** 「その」（繫辞類）をときおり **nei** と、**re** 「名」を **rei** と書くことがある。これはいずれもアクセントのある **né, ré** であって、**John Batchelor** のアイヌ語綴りの影響を受けたものと思われる。その綴りはそのままとしたが、片仮名表記ではそれぞれ **ネ、レ** とした。
- (n) アイヌ語片仮名文の下に記した逐語訳は極めて大雑把なものである。例えば **ne** は繫辞であって、「AはBである」と訳せる。しかしまた、「AはBになる」のような状態変化を意味することもある。また「BであるA」のように連体修飾語にもなる。Bが自明なときは、「それであるA」つまり「そのA」のようになって、指示形容詞としても使われる。これを一括して繫辞類として示した。
- (o) たとえば、**a-kore** は「我はAにBを与える」の意味であるが、また「我らはAにBを与える」と複数の意味で、さらに「AはBを与えられる」と受動の意味でとるべき箇所も多い。またさらに、**i-kore** は「Cが我にBを与える」とも「Cが我らにBを与える」とも訳せる。これらを、かならずしもすべてというわけではないが、一括して「我・与える」とした。紙面の制約があって、たとえば繫辞類を**繫**、理由・目的の接続詞を**根拠**、形式名詞を**形名**、音節調整の助詞を**音調**などと略記して記した。
- (p) 日本語訳は素直に読めるよう工夫したが、なお通読しにくい箇所が多い。これは、読みやすさをある程度犠牲にしてアイヌ語の詩句を逐条的に翻訳することがいくらか多かったからにほかならない。読者には、「物語 白い巻貝」によって物語の大意を把握せられたい。
- (q) 脚注は、主に原テキストと本書の表記の違いを示すにとどめた。
- (r) 「物語 白い巻貝」はこの叙事詩の日本語訳をもとに一編の物語として編んだものである。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示す。
- (s) 念のため記すが、編者が原テキストに改編を加えたとすれば、それは改行と分綴とハイフンのあるなし、明らかな誤りだけである。誤記については、脚注に原綴りを記した。

5. 分担

編集に当たったの分担を示す。

- (a) 原テキストの解説・翻訳（数字は「白い巻貝」の行番号）
切替英雄 II. 1-2397
高橋靖以 II. 2398-4931
- (b) 片仮名アイヌ語表記
切替英雄・高橋靖以・山下浩一
- (c) 逐語訳
切替英雄 II. 1-2397
高橋靖以 II. 2398-4931
- (d) 物語 白い巻貝
切替英雄 II. 1-2397
高橋靖以 II. 2398-4931
- (e) レイアウト・組版
切替英雄・高橋靖以・山下浩一

6. 参考文献

- (a) 最初から最後まで『アイヌ叙事詩ユーカラの研究 II』（金田一京助、東洋文庫、1931年）『アイヌ叙事詩ユーカラ集 I-VII』（金成まつ筆録、金田一京助訳注、三省堂、1959-1966年）にはお世話になりっぱなしであった。難解な語句は、ほとんどこれらの書物に何らかの言及がなされていた。
- (b) 『アイヌ・英・和辞典』（第4版、ジョン・バチラー、岩波書店、1938/1981年）と『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』（久保寺逸彦、岩波書店、1977年）『アイヌ語・日本語辞典稿』（北海道教育委員会、1995年3月）と『アイヌ語沙流方言辞典』（田村すず子、草風館、1996年）は有益な情報源となった。

物語 白い巻貝

第1章 兄たちと姉から授かった養い

1.1 兄たちの暮らし

1 育ての兄と育ての姉がたぐいぬ養い、神の養いを我にほどこしてくれた。炉の上座にカムイオトブシとポンヤエピリカが膝を接して座っていた。二人ともまったくの幼ない少年だった。育ての兄は、狩をすると、熊を何頭も獲った。

21 二人の兄たちは毎日鞆と宝物の表面の彫り方を育ての兄から教わって、その稽古に余念がなかった。今ではもう、二人とも鞆の刻紋、宝物の刻紋が上手になり、毎日鞆の彫り、表の彫りに励みながら談笑していた。

39 育ての兄が狩に出かけると、二人の兄たちは家に留まっていたが、二人とも今では狩などができるようになった。そこで、二人の兄たちが山に出かけると、育ての兄は家に留まって、我を見守りながら宝物の表を彫っていた。そのさまに我は目を注いで、まったく好ましい思いを胸に揺らめかした。少し大きくなった。

1.2 寝床から見えるしつらい

60 見渡せば、驚いた、なんとも我が住いの中は美しく、ピカピカに輝いて、宝物で飾られていた。広大な家の梁の下はすきまなく宝物の列、金のシントコ、金の手箱、木のシントコ、木の手箱が入り混じっていた。大きな宝列が懸崖のように伸びていた。その上には首領の佩く太刀の多くの柄頭（つかがしら）が並んで、垂れる房が揺らめいていた。宝列の上には神々しい電光が光っていた。我は心揺すられた。

92 金の宝列の手前にしつらえられた金の寝床が伸びていた。金の寝床の周りに幅広の平金が巻かれていた。平金の上にはたくさんの金の渦模様が輝いていた。渦の模様の中に多くの金の小さな鎖の環、多くの金の小さな鈴なりの鈴が縫い付けられていた。その上に神々しい光が輝いていた。感心し、好ましく思った。寝床の上で我は

育てられた。

1.3 掛けられている衣装

掛け竿の上に我がそれで育てられるはずの着物が下がっていた。金の小袖の襟元、裾周りが幅広い平金で縁どられていた。平金の金の表面はおびたしい渦の模様で満たされていた。 116

肩の上から垂れさがる鈴が胴のあたりで切り揃えたように並んでいた。着物の胴のあたりから垂れさがった鈴が着物の裾をぐるりと巻いていた。その上を雷光が光っていた。何とも心ひかれる。 130

1.4 鞆に彫られた文様

神から授かった太刀の鞆は長々と反り返っていた。鞆の上には幼い雷神、めおと神がわだかまっていた。雄神と雌神は、顎を突き出し、鏝の縁で角を高々ともたげていた。刀の鞆の上でとぐろを巻き、生きた神となってわだかまっていた。 143

鞆の半ばには金の幼い狼の毛がピカピカ輝き、尻尾を遠くに置いていた。まったくの生きた神となって、居座っていた。 160

鞆の下端には、夏狐の毛のないものがあって、胴の上で幾条もの皺が、波打ち、家をめぐる横木のようにおびたしくのびていた。下顎と上顎が交差し、生きた神となって目の色は福寿草の色をなしてらんらんと恐ろし気で、毛の抜けた耳の先端に毛の束が抜け残っていた。尻尾の骨と先端に毛の束が付いていた。驚きの念を抱いた。好ましさに心が心が奪われた。 169

薄造りの笠の表面には、群らがるような鈴、群がるような鎖の環が縫い付けられていた。その表面には神々しい光が照り映えていて、金の留め金付きの帯とともにぶら下がっていた。 197

「さあ、早く一人前の男に成長したなら、身を温めるこの服を着て見たいもの」と考えると思わず笑みがこぼれた。 208

1.5 女物の品々

218 宝列の下端から女物の金の箱が列をなして並び、下座の隅まで届いていた。その前には金の枕、女の枕が横たわっていた。その上にはどこの生まれの者が作ったものであろうか、金の刺繍衣、神の刺繍衣が高い掛け竿、低い掛け竿をしならせていた。

おびたしい神々しい光が輝いていた。まったく好ましく、心が揺すぶられた。

1.6 炉と座のありさま

243 金の座の表は伸びやかであって、炉に対して奥の座は(宝物の重みで)低くなり、炉寄りの座の上(かみ)は平らかであった。金の炉縁木は、伸びてルマイベの色となった。その表面は明々としていた。まったくもってつまらない人たちが住まう家ではない。神の住まいを凌いでいた。我は感嘆の心をいだいた。

1.7 兄姉の姿

262 兄たちは
容貌においても胆力においても優劣があるだろうか。二人とも同じ刀を差し、同じ装いをしていた。勇者に違いなく、勇者の気品がかんばせに匂っていた。濃い靄の中に身を入れて神のたたずまいであった。

280 小さな我が姉もまた美しく、いったい何処の村に、何処の国にこれに及ぶ容姿、容貌の女がいるであろうか。金の刺繍衣、神の刺繍衣を柴刈りの衣のように無造作にまとっていた。神々しい頭巾で髪を高く上げていた。髪の毛は絹のように頭をおおっていた。髪の毛の先には光りが宿っていた。その下に神々しい顔が日の光のように照り映えていた。

304 毎日、たくさんの水を滴らせ、手を清め、心をこめて調理にいそしんだ。

見事な料理を高盛りに盛ったお椀を頭上に持ち上げて恭しく、まっさきに我に差し出した。

1.8 成長する

319 我も兄たちのすることをまねて木を削り、木を突くなどしているうちに今はもう、木彫りに上達した。毎日、鞘の彫り、おもての刻みに一心不乱になっていた。二つの美しい形を、三つの見事な形を我は連ねた。一人で作った手製のものなのに、よくできているさま、自分の

手の巧みさがまったく嬉しく、我ながらうっとりした。

兄たちは我に顔を向けて、我が作ったものに目が止まると、型どおりに驚くのならばありそうなことだが、心の底から、心の中からたまげたものだから、一斉に口を抑え、鼻をふさいで、ともに驚き、ともに喜びつつ次々と年を重ねて我は成長した。

今では夫になる資格のある子どもになったと自覚された。我はますます美しくなっているらしく、濃い靄の中に身を入れていた。周りに神の光が輝いた。

兄たちも小さな姉も好ましそうに我に顔を上げようとすると、

このような尊い人が自分を抑えて何に驚くのか、我的手前に目を落とした。兄たちも姉も息のただ中、心臓のただ中に我を抱き寄せた。よい養い、輝かしい教育をほどこしてくれ、いつも変わらず、我らは心固く暮らした。

1.9 兄姉との暮らし

育ての姉は毎日縫物の中に身を入れて、縫っているの
で、見るとなんともはや、器用であることか。作るものはおびたしく雲を成して立ち昇った。好ましい思いを我は揺すった。

日が暮れると広大な家の中は宝物の輝き、宝器の放つ光が昼の日差しのように燦々としていた。感嘆の念が抑えられなかった。毎日、兄たちが神の物語、人間の物語を語ると、我は喜んで聞き、我も語っていた。

第2章 恐るべき女との戦い

2.1 女が現れる

ある日、遠くの国の国の頂が破裂する音がした。神がやって来る音が響いた。どこかよそに来たのならば不思議はないが、我の住まいのただ中に入って来たらしい。

凡庸な勇者ならばあたりまえのことだが、真の勇者であるので、いく巻きもの巻き風を自分の前に立てて、疾走する神に伴う、神風とともにやって来た。しばらくすると城を打つ風がほのかに鳴り、地面を打つ風がざわざわと鳴った。窓からも戸口からも神の風が入ってきた。

兄たちと育ての姉は大変驚いて、顔を見合わせて耳を立てていた。そうこうしているうちに外の櫓の上に神が響きを立てて落ちてきた。しばらくして、櫓の上で立ち上がり、我らの住まいのたたずまいを隅から隅まで調べているらしく思われた。

344

364

376

401

417

435

467

487 思うまもなく何者かが家のそばを歩く音が足早に響いた。それが男ならば不思議ではないが、女らしく、懐に帯びた小刀がチリンと音を立てた。モセムの中へと身を回した。まさかそんなことを目の当たりにするとは思

507 土間の上に光とともに靄とともにスッと踏み込んだ。入って来た者を我はじっと見つめた。それほど大きくはない濃い靄、小さい靄の小山が左座に移った。

我は靄のもとを幾度も払いのけようとした。しかしながら、数え切れないほど試みたけれど、人間の姿を露わにできなかった。しばらくそうしていると、靄の中で我の視線の先が眩んだ。

2.2 白い巻貝で装った女

531 驚いたことに女という種族、女の死人がいるではないか。年かさの女が畏くも旅しているに違いないと思っていたが、そうではなく、小さな少女、幼い女であって、立派な教育、大切な育みを受けて、金の小袖を無造作に身にまとい、絹の帯を胴に巻いていた。

551 神々しい頭巾で髪を高々と巻き上げていた。頭巾の表には白い小さな巻き貝があしらわれていた。美しい髪は絹の糸のように頂を覆っていた。髪の上には白く小さな金の巻き貝がぶら下がっていた。髪の毛の先にも金の小さな巻き貝が下がっていた。その上には白い光が輝いていた。

572 白く小さな巻き貝、金の小さな巻き貝の神々しい光が人の顔を日（月）の光線のように照らしていた。耳の上にも、頸の上にも光があふれていた。髪の毛先はきらめいていた。その下に神々しい顔が中天の太陽のようにまばゆかった。

588 半分は人間ではない。神のような者であって、シャーマンの力がある者らしく、シャーマンの顔立ちを備えていた。片一方の肩の上に三日月の虹が、もう片方の肩には日輪の虹があって、それが頭上で交差していた。目に見える憑き神は、蝙蝠の群れのように背後で飛び交っていた。目に見えない憑き神は、星の光となって背後に飛び交っていた。

2.3 白い巻貝の女の挑発

610 唇に笑いを浮かべて、高々と顎を伸べて、我が住い

の中を隈ぐま見まわした。我が兄たち、育ての姉をじろじろと探った。若々しい言葉が喉を震わせて、こう述べた。

「これはまた、なんとという様。見るだに恐れ入る。何ということ、幼いときから耳にしたのは、トミサンベチシヌタブカは名高い村であったが、今ではなんとというさま。

実際に見ると貧乏人の家、貧乏人の城の中に、貧乏人ばかり、腐れ下男の末のような者らばかりが肩を並べてこんな様をさらしている。こんなくだらないつまらないやつらが

呆れたことに、国々の境を越えて、忌々しくも名を馳せているではないか。」と

独り言をつぶやいて、

見上げては目をギョロギョロ回し、上座へ、下座へ歩き回って、屋根裏に目を走らせた。

兄たちはそれを聞くと皆、あっけにとられて一斉に顔を見合わせた。

2.4 育ての兄が白い巻貝の女に挑む

育ての兄は美しい顔立ちであったが、真っ先に顔をゆがめて怒りを面に燃え立たせ、激しい怒りの言葉に声を震わせこう言った。

「無礼だ。途方もないことだ。男の中の男が言ったとしてもいまいましいのに。どこの馬の骨やら、まだ子供がそんなことを言ったとすれば、まだしも怒りは穏やかだったのに、これはどうやって血統を継いで来た者、どんな人間の末がこんなふう驚くべき振る舞いをして、神の住まいの中に闖入した。

ただ言葉ばかりでも大昔から幾世代も遡って、神のいますところまで、天まで血筋がたどれるトミサンベチ、シヌタブカであるのに、

貧乏人ばかり、下男ばかりがここに群れているのか。なにか魔物のような者が海の妖精、潮の妖精と呼ばれるのを耳にしたことがあったが、もしかしてそんな悪魔めが神の住まいの中に現れて、愚か者に我らを変えようと、ただ言葉だけであっても憑神とともに畏れ憚ることなく、そうは言うのか。

どんな振る舞いをおまえがしようとも、ほんの少しの命拾いもないであろう。」と言いながら、パッと立ち上がった。

626

638

661

679

689

711

726

746

2.5 育ての兄が白い巻貝の女に敗れる

755 地べた女、卑しい女は声をあげて笑った。育ての兄は左座に音もなく立った。太刀を振るう腕が閃いた。地べた女に激しい太刀を浴びせかけた。すると魔物のような女は上座の梁の上に星の影のように飛び上がった。

773 その上に育ての兄が斬りつけたと思うや、魔物は下座の梁の上に飛び移った。懐の刀の鞘を払い、斬り合った。刃が跳ね返る音が響いた。上座でも下座でも追跡と遁走が限りなく続いた。

789 カムイオトブシなる我が小兄もポンヤイエピリカなる我が小兄も激しく怒り、驚きあきれ、手の節々がボキボキと鳴った。顔には青筋が幾筋も盛り上がった。

801 そんなことを目にしようとは少しも思わなかったのに、育ての兄、たぐい希な勇士の動きが鈍くなり、地べた女、卑しい女の間合いに捉えられた。育ての兄の切れた肉片が散らばった。

814 悔しがる育ての兄の死霊の天に昇る音がとどろいた。真東に行きかね、真西にも行き惑い、何度も何度も行き惑ったあげく、

死んだ魂、息絶えた神の真西へと沈んでいく音が響いた。その後は静まり返った。我は驚きの念が募った。

2.6 カムイオトブシが白い巻貝の女に挑み敗れる

833 カムイオトブシなる我が小兄は、力み声を立てて立ち上がった。さっきと同様、地べた女、卑しい女は梁の上を上座へと、下座へと飛び移った。刀を振るう争いが相変わらず続いた。刀が跳ね返る音が響いた。

847 なんともはや、カムイオトブシ、我が小兄の胆力のあることか。前の戦いは赤子のわざ、今こそ屋根裏を滑って行った。

857 すると、意外や、意外、思いがけなく、我が小兄、類いまれな勇者の切れた肉片が散らばった。さながら汁の実が散らばるようだった。

867 悔しがるカムイオトブシの死霊が音を立てて天に昇って行った。先と同様、完全に息絶えた者であるので、真西へと音を立てて沈んでいった。その音がやんで静まり返った。恐れ入る心を我は抱いた。

2.7 白い巻貝の女が負かした者を嘲る

881 地べた女、卑しい女は左座で血の垂れる小さな鍔つきの刀の照り返しを顔に受けて、美しい笑みを浮かべ、手

を打ってこう言った。

「哀れなものだ。卑しい下男ども、貧乏人ども。おとなしく生きていれば死なずに済んだものを。何を言うのか。笑止千万にも怒りということを知って、我を斬ろう、我を殺そうという気持ちが顔に浮かんでいる。たいした勇者だ。我の小指、足の小指にも及ばない者が恥ずかしげもなく、哀れむべき振る舞いをするとは。」と

嘲りの言葉をさしとどめた。「さあ、さあ、おまえたち、どいつもこいつも死にたいと言うのなら、さっさとかかって来な、貧乏人の末裔ども。」と笑いながら言った。

2.8 ポンヤイエピリカが白い巻貝の女に挑み敗れる

ポンヤイエピリカなる我が小兄は型どおりに怒るのならばもっともだけど、力み声とともに素早く立ち上がった。

それからまた戦いが始まった。先にあったことは赤子のわざ、火棚の上を上座へ下座へと追いかけて来た。今こそ我が小兄の息の声と雄叫びの声が打ち合った。地べた女、卑しい女は刀を振るい、梁の上に二度も三度も飛び乗った。それた刀が立てる音が響いた。

長い間そうしていると、またもや、そんなことを目にしようとは思ひもしなかったのに、小兄の切れた肉片が散らばった。悔しがり、怒りに満ちた小兄の死霊が昇っていく音が響いた。大空の上に嘆き、悲しみの音が長々と続いた。

さっきと同様、真西へと音を立てて沈んでいった。その後は静まり返った。

2.9 育ての姉が白い巻貝の女に挑む

育ての姉はそれを見るや危急の叫びを転がした。その叫びに載せて激しい罵りを浴びせかけた。その罵りとは、

「忌々しい、どこの村の者、どこの国の者か、自分の村も自分の素性も隠しては、憑神とともに畏れ憚らず、無礼千万なことではないか。その上さらに育ての兄も、我が弟たちも、

あれほどたぐいまれな勇士たちが一刀のもとに切り殺されたとも思えないが、弟たちがむざむざ殺されるなどということがあろうか。

まことにどういう人間がどういう神の姿をした者が理

892

912

924

933

953

970

977

985

1007

由もなく心を固くして我にら迫るのか。悪魔、全くの悪党が神の住まいの中に現れて侮りの中でも並々ならぬ侮りを我にらするではないか。」と言って、立ち上がった。

1025 間を置かず地べた女、卑しい女は声を立てて笑った。血の滴る刀で顔のあたりがピカピカ輝いていた。数々の雑言を吐き出し、笑みを浮かべた。

1038 我が小姉は、激しく怒り、身の置き所もなく、地べた女に飛び掛かった。また再び屋根裏やら梁の上で追いかかけ合い、斬り合った。

1050 しかし、際限なくそれた刀が立てる音が響いた。驚くべし、なんと育ての姉の奮闘すること。幾度も、幾度も家の中を追いかけて来た。

2.10 育ての姉のいまはの言葉

1062 コネプケウカタ、コネプカシタ、育ての姉の足を踏み鳴らし泣き叫ぶ声が響き渡った。その響きに載せて言うことには、

1071 「いざや、我が弟君、国を司る神よ。我が言うことに耳を傾けよ。

昔から神まで、天までその由来がよく知られているのがトミサンベチシヌタプカなる神が住まうところであるのに、なんでまた、悪神が、全くの魔物が闖入して、育ての兄も我が弟たちもまたとない勇士の面々の美しい姿を妬みそねむのか。

1095 今では成長して我に追いつく歳になったとはいえ、まだ幼い。最悪の魔物に我らは力及ばないだろう。コネプケウカタ、コネプカシタ、我は敗れたけれどもおまえがかわいそうだ。このようにふるまう者に対しては、おまえは力を奮って戦いなさい。このように憑き神の力が強い者との戦いにおまえは勝ち抜けるか、抜けないか、まったく心もとなく案じられる。

1117 我々は殺されても、どうなろうとも何とも思いはしないけれど、弟君なる国を司る神よ、おまえは、トミサンベチ、シヌタプカの尊い魂だ。

1131 おまえが我らのようにめった切りにされ、ぶち殺されたならば、誰がいったいトミサンベチ、シヌタプカなる神の住む宮居の上流を治め、下流を治めるのか。トミサンベチが魂が抜かれたと同然になる。

1147 我がされたことをよく見て、戦の力、争いの力としてくださいよ。味方のない者は二人分の働き、三人分の奮闘をしなければなりません。我が弟君なる国を司る神

よ、踏ん張るのですよ。」

そう言いながら、左座に転落、落下したと思えば、その上にほのかな太刀影が続いた。比べる者のない女シャーマンのバラバラに切られた死体が散らばった。 1162

悔しがる神、怒れる神の死霊が天に昇る音が響き渡った。天空に嘆き悲しむ音が数々交錯しているうちに兄たちのときと同様、真西へと音を立てて沈んでいった。その後は静まり返った。 1172

2.11 白い巻貝の女との戦い

地べた女、卑しい女は、宝列の手前の濃い霧の中に我が潜んでいるのにまるで少しも気づかなかった。 1187

魔物は、育ての姉が我に残した言葉を耳にしてようやく不審に思ったものだから、左座に立ち止まり、なお一層注意して宝列の手前をじろじろ探った。我はそれを見ただけで、激しい怒りが頭をもたげた。 1198

我は飛び上がった。飛び跳ねながら身に着けていたものを脱ぎ捨てた。金の小袖をわが身にまとった。留め金付きの金の帯を一巻きに胴に回し、神に賜った刀を帯に差した。薄造りの笠の垂れ緒を顔の上で締めた。上座へ滑るように移動した。神から授かった刀の鞘の尻を長々と引きずった。我がそれもて見るもの（目）が二つの小さな星となって、並んでいた。 1213

地べた女卑しい女はひどく驚いて目を大きく開いていた。我を包む霧の中心を我から払いのけようとした。 1239

何度も我の姿を現わそうとしてもかなわなかった。長い間そうしていると、我の姿を目に捉えた。顔色が蒼ざめた。型どおりに我に感心するのならばありえることだが、隅から隅まで我を探った。

我の手前に目を下ろして口元を震わせて笑った。それを見ると、激しい言葉が、切るように、刺すように我が声となって響いた。 1262

「さあ、さあ、魔物よ。おまえは何者であるのか。おまえが何者であろうとも殺し合い、斬り合いしながらいくさの原因、争いの元をおまえは知っている筈だ。どんなわけで地べた女、卑しい女のおまえはトミサンベチの一党の名高い者もそうではない者もおまえが知り、おまえの気にかかるものだから、悪口雑言を吐いて、憑神とともに 1272

我に無礼をなした。

さらに兄たち、勇者ばかり、首領ばかりが育ての姉と 1299

良い暮らしをしているのを皆殺しにしまったではないか。いったい、どこの村のどこの国の者なのか。」と尋ねると、魔物は上座の梁の上に星影となって飛んできた。

2.12 白い巻貝の女が逃げる

1318 それを見ると怒りの気がわき起こり、我は斬りつけた。激しく刀を振るった。魔物は我が振るう太刀のみねを橋を渡るがようにすたすと伝って我にかかってきた。鋭い刃が透明な風となって流れた。魔物は下座の梁の上に飛び移った。我はそれに斬りつけた。高いところを払う私の太刀影は落下する炎となり、低いところを払う私の太刀影は跳ね上がる炎となって、刃の間をくぐる魔物を素早く払った。

1341 魔物に身を返すひまも振り返るひまも与えなかった。魔物は困り果てたものだから、空窓の上で白い霧を長尾根のように棚引かせて逃れた。おりしも、いったいどうしたことか、城の頂におびたしい予見の神が立てる爆発音が鳴った。我は空窓に飛び上がった。

2.13 シヌタブカの城

1359 もう日が暮れていた。

低い土地のどこかで育てられているものと思っていたが、意外にも盛り上がった小山が天にそびえていた。小山の上に広大な黄金の家、黄金の城が重なって建っていた。駆けながらではあるけれど、見ると黄金の家の高い段ぶき屋根と低い段ぶき屋根に幅広の平金が巻いてあった。

1379 平金の表面にはおびたしい金の渦巻紋、金のモレウが輝いていた。モレウとモレウの間には群れをなす木鎖と鈴なりの木鈴が付いていた。木鎖の鳴り響く声は男の高い声となり、木鈴の鳴り響く音は女の高い声となり、交じり合って笑いさざめくように鳴り渡っていた。

1394 立てられた幣棚は林のようであった。幣棚のすぐそばから平らな岩山の頂から浜手へ下る道がジグザクと肘の折れるように折れ曲がって続いていた。幣棚の下端から山へ入っていく道は獣の足跡で黒々としていた。

1408 この城は、長い柵が天空に伸びて山側へ反り返って、短い柵を柵の中に隠していた。長い横木は柵とともにうねり、短い横木は地表とともにうねっていた。柵の上の孔と下の孔は鳥の巣となって向かい合っていた。穴に当

たる風がピューピューと鳴った。城に当たる風はハタハタと鳴った。地面を打つ風はヒュウヒュウと鳴った。

まったく我が住うところは、中も外もこのように我を驚かせるものであった。神の住まいを凌いで、輝かしく美しくあるのが尋常でなく、地べた女、卑しい女の言い草を思い出すと、一層、怒りが込みあげた。 1430

人の讚えるトミサンベチの流れが明々としていた。まだ夜もあけず、暗かったけれど、神の造った海のおもては、明々と、美しく心がゆすぶられた。 1448

2.14 白い巻貝の女を追跡する

城の頂から魔物の天空の上に置く影がふいに消えたのが目に入った。我は逃さないようにと懸命になった。その上を我は追った。驚きあきれる、どんな神が我に憑いているのだろう。我の上空で何かが裂けるような音が響いた。由々しい多くの憑き神が音を立てた。今や、二つの巻き風、三つの巻き風が林をシューシューと打った。打つ風が大地をどよもした。 1460

魔物はあまたの雲間を滑りぬけた。その行く手、行く手、先々に我は回り込んだ。幾度も握りこぶしを見舞った。魔物は我が手の間を二つの巻き風になって、三つの巻き風になって、すり抜けた。 1487

今こそ我が憑き神は固い音をバラバラと我が頭上に立てた。神が造った天が崩落し、粉々になったかのようにだった。天の間が鳴り響いた。地表が剥がれていく。激しい土ぼこり、草ぼこりが猛吹雪のように跳ね上がった。真っ黒な雲となって天球に広がった。その雲の中を我は魔物を追跡した。 1501

このように、我がしたことは飛ぶことであったが、魔物にはいささかも手届かず、抑えられず、何度も捕らえそこなった。ときには刀を振るった。しかし少しも刃が触れる感じがしない。何かに疲れてしまうのが人の習いだが、まったく、魔物の心底を探て見ると、少しの疲れも認められなかった。 1524

魔物はいつまでも口元に笑いを浮かべて飛んでいた。それでますます気が狂ったもののように我は心を見失った。いつまでもその後を追いかけた。強く跳び、激しく跳ねた。それと同時におびたしい巻き風が天を覆った。 1546

風の行く手に大粒のあられ、大粒の雨が降り注いだ。林を打つ風がハタハタと鳴った。折れやすい木はボキボ 1564

キと折れた。折れるのをいやがる木はしなやかな灌木のように、柔らかい蔓のように地の上を這い、跳ね上がり、シューシューと鳴った。我は、力み声をあげて女の悪党の行く手、行く手、先々に立ち回って刀を振るった。ようやく切っ先が幾度も引っかかるようになった。

1591 飛び回りながらであったが、魔物の心底を探て見ると、何度も何度も追撃をかわしたために、今ようやく、さすが人間であるから疲れを覚えたに違はなく、疲れ切った魔物は汗にまみれていた。もはや身を回すことも、返すこともできないようにしてやった。魔物はひたすらまっすぐに逃げた。

1614 思う壺になったので、我は全力でその上に追いかぶさるように激しく追った。魔物はもはや散々、苦しめられたものだから、真っすぐに木原の上に降りていった。取のがしてはなるまいと我は激しい叫び声をあげて、その上を飛んだ。

1632 魔物は木原の上のガマの群落の上手に潜った。ガマの群落はカミからシモまで盛り上がったたり、へこんだりした。我は逃げる魔物をおつ切りにし、切り刻もうとしたが、ことごとくかわされ、こんなことでは死ねやしないとと思った。魔物は天空に消え去った。我は追跡を続けた。

1652 驚くべきことに、斬り合うことも殺し合うこともない追跡であった。夜となく昼となく我が憑神の重々しい数々の音が今こそトミサンベチの川の源、天の間でごうごうと鳴り渡った。下界はゴボゴボと泡立った。上界は世界の底がどよめいた。我は驚きあきれた。

2.15 白い巻貝の女を捕まえる

1673 あるとき、確かに魔物の首の根を捕らえ、締めあげた。我は走って、もと来た方へ引きずった。トミサンベチの川の源は、神が造った幾重もの懸崖が貼り付けられたようになっていた。崖の斜面に我は降ろされた。魔物を崖に打ちつけると、その音が我が手の先に響いた。我が手の下に、手の上にと魔物は絡んだ。しなやかな蔓のように手に絡んだ。我は魔物に近寄ることができなかった。

1700 そうはいつでも取り逃し仕留め損なってはなるまいと、我は頑張った。左手で魔物をギュッと締めあげ、右手で我が刀の鞘を払い、めちゃくちゃに斬って、突きに突いて、裂きに裂いた。鎧に当たり滑った刀の音がチャリンチャリンと響いた。地べた女、卑しい女はまじかに

見ると、ますます美しく、とても人間とは思えなかった。ひたすら神の気品が匂っていた。

我は、ますます怒りたけった。このように美しい者が、なぜこれほどの女が神の宮居をあなどり、挑発のなかでも緩くない挑発を我に仕掛けるのか。我の怒りは過剰なほど高まりどう殺して安堵の息を継ぐべきか分からないほどになった。

何に憑かれているのか、半分はただの人間ではないと思われた。

我はぶちのめして、岩に挟んで絞上げ、着ている着物をずたずたに切り裂いた。裂けた着物は、あたりに毘輪の紐のようになってぶら下がった。頭にかぶっている頭巾をめちゃめちゃにして、投げ捨てた。髪の毛を手に巻き取り、手に力をこめて岩の上に打ちつけた。

今はもう、来ている着物もぼろぼろになった。

見ると体の上に鎖かたびらをまとっていた。道理で刀が効かないはずだ。まったく、何という化け物、憑神とともに、重い鎖かたびらを着て激しく動くのであるから、我はたまげてしまった。耳に付いている立派な耳輪を折り取り、ひん曲げた。首に付いている立派な首飾り、金の玉飾りをバラバラにして岩の上に投げ散らした。

岩に締めあげ、こすりつけ打ちつけているうちに女の肉はドロドロになり、鎖かたびらの網目の間をドロドロになった肉が膨れ上がった。流れる血が川となってドボドボ下っていた。魔物は今こそ痛みということが分かったので、しゃくりあげて泣いた。ざまあみさせ、このように我が怒りを向け、憎んだ者に対して今この時に少し一息つくことができた。

完全に殺したにしても少しも安心できなかった。そこで今はただ女の死骸に見えるものをこちらへ、あちらへと岩に叩きつけ、岩に締めつけた。岩の上におびたらしい血煙が降り注いで、それが我が手の先に絡んだ。夢中になってぬぐい取ろうとしたら、思いもしないこと、ずたずたにされた者のどこに心臓があつてこういうことになるのだろうか。

2.16 白い巻貝の女を見失う

強く締めあげられた魔物は突然解けかけた氷のように我が手をすり抜け、大空に飛び上がった。我が眼を惑わすため二つの霧の人、三つの霧の人を行き通わせ、少し

1726

1751

1773

1799

1824

1847

づつ姿をくましました。どこに飛んでどこに行ってしまったのか、どう飛んでどう行ったのか分からなかった。どうにもしようがなかった。

1867 まったく、どこの化け物か、最悪の神の、霊に憑かれた動き、なんとも恐ろしく、心をくじくふるまいを見てあきれてしまった。ああ、せっかく我が締めあげた女が我が腕の中を抜けていった。今や、行くえを見失ったようで、とてもとても悔しく腹立たしい思いにかられた。

第3章 狼神の妹の語り

3.1 年かさの女の家

1889 神の造った険しい崖の頂へ鳥さながらに飛び載った。目を凝らすと、闇に沈む夜であったが、岩山の肩で盛り上がった小山がくらくらと天にそびえていて、中腹まで霧が棚引いていた。それを見ると今一度頂の折れた岩山へ鳥のように飛び移った。

1911 見ると折れた岩山の上に金の家、金の柵が重なるように建っていた。家のそばの櫓の上に音もなく鳥が止まるように飛び降りた。驚くべし、我が住いの美しさを遠く探し求めてきたのだが、それに匹敵するではないか。それ以上の美しさではないか。

1929 今こそ神の住まいの美しい周囲を隅から隅まで堪能した。焚火が外ではせていた。火の光が明々と輝いていた。それを見て、家のそばを静かな歩みで足先を巡らせて神窓へと急いだ。

3.2 家の中をのぞきみする

1947 垂れさがった窓の簾の裾に膝を突いて簾の上に顔を当て、隙間から中を覗いた。目を凝らすと驚くべし、神の住まいに他ならない。まことに我が住いと比べても調度の置かれ方、飾り立てられ方、どこをとっても遜色なかった。この大きな家の中は明々としていた。

1967 燃え盛る炉の火のそば、右座に濃い霧の小さな塊が座っていた。そこで霧の元を数々の元を払いのけようとしたが、何度試みても人間の姿をあらわにできなかった。久しく試みるうちに、霧の中で突然、視線の先がくらんだ。なんと、年かさの女がいるではないか。

1989 金の着物を無造作に身にまとっていた。着物の表面には狼の金のなめし革が、襟元と裾には幅広の平金が巻き付かれていた。

稲光が描かれているのを上に羽織っていた。片方の肩

の上に日の差した虹が、もう一方の肩の上には先の折れた虹が描かれていた。それが頭上で交叉していた。

美しい髪が絹の糸となって頭を覆っていた。毛の先が光っていた。その下に神々しいかんばせが高々と昇った日(月)となって我が顔に照り返した。 2010

強いシャーマンの女らしく、シャーマンの気品が備わっていた。目に見えない憑き神は星の光となって背後で瞬いていた。姿をみせる憑き神は、こうもりの群れのように背後で飛び交っていた。シャーマンの額を髪の中に隠していた。ただでさえ美しいのに、口を彩る刺青もさやかだった。何んとも讚えようがなかった。 2021

女の心の底を調べてみたら、ほんのわずかに白い巻き貝の女に目のつきよう眉のありようが似ていた。不思議に思った。年かさの女、おごそかな淑女は、何に嘆き悲しむこと、何に案じることがあるのか、表情がこわばっていた。二つの悲しみ、三つの悲しみを顔に浮べていた。一ところに目を凝らしている。表情が暗く沈んでいた。清らかな涙をボロボロとこぼしていた。 2041

家の中を調べてみると、左座であったけれど、どのような素性の者、どのような育ちの者がこしらえたものであろうか。神々しい刺繍衣、金の刺繍衣が高い掛け竿、低い掛け竿の上に掛けられしなっていた。その上に数多くの光が輝いていた。その美しさにうっとりとした。その下に女の寝床が敷かれているように見えたが、誰も寝ていないようだった。 2069

3.3 招き入れられる

ややしばらくそこにいると、よもや目に見、耳に聞くとは思ひもしなかったのに、年かさの女、神々しい淑女には、どこに我がいるのか分かっているらしく、上座の方へ、神窓に顔を上げた。驚いたことに、「言葉」というものがその喉に響いた。こう語った。 2097

「さて、我が息子殿よ、かしらなる我が息子殿よ、早くお入りなさい。いつまでもそんなふうにごしに我に自分を見せて目をびくびくさせているのか。」と言われたので、我は恐れ入り恥ずかしくなった。 2115

たった今到着したふりをして、窓の下から魚が身を翻すようにすばやく窓から離れ、家の傍らで雄叫びを遠くまで響かせた。我が太刀のつばの鳴る音が美しく響いた。モセムの土間に回り、我が意のままにさ走る太刀のつばの縁を叩いてチリンと鳴らした。恐れ入った、良い 2130

香り、財宝の匂いが強い風のように押し寄せ、我はたじたじとなった。

2152 垂れた簾戸に手を伸ばして風にそよぐように開けた。内土間に光とともに、霧とともに踏み入った。足を運び左座を進んだ。炉の上座に我は音を立てて座った。硬い霧を幾重にも周りに立てて我は考えを遠くに巡らした。

2169 どこかのよそ者、どこかの他人がいるとばかり思っていたら、他ならぬ我が「息子」と呼ばれて、とても驚いた。年かさの女は顔を上げて、我を囲む何重もの霧の元を払いのけようとした。だけど何度も何度も試みても我の姿を顕わにすることができなかった。

3.4 狼神の妹とシヌタプカ彦が結ばれる

2188 年かさの女は心を奮い立たせて喉を震わせてこう言った。「さあ、私の息子殿おまえを抱擁し、おまえを撫でさすってやろうと思うが、その前に物語をして、聞かせたいのだ。そうしないと腑に落ちないだろう。さあ、息子殿、今こそおまえがどんな先祖を持つ者であるかはつきりと説明し、聞かせてあげるから耳を傾けなさい。

2217 昔、トミサンベチ、シヌタプカにおまえの父親が男一人で、一人の妹と住んでいた。兄、妹ともに美しく、人間の世界にも神の世界にも及ぶべき者は一人もいなかった。おまえの父親の胆力と弁の才は神のいるところまでその噂が流れた。

2236 先祖が残した言葉どおりにトゥニボックの女がトミサンベチ、シヌタプカに嫁いで来た。そこで育ての兄、育ての姉、カムイオトプシ、ポンヤイエピリカと兄姉あわせて四人が生まれた。

2250 私の方と言えば、天の狼神には、男兄弟がなかったが、妹が二人いて、その小さな方が私であった。私は神であるので天で夫を与えられたのに、なぜか思い迷って、口にするのも恥ずかしいことだけれど、

良いことも悪いことも言わないでいると良くないので、ありのままを全部話すことにする。

2274 おまえの父のシヌタプカ彦は既に妻を娶り、子を成していた。シヌタプカ彦は美丈夫で度胸もあり、私は恋慕した。彦のことばかりを考えていた。神の夫を与えられてもうんざりで、夫を拒んだ。夫の言うことを聞かなかった。夜も昼もひどく苦しい思いをして泣いてばかりですごしていたので、私のふるまいが知られるところとなって、私の上に非難の声が飛びかった。

「まったく不道德なことだ。」といわれ、人間との結婚は許されなかった。それでこのように私の望みがもう許されないというのなら、みずから命を絶とうと思い、食を絶ち、毎日泣きながら寝ていたら、育ての兄と育ての姉が、手を焼いて、どうしたものかと気に病んだ。

2314 天に狼の大殿である伯父がいて、このいきさつを私の兄が伯父に話したところ、伯父の言うには、「淫ら事とか色狂いとかについては、神でも人間でも、若人と呼ばれる者、幼い者と呼ばれる者は、そんな気持ちを誰しも抱くものだ。

2333 それゆえ、人間と呼ばれる者、トミサンベチ、シヌタプカの神のような勇者は、幾世代もさかのぼる昔から神までその出自が知られていて、神に次ぐ者であったために、我が幼い姪が意のおもむくまま、心のままに神である者に命の限り情けをかけると言うのなら、家ごと、城ごとトミサンベチ、シヌタプカに下って人間の女とともに相妻となっても、かならずしも良い神にはない悪習とはいえない。

神だって相妻を何人も持つのだ。」と言って私をいとおしんで願いを聞き入れてくれた。

2371 そこで、家ごと、城ごと宝物をふんだんに首に付けられ美しく装われトミサンベチ、シヌタプカに降りた。人間の女と相妻になり、心の底から、胸の内から皆で仲良く暮らした。睦みあった。そんなことが、高い評判となって知れ渡った。

3.5 狼神の妹が幸せを妬まれる

2390 私たちが幸せ過ぎるといふ噂に遠くにいるもの、近くに住む者がねたみを抱いた。そこで、世をへるあいだ、争いといくさばかりだった。

2399 皮膚がはがれるような痛みを受けた。過酷な日々を過ごしたあげく、戦いの間で休息したときに、私はおまえを産んだのだ。私たち夫婦は、まことにおまえを可愛がった。

3.6 神の世界へ去る

2408 ようやくおまえが這うほどになったときに、おまえの父はあまりにも、人間の世界で憎しみを受け、嫉妬された。安心して人間の世界にすることができない。『神々のところへ立ち去って、危ぶむことなく、怖れることなく、まことの結婚、本当の結婚をしよう』とおまえの父

は言った。

2429 私は嫌だったが、どのようにすることも、どのように言うこともできない。育ての兄も育ての姉も、他のおまへの兄たちも、まだ同じくらいに幼い様子であるが、神々とともに言い付けを残して、私たちは天空へ昇ったのだ。

2444 その間に、人間の世界で私は子を宿し、天空へ昇ったのだ。天空ですぐに子を産んだ。一人の娘を産んだ。私は相妻であるから、天空にいても別の館にいた。

2460 私の娘も、私が産んだ者ではあるのだが、どうしてそのように思うことだろうか。私は天空に着いたときから、一日でも一晩でも、半日でも、少しもおまえを忘れることができない。夜も昼も、おまえをよく思い出し、私の顔の前に面影が浮かぶ。私はおまへの不在がつらく、おまえに会いたかった。食事もう喉を通らない。

2482 二年も三年も、幾度となく悲しみの涙を流した。あるときは、起き上がれなくなった。私はつらい思いをして、悲しい思いをした。そのことで、天空の神々もつらい思いをした。私は神の怒りを招いた。

2498 『ありえない振る舞いである。幾代も遡る昔から、分別のない者たちが神々の意向に従い、神の住まいに置き去りにされることは沢山ある。どうにかしておまへの息子は育つだろう。二年も三年も、比類ない養育、神の如き養育を受けて、おだやかな成長、健やかな成長を遂げて、今は少しばかり成長した者である。どうして、度を越えておまえは息子を思い出し、病に倒れるまでになるのか。まことに良くないことだ。』

3.7 再び人間の世界へ降る

2527 このように、私の上で声が響いた。

2530 『そのような悪い性根の者がいることで、我らは村を守り、住むことができない。おまえが思い返すことで多数の神々を苦しめる者がおまへの息子なのだから、早く早く、人間の世界へ降りなさい。おまへの息子の傍らにいて、悲しむことなく、喜びながら日々を過ごさない。』

2549 このように私は言われた。私は人間の世界へ追い出された。私も我慢して、人間の世界へ向かった。トミサンベチの神の住まいへ向かおうとしたが、もう一度、私は考え直した。

2564 私たちを嫉む者、憎む者ばかり集まった。私たち夫婦

がしばらくの間、天空へ立ち去ったことを、遠くにいる者たち、近くにいる者たちは察知した。ここに及んでいまさら、息子に会いたいからといって、神の住まいの中に入ることはできない。私の意志によって、再び悪神どもが振り返り、おまえが苦しむことにでもなれば良くないと思った。

トミサンベチのずっと上流に神の造った険しい山があり、その山の頂きは人間も神も行き来するところではない。その家もない土地に、私は家とともに降りた。そして、毎年ここにいた。遠くからではあるが、いつもおまえを見て、頷いていた。私は今までここにいて、まことに心が落ち着いた。まことに嬉しく思った。本当に元気になった。年老いるまでこの場所にいても良いと思うほど、本当に嬉しかったのだ。

天空にいた頃は、天空で産んだ娘を私たちは夫婦で可愛がった。それにも増して、天空の高みにいる私の伯父夫婦は心臓の先に入れるようにして姪を可愛がった。天空で幾代も遡る昔から受け継がれてきたもの、白い巻貝、神々しい頭巾と鎖かたびらを伯父は私の娘に与えた。本当に可愛がっていたのだが、私が人間の世界へ追い払われたときに、娘はいつも私のところにばかりいたものだから、一緒にここで話をしていた。まだ全く幼い者であるから、何かを悟られることもなかった。いつも嬉しそうに笑みを浮かべ、私の言うことをよく聞いた。なおのこと私は可愛がっていた。

3.8 白い巻貝の裏切り

ここ数日、娘は針仕事の材料を持って自ら外に出ていった。半日ほどすると、嬉しそうに笑いながらやって来て、こう言った。

『この場所からずっと上流へ私は歩いていった。奥地の山々を私は歩いた。その途中で、神の如き山の上で私は座り、針仕事をした。人間の世界を私は見回した。神の造った奥山を見回した。木の実の実りなどもよい様子を私は見て、まことに感心し嬉しく思った。人間の世界ほど美しいところは他にない。天空にいるよりも、それ以上に、私は嬉しくなったのだ。』

娘はこのように言ったので、心からの言葉を発したように私は思った。私は娘に頷いた。

『その通りだ。私も若いときに、年少のときに、人間の世界へ降りてきた。山菜をとるために、山で一緒になっ

2592

2626

2674

2682

2713

2721

て仕事をした。笑い合い、楽しく語り合った。それ以上楽しいこと、嬉しいことは無かった。今もそのときのことを思い出すと、まことに嬉しくなる。これからも、そのようでありたい。』

- 2744 このように私が言うと、娘はまことに喜んだ。娘は毎日、針仕事の材料を持って、暗いうちから外に出た。ときには帰りが夕方になった。あるときは、帰りが晚になることが続いた。炉の向かい側の座で眠りについたものとばかり思っていた。
- 2759 しかし、そうではなかった。私は憑神の力が強いのだ。昔は、私の憑神の力には神々の間でも殆ど並ぶものがなかった。そのような類稀な霊力をもつ女であるのだ。それは自分でもよく分かっている。私が恐ろしいと思うものは、まことに、神々の間にも、人間の間にも、悪神の間にも、まったく存在しない。
- 2777 私はそれほどの霊力を持つ女であるが、私の愚かな娘は尻の切れた奴だ。私は年を取り、老衰してきた。意外なことに、娘は長い間私に嘘をついていた。私の目の前を霧で覆い、騙すにしても、並大抵ではないことをしていたのだ。心臓の先に入れるように大切にしていたから、少しも過ちを犯すことはないと思っていた。私は娘を信じており、まことに油断していたのだ。
- 2807 ここ数日は、トミサンベチ、シヌタプカの神の住まい、神の頂きに黒々とした雲がかかる様子を、まことに私は不思議に思っていた。白い巻貝、私の愚かな娘は尻の切れた奴だ。意外にも、くだらぬ者、食物を散らかすような者は、淫らなふるまい、罰当たりなことをしていた。私を騙していたことに私は気付かなかった。
- 2834 驚いたことに、愚かな娘、尻の切れた奴は乱心し、私の目の前を霧で覆ったのだ。確かに、神というものはすぐに気付くものではないと言われている。私の愚かな娘は炉の向かい側にいて、甚だしく私を軽んじ、罰当たりなことをしていた。私は気付かずに、娘をとっても可愛がっていたのだ。私は激しく後悔した。
- 2861 実のところはこのようだ。私の愚かな娘は山の奥で遊び回っているときに、キムント彦に会った。キムント彦は二人兄弟で、二人ともよい意志を持っている。その類稀な勇者たちの年少の者は、山での狩りを覚えるために山の中を歩き回っていた。二人は出会い、言葉を交わした。互いの先祖を明らかにした。すぐに仲良くなった。
- 2889 毎日、山で会うことを示し合わせ、淫らなことをした。私はどこにいて、淫らなこと、淫乱なことについて考え

を巡らせることがあろうか。私の愚かな娘は乱心し、その上、良くない企みをした。

3.9 戦闘の発端

『如何なる出自の者、如何なる素性の者がトミサンベチ、シヌタプカの年少の悪兄であるのか。私の母は年少の兄をひどく可愛がりすぎて、人間の世界へ追い出された。トミサンベチの上流に私たちは降ろされて、そこで暮らしていたのだが、今はキムント彦、神の如き者と私は仲良くなった。できることならば、トミサンベチの兄たちを残らず殺してしまおう。』

トミサンベチの上流の頂きで名高い神宝を、残らずキムント村に運び入れたら、川沿いの崖にある館の中でよく眠るみたいに、安心して眠ることができる。』

このように私の愚かな娘は言った。キムント彦は、拒絶して愚かな娘から嘲笑されることを恐れた。心の中では『おまえではとても無理だ。理由なしに、原因なしに、なぜ戦うのか』と思ったが、白い巻貝はあまりにも美しく、死んでも良いくらい可愛く思った。娘の言うことが悪くとも、承諾した。互いに恋心を抱き、惚れた者同士であるから、人目を避けて、人毎日山を駆けまわった。懐妊すること、子を宿すことはなく、そのようにしていた。

夜になると、ここで眠りについたように思われたが、キムント村に行って落ち着いた夫婦のように振る舞う様子を、キムントの村人は一人残らず知った。トミサンベチへ戦いを仕掛けることも知った。長年に渡って名高い神宝であるから、大勢の村人は戦いが始まることを待ち望み、励まし合った。そのことを私の愚かな娘はまことに喜んだ。娘は大勢の人々から支持され、敬われた。

そのような振る舞いを私が見通したことを、娘は少しは察知して、心の中で思案しているのだ。私が見るところでは、私の愚かな娘は幼い者ではあるが、霊力の強い者である。その憑神の力、その勇氣には、並び立つものがこの世界にも、神の世界にもいない。私が若い頃、おまえの父に私自身を見せたときに、私がしたことと少しも変わらない。まことに私にそっくりである。

男の勇者に勝る者が私である。私と同じように、憑神の力が強く、勇敢であることはまことに良いのだが、良いおこないと良い心を持っていれば、良い娘としてなお可愛いがるのだが。如何なる悪神を憑依させ、それに惑

わされたのか。このようなおこないをするので、本当に心配だ。このような神、このような貴人が今は、何の実りもない者になったのだと思うと、私は腹が立つ。私は憎むよりも愛おしく、憐れに思う。

3085 何をしようとも、年を取って衰えていても、まだまだ私が恐れる者は一人として、どこにもいない。私の愚かな娘は私の小指にも、足の小指にも及ばないものである。生きることを怖れる者、蘇生を怖れる者がおこなうことである。

3103 どのようにでも、私の意志で罰を与えることができるのだが、天空の伯父夫婦は心臓の先に入れるようにして、娘を可愛がった。尊い神宝も少なからず守護神に与えた。可愛がられた娘はまだ幼い者、思慮が足りない者であり、淫らなことを好み、淫らなおこないをした。そして乱心した。まことに私は悔しがり、激しい怒りを覚えたのだが、少し考え直して我慢したのだ。

3137 今すぐ急いで、怒りに任せて愚かな娘を懲らしめ、成敗してしまうことを私は恐れた。そして、天空の神々に対してみずからを恥じた。そこで、しばらくの間、天空の霊力の強い神、すべての神の目の前を私は霧で覆い隠した。これから後は、争いが収まるように、どのようなことでも私はするつもりだ。そのことはおまえも知ることになる。

3.10 トミサンペチでの戦闘

3162 キムント村では、トミサンペチへ向かうために戦いの準備をしている。戦いの前に神を祀ろうとして酒を醸した。そうこうするうちに、意外にも、愚かな娘は神の住まいへしばらくの間行ってみようとした。『様子を見た上で少しの挑発をして、相手がどう動くかを見たり聞いたりしてから、すぐに戻るつもりだ』と言った。大勢の村人たちは小声でささやいた。

3193 『それは駄目だ。大変危ない。神である婦人は危ういことを言う。大昔から、神々の間でも、人間の間でも、匹敵するものがないトミサンペチ、シヌタブカの勇者の末裔である。揃いも揃って勇者ばかりであろう。たった一人で、如何に霊力の強い女、勇敢な女であっても、危ういおこないだ。落ち着てほしい。我らは強固な集団として、この戦いを仕掛けるつもりだ。』

3226 娘はこのように言われると大いに笑い、嘲笑した。

3230 『この世界で、私が恐れるものは何もない。トミサン

ペチ、シヌタブカにいる兄たちは私の小指にも、足の小指にも及ばないものである。決して私を心配するな。行くとしても、取って返すように、すぐに帰るつもりだ。ただ一つ気がかりなのは、私の母である。』

娘はそのように言い、トミサンペチの中にある神の住まいに入り、様々な挑発をした。そのようにしたことを、私は見通した。心の底から驚き呆れた。悪党は傲慢にも、容易であると思ひあのような悪事をなしたのだが、私の息子の戦いぶり、その憑神の力には瞠目し、驚き呆れている。

おまえの様子は、昔、おまえの父が若かった頃の憑神の力や戦いぶりに何ら遜色がない。私はまことに驚いたのだ。悪党は何を言って悪事を働き、傲慢な態度であったのか。神に罰せられるものであるから、二十日の間、三十日の間、大いに慌てた。岩に叩きつけられ、岩で身体を潰された。

鎖かたびらという神宝が無ければ、まことにひどい死に方をしていただが、神宝のおかげで、生きながらえたのだ。まさにいい気味だ。尋常ではなく自らを頼りにして、神宝も壊された。愚かな娘が痛めつけられて、私は少し安心した。どのように恥ずかしがり、後悔しているだろうかと思うと可笑しく思ったり、安心したりするのだ。

愚かな娘が刀で斬った者は、再び蘇生することができないのだが、私の一念で、おまえの兄たちと育ての姉も、その近い魂、遠い魂を追いかけて蘇生させた。兄と姉は神の住まいへ戻った。

『何者が我らを侮ったのか。我らは無残にも殺されたのだが、神々が憐れに思って、このように蘇生して、神の住まいへ戻ったのか。まことに有難いのだが、我らの弟君、国土の神はどこ村、どこの世界へ行ったのか。』

兄と姉はこのように心配しながら、神の住まいを守護しているのだ。それを知っておきなさい。決して神の住まいのことを心配するな。

3.11 これからの戦闘

キムント村からまもなく、激しい戦いがトミサンペチシヌタブカへ向けて開始されるであろうが、白い巻貝はおまえたちと戦ったときに、おまえの憑神の力、おまえの戦いぶりを見て、まことに驚愕し、恐れている。比類のない霊力を持つ女であっても、急襲を受けたものであ

3254

3281

3308

3341

3357

3374

3385

るから、逃げることばかりに苦しんだ。

- 3407 その様子はキムント村からも聞こえてきた。キムントの奴らは心配しているも、臆病者、卑怯者ばかり集まっております、救援に向かう者は一人としていない。愚かな娘の夫は、まことに心配し救援に向かいたいと思っても、戦いの理由が良くないものであるから、臆病になって救援に向かわない。醸された酒も飲まずに、愚かな娘を待っているのだ。
- 3435 愚かな娘は長い間、深い傷を負い、隠れているが、身体が不自由で、どこかの道の途中で休んだり傷を治したりしているだろう。今は少し考えを巡らせて、少しは恥じているように思う。少しは懲りただろう。
- 3454 静かに治められていたものが母なる村、先祖の村であるトミサンベチであるが、このような次第で、激しい戦いが起こるのは耐え難い。おまえは頭領の末裔、勇者の末裔であるから、この戦いに立ち向かいなさい。私はこの場所で静かにしていても、おまえの背後を見守るつもりだ。身寄りのない者よ、二人分の活躍、三人分の活躍をしなさい。私の息子よ、勇敢に戦いなさい。
- 3486 これからキムントにおまえが行くと、おまえの妹の声も聞くことになろう。それからまた、戦いの最中にも、その振る舞いを見ることになろう。そのときは『私の母が憑神の力で、霊力でおこなったことだろう』と思ってくればよい。
- 3503 頭領というものは、勇者というものは、いつの時にも穏やかな意志、良い心掛けを持っているならば、神々からますます褒めたたえられる。それでますます、善良で裕福な人物になるのだ。私の息子よ、私の言葉を忘れずに、戦いの狂気に身を委ねたとしても、出来る限り正気を保って我慢しなさい。
- 3527 何事もめでたく収まるようにして、トミサンベチ、シヌタプカの神の住まいの上流を治め、下流を治めなさい。あなたの兄は沢山いるが、すべて別の家、別の館に住む者たちなのだ。おまえは最も幼い者であるが、まことに、神の次に尊い者、トミサンベチの神の如き魂であるのだ。そのことも、よく考えて、いつも、少しの過ちもないようにして、おまえの父の後を継ぎ、神に我が身を守らせなさい。
- 3563 その次に、キムント村は小さな村ではない。大昔から、神々によって守られ、治められてきた村であり、まことに大きな村なのだ。浜手の村、山手の村が重なるように並んでいる。浜手の村の頭領である幼い者とおまえの愚

かな妹と一緒に悪事を仕掛けたのだ。

- 何とかなして、この戦いで最後まで生き延びることができたなら、神の住まいで僅かな酒を醸しなさい。おまえがみずから作った木幣で、おまえが用意した酒で、私は天空へ昇りたい。そればかりを私は望んでいるのだ。神々の間では、どのような霊力の強い神でも、まことに尊い神でも、最も望むものは人間の作った木幣と人間の醸した酒と、人間の作った食物なのだ。そのこともおまえは分かるはずだ。
- おまえの戦いに駆けつけて、加勢したいと私は思うのだが、それも恥ずかしい。いつも人間の世界で私は妬まれた。昔、まだ若い頃に、まだ若者であった頃に、神の世界へ立ち去ってから、再びおまえに会いたいと思ひ、それで病に倒れた。そのことで私は追い出された。
- さらに、愚かな娘は淫らなことに夢中になり、情欲に憑りつかれた。その良くない意志のおかげで、この戦いが始まる。神である私は年老いて、今更戦うわけにもいかない。戦うことができないのではないが、神々に対してあまりにも恥ずかしい。そこで、戦いの中で加勢することはしないが、戦いの中で起きる出来事をおまえは見ることになろう。
- まだまだ、言いたいことも沢山あるが、今日はこれで終わりにする。私の言ったことを一つ残らず、思い出しなさい。この次に、出来る限り、もう一度、おまえに会って言いたいことを話すつもりだ。戦いが終わるまで、私はこの場所にいるつもりなのだ。今から、私はみずから煮炊きして、おまえに食事を出そう。食べ終わったら、早くキムント村へ戦いに行くのだ。」
- 母はこのように言い、今はまさしく、話を終えた。

第4章 キムント村

4.1 ポンヤウンベの回想

- 言葉の終わりで、母は横座にいる我を抱き寄せ、小さい子にするように我を抱きしめた。驚いたことに、神の香り、良い香りが人を回復させる風のように、激しい風となって、我を奥へ後ずさりさせた。
- 「息子よ」と、「心臓よ」と母は言った。驚いたことに、母は元気であるから、長い間、我に残さず話をしたのに、萎れた草のように我の上で号泣した。母は我を腕の中で抱えた。強く抱きしめた。子供を抱くように、赤子を抱

- くように、我を抱きしめた。
- 3731 母は私の顔に目を向けた。あたりまえに感心するもの、称賛するものであるならば、さもあるが、隅々まで我を見て顔色が青くなり、我的手前へ視線を落とした。母は何度も私を抱きしめた。幾度も涙を流した様子である。その上で、母はこのように言った。
- 3755 「驚いた。私の息子よ、おまえの美しい様子は尋常ではなく、おまえの父の半分を裂いて小さくしたような様子である。このような者が人間であるのか。地上に降りた者であるのか。おまえのことを私は思っていたが、おまえは美しい。このような者であるから、なおのこと、遠くから見ても、養え分からなかったのか。どうにかして、一度だけでも近くで見たいと思っていた。そのようにすると、そのことで罰せられ、みずからを貶めることになる。美しいことに加えて勇敢であり、憑神の力も強い様子に感心した。私は息子に会いたいと思っていたのだが、神の計らいで、今はまさに抱きしめて、よく見ることができるのだ。
- 3805 おまえが大きくなってから別れたのであれば、これほどまでおまえを思い出すこともなかった。まだ小さい乳飲み子であるおまえとの別離を思い返すと、まことに苦痛であった。いかに神のおこないであろうとも、このように心を強くしてられるのかとばかり私は思っていた。今はこのように、人間の世界で私が産んだ息子に再び人間の村で邂逅し、抱きしめて話すことができた。
- 3832 まことに私は嬉しく思い、喜んでいて。何の難しい出来事も無く、二日でも三日でも一緒に泊まり、楽しい歓談を続けることができたとしても良いのだが、白い巻貝、私の愚かな娘の悪い企みがあるので無理だ。わずかな間会っただけであるが、会えないよりは良い。」
- 3852 母はこのように言い、我を抱きしめた。我は聞いただけではあるが、どのようにすればよいか分からなくなった。一日中、国土とともに揺さぶられたような気がした。
- 3863 如何なる生まれの者、如何なる育ちの者が共に育った我らであるのか。まだ何の言い伝えも聞いていなかったが、今はまさに、意外にも、このような次第で、我には先祖がいたのだ。如何なる生まれの者、如何なる育ちの者があまりに美しく、勇敢であったのか。そのことを周囲の人間から、そのように妬まれ、嫉まれたのか。つらい思いをして、まだ若いうちに我を残して神々のところに向かったのであれば、本当に憐れだ。
- そして、私の母はまことに心の底から我を可愛がり、我を可愛く思いすぎた。つらい思いを抱き、長い間心を痛め、苦しんだ。その上、罰せられて人間の世界に追いつけなかったというのか。我は先が見通せない者、霊力の無い者であるが、この場所に、我が村の半分ほどの村に、我が母がいたのか。遠くから我を見ていたのか。少しも気付かずに皆で暮らしていた。
- そのことを我が知っていたならば、早く神である母のところへ向かい、しばらくの間、母と共に滞在して、神々の話を語り合ったことであろうと我は思った。
- そして、如何なる侵入者がおこなったことであっても、我は激しく怒ったことであろうが、驚いたことに、我が妹であったのだ。尋常ではなく、恐れを知ることもなかった。その上、我が兄たちと育ての姉は美しい姿を憎まれた。今はもう手遅れであり、生きていないと思い、激しい後悔をしていたのだが。我が母は神であるので、まさしく憑神の力が強い。ただの思念の力で生き返らせて、今は神の住まいに向かい、そこで暮らしていると聞き、我はまさに嬉しく思った。
- まことに、白い巻貝、愚かな妹、尻の切れた馬鹿者め。そのような神が如何なる神を騙したのか。健やかに天空で生まれ、神々の間で成長し、尊い神々からも心臓の先に入れるようにされた。並みではない神室で見守られ、霊力の強い様子であるのに。如何なる名を持つものが淫乱というもの、情欲というものであるのか。それに惑わされたのだ。
- 我を憎まずにいたとしても、我は怒ったのだが。母が我を可愛がりすぎることに妹は嫉妬をしたのだ。その上、盗みを働こうとして余所者の心を丸め込み、恐ろしい戦いをトミサンベチ、シヌタブカに巻き起こそうとしている。その前に、みずからを過信するにしても、尋常ではないことをしたのだ。まことに我は驚きの気持ちを抱いたが、頑是ない子供であるのに、憑神の力のためか、その戦いぶりのためか。
- 驚いたことに、人間の母が我を可愛がってくれたとしても、まさしく心の底から感謝するものであるが、尊い神が憐れなことに、恥を忍んで我を可愛がってくれたのだ。我は勇者の末裔であるが、心の中で涙を流した。
- 子供のように、赤子のように、「母よ」と我は言い、泣きながら我が母の腕の中に飛び込んだ。首の上に両腕を回すようにして抱きしめた。そうすると、我が母は幾度となく「息子よ」と、「心臓よ」と言った。母は兜の下に

3895

3929

3943

3987

4019

4050

4067

ある私の頭の上を撫でた。私の顔に唇を当てた。母は大いに我を可愛がり、心を落ち着けた。

4.2 母との別れ

- 4092 母は上手の座に我を置き、下座へ行った。そうしなくても良いのに、水滴を滴らせて手を清めた。美しい鍋の耳元の方から水を注いで、煮炊きを手際良くおこなった。鍋の下へ頭を突き入れて身をかがめ、火を焚いた。
- 4109 母は鍋の傍らで、大切な話をいくつも我に語り聞かせた。神である母が言うことは、何であっても、まさしく「その通りだ」と我は心の中で思った。
- 4121 母は鍋が煮えると炉鉤から外し、美味しそうな食物、高く盛り上げた飯を我に差し出した。高く盛り上げた飯を一人で用意した。空腹のあまり倒れそうだと思っていたが、我が母がみずから煮炊きをして、美味しい食事を用意してくれた。今はそれを食べようとしているのだと、まことに我は嬉しくなった。
- 4141 我は食物を受け取り、高くかざし、低くかざした。我は拝礼してから、ゆっくりした食べ方で食べ始めた。何とまあ、神である母は煮炊きが上手であることか。まことに味が良い。我は心臓の上から心臓の下まで落ち着いた気持ちになった。まさしく、穏やかな気持ちになった。しばらくすると、我はまことに元気になった。我が母はこのように言った。
- 4164 「愚かな娘の悪い企みのために、まことに激しい怒りを抱き、食事も喉を通らなかつた。毎日、食事をせず心臓を痛めていたのだが、私の息子が私の煮炊きした物を食べてくれたので、まことに嬉しくなった。私の息子と一緒に、私も沢山食べることにしよう。さあ早く、沢山食べなさい。これから、戦いの中でも激しいものがおまえに仕掛けられる。おまえはまことに疲れることになる。」
- 4200 母はこのように言って我を励ました。我は大いに食事をとった。食事が終わり、神である母は幾度となく我を抱きしめた。我は神である母と別れて出立することにどうしても気が進まないが、いつかは行かなければならないと、気持ちを固めた。我はこのように言った。
- 4223 「神である母よ、これからキムント村に攻撃をしかける。この戦いに我は足を踏み入れる。戦いの後で生き永らえていたときには、神である母にもう一度会いたい。まことにそれを望んでいる。それを戦いの力にして奮戦するつもりだ。」

我がこのように言うと、神である母は首の骨も折れそうなほど、幾度となく我に頷き、我を愛撫した。「その通りだ。私も再び会えることを、まことに心の底から望んでいる。」母はこのように言った。

4263 我は煙り出しの窓に飛び上がった。後ろの方を、跳躍しながら横目で眺めた。何とということか、何としたことか。神である母は、まさしく元気であるから、我を励ます声が並みではなかつたのだが、今は我が立ち去った様子を見て、萎れた草のように倒れた。

4282 母は「息子よ」と、「心臓よ」と言った。上座から下座へと、腕で座を叩きつけて泣く声が響いた。それを見て、我も心臓の上から下まで切なくなり、息をする喉も塞がれたような気になった。我は目の端で涙を流した。微かな涙を幾度となく流した。神である母は如何に我を可愛く思うことか。このような様子を見て、我は強い悲しみを覚えた。

4.3 キムントの館

4310 我は天空へ飛び上がり、速い神風の先に軽く持ち上げられた。私の耳元で風が鳴った。どこかへ我は飛んでいき、眺めると、暗い闇の中ではあるが、人が噂をするキムント村であるらしい。

4327 大きな湖があり、穏やかな海のような湖の上手は霞んでおり、湖の下手も霞んでいる。湖の岸に大きな村、密集した村があり、その真中に、盛り上がった小山が天を揺らすように聳えている。山手の村は森の木立と入り交じっている。湖の表面は穏やかである。

4345 浜手の村の真中にある小山の上へ、私の心は引き寄せられた。小山の頂きへ、我は鳥が止まるように降り立った。小山の上には大きな館が並んでいる。我は外にある櫓の上に静かに降り立った。

4361 我が見ると、我が住まいの半分ほどの、良くはない館であるが、館の周囲は美しく飾られている。その隅々にまで我は感嘆した。焚かれた火が外で燃えるかのように、囲炉裏の火は明るく輝いている。

4376 我は静かな歩みで足の先をひるがえし、上座の窓に急いだ。垂れ下がった窓の簾に膝をつき、簾に顔を付けた。簾の隙間に目をあてて眺めると、大きな家の中に大勢の者が並んでいる。何とまあ、キムントの奴らは裕福であることか。大きな家の梁の下は、隙間なく神室で飾られている。

4.4 白い巻貝とキムント彦

- 4402 右座の我の間近に、何者かが入ってきた。大勢の婦人がぶつかり合うようにして、火の傍らに良い寝床を拵えた。その上に何者かが寝かされた。
- 4414 そこで、我が眺めると、我が愚かな妹である。痛めつけられた様子であり、身に着けた小袖も切り刻まれ、ぼろ布が裂かれたような様子である。並大抵ではない美しさであったのに、髪は乱れ、谷地坊主のように身体の上に広がっている。死相が浮かんでおり、高い枕の上に寝ている。激しい呻き声、弱い呻き声を出し、それが口の中で響いている。
- 4440 長い酒宴の座が伸ばされている。酒宴の座の上手と下手は霞んでいる。武装した集団はきらびやかである。婦人たちは大勢で慌てた様子である。
- 4450 「どうしたのか。驚いた。神である婦人はどこへ行っても、爪の傷さえつくこと、痛めつけられることはないだろうと思っていたのに。意外にも、痛めつけられるにしても、負けるにしても、只事ではない。可哀想に。なんと無残なことか。」
- 4466 婦人たちはこのように言った。酒宴の座は静まり返った。大勢の者たちは、驚いたものであるから、一斉に愚かな妹の方に目を向けた。目を大きく見開いた。愚かな妹はひどい血の虹とともに息を詰まらせ、不吉な血の虹とともに喉を詰まらせている。
- 4484 上座で、何者かがひどく驚いた様子で、荒々しく足を振り上げた。刀の鏗の音が鳴り響いた。霧の小山が入ってきた。霧の中を我は目で散らして見た。幾度となく、人間の姿を見定めることができない。暫くすると、霧の中で我の目の前が眩んだ。
- 4503 人が噂をするキムントの年少の者、愚かな妹の夫と思われる者である。もっと成長した者が浜で睦み合い、山で睦み合ったのかと思っていたが、今年あたりに、我と同じくらいに成長したらしい者である。
- 4518 大切に育てられた者、立派に育てられた者であるらしく、金の小袖を無造作に着ている。留め金のついた帯を胴に巻き、神授の刀で腕の下がきらびやかである。金の小さな兜の紐を顎の上で結んでいる。兜の端で神々しい顔が明るく輝いている。勇者であるらしく、顔色が異彩を放っている。どこに殺すべきところがあるだろうか。身体の中真中から背中から下る金、胸に下る金が付いている。胸の上で金の胸紐が結ばれている様子が美しい。身

体の表面は神光で輝いている。まさしく帰天する神のようである。

あたりまえに心配し、驚く者であるならばさもあるうが、悲しみの表情を浮かべている。愚かな妹の顔の前に顔を寄せて、言葉を発し、喉が響くことはこのようであった。

「これはひどい。白い巻貝、我が妹、比類ない霊力のある女は、どこに行っても危険を察知する者であるのに。如何なることをして、痛めつけられたのか。まことに可哀想なことだ。尋常ではないことがあったのか。そうではないとしても、何故我はそのように思うのか。ただ一人でトミサンベチ、シヌタブカへおまえが行くことに、我は強く反対したのだが、それでも言うことを聞かなかったのだ。おまえが望んでしたことであるのに、このように尋常ではない傷を負ったのか。」

キムント彦は悲しみの言葉を発した。 4608

「神々の争いは激しいものと聞くが、我は加勢することもしなかった。おまえを待っていると、酒も古くなった。今晚はその酒で神に祈り、激しい戦いをトミサンベチに上陸させようと思った。今は酒宴の準備をしているが、その最中におまえが戻ったのだ。」

このように言い、愚かな妹を慰めた。婦人たちは薬を作り、愚かな妹に飲ませた。妹は効力のある気、薬効のある気を飲み込んだ。愚かな妹は少し落ち着いた様子である。

それから、妹は口の中で声を出し、微かな魔払いの息吹を繰り返した。それと共に、身体の表面に濃い霧が立ち込め、息を詰まらせていたひどい血の霧もはじけ飛んだ。しばらくすると、以前の肉付きが戻った。頭の上は以前のように、神宝とともに、美しくなった。着物も、元の姿を越えるほど美しくなった。どこが痛めつけられたというのか。今の美しさはまさに素晴らしい。以前と変わりなく、濃い霧の中に身体を入れている。その周囲は神光で輝いている。

4.5 白い巻貝の話

妹は寝床の上で飛び起きた。良い寝床を畳み、右座の衣桁の下に片付けた。それから、火の傍らに座った。喉の奥が鳴り響き、このように言った。

「さてさて、頭領たち、勇者たちが集まっているが、列の上手にいるキムントの神である者たち、話すからよく

聞いてほしい。話すのも恥ずかしいが、あのよう、トミサンペチへ私は向かった。何も少しも恐れるものはないと思い、あのよう挑発をした。私の兄たちと年少の姉が怒り、私に向かってきた。私は一人残らず斬り捨てたが、年少の兄は兄弟を憐れに思い、あのよう言いながら私に向かってきた。

4735 心の中では、密かに嘲っていた。無残な殺し方をしてやろうと思ったが、頭の中で考えることしかできなかった。まことに驚いた。年少の兄はまだ背負われた子供、背負われた赤子であるが、憑神の力のためか、その戦いぶりのためか、驚くべき強さである。私は比類ない霊力をもつ女、憑神の力が強い女であるが、年少の兄はどこまでも私に刀を向け、少しも振り向く隙を与えない。少し隠れることもできなかった。逃げることばかり、走ることばかりで、まことに私は苦戦を強いられた。兄は私を捕まえると、激しく攻撃した。私はまことに苦しめられた。

4778 もう少しで、死ぬにしてもひどい死に方をするところであったが、しばらくの間もがいているうちに、私は腕の中から抜け出した。しばらくの間、とある場所で休んでいた。身体を治癒して、這うようにしながら、キムント村に辿り着いたのだ。

4796 道理で、噂に名高い者が年少の兄である訳だ。人間の姿をしている者であると思っていたが、祀られた神が地上に降りたような様子である。その上、憑神の力のためか、その戦いぶりのためか、まことに脅威である。私は死にそうになり、驚いたのだ。あのよう憑神の力が強く、奮闘するということであれば、戦いの狂気に憑りつかれたときには、キムント村の手前で立ち止まることはないように思う。

4831 そこで、これから激しい戦いをトミサンペチ、シヌタブカに仕掛けることはできないと思う。どのようにすればよいだろうか。私の心は入り乱れ、心が二つになり、三つになったようである。私は戦いで辛酸を舐め、懲り懲りした。」

4849 妹はこのように語った。我は笑みを浮かべ、嘲笑した。

4.6 年長のキムント彦が語る

4853 酒宴の座は沈黙し、周囲は静まり返った。何の声も音も聞こえない。大勢の者、男たちも婦人たちも、襟首の上からうつむいている。

人が噂をするキムントの年長の者は、弟と比べても、その容貌や装束に優劣があるだろうか。神の如き様子である。酒を取り出していたが、驚いたものであるから、上座に座り、よく話を聞いている。

年少のキムント彦は、右座にいる白い巻貝の上手に座り、話を聞いている。話を聞いて二人とも、襟首の上からうつむき、同じところを見つめている。年長の者は喉を響かせて、このように言った。

「さあさあ、我らの酒で神を祭ろう。飲み終えたら、早く戦いの準備をして、トミサンペチ、シヌタブカへ激しい戦いを仕掛けよう。いつものように、戦いの備えをしよう。急にボンヤウンベ、トイヤウンベがこの場所に来るかもしれない。早く、我らの酒を飲み干してしまおう。」

年長の者はこのように命令した。大勢の者は「確かにその通りだ」と承諾の返事をした。

4865

4884

4899

4924

白い巻貝

第1章 兄たちと姉から授かった養い

1.1 兄たちの暮らし

- 1 Iresu yubi *p.1*
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄と
- 2 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉が
- 3 shisak chiresu
シサク チレシユ
またとなひ はぐくみ
たぐいなき養い、
- 4 kamui chiresu
カムイ チレス
神 育てられる
神の養いを
- 5 i-y-ekarkar wa
イ・イエカッカワ
我・する **接続**
我にほどこして
- 6 okai-an.
オカイ・アン。
いる・我
くれた。
- 7 Hoka etok ta
ホカ エトク タ
炬 行く先 **場所**
炬の上座に
- 8 Kamuiotobush
カムイオトブシ
人名
カムイオトブシ、
- 9 pon a-kor yubi ne wa
ボン ア・コロ ユビ ネ ワ
小さい 我・もつ 兄 **繋 接続**
我が小さい兄と
- 10 Pon Yayepirika
ボン ヤイエピリカ
小さい ヤイエピリカ
ボンヤイエピリカ、
- 11 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小さい兄が
- 12 ukirsamerok.
ウキリサメロク。
膝を接して座る
膝を接して座っていた。
- 13 Obittano
オビッタノ
皆
二人とも
- 14 oar shino
オアラ シノ
全く まことに
まったくの
- 15 nokan pon hekachi
ノカン ボン ヘカチ
小さい 小さい 子供
幼く小さな
- 16 okkaipo ne kane.
オッカイポ ネ カネ。
男の子 **繋 音調**
少年だった。
- 17 Iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄は、
- 18 ekimne ko
エキムネ コ
山に行く **条件**
狩をする、
- 19 tu p shumaukor
トゥ ヲ シュマウコロ
二つのもの 獲物をとる
熊を
- 20 re p shumaukoro kane.
レ ヲ シュマウコロ カネ。
三つのもの 獲物をとる **音調**
何頭も獲った。
- 21 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
二人の兄たちは
- 22 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある **条件**
毎日
- 23 ikorka nuye
イコロカ スイエ
宝器 彫り刻む
鞘の表面の彫り方、
- 24 tomika nuye
トミカ スイエ
宝器の表面 彫り刻む
宝物に表面の彫り方を
- 25 iresu yubi orowa
イレス ユビ オロワ
育てる 兄 **始点**
育ての兄から
- 26 a-ebakashnu.
ア・エバカシヌ、
我・言い聞かせる
教わって、
- 27 eyaihanokkarpa.
エヤイハノッカラパ、
稽古する
その稽古に余念がなかった。
- 28 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今ではもう、
- 29 obittano
オビッタノ
皆
二人とも
- 30 ikorka nuye
イコロカ スイエ
宝器 彫り刻む
鞘の刻紋、
- 31 tomika nuye
トミカ スイエ
宝器の表面 彫り刻む
宝物の刻紋が
- 32 eashkaipa hine
エアシカイバ ヒネ
できる **接続**
上手になり、
- 33 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある **条件**
毎日
- 34 kebushbe nuye
ケブシベ スイエ
鞘 彫り刻む
鞘の彫り、
- 35 shirka nuye
シリカ スイエ
鞘 彫り刻む
表の彫りに
- 36 kokipshiri-
コキプシリ・
額を地面に
励み
- 37 echiu kane
エチウ カネ
突く **同時**
ながら
- 38 euweneusarpa koro okai.
エウウェネウサラパ コロ オカイ。
談笑する **同時** ある
談笑していた。
- 39 Iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄が
- 40 ekimne ko
エキムネ コ
山に行く **条件**
狩に出かけると、
- 41 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
二人の兄たちは
- 42 chise ot ta okai.
チセ オトタ オカイ。
家 所 **場所** ある
家に留まっていたが、
- 43 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
二人とも
- 44 tane anak ne
タネ アナクネ
今 は **繋**
今では
- 45 usa ekimne eashkai.
ウサ エキムネ エアシカイ。
譲歩 山に行く できる
狩などができるようになった。
- 46 Tambe kusu *p.2*
タムベ クス
これ **根拠**
そこで、

- 47 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
二人の兄たちが
- 48 ekimne ko
エキムネ コ
山に行く 条件
山に出かけると、
- 49 iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄は
- 50 chise ot ta an wa
チセ オトタ アンワ
家 所 場所 ある 接続
家に留まって、
- 51 i-ebunkine kane
イ・エブンキネ カネ
我・守る 同時
我を見守りながら
- 52 ikorka nuye
イコロカ ヌイエ
宝器 彫り刻む
宝物の
- 53 tomika nuye
トミカ ヌイエ
宝器の表面 彫り刻む
表を
- 54 ki kane.
キ カネ.
する 音調
彫っていた。
- 55 Kurkashike
クルカシケ
上
そのさまに
- 56 a-shikomare,
ア・シコマレ,
我・目をやる
我は目を注いで
- 57 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
まったく好ましい思いを
- 58 a-uwesuye kane an-an.
ア・ウエスイエ カネ アナン.
我・揺する 同時 いる・我
胸に揺らめかした。
- 59 Tane ponno boro-an wa
タネ ポンノ ボロ・アン ワ
今 少し 大きくなる・我 接続
少し大きくなって、
- 60 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見渡せば、
- 61 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いた、
- 62 ineapkusū
イネアックス
何と
なんとも
- 63 a-ewak ushike
ア・エワク ウシケ
我・住む ところ
我が住いの
- 64 upsoroho
ウッソロホ
内部
中は
- 65 pirika wa
ピリカ ワ
よい 接続
美しく、
- 66 a-tomte wa
ア・トムテ ワ
輝いている 接続
ピカピカに輝いて、
- 67 iyoma wa
イヨマ ワ
家内部を宝物で飾る から
宝物で飾られて
- 68 shir an nankor a!
シラン ナンコラ!
様子 ある だろう 疑問
いることだろう。
- 69 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
広壮な家の
- 70 amanemboki
アマナムボキ
梁の下
梁の下は
- 71 chiibiyere
チイビエレ
すきまなく
すきまなく
- 72 tab an iyoikir
タバン イヨイキリ
これ ある 宝列
宝物の列、
- 73 kani shintoko
カニ シントコ
黄金 ほかい
金のシントコ、
- 74 kani suyop
カニ スヨブ
黄金 箱
金の手箱、
- 75 yayan shintoko
ヤヤン シントコ
普通の ほかい
木のシントコ、
- 76 yayan shuyop
ヤヤン シュヨブ
普通の 箱
木の手箱が
- 77 urutkoboeye.
ウルトコボイエ.
入り交じる
入り混じっていた。
- 78 Boro ikiri
ボロ イキリ
大きい 列
これらの大きな宝列が
- 79 rambesh kunne
ラムベシ クンネ
懸崖 ように
懸崖のように
- 80 chishiturire.
チシトゥリレ.
伸びる
伸びていた。
- 81 Enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 場所
その上には
- 82 nishpa mutbe
ニシパ ムトベ
長者 差す太刀
首領の佩く太刀の
- 83 otusantuka
オトウサントウカ
数々の
多くの柄頭（つかがしら）が
- 84 chieunruke,
チエウンルケ,
整列している
並んで、
- 85 ukorambusa
ウコラムブサ
どれも垂れた房（を）
垂れる房が
- 86 shuiba kane.
シュイバ カネ.
醸す 音調
揺らめいていた。
- 87 Iyoikiri kurka
イヨイキリ クルカ
宝列 上
宝列の上は
- 88 kamui imeru
カムイ イメル
神 きらめき
神々しい電光が
- 89 eshimaka.
エシマカ.
輝く
光っていた。
- 90 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我は心
- 91 a-uwesuye.
ア・ウエスイエ.
我・揺する
揺すられた。
- 92 Kani ikit tukari
カニ イキト トウカリ
黄金 列 手前
金の宝列の手前に
- 93 chituye amset
チトゥイエ アムセト
切れた 寝床
しつらえられた寝床、
- 94 kani amset
カニ アムセト
黄金 寝台
金の寝床が
- 95 chishiturire.
チシトゥリレ.
伸びる
伸びていた。
- 96 Kani amset okari
カニ アムセト オカリ
黄金 寝台 まわり
金の寝床の周りに
- 97 sep birankani
セブ ビランカニ
幅広い 平金
幅広い平金が
- 98 chiekarpare.
チエカラパレ.
巻かれる
巻かれていた。

1.2 寝床から見えるしつらい

- 99 Birankani kashi *p.3*
 ビランカニ カシ
 平金 上
 平金の上には
- 100 tu kani moreu
 トウ カニ モレウ
 二つの黄金 モレウ紋
 たくさんの
- 101 re kani moreu
 レ カニ モレウ
 三つの黄金 モレウ紋
 金の渦模様が
- 102 chietomte.
 チエトムテ.
 輝いている
 輝いていた。
- 103 Moreu uturu
 モレウ ウトゥル
 モレウ紋 間
 渦の模様の中に
- 104 tu kani pon tumshi
 トウ カニ ポン トウムシ
 二つの黄金 小さい 鎖環
 多くの金の小さな鎖の環、
- 105 re kani pon
 レ カニ ポン
 三つの黄金 小さい
 多くの金の小さな
- 106 ubushne etor
 ウブシネ エトロ
 群をなす 木鈴
 鈴なりの鈴が
- 107 chiekotpa.
 チエコトパ.
 結びついている
 縫い付けられていた。
- 108 Kurkashike
 クルクアシケ
 上
 その上に
- 109 kamui imeru
 カムイ イメル
 神 きらめき
 神々しい光が
- 110 uweshimaka.
 ウウエシマカ.
 盛んに光る
 輝いていた。
- 111 Shiyoro keutum
 シヨロ ケウトウム
 驚く 心
 感心し、
- 112 anramasu keutum
 アンラマス ケウトウム
 まったく好ましい 心
 好ましく
- 113 a-yaikore kane.
 ア・ヤイコレ カネ.
 我・もつ 音調
 思った。
- 114 Amset kurka
 アムセト クルカ
 寝台 上
 寝床の上で
- 115 an-i-y-eresu.
 アニ・イエレス.
 我・育てられる
 我は育てられた。
- 1.3 掛けられている衣装
- 116 Kakenchai ba ta
 カケンチャイ バ タ
 掛け竿 上 場所
 掛け竿の上に
- 117 a-i-y-ereshba p
 ア・イ・イエレスバ ヲ
 我・育てられる もの
 我がそれで育てられることになる
- 118 a-eshibopkep
 ア・エシボッケッ
 我・衣服
 着物が
- 119 erachitke.
 エラチトケ.
 垂れさがる
 下がっていた。
- 120 Kani kosonte
 カニ コソント
 黄金 小袖
 金の小袖の
- 121 kotbar ka ta
 コトバラ カ タ
 襟元 上 場所
 襟元、
- 122 chinki ka ta
 チンキ カ タ
 裾 上 場所
 裾周り^が
- 123 sep birankani
 セッ ビランカニ
 幅広い 平金
 幅広い平金で
- 124 chiekarpare.
 チエカッパレ.
 巻かれる
 縁どられていた。
- 125 Birankani
 ビランカニ
 平金
 平金の
- 126 kani kashi
 カニ カシ
 黄金 上
 金の表面は
- 127 tu kani moreu
 トウ カニ モレウ
 二つの黄金 モレウ紋
 おびた^だしい
- 128 re kani moreu
 レ カニ モレウ
 三つの黄金 モレウ紋
 渦の模様で
- 129 chietomte kane.
 チエトムテ カネ.
 輝いている 同時
 満たされていた。
- 130 Tabup ka wa
 タブッ カ ワ
 肩 上 から
 肩の上から
- 131 ratki etor
 ラトキ エトロ
 垂れ下がった 木鈴
 垂れさがる鈴^が
- 132 imi noshkike
 イミ ノシキケ
 着物 真中
 胴のあたりで
- 133 chikoetuipa.
 チコエトウイパ.
 切り揃えられる
 切り揃えたように並んでいた。
- 134 Imi noshki wa
 イミ ノシキ ワ
 着物 真中 から
 着物の胴のあたりから
- 135 ratki etor
 ラトキ エトロ
 垂れ下がった 木鈴
 垂れさがった鈴^は
- 136 imi chinki*¹
 イミ チンキ
 着物 裾
 着物の裾を
- 137 Chikoesaipa kane.
 チコエサイバ カネ.
 巻き付く 音調
 ぐるりと巻いていた。
- 138 Kurkashke
 クルクアシケ
 上
 その上を
- 139 kamui imeru
 カムイ イメル
 神 きらめき
 雷光^が
- 140 uweshimaka.
 ウウエシマカ.
 盛んに光る
 光っていた。
- 141 Anramasu
 アンラマス
 まったく好ましい
 何とも
- 142 a-uwesuye kane.
 ア・ウウエスイエ カネ.
 我・挿する 音調
 心ひかれる。
- 1.4 鞆に彫られた文様
- 143 Kamui ranke tam
 カムイ ランケ タム
 神 下ろす 刀
 神から授かった太刀の
- 144 shirika
 シリカ
 表面
 鞆は
- 145 tanneteshpa kane.
 タンネテシパ カネ.
 長々と反る 音調
 長々と反り返っていた。
- 146 Shirika ka ta
 シリカ カ タ
 表面 上 場所
 鞆の上には
- 147 pom kannakamui
 ポム カンナカムイ
 小さい 雷神
 幼い雷神、

*1 原綴り chinka の chin と ka の上に金田一による ki との書き込みがある。

- 148 umurek kamui
ウムレク カムイ
夫婦 神
めおと神が
- 149 chiewakte.
チエワクテ.
居座る
わだかまっていた。
- 150 Binne kamui p.4
ビンネ カムイ
雄 神
雄神と
- 151 matne kamui
マトネ カムイ
雌の 神
雌神は、
- 152 konotbiukire
コノトビウキレ
顎を突き出す
顎を突き出し、
- 153 sepparar kan
セツバララ カン
鐙の縁 上
鐙の縁で
- 154 kokirauriki-
コキラウリキ・
角を高く
角を高々と
- 155 bumba kane.
ブムバ カネ.
上げる 音調
もたげていた。
- 156 Emush shirka kashi
エムシ シリカ カシ
刀 鞆 上
刀の鞆の上 (で)
- 157 usaikonoiba kane
ウサイコノイバ カネ
絡み合う 同時
とぐろを巻き、
- 158 shiknu kamui ne
シクヌ カムイ ネ
生きている 神 繫
生きた神となって
- 159 uyayewakte kane.
ウヤエワクテ カネ.
二匹がとぐろを巻く 音調
わだかまっていた。
- 160 Shirika noshki ta
シリカ ノシキ タ
表面 真中 場所
鞆の半ばには
- 161 kani pon horkeu
カニ ボン ホロケウ
黄金 小さい 狼
金の幼い狼の
- 162 kishki kashi
キシキ カシ
毛 上
毛が
- 163 komeritanki,
コメリタンキ,
輝く
ピカピカ輝き、
- 164 kosarotuima-
コサロトゥイマ・
尻尾を遠くへ
尻尾を遠くに
- 165 anu kane.
アヌ カネ.
置く 音調
置いていた。
- 166 Sonno
ソンノ
真に
まったく、
- 167 shiknu kamui ne
シクヌ カムイ ネ
生きている 神 繫
生きた神となって、
- 168 yayewakte.
ヤエワクテ.
居座る
居座っていた。
- 169 Shirika kesh ta
シリカ ケシ タ
表面 末端 場所
鞆の下端には、
- 170 satkimotbe
サトキモトベ
夏の狐
夏狐の
- 171 keptontone p
ケプトントネ プ
毛がなくてつるつるの もの
毛のないものが、
- 172 tumam kashike
トゥمام カシケ
胴体 上
胴の上で
- 173 tu kap koiriri
トゥ カプ コイリリ
二つの 皮 波
幾条もの皺が、
- 174 re kap koiriri
レ カプ コイリリ
三つの 皮 波
波打ち、
- 175 tu sakma kunne
トゥ サクマ クンネ
二つの 横木 ように
家をめぐる横木のように
- 176 re sakma kunne
レ サクマ クンネ
三つの 横木 ように
おびただしく
- 177 chishiturbare.
チシトゥルバレ.
伸びる
のびていた。
- 178 Bokna notkewe
ボクナ ノトケウエ
下方の 顎
下顎と
- 179 kanna notkewe
カンナ ノトケウエ
上 顎
上顎が
- 180 chiekasure
チエカスレ
凌ぐ
交差し、
- 181 shiknu kamui ne
シクヌ カムイ ネ
生きている 神 繫
生きた神となって
- 182 shiktum konna
シクトウム コンナ
目の色 は
目の色は福寿草の色をなして
- 183 kunaibe tom ne
クナイベ トム ネ
クナイベ色 色 繫
らんらんと恐ろし気で、
- 184 kep ne kisara
ケプ ネ キサラ
裸毛 繫 耳
毛の抜けた耳の
- 185 kisar etupshi
キサラ エトゥッシ
耳 先端
先端に
- 186 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 187 chiekotekar.
チエコテカラ.
結びついている
抜け残っていた。
- 188 Sar motochi
サラ モトチ
尾 脊柱
尻尾の骨と
- 189 sar etupshi
サラ エトゥッシ
尾 先端
先端に
- 190 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 191 chiekotekar kane
チエコテカラ カネ
結びついている 同時
付いたのが
- 192 yayewakte.
ヤエワクテ.
居座る
居座っていた。
- 193 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚きの
- 194 a-yaikore.*2
ア・ヤイコレ.
我・もつ
念を抱いた。
- 195 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
好ましさに心が
- 196 a-uwesuye*3 kane. p.5
ア・ウエスイエ カネ.
我・揺する 音調
心が奪われた。
- 197 Kabarbe kasa
カバラベ カサ
薄造りの物 笠
薄造りの笠の

*2 原ノートではこの句が書かれていないので補う。

*3 原綴りは Auwe。Auwe の後ろに suye が補われている。

- 198 kasa so kashi
カサ ソ カシ
笠 平面上
表面には、
- 199 ubushne etor
ウブシネ エトロ
群をなす 木鈴
群らがるような鈴、
- 200 ubushne tumshi
ウブシネ トウムシ
群をなす 鎖環
群がるような鎖の環が
- 201 chiekotpa.
チエコトパ.
結びついている
縫い付けられていた。
- 202 Kurkashke
クルカシケ
上
その表面は
- 203 kamui imeru
カムイ イメル
神 きらめき
神々しい光が
- 204 eshimaka
エシマカ
輝く
照り映えていて、
- 205 kani uwokkut
カニ ウウオククト
黄金 留め金付きの帯
金の留め金付きの帯と
- 206 turanno
トゥランノ
ともに
ともに
- 207 ratki kane.
ラトキ カネ.
垂れ下がった 音調
ぶら下がっていた。
- 208 “Hetak ta usa
“ヘタク タ ウサ
さあ これ 譲歩
「さあ、早く
- 209 okkayo bakno
オッカヨ バクノ
若者 まで
一人前の男に
- 210 shikup-an wa
シクッ・アン ワ
育つ・我 接続
成長した
- 211 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接続 繋 条件
なら、
- 212 a-eshibopkep
ア・エシボッケッ
我・衣服
この身を温める服を
- 213 a-mi wa
ア・ミ ワ
我・着る 接続
着て
- 214 inkar-an okai!” ari
インカラ・アン オカイ!” アリ
見る・我 ある ある
「見たいもの」と
- 215 yainu-an chiki
ヤイヌ・アン チキ
考える・我 条件
考えると

- 216 an-eyaisembir-
アネヤイセムビリ・
我・己の陰
思わず
- 217 omina kane.
オミナ カネ.
笑う 音調
笑みがこぼれた。

1.5 女物の品々

- 218 Ikkirkesch wano
イキリケシ ワノ
列の端 から
宝列の下端から
- 219 kani matchuyop
カニ マトチュヨッ
黄金 女持ちの手函
女物の金の箱が
- 220 boro ikiri
ボロ イキリ
大きい 列
列をなして並び、
- 221 uturun shikkeu
ウトウルン シクケウ
火尻座の 隅
下座の隅まで
- 222 eush kane.
エウシ カネ.
顔を付ける 音調
届いていた。
- 223 Nei kotchake ta
ネ コトチャケ タ
繋 前 basyo
その前には
- 224 kani mukru
カニ ムクル
黄金 枕
金の枕、
- 225 menoko mukru
メノコ ムクル
女 枕
女の枕が
- 226 chishiturire.
チシトゥリレ.
伸びる
横たわっていた。
- 227 Enkashike ta
エンカシケ タ
離れた上 場所
その上には
- 228 nekona shikop
ネコナ シコッ
どのようにに 生れ
どこの
- 229 nekona barop
ネコナ バロッ
どのようにに 生れ
生まれの者が
- 230 tekekar kuni p
テケカラ クニ プ
手ずからに作る 必然 もの
作ったもので
- 231 ne nankor a,
ネ ナンコラ,
繋 だろう 疑問
あるうか、
- 232 kani chikirbe
カニ チキリベ
黄金 刺繡衣
金の刺繡衣、

- 233 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神 刺繡衣
神の刺繡衣が
- 234 rikun kakenchai
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
高い掛け竿、
- 235 ranke kakenchai
ランケ カケンチャイ
下の 掛け竿
低い掛け竿の
- 236 kurka eereweuse.
クルカ エエレウエウセ.
上 しなる
上をしならせていた。
- 237 Kurkashike
クルカシケ
上
その表面で
- 238 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュッキ
二つの 神 光輝
おびたさい
- 239 re kamui chupki
レ カムイ チュッキ
三つの 神 光輝
神々しい光が
- 240 eshimaka.
エシマカ.
輝く
輝いていた。
- 241 Sonno anramasu
ソンノ アンラマス
真に まったく好ましい
まったく好ましく、
- 242 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ.
我・揺する
心が揺すぶられた。

1.6 炉と座のありさま

- 243 Kani so kurkashi
カニ ソ クルカシ
黄金 平面上
金の座の表は
- 244 koteschnatara. p.6
コテシナタラ.
平らになっている
伸びやかであって、
- 245 Makun so ka
マクン ソ カ
奥にある 平面上
炉に対して奥の座は
- 246 horabayе
ホラバイエ
低くなる
(宝物の重みで) 低くなり、
- 247 sanke soba
サンケ ソバ
出す 上座
炉寄りの座の上 (かみ) は
- 248 koteschnatara.
コテシナタラ.
平らになっている
平らかであった。*4

- 249 Kani inumbe
カニ イヌムベ
黄金 炉縁
金の炉縁木は、
- 250 baye ruwe*⁵ konna
バイエ ルウェ コンナ
行く 跡 は
伸びて
- 251 Rumaibe tom ne.
ルマイベ トムネ.
(色の名。未詳) 色 繫
ルマイベの色となった。
- 252 Kurkashike
クルカシケ
上
その表面は
- 253 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
明々としていた。
- 254 Sonno
ソノン
真に
まったくもって
- 255 atanan ainu utar
アタナン アイヌ ウタラ
ただの 人間 たち
つまらない人たちが
- 256 ewak ushike
エワク ウシケ
住む ところ
住まう家では
- 257 somone.
ソモネ.
ではない
ない。
- 258 Kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住まいを
- 259 chiekasure.
チエカスレ.
凌ぐ
凌いでいた。
- 260 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は感嘆の
- 261 a-yaikore kane.
ア・ヤイコレ カネ.
我・もつ 音調
心をいだいた。
- 262 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちは
- 263 inkinebe
インキネベ
どちら
いずれも
- 264 shiretok ot ta
シレトク オトタ
美貌 所 場所
容貌においても
- 265 rametok ot ta
ラメトク オトタ
勇者 所 場所
胆力においても
- 266 urabokkari wa
ウラボッカリ ワ
優劣がある 接続
優劣が
- 267 shir an nankor a!
シラン ナンコラ
様子 ある だろう 疑問
あるだろうか。
- 268 arobittano
アロビトタノ
すべて
二人とも
- 269 shine imut
シネ イムト
一つの 腰に差す
同じ刀を差し、
- 270 shine shibopke kiba.
シネ シボツケ キバ.
一つの 着る物 する
同じ装いをしていた。
- 271 Rametok sone
ラメトク ソネ
勇者 らしく
勇者に違いなく、
- 272 rametok ibor
ラメトク イボロ
勇者 顔色
勇者の気品が
- 273 eibottumu-
エイボトトウム・
顔色
かんばせに
- 274 shinnai kane.
シンナイ カネ.
違った 音調
たぐいない。
- 275 Okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧の
- 276 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
中に
- 277 yayomarpa kane
ヤヨマルパ カネ
己を入れる 同時
身を入れて
- 278 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 繫
神の
- 279 pirika ruwe okai.*⁶
ピリカ ルウェ オカイ.
よい 跡 ある
たたずまいであった。
- 280 Pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
小さな我が姉も
- 281 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接続 繫 譲歩
また美しく、
- 282 ine kotan ta
イネ コタン タ
どこ 村 場所
いったい何処の村に、
- 283 ine moshit ta
イネ モシト タ
どこ 国土 場所
何処の国に
- 284 eturbak shirika
エトウルバク シリカ
並ぶ 表面
これに及ぶ容姿、
- 285 eturbak nanka
エトウルバク ナンカ
並ぶ 顔面
容貌の女が
- 286 okai nankor a!
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
いるであろうか。
- 287 Kani chikirbe
カニ チキリベ
黄金 刺繍衣
金の刺繍衣、
- 288 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
神の刺繍衣を
- 289 nina imi ne
ニナ イミ ネ
たき木を集める 着物 繫
柴刈りの衣のように
- 290 arutomechui.
アルトメチウ.
身にまとう
無造作にまもっていた。
- 291 Kamui chibanup
カムイ チバナフ
神 冠り物
神々しい頭巾で
- 292 erurikiraipa kane.
エルリキライパ カネ.
髪を高く上げる 音調
髪を高く上げていた。
- 293 Kimui otobi p.7
キムイ オトビ
頭 髪
髪のは
- 294 sarambe kane
サラムベ カネ
絹 同時
絹のように
- 295 ekimuikashi-
エキムイカシ・
頭上
頭を
- 296 chiusurure.
チウスルレ.
ひろがり蔽っている
おおっていた。

*⁴ この4行の意味はよく分からない。*⁵ 原綴りは bayer we. bayeruwe とみなして、このように書き換える。*⁶ この語の後ろに、さらに okai と書かれているが、棒線で抹消されている。

- 297 Otop etoko
オトッ エトコ
髪 行く先
髪髪の毛の先には
- 298 chioimeru-
チオイメル・
光
光りが
- 299 kotba kane.
コトバ カネ.
つける 音調
宿っていた。
- 300 Reuboki ta
レウボキ タ
下 場所
その下に
- 301 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 302 shikush toi kunne
シクシ トイ クンネ
日差し 土 ように
日の光のように
- 303 komaknatara.
コマクナダラ.
輝いている
照り映えていた。
- 304 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある 条件
毎日、
- 305 otu betchirbe
オトゥ ベトチリベ
二つの水滴
たくさんの
- 306 ore betchirbe
オレ ベトチリベ
三つの水滴
水を滴らせ、
- 307 yaikarbare
ヤイカラバレ
清める
手を清め、
- 308 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
心をこめて
- 309 koyairikta-
コヤイリクタ・
おのれより高く
調理に
- 310 ante kane.
アンテ カネ.
あらしめる 音調
いそしんだ。
- 311 Hoshkiruino
ホシキルイノ
先に
まっさきに、
- 312 pirika aep
ピリカ アエプ
よい 食物
見事な
- 313 keran aep
ケラン アエプ
おいしい 食物
おいしい物を
- 314 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
高盛りに盛ったお椀を

- 315 shikankitai
シカンキタイ
己の頭上
頭上に
- 316 eimekani
エイメカニ
配膳する
持ち上げて
- 317 oribak tura
オリバツ トウラ
畏まる とともに
恭しく
- 318 i-koibuni.
イ・コイブニ.
我・食事を出す
我に差し出した。

1.8 成長する

- 319 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繫 譲歩
我も
- 320 ene shiriki i
エネ シリキ イ
このように 見える 形名
兄たちのすることを
- 321 a-ikoisampa
ア・イコイサムパ
我・真似る
まねて
- 322 usa ni keure
ウサ ニ ケウレ
譲歩 木 削る
木を削り、
- 323 usa ni tokba
ウサ ニ トッパ
譲歩 木 突く
木を突くなど
- 324 a-ki aine
ア・キ アイネ
我・する 接続
しているうちに
- 325 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう、
- 326 sonno inuye
ソンノ イヌイエ
真に 刻紋
木彫りに
- 327 a-eashkai.
ア・エアシカイ.
我・できる
上達した。
- 328 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある 条件
毎日、
- 329 kebushbe nuye
ケブシベ スイエ
鞆 彫り刻む
鞆の彫り、
- 330 shirika nuye
シリカ スイエ
表面 彫り刻む
おもての刻みに
- 331 a-kokipshiri-
ア・コキッシリ・
我・額を床に
一心不乱に

- 332 echiu kane.
エチウ カネ.
突く 音調
なっていた。
- 333 Tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神 形
二つの美しい形を
- 334 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神 形
三つの見事な形を
- 335 a-uwatore kane.
ア・ウワトレ カネ.
我・連ねる 音調
我は連ねた。
- 336 Yaikota
ヤイコタ
己で
一人で
- 337 a-tekekar be
ア・テケカラ ベ
我・手で作る もの
作った手製のもの
- 338 iki korkaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
なのに、
- 339 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
よくできているさま、
- 340 ashkai-an ruwe
アシカイ・アン ルウェ
上手である・我 跡
私の巧みさが
- 341 sonno
ソンノ
真に
まったく
- 342 a-eyaikirorante
ア・エヤイキロランテ
我・喜ぶ
嬉しく、
- 343 a-eramasu kane.
ア・エラマス カネ.
我・好ましく思う 音調
我ながらうっとりした。
- 344 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちは
- 345 i-kohebumpa p.8
イ・コヘブムパ
我・頭を上げる
我に顔を向けて
- 346 a-kar be
ア・カラ ベ
我・作る もの
我が作ったものに
- 347 nukarpa chiki
ヌカラバ チキ
見る 条件
目が止まると、
- 348 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
姿・形・型 繫 同時
型どおりに

- 349 erayap kashba p
エラヤッ カシバ プ
感心する 甚だしいもの
驚くの
- 350 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接続 繋 条件
ならば
- 351 kotom korokaiki
コトム コロガイキ
ようである 逆接
ありそうなことだが、
- 352 ram oshi wano
ラム オシ ワノ
心 中 から
心の底から、
- 353 keutum oshi wano
ケウトウム オシ ワノ
心 中 から
心の中から
- 354 erayap kuni p
エラヤッ クニ プ
感心する 必然 もの
たまげたもの
- 355 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繋 根拠
だから、
- 356 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列 繋
一斉に
- 357 shietuaina
シエトゥウイナ
鼻を押さえる
口を抑え、
- 358 shibaruina kane
シバルイナ カネ
己の口を抑える 同時
鼻をふさいで、
- 359 ukoerayap
ウコエラヤッ
皆驚く
ともに驚き、
- 360 ukoekiroroamba kane
ウコエキロロアムバ カネ
ともに喜ぶ 同時
ともに喜びつつ
- 361 tu shukupramkur
トゥ シュクプラムクル
二つの年齢
つぎつぎと
- 362 re shukupramkur
レ シュクプラムクル
三つの年齢
年を重ねて
- 363 a-unosbare.
ア・ウノシバレ.
我・追いかけてあわせる
我は成長した。
- 364 Tane ne kusu
タネ ネ クス
今 繋 根拠
今では
- 365 hoku ne hekachi ne
ホク ネ ヘカチ ネ
夫 繋 子供 繋
夫になる資格のある子どもに
- 366 a-yaishitomkur-
ア・ヤイシトムクル・
我・自らの身体
なったと
- 367 nukar*7 kane.
ヌカラ カネ.
見る 音調
自覚された。
- 368 Mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
ますます
- 369 pirika-an kotom ne
ピリカ・アン コトム ネ
美しくある ようである 繋
美しくなっているらしく、
- 370 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧の
- 371 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
中に
- 372 a-yayomare kane.
ア・ヤヨマレ カネ.
我・みずから入れる 音調
身を入れていた。
- 373 I-bishkanike
イ・ビシカニケ
我・周囲
私の周りには
- 374 kamui imeru
カムイ イメル
神 きらめき
神の光が
- 375 eshimaka.
エシマカ.
輝く
輝いた。
- 376 A-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
我が兄たちも
- 377 pon a-kor sapo hene
ボン ア・コロ サポ ヘネ
小さい我・もつ 姉 も
小さな我が姉も
- 378 pirika ram ne
ピリカ ラム ネ
よい 心 繋
好ましうに
- 379 i-kohebumpa kushne ko
イ・コヘブムバ クシネ コ
我・頭を上げる 必然・意志 条件
我に顔を上げようとする、
- 380 ene okai kamui
エネ オカイ カムイ
このようにある 神
このような神、
- 381 ene okai bito
エネ オカイ ビト
このようにある 人
このような尊い人が
- 382 hemshiehose
ヘムシエホセ
みずからを差し置いて
自分を抑えて
- 383 konep erayap kuni p
コネプ エラヤッ クニ プ
何 感心する 必然 もの
何に驚く
- 384 ikichi nankor a,
イキチ ナンコラ,
する だろう 疑問
のか、
- 385 i-tukarikepo
イ・トゥカリケポ
我・手前
我的手前に
- 386 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
目を
- 387 atte kane. p.9
アトテ カネ.
たたせる 音調
落とした。
- 388 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちも
- 389 ireshu sapo
イレシュ サポ
育てる 姉
育ての姉も
- 390 hese attom
ヘセ アトトム
息をする 中
息のただ中、
- 391 sambe attom
サムベ アトトム
心臓 中
心臓のただ中に
- 392 i-ekotpa.
イ・エクトパ.
我・つなぎとめる
我を抱き寄せた。
- 393 Chipirikareshu
チピリカレシュ
良きはぐくみ
よい養い、
- 394 chitomtereshu
チトムテレシュ
美しく育てられる
輝かしい教育を
- 395 i-y-ekarkar wa
イ・イエカラカラ ワ
我・する 接続
ほどこしてくれ、
- 396 ramma kane
ラムマ カネ
いつも 同時
いつも
- 397 katkoro kane
カトコロ カネ
振舞う 同時
変わらず、
- 398 uweramu-
ウウエラム・
互いに心を
我らは
- 399 nishte-an kane
ニシテ・アン カネ
固い・我 同時
心固く

*7 不思議なことに yaishitomkur-nukar は「～がおのれの身を見る」という意味の自動詞と判断されるが、金成は一貫して他動詞に扱い a- をつける。

400 okai-an.
オカイ・アン。
いる・我
暮らした。

1.9 兄姉との暮らし

401 Ireshu sapo
イレシュ サポ
育てる 姉
育ての姉は

402 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある 条件
毎日

403 karkar kuni p
カッカカ クニ プ
刺繍する 必然 もの
縫物の

404 attom sama
アトトム サマ
中 そば
中に

405 yayomare
ヤヨマレ
己を入れる
身を入れて、

406 ikarkar wa
イカッカカ ワ
刺繍する 接続
縫っているの、

407 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると

408 ineapkus
イネアックス
何と
なんともはや、

409 ashkai wa
アシカイ ワ
上手である 接続
器用で

410 ikichi nankor a!
イキチ ナンコラ!
する だろう! 疑問
あることか。

411 Karkar kuni p
カッカカ クニ プ
刺繍する 必然 もの
作るものは

412 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ ネ
二つの 神 空 繋
おびただしく

413 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ ネ
三つの 神 空 繋
雲を成して

414 yayebumba.
ヤイエブムバ、
立ちのぼる
立ち昇った。

415 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
好ましい思いを

416 a-uwesuye kane.
ア・ウウエスイエ カネ、
我・揺する 音調
我は揺すった。

417 Kunne an ko
クンネ アン コ
夜 ある 条件
日が暮れると

418 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
広壮な家の

419 chise upsoro
チセ ウッソロ
家 内部
中は

420 ikor nubek
イコロ スベッ
宝物 光
宝物の輝き、

421 tomi nubek
トミ スベッ
財宝 光
宝器の放つ光が

422 tokap shikush ne
トカプ シクシ ネ
昼 日差し 繋
昼の日差しのよう

423 komaknatara kane.
コマクナタラ カネ、
輝いている 音調
燦々としていた。

424 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
感嘆の念が

425 a-uwesuye kane.
ア・ウウエスイエ カネ、
我・揺する 音調
抑えられなかった。

426 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある 条件
毎日、

427 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちが

428 kamui orushbe
カムイ オルシベ
神 話
神の物語、

429 ainu orushbe
アイヌ オルシベ
人間 話
人間の物語を

430 euweneusar ko
エウウエネウサラ コ
話し合う 条件
話ると、

431 a-eyaikiroro-
ア・エヤイキロロ・
我・喜び
我は喜んで

432 ante kane
アンテ カネ
あらしめる 同時
聞き、

433 a-eyaineusarka kane
ア・エヤイネウサラカ カネ
我・物語る 同時
我也語って

434 okai-an a wa
オカイ・アン ア ワ
いる・我 完了 接続
いると、

第2章 恐るべき女との戦い

2.1 女が現れる

435 shine an to ta
シネ アン ト タ
一つのある 日 場所
ある日、

436 tuima moshiri
トゥイマ モシリ
遠い 国
遠くの国の

437 moshiri tapkashi p.10
モシリ タッカシ
国 頂き
国の頂が

438 bushkosanu
ブシコサヌ
爆音が鳴る
破裂する音がした。

439 kamui ek humi
カムイ エッ フミ
神 来る 音
神がやって来る音が

440 keurototke
ケウロトトケ
響く
響いた。

441 i-oyake un ek be
イ・オヤケ ウン エッ ベ
我・よそ 方向 来る もの
どこかよそに来たの

442 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接続 繋 条件
ならば

443 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
不思議はないが、

444 a-ewak*8 shiroro
ア・エワク シロロ
我・住む 場所
私の住まいの

445 Attomsama
アトトムサマ
真ん中
ただ中に

446 yayomare p ne
ヤヨマレ プ ネ
己を入れる もの 繋
入って

447 kotomno*9
コトムノ
ように
来たらしく

*8 原綴りは aenewak. n の上に抹消棒線が引かれているが、en ないし ne の上に引かれているとみなし、aewak ととった。

*9 原綴りは kotom ne.

- 448 Iramu-an.
イラム・アン.
思われる
思われた。
- 449 Saure rametok
サウレ ラメトク
軽輩の勇者
凡庸な勇者
- 450 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接続 繋 条件
ならば
- 451 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
あたりまえのことだが、
- 452 shino rametok
シノ ラメトク
まことに勇者
真の勇者で
- 453 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繋 根拠
あるので、
- 454 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの渦になっている風
いく巻きもの
- 455 re shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの渦になっている風
巻き風を
- 456 shikotcha otte
シコトチャ オトテ
己の前 あらしめる
自分の前に立てて、
- 457 tunash bash kamui tura
トゥナシ バシ カムイ トウラ
素早い 走る 神 ともに
疾走する神に伴う、
- 458 kamui mau.
カムイ マウ.
神 獲物
神風(とともにやって来た)。
- 459 Iru kai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 繋 条件
しばらくすると
- 460 chashi kar be
チャシ カラ ベ
チャシ 打つもの
城を打つ風が
- 461 kosebebatki
コセベバトキ
鳴る
ほのかに鳴り、
- 462 toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つもの
地面を打つ風が
- 463 koturimimse.
コトゥリミムセ.
響き渡る
ざわざわと鳴った。
- 464 Burai kari
ブライ カリ
窓 から
窓からも
- 465 aba kari
アバ カリ
簾戸 から
戸口からも
- 466 kamui mau ahup.
カムイ マウ アフ.
神 獲物 入る
神の風が入ってきた。
- 467 A-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちと
- 468 ireshu sapo
イレシュ サポ
育てる 姉
育ての姉は
- 469 shino iyoyamokte p
シノ イヨヤモクテ プ
まことに不思議に思うもの
大変驚いたもの
- 470 ne kusu
ネ クス
繋 根拠
だから、
- 471 utomohosarpa
ウトモホサラパ
顔を見合わせる
顔を見合わせて
- 472 kisattarara kane okai.
キサタララ カネ オカイ.
耳をすます 同時 ある
耳を立てていた。
- 473 Hontomo ta
ホントモ タ
途中 場所
そうこうしているうちに
- 474 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 槽
外の槽の
- 475 yakura ka un
ヤクラ カウン
槽 上 方向
上に
- 476 kamui hachir hum
カムイ ハチリ フム
神 落ちる 音
神が響きを立てて
- 477 naikosanu.
ナイコサヌ.
金属音がする
落ちてきた。
- 478 Semohonruino
セモホンライノ
しばらく
しばらくして、
- 479 yakura kurka
ヤクラ クルカ
槽 上
槽の上で
- 480 chieashi.
チエアシ.
立つ
立ち上がり、
- 481 An-ewak ushike
アネワク ウシケ
我・住む ところ
我らの住まいの
- 482 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
たたずまいを
- 483 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
隅から隅まで
- 484 uwampare p
ウワムバレ プ
見て調べるもの
調べている
- 485 ne kotomno
ネ コトムノ
繋 ように
らしく
- 486 iramu-an.
イラム・アン.
思う・我
思われた。
- 487 Hontomo ta
ホントモ タ
途中 場所
思うまもなく
- 488 kanakan kuni p
カナカン クニ プ
どういう 必然 もの
何者かが
- 489 chise sam ka ta
チセ サム カ タ
家 そば 上 場所
家のそばを
- 490 apka^{*10}sh humi
アツカシ フミ
歩く 音
歩く音が
- 491 Tunash kane.
トゥナシ カネ.
素早い 音調
足早に響いた。
- 492 Okkayo ne yakne
オツカヨ ネ ヤクネ
若者 繋 条件
それが男ならば
- 493 kotom korkaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
不思議ではないが、
- 494 menoko sone
メノコ ソネ
女 らしく
女らしく、
- 495 upsor ikor
ウツソロ イコロ
内部 宝物
懐に帯びた小刀が
- 496 kotununatki.
コトヌナトキ.
鳴る
チリンと音を立てた。
- 497 Mosem tuyor
モセム トウヨロ
入口を兼ねた納屋 中
モセムの中へと
- 498 eshikiru.
エシキル.
振り向く
身を回した。

*10 原綴りは ap。金田一による kashi との加筆が見られる。しかし、末尾の -i は不要。

- 499 **Seenne kasui**
セエンネ カスイ
否定 甚だしい
まさかそんなことを
- 500 **shiriki kuni**
シリキ クニ
見える 必然
目の当たりにするとは
- 501 **a-ramu rok i,**
ア・ラム ロキ,
我・思う 完了 形名
思いもしなかったが、
- 502 **kanakatkorobe**
カナカトコロベ
何者
どういう者なのか、
- 503 **senne heyoki**
センネ ヘヨキ
否定 畏れ憚る
少しもはばからず
- 504 **ratki aba**
ラトキ アバ
垂れ下がった 簾戸
垂れさがった戸口のむしろを
- 505 **kaishitapka**
カイシタツカ
肩の上
背の上に
- 506 **eterkere.**
エテレケレ.
跳ねとばす
跳ね飛ばした。
- 507 **Mintar ka ta**
ミンタラ カ タ
土間 上 **basyo**
土間の上に
- 508 **imeru tura**
イメル トウラ
きらめきともに
光とともに
- 509 **urur tura**
ウララ トウラ
霧とともに
霧とともに
- 510 **rutkosomba.**
ルトコソムバ,
すばやく入る
スッと踏み込んだ。
- 511 **Ahun kuni p**
アフン クニ プ
入る 必然 もの
入って来た者を
- 512 **a-ekannukara.**
ア・エカンヌカラ.
我・見つめる
我はじっと見つめた。
- 513 **Semorborono**
セモロボロノ
さして大きくない
それほど大きくはない
- 514 **okutchi urar**
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧、
- 515 **pon urar tapkop**
ボン ウララ タツコフ
小さい 霧 小山
小さい霧の小山が

- 516 **harkisotta**
ハラキソッタ
左座に
左座に
- 517 **chishiruture.**
チシルトゥレ.
入る
移動した。
- 518 **Tu urar ikkeu**
トゥ ウララ イッケウ
二つの 霧 元
二つの霧のもと、
- 519 **re urar ikkeu**
レ ウララ イッケウ
三つの 霧 元
三つの霧のもとを
- 520 **a-kocharikar.**
ア・コチャリカラ.
我・散らす
我は払いのけようした。
- 521 **Ki p ne koroka**
キ プ ネ コロカ
するもの 繋 逆接
しながら、
- 522 **naani tu sui**
ナアニ トウ スイ
大方 二つの 回
数え切れないほど
- 523 **naani re sui**
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
試みたけれど、
- 524 **ainu kat ne**
アイヌ カト ネ
人間 姿 繋
人間の姿を
- 525 **a-kar eaikap.**
ア・カラ エアイカフ.
我・する できない
露わにできなかった。
- 526 **Hushkotoiwano**
フシコトイワノ
長い間
しばらく
- 527 **a-kar aine**
ア・カラ アイネ
我・する 接続
そうしていると、
- 528 **urur tum ta**
ウララ トウム タ
霧 中 場所
霧の中、
- 529 **a-shiketoko** *p.12*
ア・シケトコ
我・目先
私の視線の先が
- 530 **raikosanu.**
ライコサヌ.
くらむ
眩んだ。

2.2 白い巻貝で装った女

- 531 **Iyainumare**
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに

- 532 **menoko sani**
メノコ サニ
女 子孫
女という種族、
- 533 **menoko raikur^{*11}**
メノコ ライクル
女 死人
女の死人が
- 534 **okai nankor a!**
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
いるではないか。
- 535 **Boro p he tap ne**
ボロ プ ヘ タフ ネ
大きいもの 疑問 これ 繋
年かきの女であろうか、
- 536 **orsaureko**
オロサウレコ
とんでもなく
畏くも
- 537 **bayekai humi**
バイエカイ フミ
行き来する 気配
旅しているに
- 538 **okai kuni**
オカイ クニ
ある 必然
違いはないと
- 539 **a-ramu rok wa**
ア・ラム ロク ワ
我・思う 完了 接続
思っていたが、
- 540 **pon matkachi**
ボン マトカチ
小さい 少女
そうではなく、小さな少女、
- 541 **pom menoko**
ポム メノコ
小さい 女
幼い女であって、
- 542 **chitomtereshu p**
チトムテレシュ プ
美しく育てられる もの
立派な教育、
- 543 **chiarreshu p**
チアラレシュ プ
大切に育てられる もの
大切な育みを
- 544 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
であるもの 繋 根拠
受けて、
- 545 **kani kosonte**
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖を
- 546 **nina imi ne**
ニナ イミ ネ
たき木を集める 着物 繋
無造作に
- 547 **arutomechuiu**
アルトメチウ
身にまとう
身にまとい、
- 548 **sarambe kuchu**
サラムベ クチ
絹 喉
絹の帯を

*11 そのまま訳せば「女・死人」。女に対する蔑称。

- 549 etumamkashi-
エトマムカシ・
胴
胴に
- 550 kokarpa kane.
コカラバ カネ、
巻く 音調
巻いていた。
- 551 Kamui chibanup
カムイ チバナツ
神 冠り物
神々しい頭巾で
- 552 eruriki-
エルリキ・
髪を高く
髪を高々と
- 553 saiba kane.
サイバ カネ、
巻く 音調
巻き上げていた。
- 554 Chibanup kurka
チバナツ クルカ
冠り物 上
頭巾の表には
- 555 retar pom mokorir
レタラ ポム モコリリ
白い 小さい 巻き貝
白い小さな巻き貝が
- 556 chiecharikar.
チエチャリカラ、
散りばめられる
あしらわれていた。
- 557 Kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
美しい髪は
- 558 sarambe ka ne
サラムベ カネ
絹 糸 繫
絹の糸のように
- 559 ekimuikashi
エキムイカシ
頭上
頂を
- 560 chiusurure.
チウスルレ、
ひろがり蔽っている
覆っていた。
- 561 Otop kurkashi
オトツ クルカシ
髪 上
髪の上には
- 562 retar pon
レタラ ポン
白い 小さい
白く小さな
- 563 kani mokorir
カニ モコリリ
黄金 巻き貝
金の巻き貝が
- 564 erachitke.
エラチトケ、
垂れさがる
ぶら下がっていた。
- 565 Otop etoko
オトツ エトコ
髪 行く先
髪の中の
- 566 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接続 繫 譲歩
先にも
- 567 kani pon mokorir
カニ ポン モコリリ
黄金 小さい 巻き貝
金の小さな巻き貝が
- 568 chiekotpa.
チエコトパ、
結びついている
下がっていた。
- 569 Kurkashike
クルカシケ
上
その上には
- 570 retar imeru
レタラ イメル
白い きらめき
白い光が
- 571 chieshimaka.
チエシマカ、
輝く
輝いていた。
- 572 Retar pon mokorir
レタラ ポン モコリリ
白い 小さい 巻き貝
白く小さな巻き貝、
- 573 kani pon mokorir
カニ ポン モコリリ
黄金 小さい 巻き貝
金の小さな巻き貝の
- 574 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 光
神々しい光が
- 575 ainu sannan kashi *p.13*
アイヌ サンナン カシ
人間 顔 上
人の顔を
- 576 chup kiyai ne
チュプ キヤイ ネ
月 光線 繫
日(月)の光線のように
- 577 ekiyaioma.
エキヤイオマ、
またたく
照らしていた。
- 578 Kisar kashike
キサラ カシケ
耳 上
耳の上に、
- 579 rekut kashike
レクト カシケ
首 上
頸の上にも
- 580 koikatara.
コイカトラ、
あふれている
光があふれていた。
- 581 Otop etoko
オトツ エトコ
髪 行く先
髪の中の
- 582 chioimeru-
チオイメル・
光
きらめいて
- 583 kotpa kane.
コトパ カネ、
結び付ける 音調
いた。
- 584 Reuboki ta
レウボキ タ
下 場所
その下に
- 585 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 586 rikoma chup ne
リコマ チュプ ネ
高所にある 月 繫
中天の太陽のように
- 587 i-nantasare.
イ・ナンタサレ、
我が顔に照り返す
まばゆかった。
- 588 Oar anakne
オアラ アナツネ
全く は
半分は
- 589 ainu anakne
アイヌ アナツネ
人間 は
人間では
- 590 someone.
ソモネ、
ではない
ない。
- 591 Kamui shinne okai be
カムイ シンネ オカイ ベ
神 のようにある もの
神のような者であって、
- 592 nubur be sone
ヌブル ベ ソネ
霊力があるものらしく
シャーマンの力がある者らしく、
- 593 nubur ibor
ヌブル イボロ
霊力がある 顔色
シャーマンの顔立ちを
- 594 annoyekar.
アンノイエカラ、
からみつく
備えていた。
- 595 Attap kashi
アトタツ カシ
一方の肩 上
片一方の肩の上に
- 596 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
端の折れた 虹
三日月の虹が、
- 597 attapkashi
アトタツカシ
片方の肩の上
もう片方の肩には
- 598 shikush rayochi
シクシ ラヨチ
日差し 虹
日輪の虹が
- 599 chieomare
チエオマレ
入る
あつて、
- 600 kimui kashi ta
キムイ カシ タ
頭 上 場所
それが頭上で
- 601 unottasare kane.
ウノトサレ カネ、
喉を交叉させる 音調
交叉していた。

- 602 Sara turem be
サラ トウレム ベ
姿を現す 憑依するもの
目に見える憑き神は、
- 603 kabap sai kunne
カバア サイ クンネ
蝙蝠 輪 ように
蝙蝠の群れのように
- 604 esermakkashi
エセレマッカシ
背後
背後で
- 605 earutasa.
エアルタサ.
交又する
飛び交っていた。
- 606 Mukke turem be
ムッケ トウレム ベ
姿を隠す 憑依するもの
目に見えない憑き神は、
- 607 nochiu kiyai ne
ノチウ キヤイ ネ
星 光線 繫
星の光となって
- 608 esermakkashi
エセレマッカシ
背後
背後に
- 609 earutasa kane.
エアルタサ カネ.
交又する 音調
飛び交っていた。
- 2.3 白い巻貝の女の挑発
- 610 Kosancha ka ta
コサンチャ カ タ
口元 も 場所
唇に
- 611 mina kane
ミナ カネ
笑う 同時
笑いを浮かべて、
- 612 tan rikbeka
タン リッベカ
この 高く
高々と
- 613 not ebeka anu kane
ノト エベカ アヌ カネ
一口分 向き 置く 同時
顎を伸べて、
- 614 an-ewak shiroro upsoro
アネワク シロロ ウァソロ
我・住む 場所 内部
我が住いの中を
- 615 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
隈ぐま
- 616 uwampare
ウワムバレ
見て調べる
見まわした。
- 617 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たち、
- 618 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉を
- 619 kurkashike
クルカシケ
上
じろじろと
- 620 uwampare kane
ウワムバレ カネ
見て調べる 同時
探った。
- 621 beure itak
ベウレ イタク
若い 言葉
若々しい言葉が
- 622 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 は
喉を
- 623 uwetunuisse. p.14
ウウエトウスイセ.
美しく響く
震わせて、
- 624 Itak hawe
イタク ハウエ
言う 声
こう
- 625 ene okai i,
エネ オカイ,
このように ある 形名
述べた。
- 626 “Usainetapsui
“ウサイネタプスイ
(呼びかけ)
「これはまた、
- 627 shir an ruwe.
シラン ルウエ.
様子 ある 跡
なんという様。
- 628 Inkar-an humi
インカラ・アン フミ
見る・我 気配
見るだけに
- 629 a-oyamokte na.
ア・オヤモクテ ナ.
我・不思議に思う (訴え)
恐れ入る。
- 630 Konep tap teta
コネプ タプ テタ
何 こと
何ということ、
- 631 pom ram or wano
ポム ラム オロ ワノ
小さい 心 所 から
幼いときから
- 632 inu-an ko
イヌ・アン コ
聞く・我 条件
耳にしたのは、
- 633 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 634 Shinutapkashi
シヌタプカシ
地名
シヌタプカは
- 635 koasuruash
コアスルアシ
噂がたつ
名高い
- 636 hawe okai awa
ハウエ オカイ アワ
声 ある 展開
村であったが、
- 637 tane sonno
タネ ソンノ
今 真に
今ではなんというさま。
- 638 a-shiki ari
ア・シキ アリ
我・目 で
実際に目で
- 639 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると
- 640 wenkuru chise
ウエンクル チセ
貧乏人 家
貧乏人の家、
- 641 wenkur chashi
ウエンクル チャシ
貧乏人 チャシ
貧乏人の城の
- 642 upsoro ta
ウァソロ タ
内部 場所
中に、
- 643 wenkur batek
ウエンクル バテク
貧乏人 のみ
貧乏人ばかり、
- 644 toy ushiu sani
トイ ウシウ サニ
土 召使い 子孫
腐れ下男の末の
- 645 nepkoro okai be
ネッコロ オカイ ベ
ように ある もの
ような者ら、
- 646 sonno wenkur batek
ソンノ ウエンクル バテク
真に 貧乏人 のみ
貧乏人ばかりが
- 647 utaberari wa
ウタバエラリ ワ
肩を並べる 接続
肩を並べて
- 648 ene shir an i
エネ シリ アニ
このように 様子 ある 形名
こんな様を
- 649 tambe ne ya?
タムベ ネ ヤ?
これ 繫 疑問
さらしているのか。
- 650 Ene okai
エネ オカイ
このように ある
こんな
- 651 semashno kane
セマンノ カネ
凡庸に 同時
くだらない
- 652 chananno kane
チャナンノ カネ
とるに足らなく 同時
つまらない
- 653 okai be he tap ne
オカイ ベ ヘ タプ ネ
ある もの 疑問 これ 繫
やつらが

- 654 konep tapne
コネッ タッネ
何 こう・そう
こんなに
- 655 koohanepo
コオハネポ
笑止千万にも
呆れたことに、
- 656 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの国 越える
国々の
- 657 re moshiri kama
レ モシリ カマ
三つの国 越える
境を越えて、
- 658 iramshitnere
イラムシトネレ
気持ちを腐らせる
忌々しくも
- 659 shiasuruashte hawe
シアスルアシテ ハウエ
名高い 声
名を馳せて
- 660 okai be ne ya." ari
オカイ ベ ネ ヤ." アリ
あるもの 繫 疑問 引用
いるではないか。」と
- 661 yaibabiror-
ヤイバビロロ・
自分の呪いの言
独り言を
- 662 oitak kane
オイタク カネ
話す 同時
つぶやいて
- 663 tan rikbeka
タン リッベカ
この高く
上を
- 664 inkar inkar
インカラ インカラ
見る 見る
見上げて
- 665 shikkankari kane
シッカカンガリ カネ
目をキョロキョロ回す 同時
目をギョロギョロ回し、
- 666 erorun wa
エロルン ワ
上座の方へ 接続
上座へ、
- 667 euturun
エウトウルン
下座の方へ
下座へ
- 668 apkash apkash p.15
アッカシ アッカシ
歩く 歩く
歩き回って、
- 669 chise kankotor
チセ カンコトロ
家 上の曲面
屋根裏に
- 670 uwambare kane
ウワムバレ カネ
見て調べる 同時
目を走らせて
- 671 hawash awa
ハワシ アワ
言われる 展開
そう言うのと、
- 672 shiriki awa
シリキ アワ
見える 展開
すると
- 673 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちは
- 674 inu rok be
イヌ ロク ベ
聞く 完了 もの
それを聞くと
- 675 shino ukoiyokunurpa p
シノ ウコイヨクスルパ ヲ
まことに 互いに驚く もの
皆、あつげに
- 676 ne kusu
ネ クス
繫 根拠
とられて
- 677 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列 繫
一斉に
- 678 utomohosarpa.
ウトモホサラパ
顔を見合わせる
顔を見合わせた。
- 2.4 育ての兄が白い巻貝の女に
挑む
- 679 Iresu yubi
イレス ユビ
育てる兄
育ての兄は
- 680 ibor kor ruwe
イボロ コロ ルウエ
顔色 持つ 跡
美しい
- 681 pirika rok be
ピリカ ロク ベ
よい 完了 もの
顔立ちであったが、
- 682 hoshki ruino*12
ホシキ ルイノ
先に 甚だしく
真っ先に
- 683 Kor wemburi
コロ ウェムブリ
持つ 悪い振る舞い
顔をゆがめて
- 684 enantuikashi
エナントウイカシ
顔面
怒りを
- 685 chiebarsere
チエバラセレ
燃え上がる
面に燃え立たせ、
- 686 tanarka itak
タナラカ イタク
激しく痛い言葉
激しい怒りの言葉に
- 687 ebarsere hawe
エバラセレ ハウエ
広げる 声
声を震わせ
- 688 ene okai i,
エネ オカイ、
このように ある 形名
こう言った。
- 689 "Achikarata!
"アチカラタ!
イヤッ!
「無礼だ。
- 690 Ayakannata!*13
アヤカンナタ!
ろくでもないことだ
途方もないことだ。
- 691 Okkayo rametok
オッカヨ ラメトク
若者 勇者
男の中の男が
- 692 haweokai i
ハウエオカイ イ
言う 形名
言ったと
- 693 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接続 繫 譲歩
しても
- 694 a-toineramu p.
ア・トイネラム プ。
我・いまましく思うの
いまましいのに。
- 695 Ne kotan koro be
ネ コタン コロ ベ
繫 村 持つ もの
どこの
- 696 ne moshiri koro be
ネ モシリ コロ ベ
繫 国 持つ もの
馬の骨やら、
- 697 naa ibeoko okai be hene*14
ナア イベオコ オカイ ベ ヘネ
まだ 幼く ある ものも
まだ子供が
- 698 ene haweokai i
エネ ハウエオカイ イ
このように言う 形名
そんなことを
- 699 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接続 繫 条件
言ったとすれば、
- 700 naaka a-rushka
ナアカ ア・ルシカ
まだしも我・怒る
まだしも怒りは

*12 原綴りは ruine. ruino の誤記であろう。

*13 原綴りは a-yakana. 後に ta が加筆される。

*14 欄外に「マダソナンニ大キクナイモノ」とある。久保寺聖伝, 170-171 では、食物をこぼしたり、顔や着物につけるくらいの頑はない幼児をいうか? と説明している。p.736。

- 701 hauke p ne wa
ハウケ プ ネ ワ
緩やかになるもの 繋 接続
穏やかだったのに、
- 702 konekon iki
コネコン イキ
どのようにする
これはどうやって
- 703 erayekotne^{*15} okai be
エライエトネ オカイ ベ
続く(?) あるもの
血統を継いで来た者、
- 704 konep ainu sani
コネプ アイヌ サニ
何 人間 子孫
どんな人間の末が
- 705 ene okai wa
エネ オカイ ワ
このようにある 接続
こんなふうに
- 706 iramkittarara
イラムキッタララ
驚かせる
驚くべき
- 707 katkoro ruwe okai wa
カトコロ ルウェ オカイ ワ
振舞う 跡 ある 接続
振る舞いをして、
- 708 kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住まいの
- 709 upsoroho
ウツソロホ
内部
中に
- 710 chioahupte wa
チオアフプテ ワ
入る 接続
闖入して
- 711 ouse itak
オウセ イタク
ただ(だけ) 言葉
ただ言葉
- 712 iki a yakka
イキ ア ヤッカ
する 完了 譲歩
ばかりでも
- 713 hushkotoiwano p.16
フシコトイワノ
長い間
大昔から
- 714 tu makan shiri wa
トゥ マカン シリ ワ
二つの奥 様子 から
幾世代も
- 715 re makan shiri wa
レ マカン シリ ワ
三つの奥 様子 から
遡って、
- 716 kamui or bakno
カムイ オロ バクノ
神 所 まで
神のいるところまで、
- 717 kanto or bakno
カント オロ バクノ
天 所 まで
天まで
- 718 shinrit kashi
シンリト カシ
出自 上
血筋が
- 719 a-eraman kuni p
ア・エラマン クニ プ
知られる 必然 もの
たどれる
- 720 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 721 Shinutapka ne awa
シヌタップカ ネ アワ
地名 繋 展開
シヌタップカであるのに、
- 722 naa sama ta
ナア サマ タ
まだ そば 場所
まだ、そばに
- 723 sonno wenkur batek
ソンノ ウエンクル バテック
真に 貧乏人 のみ
貧乏人ばかり、
- 724 ushiu batek
ウシウ バテック
召使いのみ
下男ばかりが
- 725 teta uatte wa kusu
テタ ウアツテ ワ クス
ここで 大勢集まる 接続 根拠
ここに群れていたからか
- 726 hemanta kamiashi
ヘマンタ カミアシ
何 化物
なにか魔物の
- 727 nekon okai be tapne
ネコン オカイ ベ タプネ
どのようにある もの こう・そう
ような者が
- 728 atui koshimbuk
アトウイ コシムブク
海 妖精
海の妖精、
- 729 rur koshimbuk
ルル コシムブク
海水 妖精
潮の妖精
- 730 ari a-borse hawe
アリ ア・ボロセ ハウエ
引用 よばれる 声
と呼ばれるのを
- 731 a-nu rok awa
ア・ヌ ロク アワ
我・聞く 完了 展開
耳にしたことがあったが、
- 732 sennenebeka
センネネベカ
もしかして
もしかして
- 733 annitne kamui
アンニトネ カムイ
極悪である 神
まったくの悪魔めが
- 734 kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住まいの
- 735 upsoroho
ウツソロホ
内部
中に
- 736 koyaikurusere wa
コヤイクルルセレ ワ
姿を現わす 接続
現れて、
- 737 shikuro ne
シクロ ネ
愚か者 繋
愚か者に^{*16}
- 738 i-kar kusu
イ・カラ クス
我・する 根拠
我らを変えようと、
- 739 ouse itak
オウセ イタク
ただ(だけ) 言葉
ただ言葉
- 740 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接続 繋 譲歩
だけであっても
- 741 kamui turanno
カムイ トウランノ
神 とともに^{*17}
- 742 chikosomokur-
チコソモクル・
否定
畏れ
- 743 yaikatanu
ヤイカタヌ
畏れはばかる
憚ることなく、
- 744 ene hawash
エネ ハワシ
このように言われる
そうは
- 745 tambe ne ya?
タムベ ネ ヤ?
これ 繋 疑問
言うのか。
- 746 Nekona hene
ネコナ ヘネ
どのようにも
どんな
- 747 katkor kuni p
カトコロ クニ プ
振舞う 必然 もの
振る舞いを
- 748 e-ne a p kusu
エ・ネ ア プ クス
汝・である 完了 もの 根拠
おまえがしようとも、
- 749 poon shiknupo
ポオン シクヌポ
本の少しの 生存
ほんの少しの

*15 欄外に「ツヅク」とある。

*16 欄外に「バケラセルンデハナイカ」と読める書き込みがみられる。

*17 この神は、女の魔物についている憑神のことであろう。

750 pon tusapo
ボン トゥサポ
小さい 助け
命拾いも

751 e-ki nankor wa.”
エ・キ ナンコロ ワ.”
汝・する だろう 文終結
ないであろう。」

752 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 同時
と言いつながら、

753 matke humi
マトケ フミ
起き上がる 音
パツと

754 shiukosanu.
シウコサヌ.
さっと音がする
立ち上がった。

2.5 育ての兄が白い巻貝の女に敗れる

755 Shirum menoko *p.17*
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、

756 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は

757 emina hau kan
エミナ ハウ カン
それを笑う 声 上
声をあげて

758 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
笑った。

759 Iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄は

760 harkisotta
ハッキソッタ
左座に
左座に

761 teshkosanu.
テッコサヌ.
音もなく移動する
音もなく立った。

762 Temkakonna-
テムカコンナ・
腕の上
太刀を振るう腕が

763 barkosanu.
バッコサヌ.
光る
閃いた。

764 Shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女に

765 yupke tamkur
ユナケ タムクル
強い 太刀影
激しい太刀を

766 koterkere.
コテレケレ.
とばす
浴びせかけた。

767 Shirki awa
シリキ アワ
そうする 展開
すると

768 arwen kamui
アラウエン カムイ
ひどい 神
魔物のような女は

769 rorun umanki
ロルン ウマンキ
上座の 梁
上座の梁の

770 umanki ka un
ウマンキ カ ウン
梁 上 方向
上に

771 nochiumeru ne
ノチウメル ネ
星影 繫
星の影のように

772 tuikosanu.
トゥイコサヌ.
落ちる
飛び上がった。

773 Kurkashike
クルカシケ
上
その上に

774 iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄が

775 otamkote
オタムコテ
斬りつける
斬りつけた

776 yak a-ramu.
ヤク ア・ラム.
と 我・思う
と思うや、

777 Uturun umanki
ウトウルン ウマンキ
火尻座の 梁
魔物は下座の梁の

778 umanki kurka
ウマンキ クルカ
梁 上
上に

779 kotuikosanu.
コトゥイコサヌ.
飛び降りる
飛び移った。

780 Upsor tami
ウッソロ タミ
内部 刀
懐の刀の

781 osautekka
オサウテッカ
鞘を払う
鞘を払い、

782 utamekoiki.
ウタメコイキ.
斬り合う
斬り合った。

783 Ikushi tamsep
イクシ タムセブ
向こうへ 刀の鳴る音 (?)
刃が跳ね返る音が

784 konainatara.
コナイナタラ.
響く
響いた。

785 Rotta ututta
ロッタ ウトゥッタ
上座に 下座に
上座でも下座でも

786 tu noiwan sui
トゥ ノイワン スイ
二つの 六つの 回
追いかかけ合い、

787 re noiwan sui
レ ノイワン スイ
三つの 六つの 回
逃げ合いが

788 arunoshpakar.
アルノシバカラ.
激しく追いかける
限りなく続いた。

789 Kamuiotobush
カムイオトブシ
人名
カムイオトブシなる

790 pon a-kor yubi hene
ボン ア・コロ ユビ ヘネ
小さい 我・もつ 兄 も
我が小兄も

791 Pon Yayepirika
ボン ヤイエピリカ
小さい ヤイエピリカ
ボンヤイエピリカなる

792 pon a-kor yubi hene
ボン ア・コロ ユビ ヘネ
小さい 我・もつ 兄 も
我が小兄も

793 irushka ruiba p
イルシカ ルイバ
怒る 激しいもの
激しく怒り、

794 homatpa ruiba p
ホマトパ ルイバ
驚く 激しいもの
驚きあきれ、

795 tektuika ta
テクトウイカ タ
手の上 場所
手の節々が

796 chibukrototo.
チブクロトト.
節々が鳴る
ボキボキと鳴った。

797 Nantuika ta
ナントウイカ タ
顔の表面 場所
顔には

798 tu shiritkuma
トゥ シリトクマ
二つの 青筋
青筋が

799 re shiritkuma
レ シリトクマ
三つの 青筋
幾筋も

800 chihobumpare kane. *p.18*
チホブムパレ カネ.
起きる 音調
盛り上がった。

801 Seennekasui
セエンネカスイ
少しもしない
そんなことを

- 802 shiriki kuni
シリキ クニ
見える 必然
目にしようとは
- 803 a-ramu rok i
ア・ラム ロキ
我・思う 完了 形名
少しも思わなかったのに、
- 804 iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄、
- 805 shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
たぐい希な勇士の
- 806 ki moimoike
キ モイモイケ
する 動く
動きが
- 807 echiannore^{*18}
エチアンノレ
緩慢になる
鈍くなり、
- 808 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 809 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女の
- 810 temkor noshki
テムコロ ノシキ
腕で抱える 真中
間合いに
- 811 chieshitaiki.
チエシタイキ.
打ちつけられる
捉えられた。
- 812 Tui rukhumi
トゥイ ルッフミ
切れる 断片
育ての兄の切れた肉片が
- 813 chiusatchari.
チウサトチャリ.
散らばる
散らばった。
- 814 Yayomap kamui
ヤヨマップ カムイ
悔しがる 神
悔しがる育ての兄の
- 815 inotoorke
イノトオロケ
たましい
死霊の
- 816 hobuni humi
ホブニ フミ
飛ぶ 音
天に昇る音が
- 817 keurototke.
ケウロトトケ.
響く
とどろいた。
- 818 Shitchupka ne
シトチュプカ ネ
真東 繫
真東に
- 819 yainiukeshte
ヤイニウケシテ
しかねる
行きかね、
- 820 shitchupbok ne
シトチュプボク ネ
真西 繫
真西にも
- 821 yainiukeshte^{*19}
ヤイニウケシテ
しかねる
行き惑い、
- 822 tu noiwan sui
トゥ ノイワン スイ
二つの六つの 回
何度も
- 823 re noiwan sui ne aine
レ ノイワン スイ ネ アイネ
三つの六つの 回 繫 接続
何度も行き惑ったあげく、
- 824 shitchupbok ne
シトチュプボク ネ
真西 繫
真西へと
- 825 anrai bito
アンライ ビト
ひどく死ぬ 人
死んだ魂、
- 826 anrai kamui
アンライ カムイ
ひどく死ぬ 神
息絶えた神の
- 827 kohumerauta-
コフメラウタ・
音で下方
沈んでいく音が
- 828 rorba kane.
ロロバ カネ.
沈む 音調
響いた。
- 829 Kohumokake
コフモカケ
音の後
その後は
- 830 chakkosanu.
チャッコサヌ.
静まり返る
静まり返った。
- 831 Shiyoro keutumu
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は驚きの念が
- 832 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
募った。
- 833 Kamuiotobush
カムイオトブシ
人名
カムイオトブシなる
- 834 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小兄は、
- 835 humse tura
フムセ トウラ
声を出す ともに
力み声を立てて
- 836 matkosanu.
マトコサヌ.
さっと立ち上がる
立ち上がった。
- 837 Hoshkino ukorachi
ホシキノ ウコラチ
先に 同じように
さっきと同様、
- 838 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 839 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は
- 840 umanki ka ta
ウマンキ カタ
梁 上 場所
梁の上を
- 841 rot ta terke
ロト タ テレケ
上座 場所 跳ねる
上座へと、
- 842 ututta terke.
ウトウトタ テレケ.
下座に 跳ねる
下座へと飛び移った。
- 843 Utamekoiki^{*20}
ウタメコイキ
斬り合う
刀を振るう争いが
- 844 Ubakitara.
ウバキタラ.
相変わらず
相変わらず続いた。
- 845 Ikushi tamsep
イクシ タムセフ
向こうへ 刀の鳴る音(?)
刀が跳ね返る音が
- 846 konainatara. p.19
コナイナタラ.
響く
響いた。
- 847 Ineapkusū
イネアックス
何と
なんともはや、
- 848 Kamuiotobush
カムイオトブシ
人名
カムイオトブシ、
- 849 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小兄の

2.6 カムイオトブシが白い巻貝の 女に挑み敗れる

*18 欄外に「カナハナクナル」と書き込まれている。

*19 第音節 niu の i は後からの加筆。

*20 原綴りは utam ikoi ki.

- 850 rametok koro wa
ラメトク コロ ワ
勇者 持つ 接続
胆力の
- 851 shiriki nankor a!
シリキ ナンコラ!
見える だろう 疑問
あることか。
- 852 Hoshkino ambe
ホシキノ アムベ
先に あること
以前にあったことは
- 853 pombepo ne
ポムベポ ネ
赤子 繫
赤子のわざ、
- 854 tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
今こそ
- 855 chise kankotor
チセ カンコトロ
家 上の曲面
屋根裏を
- 856 echararse kane.
エチャラッセ カネ.
滑り落ちる 音調
滑って行った。
- 857 Shiriki aine
シリキ アイネ
見える 接続
すると、
- 858 seennenaksui
セエンネナクスイ
よもや
意外や、
- 859 shiriki kuni
シリキ クニ
見える 必然
意外、
- 860 a-ramu rok i
ア・ラム ロキ
我・思う 完了 形名
思いがけなく、
- 861 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小兄、
- 862 shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
類いまれな勇者の
- 863 tui rukhumi
トゥイ ルクフミ
切れる 断片
切れた肉片が
- 864 chiusatchari.
チウサトチャリ.
散らばる
散らばった。
- 865 Ohaunot charke
オハウノト チャヤケ
汁の実 散らばる
さながら汁の実が散らばる
- 866 ekannayukar.
エカンナユカラ.
ようである
ようだった。
- 867 yayomap kamui
ヤヨマップ カムイ
悔しがる 神
悔しがる神 (カムイオトプシ) の
- 868 inotoorke
イノトオロケ
たましい
死霊が
- 869 hobuni humi
ホブニ フミ
飛ぶ 音
音を立てて
- 870 keurototke.
ケウロトトケ.
響く
天に昇って行った。
- 871 Hoshkino korachi
ホシキノ コラチ
先に ように
先と同様、
- 872 sonno anrai kuni p
ソンノ アンライ クニ プ
真に ひどく死ぬ 必然 もの
完全に息絶えた者で
- 873 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
である もの 繫 根拠
あるので、
- 874 shitcupbok ne
シトチュフボク ネ
真西 繫
真西へと
- 875 kohumerauta-
コフメラウタ・
音で下方
音を立てて
- 876 rorba kane.
ロロバ カネ.
沈む 音調
沈んでいった。
- 877 Kohumokake
コフモカケ
音の後
その音がやんで
- 878 chakkosanu.
チャクコサヌ.
静まり返る
静まり返った。
- 879 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
恐れ入る心を
- 880 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
我は抱いた。
- 885 pon seppaumbe
ボン セツバウムベ
小さい 鑢付きの小刀
小さな鑢付きの刀の
- 886 enaisamkonna-
エナイサムコンナ・
顔のあたり
照り返しを
- 887 hermam kane.
ヘレマム カネ.
光らせる 音調
顔に受けて、
- 888 Pirika mina
ピリカ ミナ
よい 笑う
美しい笑みを浮かべ、
- 889 kotekutomkur-
コテクトムクル・
手の中
手を
- 890 eshitaiki kane p.20
エシタイキ カネ
踏みつける 同時
打って
- 891 ene itak i
エネ イタキ
このように 言う 形名
こう言った。
- 892 “Inunukashki
“イヌヌカシキ
可哀想に
「哀れなものだ。
- 893 wen ushiu utar
ウェン ウシウ ウタウ
悪い 召使いたち
卑しい下男ども、
- 894 wenkur utar
ウェンクル ウタウ
貧乏人 たち
貧乏人ども。
- 895 mono shiknu no
モノ シクヌ ノ
静かに 生きている 接続
おとなしく生きていれば
- 896 okai noine okai be
オカイ ノイネ オカイ ベ
ある らしくある もの
死なずに済んだものを。
- 897 konep ye shiri!
コネプ イェ シリ!
何 言う 様子
何を言うのか。
- 898 Koohanepo
コオハネポ
笑止千万にも
笑止千万にも
- 899 irushka eramokai kusu
イルシカ エラモカイ クス
怒る 知る 根拠
怒りということを知って、
- 900 i-tuye rusui
イ・トゥイエ ルスイ
我・切る したい
我を斬ろう、
- 901 i-raike rusui shiri
イ・ライケ ルスイ シリ
我・殺す したい 様子
我を殺そうという気持ちが

2.7 白い巻貝の女が負かした者を嘲る

- 902 **iboro un.**
イボロ ウン.
顔色 ある
顔に浮かんでいる。
- 903 **Rametok ne**
ラメトク ネ
勇者 繫
たいした勇者である
- 904 **shiri okai.**
シリ オカイ.
様子 ある
ことか。
- 905 **A-ponashbekechi**
ア・ポナシベケチ
我・手の小指
我の小指、
- 906 **a-ponurebechi**
ア・ポヌレベチ
我・足の小指
足の小指にも
- 907 **a-bokashpare p**
ア・ボカシパレ フ
及ばない もの
及ばない者が
- 908 **somo yashtoma no**
ソモ ヤシトマ ノ
否定 恥ずかしい 接続
恥ずかしげもなく、
- 909 **ene inunukashki**
エネ イヌヌカシキ
このように 可哀想に
哀れむべき
- 910 **katkoro shiri**
カトコロ シリ
振舞う 様子
振る舞いを
- 911 **okai i ta an!" ari**
オカイ イ タ アン!" アリ
ある 形名 これある 引用
することよ。」と
- 912 **koyayochakke-**
コヤヨチャクケ・
嘲る
嘲りの言葉を
- 913 **echiu kane.**
エチウ カネ.
突く 音調
さしとどめた。
- 914 **"Hokure hokure**
"ホクレ ホクレ
早く 早く
「さあ、さあ、
- 915 **echi-opittano**
エチ・オピタノ
彼ら・皆
おまえたち、どいつもこいつも
- 916 **echi-rai rusui**
エチ・ライルスイ
彼ら・死ぬ したい
死にたい
- 917 **shiri ne chiki**
シリ ネ チキ
様子 繫 条件
と言うのなら、
- 918 **orotunashno**
オロトゥナシノ
一刻も早く
さっさと
- 919 **i-komoimoike yan!**
イ・コモイモイケ ヤン!
我・動く 命令
かかって来な、

- 920 **Wenkur sani**
ウェンクル サニ
貧乏人 子孫
貧乏人の末裔
- 921 **utar" ari**
ウタラ" アリ
たち 引用
ども。」と
- 922 **mina tura**
ミナ トウラ
笑う ともに
笑いながら
- 923 **haweokai chiki**
ハウエオカイ チキ
言う 条件
言うと、

2.8 ポンヤイエピリカが白い巻貝の女に挑み敗れる

- 924 **Pon Yayepirika**
ポン ヤイエピリカ
小さい ヤイエピリカ
ポンヤイエピリカなる
- 925 **pon a-kor yubi**
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小兄は
- 926 **katune kane**
カトゥネ カネ
姿をとる 同時
型どおりに
- 927 **irushka kuni p**
イルシカ クニ フ
怒る 必然 もの
怒るの
- 928 **ne wa ne yakne**
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接続 繫 条件
ならば
- 929 **kotom korokaiki**
コトム コロカイキ
ようである 逆接
もつともだけれど、
- 930 **humse tura**
フムセ トウラ
声を出す ともに
力み声とともに
- 931 **shimatu humi**
シマトウ フミ
立ち上がる 音
素早く
- 932 **shiukosanu. p.21**
シウコサヌ.
さっと音がする
立ち上がった。
- 933 **Orowano sui**
オロワノ スイ
始点 再び
それからまた戦いが始まった。
- 934 **hoshkino am be**
ホシキノ アム ベ
先に ある もの
先にあったことは
- 935 **poombepo ne.**
ポオムベポ ネ.
ほんの少し 繫
赤子のわざ、
- 936 **Chise barka**
チセ バッカ
家 火棚
火棚の上を

- 937 **erorun euturun**
エロルン エウトウルン
上座の方へ 下座の方へ
上座へ下座へと
- 938 **arunoshbakar.**
アルノシバカラ.
激しく追いかける
追いかけてあった。
- 939 **Tane eashiri**
タネ エアシリ
今 強調
今こそ
- 940 **pon a-kor yubi**
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
我が小兄の
- 941 **hese hawe**
ヘセ ハウエ
息をする 声
息の声と
- 942 **shinka hawe**
シンカ ハウエ
雄叫び 声
雄叫びの音が
- 943 **utomshitaiki.**
ウトムシタイキ.
かちあう
打ち合った。
- 944 **Shirum menoko**
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 945 **wem menoko**
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は
- 946 **otamkote**
オタムコテ
斬りつける
刀を振るい、
- 947 **umanki ka**
ウマンキ カ
梁 上
梁の上に
- 948 **otu sui konna**
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 は
二度も
- 949 **ore sui konna**
オレ スイ コンナ
三つの 回 は
三度も
- 950 **chierapte.**
チエラッテ.
落下する
飛び乗った。
- 951 **Ikashi tam set**
イカシ タム セト
上 刀 こすれる音
それた刀が立てる音が
- 952 **konainatara.**
コナイナタラ.
響く
響いた。
- 953 **Hushkotoiwano**
フシコトイワノ
長い間
長い間

- 954 ne aine
ネ アイネ
繋 接続
そうしていると、
- 955 sui seennekasui
スイ セエンネカスイ
再び 少しもしない
またもや、そんなことを
- 956 shiriki kuni
シリキ クニ
見える 必然
目にしようとは
- 957 a-ramu rok i
ア・ラム ロキ
我・思う 完了 形名
思いもなかったのに、
- 958 pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
小兄の
- 959 tui rukhumi
トゥイ ルクフミ
落ちる 断片
切れた肉片が
- 960 chiusatchari.
チュウサトチャリ、
散らばる
散らばった。
- 961 Yayomap kamui
ヤヨマップ カムイ
悔しがる 神
悔しがり、
- 962 irushka kamui
イルシカ カムイ
怒る 神
怒りに満ちた神（小兄）の
- 963 inotoorke
イノトオロケ
たましい
死霊が
- 964 hobuni humi
ホブニ フミ
飛ぶ 音
昇っていく音が
- 965 keurototke.
ケウロトトケ、
響く
響いた。
- 966 Kamui nish ka ta
カムイ ニシ カタ
神 空 上 場所
神の空の上に
- 967 tu shiyuk humi
トゥ シユク フミ
二つの 悲しむ 音
嘆き、
- 968 re shiyuk humi
レ シユク フミ
三つの 悲しむ 音
悲しみの音が
- 969 uturare.
ウトウラレ、
交互に続ける
長々と続いた。
- 970 Hoshkino
ホシキノ
先に
さっきと
- 971 ukorachi
ウコラチ
同じように
同様、
- 972 shitchupbok ne
シトチュフボク ネ
真西 繋
真西へと
- 973 kohumerauta-
コフメラウタ・
音で下方
音を立てて
- 974 rorba kane.
ロロバ カネ、
沈む 音調
沈んでいった。
- 975 Kohumokake
コフモカケ
音の後
その後は
- 976 chakkosanu.
チャッコサヌ、
静まり返る
静まり返った。
- 2.9 育ての姉が白い巻貝の女に
挑む
- 977 Iresu sapo p.22
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉は
- 978 inkar rok be
インカラ ロク ベ
見る 完了 もの
それを見るや
- 979 arbutanke
アラベウタンケ
激しい危急の叫び
危急の叫びを
- 980 ikususuye.*21
イクススイエ、
物を転がす
転がした。
- 981 Kurkashike
クルカシケ
上
その叫びに載せて
- 982 tanarka itak
タナラカ イタク
激しく痛い 言葉
激しい罵りを
- 983 eterkere
エテレケレ
跳ねとばす
浴びせかけた。
- 984 ene okai i,
エネ オカイ、
このように ある 形名
その罵りとは、
- 985 “Oyoyobota,
“オヨヨボタ、
感嘆
「忌々しい、
- 986 ne kotan kor be
ネ コタン コロ ベ
繋 村 持つ もの
どこの村の者、
- 987 nei moshiri koro be
ネ モシリ コロ ベ
1 繋 2 どこ 国 持つ もの
どこの国の者か、
- 988 yaikotan ka
ヤイコタン カ
己の村 も
自分の村も
- 989 yaishinrit ka
ヤイシンリト カ
己の素性 も
自分の素性も
- 990 eshina kane
エシナ カネ
隠す 同時
隠しては、
- 991 kamui turanno
カムイ トウランノ
神 ともに
神とともに*22
- 992 chikosomokur-
チコソモクル・
否定
恐れ憚らず、無礼千万
- 993 yaikatanu.
ヤイカタヌ、
畏れはばかる
なことはないか。
- 994 Kashikobakta
カシコバクタ
その上に
その上さらに
- 995 iresu yubi hene
イレス ユビ ヘネ
育てる 兄 も
育ての兄も
- 996 a-akutari
ア・アクタリ
我・弟たち
我が弟たちも
- 997 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 繋 ある もの
神である者たち、
- 998 sonno he tap ne
ソンノ ヘ タフ ネ
真に 疑問 これ 繋
あれほど
- 999 shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
たぐいまれな
- 1000 utarorke
ウタロロケ
たち
勇士たちが
- 1001 chiattamnere
チアトタムネレ
一刀のもとに斬る
一刀のもとに
- 1002 a-ekarkar
ア・エカラカラ
される
切り殺された

*21 原綴りは ikususuye。しかし、kusususuye「転がす」chikusususuye「転がる」であるから、i-は不要なのではなからうか。

*22 この神は、女の魔物の憑神のことであろう。

- 1003 semkorachi yakka
セムコラチ ヤッカ
まるで(する)ように 譲歩
とも思えないが、
- 1004 a-earronnu wa
ア・エアロンヌワ
我： 接続
弟たちがむざむざ殺される
- 1005 ene humash i
エネ フマシ
このように 気配がする 形名
などということが
- 1006 tambe ne ya?
タムベ ネ ヤ?
これ 緊 疑問
あろうか。
- 1007 Sonno ka un
ソンノ カウン
真にも 文終結
まことに
- 1008 konep ainu
コネプ アイヌ
何 人間
どういう人間が
- 1009 konep ishiri kor be
コネプ イシリ コロ ベ
何 神の姿持つもの
どういう神の姿をした者が
- 1010 ene oikkeusakno
エネ オイクケウサクノ
このように わけもなく
理由もなく
- 1011 chieramunishte
チエラムニシテ
強情を張ること
心を固くして
- 1012 i-y-ekarkar shiri an?
イ・イエカラカラ シリ アン?
我・する 様子 ある
我らに迫るのか。
- 1013 Nitne kamui
ニトネ カムイ
悪い 神
悪魔、
- 1014 arwen bito
アラウエン ビト
ひどい 人
全くの悪党が
- 1015 kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住まいの
- 1016 upsoro
ウァソロ
内部
中に
- 1017 koyaikurursere
コヤイクルルセレ
姿を現わす
現れて
- 1018 chikoyayikire
チコヤイキレ
侮り
侮りの
- 1019 ne wa ne yakka p.23
ネ ワ ネ ヤッカ
緊 接続 緊 譲歩
中でも
- 1020 semkatune
セムカトゥネ
並でなく
並々ならぬ侮りを
- 1021 i-y-ekarkar shiri
イ・イエカラカラ シリ
我・する 様子
我らに
- 1022 okai be ne ya.” ari
オカイ ベ ネ ヤ.” アリ
ある もの 緊 疑問 引用
するではないか。」と
- 1023 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言って、
- 1024 matkosampa.
マトコサムパ.
素早く立ち上がる
立ち上がった。
- 1025 Raboki ta sui
ラボキ タ スイ
間 場所 再び
間を置かず
- 1026 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 1027 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は
- 1028 mina hawe
ミナ ハウエ
笑う 声
声を立てて
- 1029 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
笑った。
- 1030 Okembesh emush
オケムベシ エムシ
血が滴る 刀
血の滴る刀で
- 1031 enaisamkonna-
エナイサムコンナ・
顔のあたり
顔のあたりが
- 1032 hermam kane
ヘレマム カネ
光らせる 同時
ピカピカ輝いていた。
- 1033 tu wembakamui
トゥ ウエムバカムイ
二つの 悪口
数々の
- 1034 re wempakamui
レ ウエムバカムイ
三つの 罵りの言葉
雑言を
- 1035 oshiroatpa
オシロタトパ
そこらにおちまける
吐き出し、
- 1036 eyayomina-
エヤヨミナ・
一人笑い
笑みを
- 1037 ushi kane.
ウシ カネ.
ところ 音調
浮かべた。
- 1038 Pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
我が小姉は、
- 1039 irushka rui be
イルシカ ルイ ベ
怒る 激しいもの
激しく怒り、
- 1040 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように 接続 だけ
身の
- 1041 yaikar i ka
ヤイカラ イ カ
振る舞う 形名 も
置き所も
- 1042 isam kane
イサム カネ
ない 同時
なく、
- 1043 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女に
- 1044 kohobuni.
コホブニ.
立ち上がる
飛び掛かった。
- 1045 Orowano sui
オロワノ スイ
始点 再び
また再び
- 1046 chise kankotor hene
チセ カンコトロ ヘネ
家 上の曲面 も
屋根裏やら
- 1047 umanki kashi
ウマンキ カシ
梁 上
梁の上で
- 1048 arukonoshpa
アルコノシパ
追いかける
追いかけて、
- 1049 utamekoiki.
ウタメコイキ.
斬り合う
斬り合った。
- 1050 Ki p ne koroka
キ ヲ ネ コロカ
するもの 緊 逆接
しかし、
- 1051 neita bakno
ネイタ バクノ
緊 まで
いつまでも
- 1052 ikashi tam set
イカシ タム セト
上 刀 こすれる音
それた刀が立てる音が
- 1053 konainatara.
コナイナタラ.
響く
響いた。
- 1054 Ineapkus
イネアプクス
何と
驚くべし、
- 1055 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
なんと育ての姉の

- 1056 arikiki humi
アリキキ フミ
頑張る 気配
奮闘する
- 1057 okai nankor a!
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
こと。
- 1058 Tu noiwan sui
トゥ ノイワン スイ
二つの 六つの 回
幾度も、
- 1059 re noiwan sui
レ ノイワン スイ
三つの 六つの 回
幾度も
- 1060 chise upsoro
チセ ウツソロ
家 内部
家の中を
- 1061 eukonoshpa aine
エウコノシバ アイネ
追いかける 接続
追いかけてあった。
- 2.10 育ての姉のいまはの言葉
- 1062 konepkeukata p.24
コネツケウカタ
(無意味な句)
コネツケウカタ
- 1063 konepkashita
コネツカシタ
(無意味な句)
コネツカシタ
- 1064 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉の
- 1065 chish rimimse
チシ リミムセ
泣く 泣き叫ぶ
足を踏み鳴らし泣き叫ぶ
- 1066 hau tum konna
ハウ トウム コンナ
声 中 は
声が
- 1067 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
響き渡った。
- 1068 Kurkashike
クルカシケ
上
その響きに
- 1069 itak omare
イタク オマレ
言葉 置く
載せて
- 1070 ene okai i,
エネ オカイ,
このようにある 形名
言うことには、
- 1071 “Koninkarkusu
“コニンカルクス
(語り掛けの合図)
「いざや、
- 1072 a-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟君、
- 1073 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国 持つ 神
国を司る神よ。
- 1074 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
我が言うことに
- 1075 pirikano nu wa
ピリカノ スワ
良く 聞く 接続
耳を傾けて
- 1076 i-kore!
イ・コレ!
我・与える
ください。
- 1077 Sonno he tap ne
ソンノ ヘ タップ ネ
真に 疑問 これ 繋
本当に、
- 1078 hushkotoiwano
フシコトイワノ
長い間
昔から
- 1079 kamui or bakno
カムイ オロ バクノ
神 所 まで
神まで、
- 1080 kanto or bakno
カント オロ バクノ
天 所 まで
天まで
- 1081 shinrit kashi
シンリト カシ
出自 上
その由来が
- 1082 a-noeraman kuni p
ア・ノエラマン クニ ヲ
我・よく分かる 必然 もの
よく知られているのが
- 1083 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 1084 Shinutapka
シヌタプカ
地名
シヌタプカなる
- 1085 kamui ewak i ne awa
カムイ エワク イ ネ アワ
神 住む 形名 繋 展開
神が住まうところであるのに、
- 1086 hemanta wen kamui
ヘマンタ ウエン カムイ
何 悪い 神
なんでまた、悪神が、
- 1087 annitnekamui
アンニトネカムイ
全くの魔物
全くの魔物が
- 1088 chioahunke wa
チオアフンケ ワ
入る 接続
闖入して
- 1089 iresu yubi hene
イレス ユビ ヘネ
育てる 兄 も
育ての兄も
- 1090 a-akutari
ア・アクタリ
我・弟たち
我が弟たちも
- 1091 shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
またとない勇士の
- 1092 utarorke
ウタロロケ
たち
面々の
- 1093 pirika shiri
ピリカ シリ
よい 様子
美しい姿が
- 1094 a-i-y-ekeshke.
ア・イ・イエケシケ.
我・妬まれる
妬みそねまれるのか。
- 1095 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今では成長して
- 1096 aokai bak be
アオカイ バク ベ
我 まで もの
我に追いつく
- 1097 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接続 繋 譲歩
歳になったとはいえ、
- 1098 ibeoko an.
イベオコ アン.
幼く ある
まだ幼い。
- 1099 Annitne kamui
アンニトネ カムイ
極悪である 神
最悪の魔物に
- 1100 a-monbokashte noine
ア・モンボカシテ ノイネ
我・かなわない らしく
我らは力及ばない
- 1101 yainu-an na.
ヤイヌ・アン ナ.
考える・我 (訴え)
だろう。
- 1102 Konepkeukata
コネツケウカタ
(無意味な句)
コネツケウカタ
- 1103 konepkashita p.25
コネツカシタ
(無意味な句)
コネツカシタ
- 1104 bokash-am be ka
ボカシ・アム ベ カ
劣る・我 もの も
我は敗れたけれども
- 1105 e-etuyashkarap-an awa
エ・エトウヤシカラップ・アン アワ
汝・可愛がる・我 展開
おまえがかわいそうだ。
- 1106 tapne kane
タップネ カネ
こう・そう 同時
このように
- 1107 katkor be
カトコロ ベ
振舞う もの
ふるまう者に

- 1108 ne ko anakne
ネ コ アナクネ
繫条件は
対しては、
- 1109 sonno kiror yubu
ソンノ キロロ ユブ
真に力強める
おまえは力を奮って
- 1110 e-ki kusu ne nankoro.
エ・キ クス ネ ナンコロ.
汝・する根拠 繫 だらう
戦いなさい。
- 1111 Tapne kane
タップネ カネ
こう・そう 同時
このように
- 1112 ituren koro be
イトウレン コロ ベ
憑く 持つ もの
憑き神の力が強い者との戦いに
- 1113 e-eboso kuni p ne ya
エ・エボソ クニ ヲ ネ ヤ
汝・生きていく 必然 もの 繫 疑問
おまえは勝ち抜けるか、
- 1114 somo ne ya
ソモ ネ ヤ
否定 繫 疑問
抜けないか、
- 1115 sonno e-eyaiko-
ソンノ エ・エヤイコ・
真に 汝・一人で
まったく心もとなく
- 1116 uwebeker-an ruwe ne.
ウウェブケレ・アン ルウェ ネ.
思案する・我 跡 繫
案じられる。
- 1117 Aokai utara anakne
アオカイ ウタラ アナクネ
我 たち は
我々は
- 1118 i-ronnu-an hene
イ・ロンヌ・アン ヘネ
我・殺される も
殺されても、
- 1119 nekona hene
ネコナ ヘネ
どのようにも
どうなろう
- 1120 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 譲歩
とも
- 1121 nep ne ka
ネブ ネ カ
何 繫 も
何とも
- 1122 a-ramu ka
ア・ラム カ
我・思う も
思いは
- 1123 somoki koroka
ソモキ コロカ
しない 逆接
しないけれど、
- 1124 a-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
弟君なる
- 1125 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国 持つ 神
国を司る神よ、
- 1126 eani anakne
エアニ アナクネ
汝 は
おまえは、
- 1127 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 1128 Shinutapka
シヌタップカ
地名
シヌタップカの
- 1129 kamui ramachi
カムイ ラマチ
神 魂
尊い魂で
- 1130 e-ne ruwe tab an na.
エ・ネ ルウェ タパン ナ.
汝・である 跡 これ ある (訴え)
あるのだよ。
- 1131 Eani
エアニ
汝
おまえが
- 1132 aokai utar
アオカイ ウタラ
我 たち
我らの
- 1133 neepkoro
ネエッコロ
のように
ように
- 1134 chiannotuaye
チアンノトゥイエ
ぶち殺し
めった切りにされ、
- 1135 chiannoraike
チアンノライケ
めった切り
ぶち殺された
- 1136 e-ekarkar-an ko
エ・エカラカラ・アン コ
汝・される 条件
ならば、
- 1137 konen tap ora
コネン タップ オラ
誰 これ 始点
誰がいったい
- 1138 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 1139 Shinutapka
シヌタップカ
地名
シヌタップカなる
- 1140 kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住む宮居の
- 1141 benkirechiu
ベンキレチウ
上流を治める
上流を治め、
- 1142 bankirechiu be an?
バンキレチウ ベ アン?
下流を治める もの ある
下流を治めるのか。
- 1143 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチが
- 1144 chiramatsakka
チラマトサッカ
魂が失われる
魂が抜かれたと
- 1145 a-ekar ukorachi p.26
ア・エカラ ウコラチ
される 同じように
同然に
- 1146 ne ruwe tab an na.
ネ ルウェ タパン ナ.
繫 跡 これ ある (訴え)
なりますよ。
- 1147 Tap i-kar-an i
タップ イ・カラ・アニ
これ 我・される 形名
我がされたことを
- 1148 pirikano
ピリカノ
良く
よく
- 1149 nukar wa
ヌカラ ワ
見る 接続
見て、
- 1150 tumi montum ne
トゥミ モントウム ネ
戦い 腕の力 繫
戦の力、
- 1151 wembe montum ne kor wa
ウエムベ モントウム ネ コロ ワ
争い 腕の力 繫 持つ 接続
争いの力として
- 1152 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える 引用
ください
- 1153 ramu yan!
ラム ヤン!
思う 命令
よ。
- 1154 Arabasakkuru
アラバサックル
親族のいない者
味方のない者は
- 1155 tum moimoike
トゥム モイモイケ
二人 動く
二人分の働き、
- 1156 ren moimoike
レン モイモイケ
三人 動く
三人分の奮闘を
- 1157 ki p tap okai na.
キ ヲ タップ オカイ ナ.
するもの これある (訴え)
しなければなりません。
- 1158 A-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟君なる
- 1159 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国 持つ 神
国を司る神よ、
- 1160 huwoiki
フウオイキ
頑張る
踏ん張るの

- 1161 e-ki kush ne na.”
エ・キ クシ ネ ナ.”
汝・する 根拠 繫 (訴え)
ですよ。]
- 1162 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 同時
と言いながら、
- 1163 harkisotta
ハラクソトタ
左座に
左座に
- 1164 horaochiwe
ホラオチウエ
落ちて来る
転落、落下した
- 1165 yak a-ramu.
ヤク ア・ラム.
と 我・思う
と思えば、
- 1166 Kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 1167 homat tam kurpo
ホマト タム クルポ
かすんでいる 刀 影
ほのかな太刀影が
- 1168 chirarire
チラリレ
続いていく
続いた。
- 1169 shisak nubur mat
シサク スブル マト
またとない 霊力がある 女
比べる者のない女シャーマンの
- 1170 tui rukhumi
トゥイ ルクフミ
落ちる 断片
バラバラに切られたむくろが
- 1171 chiusatchari.
チウサトチャリ.
散らばる
散らばった。
- 1172 Yayomap kamui
ヤヨマツ カムイ
悔しがる 神
悔しがる神、
- 1173 irushka kamui
イルシカ カムイ
怒る 神
怒れる神の
- 1174 inotoorke
イノトオロケ
たましい
死霊が
- 1175 hobuni humi
ホブニ フミ
飛ぶ 音
天に昇る音が
- 1176 keurototke.
ケウロトケ.
響く
響き渡った。
- 1177 Kamui nishka ta
カムイ ニシカ タ
神 上空 場所
天空に
- 1178 tu shiyuk humi
トゥ シユク フミ
二つの 悲しむ 音
嘆き
- 1179 re shiyuk humi*23
レ シユク フミ
三つの 悲しむ 音
悲しむ音が数々
- 1180 Utasare aine
ウタサレ アイネ
交換しあう 接続
交錯しているうちに
- 1181 arukorachi
アルコラチ
同じく
兄たちのときと同様、
- 1182 shitcupbok ne
シトチュフボク ネ
真西 繫
真西へと
- 1183 kohumerauta-
コフメラウタ・
音で下方
音を立てて
- 1184 rorba kane.
ロロバ カネ.
沈む 音調
沈んでいった。
- 1185 Kohumokake p.27
コフモカケ
音の後
その後は
- 1186 chakkosampa.
チャッコサムパ.
急に静まり返る
静まり返った。
- 2.11 白い巻貝の女との戦い
- 1187 Shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 1188 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は、
- 1189 ikit tukari ta
イキト トウカリ タ
列 手前 場所
宝列の手前の
- 1190 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧の
- 1191 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
中に
- 1192 a-yayomare wa
ア・ヤヨマレ ワ
我・みずから入れる 接続
我が潜んで
- 1193 an-an katu
アナン カトゥ
いる・我 姿・形・型
いるのに
- 1194 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
まるでまるで
- 1195 ponno poka
ボンノ ポカ
少し さえ
少しも
- 1196 koeramunin
コエラムニン
油断する
気づか
- 1197 somoki awan.
ソモキ アワン.
しない のだった
なかった。
- 1198 Iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
魔物は、育ての姉が
- 1199 i-koitaksura hawe
イ・コイタクスラ ハウエ
我・遺言する 声
我に残した言葉を
- 1200 nu hine
ヌ ヒネ
聞く 接続
耳にして
- 1201 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 は
ようやく
- 1202 shino iyoyamokte p
シノ イヨヤモクテ プ
まことに 不思議に思う もの
不審に
- 1203 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
である もの 繫 根拠
思ったものだから、
- 1204 harkiso ne
ハラクソ ネ
左座 繫
左座に
- 1205 chieashi kane
チエアシ カネ
立つ 同時
立ち止まり、
- 1206 kanna ruino
カンナ ルイノ
再び 甚だしく
なお一層注意して
- 1207 ikit tukari
イキト トウカリ
列 手前
宝列の手前を
- 1208 uwambare.
ウワムバレ.
見て調べる
じろじろ探った。
- 1209 Inkan ne wa
インカン ネ ワ
見る 繫 接続
我がしたことは
- 1210 a-ki p ne koroka
ア・キ プ ネ コロカ
我・する もの 繫 逆接
それを見ただけのことだが、

*23 原綴りは shi yuk. この後に humi を補う。

- 1211 turush kinra ne
トゥルシ キンラ ネ
激しい 狂気 繫
ただそれだけで激しい怒りが
- 1212 i-kohetari.
イ・コヘタリ。
我・頭を上げる
頭をもたげた。
- 1213 A-matkosanu.
ア・マトコサヌ。
我・パッと立ち上がる
我は飛び上がった。
- 1214 Terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 場所
飛び跳ねながら
- 1215 an-eshibopke p
アネシボッケ ヲ
我・それもて己を暖める もの
身に着けていたものを
- 1216 a-raokuta.
ア・ラオクタ。
我・脱ぎ捨てる
脱ぎ捨てた。
- 1217 Kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖を
- 1218 a-shikurkasam-
ア・シクルカサム・
我・自らの上
わが身に
- 1219 obirasa.
オピラサ。
裾を広げる
まとった。
- 1220 Uwokkanikut
ウウォッカニクト
金のベルト
留め金付きの金の帯を
- 1221 earsaine
エアァサイネ
一卷きに
一卷きに
- 1222 a-tumamkosaipa.
ア・トゥマムコサイバ。
我・胴に巻く
胴に回し、
- 1223 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神に賜った刀を
- 1224 a-kutbokechiu.^{*24}
ア・クトボケチウ。
我・帯に差す
帯に差した。
- 1225 Kabarbe kasa
カバァベ カサ
薄造りの物 笠
薄造りの笠の
- 1226 kasa ran tubep p.28
カサ ラン トゥベッ
笠 下がる 紐
垂れ緒を
- 1227 a-eyaisannanka-
ア・エヤイサンナンカ・
我・己の顔の上
顔の上で
- 1228 yuppa kane.
ユッパ カネ。
締める 音調
締めた。
- 1229 Rorunso ka ta
ロルンソ カ タ
上座 上 場所
上座へ
- 1230 a-teshkosanu.
ア・テシコサヌ。
我・すべって行く
滑るように移動した。
- 1231 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から授かった刀の
- 1232 shirika kese
シリカ ケセ
表面 末端
鞘の尻を
- 1233 a-otuiimakur-
ア・オトイマクル・
我・遠く
長々と
- 1234 nimpa kane.
ニムパ カネ。
引きずる 音調
引きずった。
- 1235 A-einkar kuni p
ア・エインカラクニ ヲ
我・?で見る 必然 もの
我がそれとも見るもの^{*25}が
- 1236 tu pon nochiu ne
トゥ ポン ノチウ ネ
二つの 小さい 星 繫
二つの小さな星となって、
- 1237 uweutuisam-
ウウエウトウイサム・
等間隔に
並んで
- 1238 unte kane.
ウンテ カネ。
あらしめる 音調
いた。
- 1239 Shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女
- 1240 wem menoko
ウヰム メノコ
悪い 女
卑しい女は
- 1241 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
ひどく驚いて
- 1242 inkan ruwe konna
インカン ルウエ コンナ
見る 跡 は
目を大きく
- 1243 chainatara.
チャイナタラ。
目を見開いている
開いていた。
- 1244 Tu urar ikkeu
トゥ ウラァ イッケウ
二つの 霧 元
我を包む霧の
- 1245 re urar ikkeu
レ ウラァ イッケウ
三つの 霧 元
中心を
- 1246 i-kocharikar.
イ・コチャリカラ。
我・払う
我から払いのけようとした。
- 1247 Naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
大方 二つの 回
何度も
- 1248 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
何度も
- 1249 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 繫
人の姿を現わそうとしても
- 1250 i-kar eaikap.
イ・カラ エアイカッ。
我・する できない
かなわなかった。
- 1251 Hushkotoiwano
フシコトイワノ
長い間
長い間
- 1252 iki aine
イキ アイネ
する 接続
そうしていると、
- 1253 i-koshikraiba.
イ・コシクライバ。
我・見る
我の姿を目に捉えた。
- 1254 Kanibor ka ta
カニボロ カ タ
顔色 上 場所
顔色が
- 1255 koraikosampa.
コライコサムバ。
蒼ざめる
蒼ざめた。
- 1256 Katu ne kane
カトゥ ネ カネ
姿・形・型 繫 同時
型どおりに
- 1257 i-erayap be
イ・エラヤッ ベ
我・感心する もの
我に感心する
- 1258 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接続 繫 条件
のならば
- 1259 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
ありえることだが、
- 1260 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 から
隅から隅まで

*24 a-kutbok echiu に続いて u と書かれているが、棒線で抹消されている。

*25 目のこと。

- 1261 i-uwampare.
イ・ウワムパレ.
我・調べる
我を探った。
- 1262 I-tukarikepo
イ・トゥカリケポ
我・手前
我的手前に
- 1263 koshikerana-^{*26}
コシケラナ・
目を下に
目を
- 1264 Atte kane
アトテ カネ
たたせる 同時
下ろして
- 1265 kosancha ot ta mina.
コサンチャ オトタ ミナ.
口元 所 場所 笑う
口元を震わせて笑った。
- 1266 Shir an chiki
シラン チキ
様子 ある 条件
それを見ると、
- 1267 tanarka itak
タナッカ イタク
激しく痛い言葉
激しい言葉が
- 1268 ituye shinne
イトウエ シンネ
人を斬る のように
切るように、
- 1269 iotke shinne
イオトケ シンネ
人を刺す のように
刺すように
- 1270 a-ehautumkonna-
ア・エハウトゥムコンナ・
我・声
我が声となって
- 1271 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
響いた。
- 1272 “Koninkarkusu p.29
“コニンカルクス
(語り掛けの合図)
「さあ、さあ、
- 1273 arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物よ。
- 1274 hemanta e-ne
ヘマンタ エ・ネ
何 汝・である
おまえは何者で
- 1275 ruwe ta an?
ルウエ タ アン?
跡 これ ある
あるのか。
- 1276 Nep e-ne yakka
ネプ エ・ネ ヤッカ
何 汝・である 譲歩
おまえが何者であろうとも
- 1277 ukoiki kurka
ウコイキ クルカ
相争う 上
殺し合い、
- 1278 utuipa kurka
ウトウイパ クルカ
斬り合う 上
斬り合いしながら
- 1279 tumunchi ikkeu
トゥムンチ イクケウ
戦争 わけ
いくさの原因、
- 1280 rorumbé ikkeu
ロルムベ イクケウ
戦闘 わけ
争いの元を
- 1281 e-uweraman no
エ・ウウエラマン ノ
汝・知っている 接続
おまえは知って
- 1282 ki p ne awa
キ ッ ネ アワ
するもの 繋 展開
いる筈だ。
- 1283 konep ikkewe
コネプ イクケウエ
何 わけ
どんな
- 1284 eonepare
エオネパレ
ために
わけで
- 1285 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 1286 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女の
- 1287 e-ne wa
エ・ネ ワ
汝・である 接続
おまえは
- 1288 Tomisambechi un rup
トミサムベチ ウンルプ
地名 ある 群れ
トミサンベチの一党
- 1289 asuru ash hene
アスル アシ ヘネ
噂 立つ も
名高い者も
- 1290 somo hene
ソモ ヘネ
否定 も
そうではない者も
- 1291 nep e-eiyokamkir be
ネプ エ・エイヨカムキリ ベ
何 汝・預かり知る もの
おまえが知り、
- 1292 nep e-erannak be
ネプ エ・エランナク ベ
何 汝・厄介に思うもの
おまえの気にかかるもの
- 1293 ne wa kusu
ネ ワ クス
繋 接続 根拠
だから、
- 1294 arwen itak
アラウエン イタク
ひどい 言葉
悪口雑言を
- 1295 kamui turanno
カムイ トウランノ
神 ともに
神とともに^{*27}
- 1296 chikosomokur-
チコソモクル・
否定
畏れ憚らない
- 1297 yaikatanu
ヤイカタヌ
畏れはばかる
無礼を
- 1298 e-i-y-ekarkar.
エ・イ・イエカラカラ.
汝・我・する
我になした。
- 1299 Kashi kobak ta
カシ コバク タ
上 方向 場所
さらに
- 1300 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たち、
- 1301 rametok batek
ラメトク バテック
勇者 のみ
勇者ばかり、
- 1302 utarpa batek
ウタラパ バテック
首領 のみ
首領ばかりが
- 1303 iresu sapo tura
イレス サポ トウラ
育てる 姉 ともに
育ての姉と
- 1304 pirika shiri
ピリカ シリ
よい 様子
良い暮らしをしているのを
- 1305 chiukoronnu
チウコロヌ
皆殺し
皆殺しに
- 1306 e-i-y-ekarkar shiri
エ・イ・イエカラカラ シリ
汝・我・する 様子
してしまった
- 1307 ene okai i
エネ オカイ
このように ある 形名
では
- 1308 tambe ne ya?
タムベ ネ ヤ?
これ 繋 疑問
ないか。
- 1309 Ne kotan koro be
ネ コタン コロ ベ
繋 村 持つ もの
いったい、どこの村の
- 1310 ne moshiri koro be
ネ モシリ コロ ベ
繋 国 持つ もの
どこの国の

*26 原綴り oshikerana の o- の左肩に小字で k と加筆されている。

*27 この神は、女の魔物の憑神のことであろう。

- 1311 e-ne ruwe ta an?"
エ・ネ ルウェ タ アン?"
汝・である跡 これ ある
者なのか。」と
- 1312 itak-an awa
イタク・アン アワ
言う・我 展開
尋ねると、
- 1313 arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物は
- 1314 rorun umanki
ロレン ウマンキ
上座の梁
上座の梁の
- 1315 umanki kurka
ウマンキ クルカ
梁 上
上に
- 1316 nochiumeru ne
ノチウメル ネ
星影 繫
星影となって
- 1317 tuikosanu.
トウイコサヌ.
落ちる
飛んできた。
- 2.12 白い巻貝の女が逃げる
- 1318 Kinra mau ne
キンラ マウ ネ
狂気 獲物 繫
それを見ると怒りの気が
- 1319 i-kohetari
イ・コヘタリ
我・頭を上げる
わき起り、
- 1320 a-otamkote.
ア・オタムコテ.
我・斬りつける
我は斬りつけた。
- 1321 Yupke tamkur
ユッケ タムクル
強い 太刀影
激しく刀を
- 1322 a-koterkere. p.30
ア・コテレケレ.
我・とばす
振った。
- 1323 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物は
- 1324 a-yupkesuye
ア・ユッケスイエ
我・激しく振る
我が振るう
- 1325 emush mekkashi
エムシ メッカシ
刀 刀の峰
太刀のみねを
- 1326 pirika ruika ne
ピリカ ルイカ ネ
よい 橋 繫
渡りやすい橋を渡るがように
- 1327 i-kooterke.
イ・コオテレケ.
我を襲う
すたすたと伝って我にかかってきた。
- 1328 Eembe notak
エエムベ ノタク
刀 刃
鋭い刃が
- 1329 beken rera ne
ベケン レラ ネ
明るい 風 繫
透明な風となって
- 1330 echararse.
エチャララセ.
滑り落ちる
流れた。
- 1331 Uturun umanki
ウトウルン ウマンキ
火尻座の 梁
魔物は下座の梁の
- 1332 umanki kurka
ウマンキ クルカ
梁 上
上に
- 1333 kotuikosanu.
コトウイコサヌ.
飛び降りる
飛び移った。
- 1334 An-otamkote.*28
アノタムコテ.
我・斬りつける
我はそれに斬りつけた。
- 1335 Rikkush tamkur
リククシ タムクル
高きを通る 太刀影
高いところを払う我の太刀影は
- 1336 rapse nui ne
ラッセ スイネ
落下する 炎 繫
落下する炎となり、
- 1337 rakush tamkur
ラクシ タムクル
低きを通る 太刀影
低いところを払う我の太刀影は
- 1338 hobuni nui ne
ホブニ スイネ
飛ぶ 炎 繫
跳ね上がる炎となって
- 1339 tam utur kush be
タム ウトウル クシ ベ
この 火尻座 通る もの
刃の間をくぐる魔物を
- 1340 a-tunashsuye.
ア・トゥナシスイエ.
我・素早く振るう
素早く払った。
- 1341 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物に
- 1342 shikuru nittom
シキル ニットム
振り向く 暇
身を返すひまも
- 1343 hosari nittom
ホサリ ニットム
振り向く 暇
振り返るひまも
- 1344 an-eniukeshte.
アネニウケシテ.
我・できなくさせる
与えなかった。
- 1345 Yaiwenukar be
ヤイウエヌカラ ベ
困り果てる もの
魔物は困り果てた
- 1346 kone p ne kusu
コネ ッ ネ クス
であるもの 繫 根拠
ものだから、
- 1347 rikunsui kurka
リクンスイ クルカ
煙出しの穴 上
空窓の上で
- 1348 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白い霧を
- 1349 tu ne koshituri tek.
トゥ ネ コシトゥリ テク.
二つの 繫 伸びる 接続
長尾根のように棚引かせて逃れた。
- 1350 Raboki ta
ラボキ タ
間 場所
おりしも、
- 1351 nekon ne humi
ネコン ネ フミ
どのように 繫 気配
いったい
- 1352 ne nankor a,
ネ ナンコラ,
繫 だろう 疑問
どうしたことか、
- 1353 chashi tapka ta
チャシ タッカ タ
チャシ 頂き 場所
城の頂に
- 1354 tu inkush kamui*29
トゥ インクシ カムイ
二つの 危険な予感がする 神
おびたがしい
- 1355 Re inkush kamui
レ インクシ カムイ
三つの 危険な予感がする 神
予見の神が立てる
- 1356 kohumebushpa.
コフメブシパ.
音を立てる
爆発音が鳴った。
- 1357 Rikunsui ka
リクンスイ カ
煙出しの穴 上
我は空窓に
- 1358 a-kotuikosanu.
ア・コトウイコサヌ.
我・消える
飛び上がった。
- 2.13 シヌタブカの城
- 1359 Tane shiri kunne.
タネ シリ クンネ.
今 様子 暗い
もう日が暮れていた。

*28 原綴りは ono tamkote. ono を ano に正すよう加筆されている。an-otamkote は a-otamkote となることもある。

*29 inkush kamui. ヒーローに憑く霊の一つでヒーローに予見の能力を授ける。

- 1360 Iyainumare,
イヤイヌマレ、
驚いた
意外にも
- 1361 ramno hene
ラムノ ヘネ
低い土地でも
低い土地のどこかで
- 1362 i-reshpa-an ruwe ne kuni
イ・レシパ・アン ルウェ ネ クニ
我・育てられる 跡 繫 必然
育てられているものと
- 1363 a-ramu rok wa
ア・ラム ロク ワ
我・思う 完了 接続
思っていたが、
- 1364 chibuni tapkop
チブニ タップコフ
盛り上がる 小山
盛り上がった小山が
- 1365 chiekantoor- p.31
チエカントオロ・
天
天に
- 1366 suipa kane.
スイパ カネ。
揺する 音調
そびえていた。
- 1367 Tapkop*³⁰ ka ta
タップコフ カ タ
小山 上 場所
小山の上に
- 1368 Tam boro kani chise
タム ボロ カニ チセ
この 大きい 黄金 家
広大な黄金の家、
- 1369 tan boro kani chashi
タン ボロ カニ チャシ
この 大きい 黄金 チャシ
黄金の城が
- 1370 uworeroshki.
ウウオレロシキ。
重なってそびえる
重なって建っていた。
- 1371 Terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 場所
駆けながら
- 1372 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
ではあるけれど、
- 1373 inkar-an ko*³¹
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると
- 1374 Kani chise
カニ チセ
黄金 家
黄金の家の
- 1375 rikun kibibi
リクン キビビ
上にある 段
高い段ぶき屋根と
- 1376 ranke kibibi
ランケ キビビ
反復 段
低い段ぶき屋根に
- 1377 sep birankani
セフ ビランカニ
幅広い 平金
幅広いの平金が
- 1378 chiekarbare.
チエカラバレ。
取り囲む
巻いてあった。
- 1379 Birankani kashi
ビランカニ カシ
平金 上
平金の表面には
- 1380 tu kani moreu
トゥ カニ モレウ
二つの 黄金 モレウ紋
おびただしい金の渦巻紋、
- 1381 re kani moreu
レ カニ モレウ
三つの 黄金 モレウ紋
金のモレウが
- 1382 chietomte.
チエトムテ。
輝いている
輝いていた。
- 1383 Moreu uturu
モレウ ウトゥル
モレウ紋 間
モレウとモレウの間には
- 1384 ubushne tumshi
ウブシネ トウムシ
群をなす 鎖環
群れをなす木鎖と
- 1385 ubushne etor
ウブシネ エトロ
群をなす 木鈴
鈴なりの木鈴が
- 1386 chiekotpa.
チエコトパ。
結びついている
付いていた。
- 1387 Tumshi rek hawe
トウムシ レク ハウエ
鎖環 鳴る 声
木鎖の鳴り響く声は
- 1388 hoku kan hau ne
ホク カン ハウ ネ
夫 上 声 繫
男の高い声となり、
- 1389 eton rek hawe
エトン レク ハウエ
木鈴 鳴る 声
木鈴の鳴り響く音は
- 1390 mat kan hau ne
マト カン ハウ ネ
女 上 声 繫
女の高い声となり、
- 1391 uwobuk hawe
ウウオブク ハウエ
相ともに起こる 声
交じり合って
- 1392 bebunitara
ベブニタラ
騒がしい
笑いさざめくように
- 1393 tununitara.
トゥヌニタラ。
美しい音が響く
鳴り渡っていた。
- 1394 Chiashi nusa
チアシ ヌサ
立てられた 祭壇
立てられた幣棚は
- 1395 nitai ash ruwe
ニタイ アシ ルウェ
林 立つ 跡
林の
- 1396 ekannayukar.
エカンナユカラ。
ようである
ようであった。
- 1397 Nusa teksam wa
ヌサ テクサム ワ
祭壇 すぐそばから
幣棚のすぐそばから
- 1398 ekaichish
エカイチシ
頂上の平らな岩山
頂上の平らな岩山の
- 1399 tapka wano
タップカ ワノ
頂き から
頂から
- 1400 ebisun ran ru
エビスン ラン ル
浜へ 下がる 道
浜手へ下る道が
- 1401 otu ru shittok
オトゥ ル シトック
二つの 道 肘
ジグザクと
- 1402 ore ru shittok
オレ ル シトック
三つの 道 肘
肘の折れるように
- 1403 chihokaibare.
チホカイバレ。
折れ曲がっている
折れ曲がって続いていた。
- 1404 Nusa kesh wano
ヌサ ケシ ワノ
祭壇 末端 から
幣棚の下端から
- 1405 ekimne toiru
エキムネ トイル
山に行く 道
山へ入っていく道は
- 1406 toyabir kan
トヤビリ カン
土の獣道 副助
獣の足跡で
- 1407 kokunnatara
コクンナタラ
黒々としている
黒々としていた。
- 1408 tab an chashi
タバ ン チャシ
これ ある チャシ
この城は、
- 1409 tanne rasu
タンネ ラス
長い 柵木
長い柵が

*³⁰ 原綴りは tap。これに kop が加筆されている。*³¹ 原綴りは inko。欄外に karan と書き添えてある。間違いなく、全体で inkaranko である。

- 1410 kamui nish kashi
カムイ ニシ カシ
神 空 上
天空に伸びて
- 1411 korashmakakur-
コラシマカクル・
杭が山側へ
山側へ
- 1412 teshpa kane.
テシパ カネ.
反らせる 音調
反り返って、
- 1413 Takne rasu
タクネ ラス
短い 柵木
短い柵を
- 1414 rasu tum ta
ラス トウム タ
柵木 中 場所
柵の中に
- 1415 nuina kane.
ヌイナ カネ.
隠す 音調
隠していた。
- 1416 Tanne sakma p.32
タンネ サクマ
長い 横木
長い横木は
- 1417 chirashkoreupa.
チラシコレウバ.
割木と一緒に曲がっている
柵とともにうねり、
- 1418 Takne sakma
タクネ サクマ
短い 横木
短い横木は
- 1419 chitoikoreupa*32 kane.
チトイコレウバ カネ.
曲がる 音調
地表とともにうねっていた。
- 1420 Rikun opbuye
リクン オップイェ
上にある 杭の孔
柵上の孔と
- 1421 ranke opbuye
ランケ オップイェ
下の 杭の孔
下の孔は
- 1422 chikappo sui ne
チカッポ スイ ネ
小鳥 穴 繫
鳥の巣となって
- 1423 chiubekare.
チウベカレ.
向かい合う
向かい合っていた。
- 1424 Opbui kar be
オップイ カラ ベ
杭の孔 打つもの
穴に当たる風が
- 1425 koshiushiwatki.
コシウシワトキ.
うなる
ビュービューと鳴った。
- 1426 Chashi kar be
チャシ カラ ベ
チャシ 打つもの
城に当たる風は
- 1427 kosebebatki.
コセベバトキ.
鳴る
ハタハタと鳴った。
- 1428 Toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つもの
地面を打つ風は
- 1429 koturimimse.
コトゥリミムセ.
響き渡る
ヒュウヒュウと鳴った。
- 1430 Sonno he tap ne
ソンノ ヘ タプ ネ
真に 疑問 これ 繫
まったく
- 1431 an-ewak shiroro
アネワク シロロ
我・住む 場所
我が住うところは、
- 1432 oshkehe hene
オシケヘ ヘネ
中 も
中も
- 1433 soinake hene
ソイナケ ヘネ
家の外 も
外も
- 1434 ene he tap ne
エネ ヘ タプ ネ
このように 疑問 これ 繫
このように
- 1435 i-rayapka.
イ・ラヤッカ.
我・感心させる
我を驚かせるものであった。
- 1436 Kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む 形名
神の住まいを
- 1437 chiekasure
チエカスレ
凌ぐ
凌いで、
- 1438 a-tomte ruwe
ア・トムテ ルウエ
輝いている 跡
輝かしく
- 1439 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
よい 跡
美しく
- 1440 okai ruwe
オカイ ルウエ
ある 跡
あるのが
- 1441 orsaureko okai ko
オロサウレコ オカイ コ
とんでもなくある 条件
尋常でなく、
- 1442 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 1443 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女の
- 1444 katkoro hawe
カトコロ ハウエ
振舞う 声
言い草を
- 1445 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
思い出すと、
- 1446 irushka keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 心
一層、怒りが
- 1447 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
込みあげた。
- 1448 A-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
人の讚える
- 1449 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 1450 san ruwe konna
サン ルウエ コンナ
くだる 跡 は
流れが
- 1451 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
明々としていた。
- 1452 Kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 場所
まだ夜もあけず、
- 1453 kunne to ta
クンネ ト タ
暗い 日 場所
暗かった
- 1454 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
けれど、
- 1455 kamui kar atui
カムイ カラ アトウイ
神 作る 海
神の造った海の
- 1456 atui so kurka
アトウイ ソ クルカ
海 平面上
おもては、
- 1457 komaknatara kane
コマクナタラ カネ
輝いている 同時
明々と、
- 1458 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
美しく
- 1459 a-uwesuye kane.
ア・ウウエスイエ カネ.
我・揺する 音調
心がゆすぶられた。

*32 原綴りは chitoi reupa。reupa の頭に ko が加筆されている。

2.14 白い巻貝の女を追跡する

- 1460 Chashi tapka wa
チャシ タツカ ワ
チャシ 頂き から
城の頂から
- 1461 arkamiashi p.33
アッカミアシ
化物
魔物の
- 1462 kamui nish ka
カムイ ニシ カ
神 空 上
天空の上に
- 1463 koanukuri-
コアヌクリ・
影
置く影が
- 1464 tuikosanu shiri
トゥイコサヌ シリ
消える 様子
ふいに消えたのが
- 1465 a-wennukar.
ア・ウエヌカラ.
我・チラリと見る
目に入った。
- 1466 A-orauki kuni
ア・オラウキ クニ
我・逃す 必然
我は逃さ
- 1467 tu wen turaisam
トゥ ウエン トウライサム
二つの 悪い 未詳
ないようにと
- 1468 an-i-y-ekote.
アニ・イエコテ.
我・結びつけられる
懸命になった。
- 1469 Ika kashi
イカ カシ
その上 上
その上を
- 1470 a-yairarire.
ア・ヤイラリレ.
我・みずからを押しつける
我は追いかけた。
- 1471 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚きあきれる、
- 1472 konep kamuye
コネプ カムイェ
何 神
どんな神が
- 1473 i-turen rok wa
イ・トゥレン ロク ワ
我・憑く 完了 接続
我に憑いて
- 1474 humash nankor a!
フマシ ナンコラ!
気配がする だろう 疑問
いるのだろう。
- 1475 I-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
我の上空で
- 1476 yashkosanu.
ヤシコサヌ.
裂ける
何かが裂けるような音が響いた。
- 1477 Tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
由々しい
- 1478 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
多くの憑き神が
- 1479 kohumebushpa.
コフメブシバ.
音を立てる
音を立てた。
- 1480 Tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
今や、
- 1481 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの 渦になっている 風
二つの巻き風、
- 1482 re shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの 渦になっている 風
三つの巻き風が
- 1483 nitai kar be
ニタイ カラ ベ
林 打つもの
林をシューシューと
- 1484 koshiunataru.
コシウナタラ.
うなる
打った。
- 1485 Toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つもの
打つ風が
- 1486 koturimimse.
コトゥリミムセ.
響き渡る
大地をどよもした。
- 1487 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物は
- 1488 tu shinish utur
トゥ シニシ ウトゥル
二つの 大きな雲 間
あまたの
- 1489 re shinish utur
レ シニシ ウトゥル
三つの 大きな雲 間
雲間を
- 1490 echararse.
エチャララセ.
滑り落ちる
滑りぬけた。
- 1491 Tu ru etoko
トゥ ル エトコ
二つの 跡 行く先
その行く手行く手、
- 1492 re ru etoko
レ ル エトコ
三つの 跡 行く先
先々に
- 1493 an-ewak ewak.
アネワク エワク.
我・立ち回る 立ち回る
我は回り込んだ。
- 1494 Otu teknumtek
オトゥ テクヌムテク
二つの 握り拳
幾度も
- 1495 ore teknumtek
オレ テクヌムテク
三つの 握り拳
握りこぶしを
- 1496 a-kosankekar.
ア・コサンケカラ.
我・出す
見舞った。
- 1497 A-ashke uturu
ア・アシケ ウトゥル
我・手 間
魔物は我が手の間を
- 1498 tu rera sai ne
トゥ レラ サイ ネ
二つの 風 輪 繫
二つの巻き風になって、
- 1499 re rera sai ne
レ レラ サイ ネ
三つの 風 輪 繫
三つの巻き風になって、
- 1500 echararse.
エチャララセ.
滑り落ちる
すり抜けた。
- 1501 Tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
今こそ
- 1502 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
我が憑き神は
- 1503 tu nishte humi
トゥ ニシテ フミ
二つの かない 音
固い音を
- 1504 re nishte humi
レ ニシテ フミ
三つの かない 音
バラバラと
- 1505 i-enka otte.
イ・エンカ オトテ.
我・上 あらしめる
我が頭上に立てた。
- 1506 Kamui kar kanto
カムイ カラ カント
神 作る 天
神が造った天が
- 1507 ukaehorak
ウカエホラク
崩壊する
崩落し、
- 1508 ukaekone
ウカエゴネ
碎ける
粉々になったかの
- 1509 semkorachi.
セムコラチ.
まるで (する) ように
ようだった。
- 1510 Kanto rabok p.34
カント ラボク
天 間
天の間が
- 1511 chikeurototo.
チケウロトト.
重く鳴り響く
鳴り響いた。
- 1512 Amtoi kurka
アムトイ クルカ
地面 上
地表が

- 1513 soshke baye.
ソシケ バイエ.
剥がす 行く
剥がれていく。
- 1514 Wen toyera
ウエン トイエラ
悪い 土ぼこり
激しい土ぼこり、
- 1515 wem munera
ウエム ムネラ
悪い 埃
草ぼこりが
- 1516 wen ubun chise ne
ウエン ウブン チセ ネ
悪い 吹雪 家 繋
猛吹雪のように
- 1517 chibatubatu,
チバトゥバトゥ、
吹きあがる
跳ね上がった。
- 1518 kuttek nish ne
クトテク ニシ ネ
黒い 空 繋
真っ黒な雲となって
- 1519 kanto kotor
カント コトロ
天 曲面
天球に
- 1520 enishomare.
エニシオマレ.
雲が広がる
広がった。
- 1521 Nei tumuke
ネ トウムケ
1 繋 2 どこ 中
その雲の中を
- 1522 arkamiashi
アッカミアシ
化物
我は魔物を
- 1523 an-enoshpakara
アネノシバカラ
我・追跡する
追跡した。
- 1524 ene he tap ne
エネ ヘ タプ ネ
このように 疑問 これ 繋
このように、
- 1525 a-ki p hoyubu ne wa
ア・キ ヲ ホユブ ネ ワ
我・するもの 走る 繋 接続
我がしたことは飛ぶことであつたが、
- 1526 arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物には
- 1527 ponno poka
ボンノ ポカ
少し さえ
いささかも
- 1528 a-tekkerere
ア・テッケレレ
我・指先が届く
手届かず、
- 1529 a-kishma eikap
ア・キシマ エアイカフ
抑えられる できない
抑えられず、
- 1530 a-haita haita.
ア・ハイタ ハイタ.
我・欠く 欠ける
何度も捕らえそこなつた。
- 1531 Makanneko
マカンネコ
あるときには
ときには
- 1532 a-tamesaikar.
ア・タメサイカラ.
我・太刀を振るう (?)
刀を振るつた。
- 1533 Ki p ne koroka
キ ヲ ネ コロカ
するもの 繋 逆接
しかし
- 1534 ponno ka
ボンノ カ
少し も
少しも
- 1535 tam kere
タム ケレ
この 触れる
刃が触れる
- 1536 humi ka isam.
フミ カ イサム.
気配 も ない
感じがしない。
- 1537 Konep eshinki p tap
コネプ エシキン ヲ タフ
何 疲れるもの これ
何かに疲れてしまうのが
- 1538 ainu ne wa
アイヌ ネ ワ
人間 繋 接続
人の習いだが、
- 1539 sonno he tap ne
ソンノ ヘ タプ ネ
真に 疑問 これ 繋
まったく、
- 1540 arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物の
- 1541 a-raukikuru-
ア・ラウキクル・
我・心の底
心底を
- 1542 uwante wa
ウワンテ ワ
見て調べる 接続
探つて
- 1543 inkar-an ko
インカァ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 1544 ponno ka shinki ruwe
ボンノ カ シンキ ルウエ
少し も 疲れる 跡
少しの疲れも
- 1545 a-koerambetek.
ア・コエラムベテク.
我・知らない
認められなかった。
- 1546 Nei ta bakno
ネイ タ バクノ
1 繋 2 どこ 場所 まで
魔物はいつまでも
- 1547 kosancha ot ta
コサンチャ オト タ
口元 所 場所
口元に
- 1548 mina kane
ミナ カネ
笑う 同時
笑いを浮かべて
- 1549 chihoyubure.
チホユブレ.
飛ぶ
飛んでいた。
- 1550 Tambe boo
タムベ ボオ
これ なおさら
それですます
- 1551 turushno neepkor
トゥルシノ ネエアコロ
ひどく垢にまみれている のように
気が狂つたもののように
- 1552 an-eyaikeutum-
アネヤイケウトウム・
我・己の気持ち
我は心を
- 1553 atturainu.
アトトライヌ.
見失う
見失つた。
- 1554 Neita bakno
ネイタ バクノ
繋 まで
いつまでも
- 1555 ika kashi
イカ カシ
その上上
その後を
- 1556 a-yairarire.
ア・ヤイラリレ.
我・みずからを押しつける
追いかけた。
- 1557 Ruino terke-an
ルイノ テレケ・アン
甚だしく 跳ねる・我
強く跳び、
- 1558 toikoterke-an. p.35
トイコテレケ・アン.
激しく跳ねる・我
激しく跳ねた。
- 1559 Nei korachi
ネ コラチ
1 繋 2 どこ 同時に
それと同時に
- 1560 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの 渦になっている 風
おびただしい
- 1561 re shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの 渦になっている 風
巻き風が
- 1562 kanto rabok
カント ラボク
天 間
天を
- 1563 chiesurure.
チエスルレ.
覆う
覆つた。
- 1564 Rera etoko
レラ エトコ
風 行く先
風の行く手に
- 1565 numushnu kaukau
ヌムシヌ カウカウ
大粒である 蔽
大粒のあられ、

- 1566 numushnu apto
ヌムシヌ アプト
大粒である 雨
大粒の雨が
- 1567 chierankekar.
チエランケカラ.
降る
降り注いだ。
- 1568 Nitai kar be
ニタイ カラ ベ
林 打つもの
林を打つ風が
- 1569 kosebebatki.*33
コセベバトキ.
鳴る
ハタハタと鳴った。
- 1570 Kaino kuni p
カイン クニ プ
折れやすい 必然 もの
折れやすい木は
- 1571 kai hum konna
カイ フム コンナ
折れる 音 は
ボキボキと
- 1572 chikaurototo.
チカウロトト.
鳴り響く
折れた。
- 1573 Kai niukesh be
カイ ニウケシ ベ
折れる しかねる もの
折れるのをいやがる木は
- 1574 riten hash kunne
リテン ハシ クンネ
軟らかい 柴 ように
しなやかな灌木のように、
- 1575 riten buncan ne
リテン ブンカン ネ
軟らかい 蔓 繋
柔らかな蔓のように
- 1576 amtoi kurka
アムトイ クルカ
地面 上
地の上を
- 1577 chieshiturpa
チエシトゥルパ
伸びている
這い、
- 1578 hebitpa humi
ヘビトパ フミ
跳ね上がる 音
跳ね上がり、
- 1579 koshiunataru.
コシウナタラ.
うなる
シューシューと鳴った。
- 1580 Humse tura
フムセ トウラ
声を出す ともに
我は、力み声をあげて
- 1581 arwen menoko*34
アラウエン メノコ
ひどい 女
女の悪党の
- 1582 Tu ru etoko
トゥ ル エトコ
二つの 跡 行く先
行く手、
- 1583 an-ewak kane
アネワク カネ
我・立ち回る 同時
行く手、
- 1584 re ruwetoko
レ ルウエトコ
三つの 行き先
先々に
- 1585 an-ewak kane
アネワク カネ
我・立ち回る 同時
立ち回って
- 1586 a-tamesaikar.
ア・タメサイカラ.
我・太刀を振るう (?)
刀を振るった。
- 1587 Tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 は
ようやく
- 1588 tu tamkanetu
トゥ タムカネトゥ
二つの 刀の切っ先
切っ先が
- 1589 re tamkanetu
レ タムカネトゥ
三つの 刀の切っ先
幾度も
- 1590 a-eokte kane.
ア・エオクテ カネ.
我・引っ掛ける 音調
引っかかるようになった。
- 1591 Terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 場所
飛び回りながらで
- 1592 iki korkaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
あったが、
- 1593 arkamiashi
アラカミアシ
化物
魔物の
- 1594 a-raukikur-
ア・ラウキクル・
我・心の底
心底を
- 1595 uwante wa
ウワンテ ワ
見て調べる 接続
探って
- 1596 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 1597 henbat tu sui
ヘンバト トウ スイ
いくつの 二つの 回
何度も
- 1598 henbar re sui
ヘンバラ レ スイ
いくつの 三つの 回
何度も
- 1599 katkoro ruwe okai i
カトコロ ルウエ オカイ イ
振舞う 跡 ある 形名
追撃をかわした
- 1600 ne wa kusu
ネ ワ クス
繋 接続 根拠
ために、
- 1601 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 は
今ようやく
- 1602 ainu ne kusu
アイヌ ネ クス
人間 繋 根拠
さすが人間であるから
- 1603 shinki kuni
シンキ クニ
疲れる 必然
疲れを
- 1604 eramam be
エラムム ベ
分かる もの
覚えたに
- 1605 ne rok okai kusu p.36
ネ ロク オカイ クス
繋 完了 ある 根拠
違いなく、
- 1606 shinki rui be
シンキ ルイ ベ
疲れる 激しいもの
疲れ切った魔物は
- 1607 konubopbeta-
コンボッパタ・
汗で
汗に
- 1608 rikan kane.
リカン カネ.
湿っている 音調
まみれていた。
- 1609 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もはや
- 1610 shikiru bentok
シキル ベントク
振り向く 先端
身を回すことも、
- 1611 hosari bentok
ホサリ ベントク
振り向く 先端
返すことも
- 1612 an-eniukeshte
アネニウケシテ
我・できなくさせる
できないようにしてやった。
- 1613 earatmatkino*35 kira.
エアラトマトキノ キラ.
まっしぐらに 逃げる
魔物はひたすらまっすぐに逃げた。
- 1614 Arokamkino
アロカムキノ
わざと
思う壺に

*33 原綴りは kosebebatke.

*34 元の綴りは Arwemto であるが、mto に抹消棒線が引かれ、nmenoko と書き添えられている。

*35 ユ集 III, p. では eararmatkino という綴りになっている。

- 1615 a-ki p ne kusu
ア・キ プ ネ クス
我・するもの 繫 根拠
なったので、
- 1616 toyanramsura
トヤンラムスラ
全力で
我は全力で
- 1617 ika kashi
イカ カシ
その上上
その上に
- 1618 a-yairarire
ア・ヤイラリレ
我・みずからを押しつける
追いかぶさるように
- 1619 a-toikonoshpa.
ア・トイコノシバ.
我・激しく追う
激しく追った。
- 1620 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物は
- 1621 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もはや
- 1622 shino a-yaiwenukare p
シノ ア・ヤイウエヌカレ プ
まことに我・苦しめるもの
散々、苦しめられたもの
- 1623 konep ne kusu
コネプ ネ クス
何 繫 根拠
だから、
- 1624 earmatkino
エアマトキノ
真直ぐに
真っすぐに
- 1625 kenash so kurka
ケナシ ソ クルカ
木原 平面上
木原の上に
- 1626 chieranke.
チエランケ.
降りる
降りていった。
- 1627 A-orauki kuni
ア・オラウキ クニ
我・逃す 必然
取のがしてはなるまいと
- 1628 wen hayaise
ウェン ハヤイセ
悪い 叫び声
我は激しい叫び声を
- 1629 an-i-y-ekote
アニ・イエコテ
我・結びつけられる
あげて、
- 1630 ika kashi
イカ カシ
その上上
その上を
- 1631 an-ehoyubu.
アネホユブ.
我・走る
飛んだ。
- 1632 Kenash so ka ta
ケナシ ソ カ タ
木原 平面上 場所
魔物は木原の上の
- 1633 awa kina^{*36}
アワ キナ
未詳 ガマ
ガマの
- 1634 kinatoi bake
キナトイ バケ
ガマの群落 頭
群落の上手に
- 1635 korawoshma.
コラウォシマ.
下方へ入る
潜った。
- 1636 Kinatoi bake^{*37}
キナトイ バケ
ガマの群落 頭
ガマの群落は
- 1637 kinatoi kese
キナトイ ケセ
ガマの群落 末端
カミからシモまで
- 1638 tokse tokse
トクセ トクセ
高まる 高まる
盛り上がったたり、
- 1639 kotne kotne.
コトネ コトネ.
へこむ へこむ
へこんだりした。
- 1640 Kira a-tauki
キラ ア・タウキ
逃げる 我・ぶつ切りにする
我は逃げる(者—魔物)をぶつ切りにし、
- 1641 a-tata tata
ア・タタ タタ
我・切る たたく
切り刻もうと
- 1642 kushne ko
クシネ コ
必然・意志 条件
したが、
- 1643 a-haita haita
ア・ハイタ ハイタ
我・欠く 欠ける
ことごとくかわされ、
- 1644 an-ekot boka
アネコト ボカ
我・死ぬ だけ
こんなことでは
- 1645 ewenitara
エウエニタラ
よくない
死ねやしない
- 1646 yak a-ramu.
ヤク ア・ラム.
と 我・思う
と思った。
- 1647 Kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
魔物は天空に
- 1648 koanukuri
コアヌクリ
影
消え
- 1649 tuikosanu.
トゥイコサヌ.
消える
去った。
- 1650 Kurkashike
クルカシケ
上
我は追跡を
- 1651 a-yairarire.
ア・ヤイラリレ.
我・みずからを押しつける
続けた。
- 1652 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚くべきことに、
- 1653 utuipa sakno
ウトウイバ サクノ
斬り合う 無くて
斬り合うことも
- 1654 uronnu sakno *p.37*
ウロンヌ サクノ
殺し合う 無くて
殺し合うこともない
- 1655 a-ki unoshpa.
ア・キ ウノシバ.
我・する 追いかけあう
追跡であった。
- 1656 Kunne hene
クンネ ヘネ
夜 も
夜となく
- 1657 tokap hene
トカプ ヘネ
昼 も
昼となく
- 1658 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
我が憑神の
- 1659 tu base humi
トゥ バセ フミ
二つの重い 音
重々しい
- 1660 re base humi
レ バセ フミ
三つの重い 音
数々の音が
- 1661 tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
今こそ
- 1662 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 1663 bet kur etoko
ベトクル エトコ
川 影 行く先
川の源、

*36 awa 未詳。ユ研 II, p. などでは、第2音節にアクセント符号が打ってある。awá. これを重視すれば、知里真志保の解く「座っている」という解は採れない。分類アイヌ語辞典 p.263. もし「座っている」ならば awa であるはず。なお、知里は「アイヌ語入門」1956, p.69 でも同様の解釈を示している。

*37 原綴りは kina bake. -toi を補う。

- 1664 kanto rabok
カント ラボク
天 間
天の間 (で)
- 1665 chikeurototo.
チケウロトト、
重く鳴り響く
ごうごうと鳴り渡った。
- 1666 Bokna moshiri
ボクナ モシリ
下方の 国
下界は
- 1667 kokumrak kumrak.
コクムラク クムラク。
ゴボゴボ鳴る 泡立つ
ゴボゴボと泡立った。
- 1668 Kanna moshiri
カンナ モシリ
上にある 国
上界は
- 1669 moshiri kuttomo
モシリ クトトモ
国 底
世界の底が
- 1670 koturimimse kane.
コトゥリミムセ カネ。
響き渡る 音調
どよめいた。
- 1671 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は
- 1672 a-yaikore kane.
ア・ヤイコレ カネ。
我・もつ 音調
驚きあざれた。
- 2.15 白い巻貝の女を捕まえる
- 1673 Hunak bakita
フナク バキタ
どこ 頃に
あるとき、
- 1674 kamui eraman no^{*38}
カムイ エラマン ノ
神 分かる 接続
確かに
- 1675 Arkamiashi^{*39}
アッカミアシ
化物
魔物の
- 1676 Oksui kashi
オクスイ カシ
首の根 上
首の根を
- 1677 a-teksaikari
ア・テッサイカリ
我・つかむ
捕らえ、
- 1678 a-toikokishma.
ア・トイコキシマ。
我・強く抑える
締めあげた。
- 1679 An-chorkakur-
アネホロカクル・
我・もと来た方へ
我はもと来た方へ
- 1680 bashte kane.
バシテ カネ。
走らせる 音調
(引きずって) 走った。
- 1681 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 1682 bet kur etoko
ベトクル エトコ
川 影 行く先
川の源は、
- 1683 kamui kar wen kut
カムイ カラ ウエン クト
神 する 悪い 崖
神が造った懸崖、
- 1684 noiwan kut ne
ノイワン クト ネ
六つの 崖 繋
幾重もの懸崖が
- 1685 chiubekare.
チウベカレ。
平らになる
貼り付けられたようになっていた。
- 1686 Bira kotoiro
ビラ コトロ
崖 曲面
崖の斜面に
- 1687 an-i-y-eranke.
アニ・イエランケ。
我・下ろされる
我は降ろされた。
- 1688 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物を
- 1689 bira kotoiro
ビラ コトロ
崖 曲面
崖に
- 1690 a-ekik humi
ア・エキク フミ
我・たたきつける 音
打ちつけるその音が
- 1691 a-emonetoko-
ア・エモネトコ・
我・手の先
我が手の先に
- 1692 rimnatara.
リムナタラ。
ドスンと響く
響いた。
- 1693 A-tektuibok wa
ア・テクトウイボク ワ
我・手の下 から
我が手の下に、
- 1694 a-tektuika wa
ア・テクトウイカ ワ
我・手の上 から
手の上に
- 1695 karke karke
カッケ カッケ
絡む 絡む
魔物は絡んだ。
- 1696 riten bunkan ne
リテン ブンカン ネ
軟らかい 蔓 繋
しなやかな蔓のように
- 1697 konoitanke.
コノイタンケ。
絡む
手に絡んだ。
- 1698 An-ekotboka
アネコトボカ
我・近寄る
我は魔物に近寄ることが^{*40}
- 1699 ewen ewen.
エウエン エウエン。
できない できない
できなかった。
- 1700 Ki p ne koroka p.38
キ ヲ ネ コロカ
するもの 繋 逆接
そうはいっても
- 1701 a-obichi kuni
ア・オビチ クニ
我・取り逃がす 必然
取り逃し
- 1702 a-orauki kuni
ア・オラウキ クニ
我・逃す 必然
仕留め損なっては
- 1703 tu wen turaisam
トゥ ウエン トウライサム
二つの 悪い 未詳
なるまいと、
- 1704 an-i-y-ekote.
アニ・イエコテ。
我・結びつけられる
我は頑張った。
- 1705 Aikap sam ta
アイカフ サム タ
左手 そば 場所
左手で
- 1706 a-yupkekishma
ア・ユプケキシマ
我・強く抱える
魔物をギユツと締めあげ、
- 1707 shimon sam ta
シモン サム タ
右の そば 場所
右手で
- 1708 a-ramkobashtep
ア・ラムコバシテフ
我・刀
我が刀の
- 1709 an-osautekka,
アノサウテッカ、
我・靱走らせる
靱を払い、
- 1710 a-toikotauki,
ア・トイコタウキ、
我・激しく斬る
めちやくちゃに斬って、
- 1711 a-toikootke,
ア・トイコオトケ、
我・激しく突く
突きに突いて、
- 1712 a-toikoyasa.
ア・トイコヤサ。
我・激しく裂く
裂きに裂いた。

*38 この副詞句は直訳すれば「神が(それを) さとるように」ということになるが、獲物を仕留める状況で用いられる。

*39 原綴りは arkami amiashi. arkami amiashi の上に(行間に)ashi が加筆されているがamiashi は抹消されていない。しかし、amiashi をないものとして扱う。

*40 ユ集 II, p. に従う。

- 1713 Ki p ne koroka
キ ッ ネ コロカ
するもの 繫 逆接
それでも
- 1714 orkimkusu
オロキムクス
未詳
(未詳)
- 1715 ne nankor a!
ネ ナンコラ
繫 だろう 疑問
だろうか。
- 1716 ikase*41 tamset
イカセ タムセト
それで跳ね返る 刀の鳴る音(?)
鎧に当たり滑った刀の音が
- 1717 Konainatara
コナイナタラ
響く
チャリンチャリンと響いた。
- 1718 shirum menoko
シルム メノコ
汚い 女
地べた女、
- 1719 wem menoko
ウエム メノコ
悪い 女
卑しい女は
- 1720 tap shisam un
タップ シサム ウン
これ 己の側 方向
まじかに
- 1721 a-nukar be mashkin
ア・ヌカラ ベ マシキン
我・見る もの ますます
見ると、ますます(美しく)、
- 1722 ainu he tap an.
アイヌ ヘ タップ アン.
人間 疑問 これ ある
人間とは思えない。
- 1723 Arikinne
アリキンネ
まったく
ひたすら
- 1724 kamui ibor
カムイ イボロ
神 顔色
神の気品が
- 1725 annoyekar.
アンノイエカラ.
からみつく
匂っていた。
- 1726 Boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
我は、ますます
- 1727 a-toikorushka.
ア・トイコルシカ.
我・激しく怒る
怒りたけた。
- 1728 Ene he tap ne
エネ ヘ タップ ネ
このように 疑問 これ 繫
このように
- 1729 pirika ruwe okai be
ピリカルウェ オカイ ベ
よい 跡 ある もの
美しい者が、
- 1730 hemanta kusu
ヘマンタ クス
何 根拠
なぜ
- 1731 ene bak am be
エネ バック アム ベ
このように まで ある もの
これほどの女が
- 1732 kamui ewak i
カムイ エワック イ
神 住む 形名
神の宮居を
- 1733 koyayikire,
コヤイキレ,
侮る
あなどり、
- 1734 chishimemokka
チシメモッカ
挑発される
挑発の
- 1735 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接続 繫 譲歩
なかでも
- 1736 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
緩くないのを
- 1737 i-y-ekarkar shiri!
イ・イエカラカラ シリ!
我・する 様子
我に仕掛けるのか。
- 1738 Sonno sonno
ソンノ ソンノ
真に 真に
私の怒りは
- 1739 irushka-an kasui wa
イルシカ・アン カスイ ワ
怒る・我 甚だしい 接続
過剰なほど高まり
- 1740 ene a-raike wa
エネ ア・ライケ ワ
このように 我・殺す 接続
どう殺して
- 1741 a-ehese kuni ka
ア・エヘセ クニ カ
我・息をつく 必然 も
安堵の息を継ぐべきか
- 1742 a-erambetek.
ア・エラムベテック.
人々・知らない
分からないほどになった。
- 1743 Sonno ene bak okai be
ソンノ エネ バック オカイ ベ
真に このように まで ある もの
これほどの者が
- 1744 ituren he tap ne
イトゥレン ヘ タップ ネ
悪く 疑問 これ 繫
憑依するにしても
- 1745 konep tap teta p.39
コネップ タップ テタ
何 これ ここで
何に
- 1746 kichi shiri
キチ シリ
する 様子
憑かれて
- 1747 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
いるのか、
- 1748 oar anakne
オアラ アナクネ
全く は
半分は
- 1749 atanan kuni p
アタナン クニ プ
ただの 必然 もの
ただの人間では
- 1750 somone kuni a-ramu.
ソモネ クニ ア・ラム.
ではない 必然 我・思う
ないと思われた。
- 1751 A-toikokikkik,
ア・トイコキッキク,
我・ひどく叩く
我はぶちのめして、
- 1752 a-iwakonumpa,
ア・イワコヌムパ,
我・岩とともに絞る
岩に挟んで絞り上げ、
- 1753 mi kosonte
ミ コソント
着る 小袖
着ている着物を
- 1754 a-toikobetpa.
ア・トイコベトパ.
我・ひどく切り裂く
ずたずたに切り裂いた。
- 1755 Bishkanike
ビシカニケ
周囲
裂けた着物は、あたりに
- 1756 otu bepsai ne
オトゥ ベッサイ ネ
二つの 異輪 繫
異輪の
- 1757 ore bepsai ne
オレ ベッサイ ネ
三つの 異輪 繫
紐のようになった
- 1758 eerachitke.
エエラチトケ.
ぶらさがる
ぶら下がった。
- 1759 Kimui kashi ta
キムイ カシ タ
頭 上 場所
頭にかぶっている
- 1760 kamui chibanup
カムイ チバナップ
神 冠り物
頭巾を
- 1761 a-toikowente,
ア・トイコウエンテ,
我・激しく損なう
めちゃめちゃにして、
- 1762 a-toikochari.
ア・トイコチャリ.
我・投げ捨てる
投げ捨てた。
- 1763 Kimui ush be
キムイ ウシ ベ
頭 ある もの
髪の毛を

*41 ikashi「その上」であろうか。

- 1764 a-tekkokari
ア・テッコカリ
我・手に巻き取る
手に巻き取り、
- 1765 a-tekramkur-
ア・テクラムクル・
我・手の力
手に力を
- 1766 yubu kane
ユブ カネ
強める 同時
こめて
- 1767 iwa kotoro
イワ コトロ
岩山 曲面
岩の上に
- 1768 an-ekik kane.
アネキッ カネ.
たたきつけられる 音調
打ちつけた。
- 1769 Nei korachi
ネ コラチ
1 繫 2 どこ 同時に
それと同時に
- 1770 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう、
- 1771 mi kosonte
ミ コソント
着る 小袖
来ている 着物も
- 1772 toikoshitne shitne.
トイコシトネ シトネ.
ひどく纏れる 痛める
ぼろぼろになった。
- 1773 Inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
見ると
- 1774 tumam kashike
トゥمام カシケ
胴体 上
体の上に
- 1775 kaniyamour^{*42}
カニヤモウル
鎖帷子
鎖かたびらを
- 1776 chikonoye kane.
チコノイエ カネ.
身にまとう 音調
まどっていた。
- 1777 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
道理で
- 1778 tamkachi^{*43}
タムカチ
刀が当たる
刀が効かない
- 1779 humi ne rok okai^{*44}
フミ ネ ロク オカイ.
気配 繫 完了 ある
はずだ。
- 1780 Sonno he tap ne
ソンノ ヘ タッ ネ
真に 疑問 これ 繫
まったく、
- 1781 hemanta kamiashi
ヘマンタ カミアシ
何 化物
何という 化け物、
- 1782 ituren tura
イトウレン トウラ
憑く ともに
憑神とともに、
- 1783 shibopke tura
シボッケ トウラ
着る物 ともに
重たいまといものとともに
- 1784 kichi ruwe
キチ ルウエ
する 跡
激しく動くので
- 1785 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
あるから、
- 1786 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は
- 1787 a-yaikore kane.
ア・ヤイコレ カネ.
我・もつ 音調
たまげてしまった。
- 1788 Kisar kashi ta
キサラ カシ タ
耳 上 場所
耳に付いている
- 1789 kamui ninkari
カムイ ニンカリ
神 耳飾り
立派な耳輪を
- 1790 a-kokekke
ア・コケッケ
我・ボキボキ折る
折り取り、
- 1791 a-koreupareupa.
ア・コレウパレウパ.
我・グニヤリと押し曲げる
ひん曲げた。
- 1792 Rekutkashi ta p.40
レクトカシ タ
首の上 場所
首に付いている
- 1793 kamui tamasai
カムイ タマサイ
神 胸飾り
立派な首飾り、
- 1794 kani tamasai
カニ タマサイ
黄金 胸飾り
金の玉飾りを
- 1795 a-kotuipa tuipa
ア・コトウイパ トウイパ
我・切り離す 切る
バラバラにして
- 1796 iwa kurkashi
イワ クルカシ
岩山上
岩の上に
- 1797 an-echarikar.
アネチャリカラ.
我・投げ散らす
投げ散らした。
- 1798 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 1799 iwa a-konumpa
イワ ア・コヌムパ
岩山 我・絞る
岩に締めあげ、
- 1800 a-koshiru
ア・コシル
我・こする
こすりつけ
- 1801 a-ekik aine
ア・エキッ アイネ
我・?にたたきつける 接続
打ちつけているうちに
- 1802 kamih bene wa
カミヒ ベネ ワ
肉 ドロドロになる 接続
女の肉はドロドロになり、
- 1803 kaniyamour
カニヤモウル
鎖帷子
鎖かたびらの
- 1804 uturu beka
ウトウル ベカ
間 で
網目の間を
- 1805 beine kamih
ベイネ カミヒ
水分を含む 肉
ドロドロになった肉が
- 1806 eebututke.
エエプトウトケ.
膨れ上がる
膨れ上がった。
- 1807 Otu kemsamkenai^{*45}
オトゥ ケムサムケナイ
二つの 血が流れる 沢
流れる血が
- 1808 Ore kemsamkenai
オレ ケムサムケナイ
三つの 血が流れる 沢
川となって
- 1809 chisanasanke.
チサナサンケ.
流れ下る
ドボドボ下っていた。
- 1810 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
魔物は
- 1811 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 は
今こそ

*42 欄外に「金ノ網ノモウル」と書き込まれている。

*43 tamkachi 未詳。おそらく刀が鎖かたびらに当たる音を表す動詞。

*44 欄外に「刀キカナイワケワカル」と書き込まれている。

*45 kemsamkenai 行間に「下ル血の沢」と書かれてある。また、ユ集 I p. に kem samkenai という綴りで「血の枝川」と訳されている。ここでは、samke を sanke とみなして「血を流す沢」と訳することにする。

- 1812 iyunin katu
イユニン カトゥ
苦痛 姿・形・型
痛みということが
- 1813 eraman rok okai wa
エラマン ロク オカイ ワ
分かる 完了 ある 接続
分かったので、
- 1814 settok hau kan
セトク ハウ カン
しゃくりあげる 声 副助は
しゃくりあげて
- 1815 chiutasare.
チウタサレ.
入り乱れる
泣いた。
- 1816 Orowano
オロワノ
始点
それから、
- 1817 chobarata,
チョバラタ,
いい気味である
ざまあみさせ、
- 1818 ene he tap ne
エネ ヘ タプ ネ
このように 疑問 これ 繋
このように
- 1819 a-koirushka humi
ア・コイルシカ フミ
我・に立腹する 気配
我が怒りを向け、
- 1820 a-ebokpa humi
ア・エボッパ フミ
妬まれる 気配
憎んだ
- 1821 okai rok be
オカイ ロク ベ
ある 完了もの
者に対して
- 1822 tanepo boka
タネポ ボカ
たった今 だけ
今この時に
- 1823 ponno a-ehese kane.
ボンノ ア・エヘセ カネ.
少し 我・息をつく 音調
少し一息つくことができた。
- 1824 A-oanraike yakka
ア・オアンライケ ヤッカ
我・完全に殺す 譲歩
完全に殺したにしても
- 1825 yakka ponnoka
ヤッカ ボンノカ
譲歩 少しも
それにしても、少しも
- 1826 a-ehese humi ka isam.
ア・エヘセ フミ カ イサム.
我・息をつく 音 も ない
安心できなかつた。
- 1827 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
そこで
- 1828 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今は
- 1829 sonno ouse rai hurkabu
ソンノ オウセ ライ フルカブ
真に ただ (だけ) 死ぬ 死骸
ただ女の死骸の

- 1830 korachino am be
コラチノ アム ベ
ように あるもの
ようになったものを
- 1831 taanun wa
タアヌン ワ
こちら 接続
こちらへ、
- 1832 toonun wa
トオヌン ワ
そちらへ 接続
あちらへと
- 1833 a-iwakokikkik
ア・イワコキッキク
我・岩に叩き付ける
岩に叩きつけ、
- 1834 a-iwakonumpa kane.
ア・イワコヌムバ カネ.
我・岩とともに絞る 音調
岩に締めつけた。
- 1835 Kurkashike
クルカシケ
上
岩の上に
- 1836 tu wen kemurar
トゥ ウエン ケムララ
二つの 悪い 血煙
おびたらしい
- 1837 re wen kemurar p.41
レ ウエン ケムララ
三つの 悪い 血煙
血煙が
- 1838 erachitke kane
エラチトケ カネ
垂れさがる 同時
降り注いで、
- 1839 a-emonetoko
ア・エモネトコ
我・手の先
それが我が手の先に
- 1840 karke karke kane
カラケ カラケ カネ
絡む 絡む 同時
絡んだ。
- 1841 a-koanutushtek awa
ア・コアヌトウシテク アワ
我・懸命に働く 展開
夢中になってぬぐい取ろうとしたら、
- 1842 seenne ka sui
セエンネ カ スイ
否定 も 再び
思いもしないこと、
- 1843 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように あるもの
ずたずたにされた者の
- 1844 neike sambe o wa
ネイケ サムベ オ ワ
どこに 心臓 ある 接続
どこに心臓があつて
- 1845 katkoro shiri
カトコロ シリ
振舞う 様子
こういうことになるの
- 1846 okai nankor a!
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
だろう。

2.16 白い巻貝の女を見失う

- 1847 A-kishma humi
ア・キシマ フミ
抑えられる 気配
強く
- 1848 yupke rok be
ユッケ ロク ベ
強い 完了もの
締めあげられた魔物は
- 1849 arekushkonna
アレクシコンナ
突然
突然
- 1850 rarak konru ne
ララク コンル ネ
滑らかである 氷 繋
解けかけた氷のように
- 1851 a-tekbosore,
ア・テッボソレ,
我が手から抜け落ちる
我が手をすり抜け、
- 1852 kamui nish ka
カムイ ニシ カ
神 空 上
大空に
- 1853 kotuikosanu.
コトウイコサヌ.
消える
飛び上がった。
- 1854 Tu urar ainu
トゥ ウララ アイヌ
二つの 霧 人間
我が眼を惑わすため
- 1855 re urar ainu
レ ウララ アイヌ
三つの 霧 人間
二つの霧の人、三つの霧の人を
- 1856 shitasare
シタサレ
己に逆らって行かせる
行き通わせ、
- 1857 uwechanchanke,
ウウェチャンチャンケ,
だんだん薄くなる
少しづつ
- 1858 uwebanbanke.
ウウェバンバンケ.
だんだん薄くなる
姿をくりました。
- 1859 Neun terke ya
ネウン テレケ ヤ
どこに 跳ねる 疑問
どこに飛んで
- 1860 neun oman ya
ネウン オマン ヤ
どこに行く 疑問
どこに行ってしまったのか、
- 1861 ene terke i
エネ テレケ イ
このように 跳ねる 形名
どう飛んで
- 1862 ene oman i
エネ オマン イ
このように 行く 形名
どう行ったのか
- 1863 a-attaraye
ア・アトラライエ
我・気絶する
分からなかつた。

- 1864 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように 接続 だけ
どうにも
- 1865 iki an i ka
イキ アニ カ
する ある 形名 も
しようが
- 1866 isam kane.
イサム カネ.
死ぬ 音調
なかった。
- 1867 Sonno he tap ne
ソノノ ヘ タップ ネ
真に 疑問 これ 繋
まったく、
- 1868 hemanta kamiashi
ヘマンタ カミアシ
何 化物
どこの化け物か、
- 1869 arwen bito
アウエン ビト
ひどい 人
最悪の神の、
- 1870 ituren he tap ne
イトゥレン ヘ タップ ネ
愚く 疑問 これ 繋
霊に憑かれた
- 1871 shimoiba he tap ne
シモイバ ヘ タップ ネ
働き 疑問 これ 繋
動き、
- 1872 konep tap teta
コネップ タップ テタ
何 これ ここで
なんとも
- 1873 iramkursere
イラムクルセレ
不思議に思わせる
恐ろしく、
- 1874 iramtoinere
イラムトイネレ
驚く
心をくじく
- 1875 kichi shiri
キチ シリ
する 様子
ふるまいを見て
- 1876 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
あきれて
- 1877 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
しまった。
- 1878 Oyoyobota,
オヨヨボタ,
感嘆
ああ、
- 1879 moteki
モチキ
せっかく
せっかく
- 1880 a-toikokishma rok be
ア・トイコキシマ ロック ベ
我・強く抑える 完了 もの
我が締めあげた女が
- 1881 a-tekbosore.
ア・テッボソレ.
我が手から抜け落ちる
私の腕の中を抜けていった。
- 1882 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今や、
- 1883 a-turainu
ア・トゥライヌ
我・見失う
行くえを見失った
- 1884 shiri okai chiki
シリ オカイ チキ
様子 ある 条件
ようで、
- 1885 eashka eashka p.42
エアシカ エアシカ
頗る 頗る
とてもとても
- 1886 yayashish keutum
ヤヤシシ ケウトウム
くやしがる 心
悔しく
- 1887 irushka keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 心
腹立たしい
- 1888 a-yaikore kane.
ア・ヤイコレ カネ.
我・もつ 音調
思いにかられた。

第3章 狼神の妹の語り

3.1 年かさの女の家

- 1889 Kamui kar
カムイ カラ
神 作る
神の造った
- 1890 wen shirikut
ウエン シリクト
悪い 崖
険しい崖の
- 1891 tapka un
タップカ ウン
頂き 方向
頂へ
- 1892 chikap hobuni
チカップ ホブニ
鳥 飛ぶ
鳥さながらに
- 1893 a-shikobayar.
ア・シコバヤラ.
我・見せかける
飛び移った。
- 1894 Inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
目を凝らすと、
- 1895 kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 場所
闇に沈む
- 1896 kunne to ta
クンネ ト タ
暗い 日 場所
夜で
- 1897 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
あったが、
- 1898 iwa tapka ta
イワ タップカ タ
岩山 頂き 場所
岩山の肩で
- 1899 chibuni tapkop
チブニ タップコップ
盛り上がる 小山
盛り上がった小山が
- 1900 chiekantoor-
チエカントオロ・
天
くらくらと天にそびえて
- 1901 suiba kane
スイバ カネ
揺する 同時
いて、
- 1902 noshki bakno
ノシキ バクノ
真中 まで
中腹まで
- 1903 chieurarko-
チエウラッコ・
霧
霧が
- 1904 noipa kane.
ノイバ カネ.
捻る 音調
棚引いていた。
- 1905 Shir an chiki
シラン チキ
様子 ある 条件
それを見ると
- 1906 kanna ruino
カンナ ルイノ
再び 甚だしく
今一度
- 1907 ekaichish
エカイチシ
頂上の平らな岩山
頂の折れた
- 1908 tapka un
タップカ ウン
頂き 方向
岩山へ
- 1909 chikap hobuni
チカップ ホブニ
鳥 飛ぶ
鳥のように
- 1910 a-shikobayar.
ア・シコバヤラ.
我・見せかける
飛び移った。
- 1911 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると
- 1912 ekaichish ka ta
エカイチシ カ タ
頂上の平らな岩山 上 場所
折れた岩山の上に
- 1913 kani chise
カニ チセ
黄金 家
金の家、
- 1914 kani chashi
カニ チャシ
黄金 チャシ
金の柵が
- 1915 uworeroshki kane.
ウウオレロシキ カネ.
重なってそびえる 音調
重なるように建っていた。

- 1916 Soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 槽
家のそばの槽の
- 1917 yakura kurka
ヤクラ クルカ
槽 上
上に
- 1918 oserhumsakno
オセレフムサクノ
音がしないよう
音もなく
- 1919 chikap reu shiri
チカッ レウ シリ
鳥 (鳥が) とまる 様子
鳥が止まるように
- 1920 a-shikobayar.
ア・シコバヤラ.
我・見せかける
飛び降りた。
- 1921 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚くべし、
- 1922 an-ewak ushike
アネワッ ウシケ
我・住む ところ
我が住いの
- 1923 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しさを
- 1924 a-ituimahunara*46 rok wa
ア・イトウイマフナラ ロク ワ
我・遠く探し求める 完了 接続
遠く探し求めてきたのだが、
- 1925 eturbak kuni p
エトウルバク クニ プ
並ぶ 必然 もの
それに匹敵する
- 1926 ne nankor a!
ネ ナンコラ!
繫 だろう 疑問
ではないか。
- 1927 Ekasu kuni p
エカス クニ プ
越える 必然 もの
それ以上の美しさ
- 1928 ne nankor a!
ネ ナンコラ!
繫 だろう 疑問
ではないか。
- 1929 Tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
今こそ
- 1930 kamui ewak i p.43
カムイ エワッ イ
神 住む 形名
神の住まいの
- 1931 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
周りが
- 1932 a-tomte ruwe
ア・トムテ ルウェ
輝いている 跡
輝かしく清められ、
- 1933 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しいのを
- 1934 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
隅から隅まで
- 1935 a-erayap kane.
ア・エラヤッ カネ.
我・感心する 音調
堪能した。
- 1936 Chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚火が
- 1937 soita barse.
ソイタ バラセ.
外で 燃える
外ではぜっていた。
- 1938 Abe nubek
アベ ヌベク
火 光
火の光が
- 1939 maknatara kane.
マクナタラ カネ.
輝いている 音調
明々と輝いていた。
- 1940 Shir an chiki
シラン チキ
様子 ある 条件
それを見て、
- 1941 chise sam ka ta
チセ サム カタ
家 そば 上 場所
家のそばを
- 1942 humimoapkash
フミモアッカシ
静かに歩く
静かな歩みで
- 1943 a-kourebentok-
ア・コウレバントク
我・足の先
足先を
- 1944 kiru kane
キル カネ
向ける 同時
巡らせて
- 1945 rorumburai ne
ロルムブライ ネ
神窓 繫
神窓へと
- 1946 a-koyaitunashka.
ア・コヤイトウナシカ.
我・急ぐ
急いだ。
- 3.2 家の中をのぞきみする
- 1947 Ratki burai
ラトキ ブライ
垂れ下がった 窓
垂れさがった窓の
- 1948 chinki kese
チンキ ケセ
裾 末端
簾の裾に
- 1949 a-kokkaechiu,
ア・コッカエチウ,
我・ひざまづく
膝を突いて
- 1950 burai kurkashike
ブライ クルカシケ
窓 上
簾の上に
- 1951 a-nankotukka
ア・ナンコトウッカ
我・顔をつける
顔を当て、
- 1952 sepka utur
セッカ ウトウル
簾の隙間 間
隙間から
- 1953 a-shikbosore.
ア・シクボソレ.
我・目を通す
中を覗いた。
- 1954 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
目を凝らすと
- 1955 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚くべし、
- 1956 kamui ewak i
カムイ エワッ イ
神 住む 形名
神の住まいに
- 1957 okai nankor a!
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
他ならない。
- 1958 Sonno an-ewak ushike
ソンノ アネワッ ウシケ
真に 我・住む ところ
まことに我が住いと比べても
- 1959 iyoma ruwe
イヨマ ルウェ
家内部を宝物で飾る 跡
調度の置かれ方、
- 1960 a-tomte ruwe
ア・トムテ ルウェ
輝いている 跡
飾り立てられ方、
- 1961 neike huike
ネイケ フイケ
どこに 隅
どこをとつても
- 1962 hoppa ruwe
ホッパ ルウェ
後に残して去る 跡
遜色
- 1963 oarar isam.
オアララ イサム.
全く ない
なかった。
- 1964 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
この大きな家の
- 1965 upsoro
ウッソロ
内部
中は

*46 ituimahunara の i- が何なのか、不明。

- 1966 komaknatara.
コマクナタラ。
輝いている
明々としていた。
- 1967 Ruirui abe
ルイルイ アベ
強い 火
燃え盛る
- 1968 abe teksam ta
アベ テクサム タ
火 すぐそば 場所
炉の火のそばに
- 1969 oshiso un wa
オシソ ウン ワ
右座 ある 接続
右座に
- 1970 okutchi urar
オクッチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧の
- 1971 pon urar tapkop
ポン ウララ タップ
小さい 霧 小山
小さな塊が
- 1972 ehorari kane.
エホラリ カネ。
居る 音調
座っていた。
- 1973 Shir an chiki
シラン チキ
様子 ある 条件
そこで
- 1974 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イッケウ
二つの 霧 元
霧の元を
- 1975 re urar ikkeu
レ ウララ イッケウ
三つの 霧 元
数々の元を
- 1976 a-kocharikar.
ア・コチャリカラ。
我・散らす
払いのけようとしたが、
- 1977 Naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
大方 二つの 回
何度
- 1978 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
試みても
- 1979 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 繫
人間の姿を
- 1980 a-kar eaikap. p.44
ア・カラ エアイカプ。
我・する できない
あらわにできなかった。
- 1981 Hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 から
久しく
- 1982 a-kar aine
ア・カラ アイネ
我・する 接続
試みるうちに、
- 1983 urar tum ta
ウララ トウム タ
霧 中 場所
霧の中で
- 1984 a-shiketoko
ア・シケトコ
我・目先
突然、視線の先が
- 1985 raikosanu.
ライコサヌ。
くらむ
くらんだ。
- 1986 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
なんと、
- 1987 boro shikupmat
ボロ シクumat
大きい 女のおとな
年かさの女が
- 1988 okai nankor a!
オカイ ナンコラ!
ある だろう 疑問
いるではないか。
- 1989 Kani kosonte
カニ コソンテ
黄金 小袖
金の着物を
- 1990 nina imi ne
ニナ イミ ネ
たき木を集める 着物 繫
普段着のように
- 1991 arutomechiu.
アルトメチウ。
身にまとう
身にまとっていた。
- 1992 imi shirika ta
イミ シリカ タ
着物 表面 場所
着物の表面には
- 1993 horkeu kebur
ホロケウ ケブル
狼 毛皮
狼の
- 1994 kani kebur
カニ ケブル
黄金 毛皮
金のなめし革が、
- 1995 kotbar ka ta
コトバラ カ タ
襟元 上 場所
襟元と
- 1996 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 場所
裾には
- 1997 sep birankani
セプ ビランカニ
幅広い 平金
幅広の平金が
- 1998 chiekarbare kane.
チエカラバレ カネ。
取り囲む 音調
巻き付かれていた。
- 1999 Kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 2000 kamui imeru
カムイ イメル
神 きらめき
稲光が
- 2001 eshimaka kane okai be
エシマカ カネ オカイ ベ
輝く 同時 ある もの
描かれているのを
- 2002 imikanere kane.
イミカネレ カネ。
上に着る 音調
上に羽織っていた。
- 2003 Attapkashi
アトタッカシ
片方の肩の上
片方の肩の上に
- 2004 shikush rayochi
シクシ ラヨチ
日差し 虹
日の差した虹が、
- 2005 attapkashi
アトタッカシ
片方の肩の上
もう一方の肩の上には
- 2006 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
端の折れた 虹
先の折れた虹が
- 2007 chieomare.
チエオマレ。
入る
描かれていた。
- 2008 Kimuikashi ta
キムイカシ タ
頭上 場所
それが頭上で
- 2009 unottasare.
ウノタサレ。
喉を交叉させる
交叉していた。
- 2010 Kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
美しい髪が
- 2011 sarambe ka ne
サラムベ カ ネ
絹 糸 繫
絹の糸となって
- 2012 ekimuikashi-
エキムイカシ・
頭上
頭を
- 2013 chiusurure.
チウスルレ。
ひろがり蔽っている
覆っていた。
- 2014 Otop etoko
オトッ エトコ
髪 行く先
毛の先が
- 2015 chioimeru-
チオイメル・
光
光って
- 2016 kote kane.
コテ カネ。
つける 音調
いた。
- 2017 Reuboki ta
レウボキ タ
下 場所
その下に
- 2018 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しいかんばせが

- 2019 rikoma chup ne
リコマ チュプネ
高所にある月 繫
高々と昇った日(月)となって
- 2020 i-nantasare.
イ・ナンタサレ
我が顔に照り返す
我が顔に照り返した。
- 2021 Nubur be sone
ヌブル ベ ソネ
霊力があるものらしく
シャーマンの力が強い女らしく、
- 2022 nubur ibor
ヌブル イボロ
霊力がある顔色
シャーマンの気品が
- 2023 annoyekar.
アンノイエカラ.
からみつく
備わっていた。
- 2024 Mukke^{*47} turem be
ムクケ トウレム ベ
姿を隠す 憑依するもの
目に見えない憑き神は
- 2025 Nochiu kiyai ne
ノチウ キヤイ ネ
星 光線 繫
星の光となって
- 2026 esermakkashi-
エセレマッカシ・
背後
背後で
- 2027 ekiyaioma.
エキヤイオマ.
またたく
瞬いていた。
- 2028 Sara turem be
サラ トウレム ベ
姿を現す 憑依するもの
姿をみせる憑き神は、
- 2029 kabap sai kunne p.45
カバパ サイクンネ
蝙蝠 輪 ように
こうもりの群れのように
- 2030 esermakkashi
エセレマッカシ
背後
背後で
- 2031 earutasa.
エアルタサ.
交又する
飛び交っていた。
- 2032 Nubutchannoye
ヌブトチャンノイエ
霊能力
シャーマンの額を
- 2033 eshirutumta-
エシルトゥムタ・
自分の髪の中に
髪の中に
- 2034 nuina kane.
ヌイナ カネ.
隠す 音調
隠していた。
- 2035 Monak pirika p
モナク ビリカ プ
そうでなくてもよいもの
ただでさえ美しいのに、
- 2036 sui basatur konna
スイバストウル コンナ
再び口の入れ墨は
また、口を彩る
- 2037 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
刺青がさやかだった。
- 2038 Ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように 接続 だけ
何と言つても
- 2039 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる 形名 も
讃えようが
- 2040 isam kane.
イサム カネ.
ない 音調
なかった。
- 2041 A-raukikur-
ア・ラウキクル・
我・心の底
女の心の底を
- 2042 uwante wa
ウワンテ ワ
見て調べる 接続
調べて
- 2043 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
みたら、
- 2044 isam korachi
イサム コラチ
ない ように
ほんのわずかに
- 2045 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻き貝
白い巻き貝に
- 2046 shikbui un ruwe
シクブイ ウン ルウェ
目つき ある 跡
目のつきよう
- 2047 rachiu un ruwe
ラチウ ウン ルウェ
眉 ある 跡
眉のありようが
- 2048 horkasuye kane okai.
ホロカスイエ カネ オカイ.
真似る 音調 ある
似ていた。
- 2049 Iyoyamokte-an kane.
イヨヤモクテ・アン カネ
不思議に思う・我 同時
不思議に思った。
- 2050 boro shikupmat
ボロ シクumat
大きい女のおとな
年かさの女、
- 2051 kamui katkemat
カムイ カトケmat
神 婦人
おごそかな淑女は、
- 2052 hemanta am be
ヘマンタ アム ベ
何 あるもの
何に
- 2053 eimokir kuni p
エイモキリ クニ プ
嘆く 必然 もの
嘆き悲しむこと、
- 2054 eshirikirap kuni p
エシリキラップ クニ プ
心配する 必然 もの
何に案じることが
- 2055 okai nankor a,
オカイ ナンコラ,
ある だろう 疑問
あるのか、
- 2056 kurka konna
クルカ コンナ
上 は
表情が
- 2057 uyanitara.
ウヤニタラ.
こわばっている
こわばっていた。
- 2058 Tu okne ibor
トゥ オクネ イボロ
二つの 悲しむ 顔色
二つの悲しみ、
- 2059 re okne ibor
レ オクネ イボロ
三つの 悲しむ 顔色
三つの悲しみを
- 2060 enuratkire.
エヌラトキレ.
顔に浮かべる
顔に浮かばせていた。
- 2061 Shine an i po
シネ アニ ポ
一つの ある 形名 強調
一ところに
- 2062 nantui pare.
ナントウイパレ.
顔を向ける
目を凝らしている。
- 2063 Nanka konna
ナンカ コンナ
顔面 は
表情が
- 2064 rapnatara.
ラフナタラ.
静まる
暗く沈んでいた。
- 2065 Tu beken nube
トゥ ベケン スベ
二つの 明るい 涙
清らかな涙を
- 2066 re beken nube
レ ベケン スベ
三つの 明るい 涙
ポロポロと
- 2067 yaikoranke
ヤイコランケ
一人で流す
こぼして
- 2068 koro okai.
コロ オカイ.
同時 ある
いた。
- 2069 Chise upSORO
チセ ウツソロ
家 内部
家の中を

*47 原綴りは mu- (改行) ke. mu-の上に k と加筆されている。muk.ke.

- 2070 a-uwampare
ア・ウワムバレ
我・調べる
調べて
- 2071 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
みると、
- 2072 harkisotta
ハラキソタ
左座に
左座で
- 2073 ne yakka
ネ ヤッカ
緊 譲歩
あったけれど、
- 2074 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように生まれるもの
どのような素性の者、
- 2075 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように口がついているもの
どのような育ちの者が
- 2076 tekekar kuni p
テケカラ クニ プ
手ずから作る 必然 もの
こしらえたもの
- 2077 ne nankor a?
ネ ナンコラ?
緊 だろう 疑問
であろうか。
- 2078 Kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
神々しい刺繍衣、
- 2079 kani chikirbe p.46
カニ チキリベ
黄金 刺繍衣
金の刺繍衣が
- 2080 rikun kakenchai
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
高い掛け竿、
- 2081 ram kakenchai
ラム カケンチャイ
低い掛け竿
低い掛け竿の
- 2082 kurkashike
クルカシケ
上
上に掛けられ
- 2083 eereweuse kane.
エエレウエウセ カネ.
しなる 音調
しなっていた。
- 2084 Kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 2085 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュプキ
二つの 神 光輝
数多くの
- 2086 re kamui chupki
レ カムイ チュプキ
三つの 神 光輝
光が
- 2087 chishikaipare.
チシカイバレ.
ひらめく
輝いていた。
- 2088 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
その美しさに
- 2089 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ.
我・揺する
うっとりとした。
- 2090 Nei chorboki ta
ネイ チョロボキ タ
1 繫 2 どこ 下 場所
その下に
- 2091 menoko sotki
メノコ ソトキ
女 寝床
女の寝床が
- 2092 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
敷かれている
- 2093 noine shir an koroka
ノイネ シラン コロカ
らしく 様子 ある 逆接
ように見えたが、
- 2094 oha sotki
オハ ソトキ
空の 寝床
誰も
- 2095 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
寝ていない
- 2096 kotomno shir an.
コトムノ シラン.
ように 様子 ある
ようだった。

3.3 招き入れられる

2097 Semohonruino

セモホンルイノ
しばらく
ややしばらく2098 an-an tek ko
アナン テク コ
いる・我 ちよっとする 条件
そこにいると、2099 seenne nak sui
セエンネ ナク スイ
否定 未詳 回
よもや2100 shiriki kuni
シリキ クニ
見える 必然
目に見、2101 hawash kuni
ハワシ クニ
言われる 必然
耳に聞くとは2102 a-ramu rok i
ア・ラム ロキ
我・思う 完了 形名
思いもしなかったのに、

2103 boro shikup mat

ボロ シクッ マト
大きい 成長する 女
年かさの女、

2104 kamui katkemat

カムイ カトケマト
神 婦人
神々しい淑女には、

2105 nei ta an-an ruwe

ネイ タ アナン ルウエ
1 繫 2 どこ 場所 いる・我 跡
どこに我がいるのか

2106 eramam be korachi

エラムム ベ コラチ
分かる もの ように
分かっているらしく、

2107 erorun rorunburai

エロルン ロルンブライ
上座の方へ 神窓
上座の方へ、神窓に

2108 kohebuni.

コヘブニ.
頭を上げる
顔を上げた。

2109 Iyainumare

イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、

2110 itak ne manu p

イタク ネ マヌ プ
言う 繫 というもの
「言葉」というものが

2111 ekutsamkonna-

エクトサムコンナ・
喉こそ
その喉に

2112 uwetunuisse.

ウウエトウヌイセ.
美しく響く
響いた。

2113 Itak hawe

イタク ハウエ
言う 声
こう

2114 ene okai i,

エネ オカイ、
このように ある 形名
語った。

2115 "Koninkarkusu

"コニンカルクス
(語り掛けの合図)
「さて、

2116 a-po tonoke

ア・ポ トノケ
我・子 殿
我が息子殿よ、

2117 a-po tekpake*48

ア・ポ テクパケ
我・子 かしら
かしらなる我が息子殿よ、

2118 Hokure ahup yan!

ホクレ アフヤン!
早く 入る 命令
早くお入りなさい。

2119 Hembara bakno

ヘムバラ バクノ
いつ まで
いつまでも

*48 tekpake 未詳。欄外にカシラと記されている。Batchelor では Tek-pake-ta adv. Near to. Close at hand とされている。今は、欄外の注記にしたがう。

- 2120 **taap korachi**
 タアア コラチ
 これ ように
 そんなふうに
- 2121 **burai oboso**
 ブライ オボソ
 窓 貫いて
 窓ごしに
- 2122 **chiyainukare**
 チヤイヌカレ
 みずから見る
 我に
- 2123 **e-i-y-ekarkar ruwe** p.47
 エ・イ・イエカラカ ルウエ
 汝・我・する 跡
 自分を見せて
- 2124 **ishikibipka**
 イシキビツカ
 目をびくびくさせる
 目をびくびく
- 2125 **ene e-an i ta an."**
 エネ エ・アニ タ アン."
 このように 汝・ある 形名 これ ある
 させているのか。]
- 2126 **ari hawash chiki**
 アリ ハワシ チキ
引用 言われる 条件
 と言われたので、
- 2127 **shiyoro keutum**
 シヨロ ケウトウム
 驚く 心
 我は恐れ入り
- 2128 **yayikush keutum**
 ヤイクシ ケウトウム
 恥ずかしい 心
 恥ずかしく
- 2129 **a-yaikore kane.**
 ア・ヤイコレ カネ.
 我・もつ 音調
 なった。
- 2130 **Tanepo ek be**
 タネポ エク ベ
 たった今 来る もの
 たった今到着した
- 2131 **a-shikobayar**
 ア・シコバヤラ
 我・見せかける
 ふりをして、
- 2132 **burai reubok wa**
 ブライ レウボク ワ
 窓 下 から
 窓の下から
- 2133 **chep shikiru**
 チェフ シキル
 魚 振り向く
 魚が身を翻すように
- 2134 **a-shikobayar**
 ア・シコバヤラ
 我・見せかける
 すばやく窓から離れ、
- 2135 **chise sam ka ta**
 チセ サム カ タ
 家 そば 上 場所
 家の傍らで
- 2136 **niwenchini kan**
 ニウエンチニ カン
 叫び 副助は
 雄叫びを遠くまで
- 2137 **a-tuimaturi.**
 ア・トゥイマトゥリ.
 我・遠く伸ばす
 響かせた。
- 2138 **A-tumba mai kan**
 ア・トゥムバ マイ カン
 我・鐸 音 副助は
 我が太刀のつばの鳴る音が
- 2139 **tununitara.**
 トゥヌニタラ.
 美しい音が響く
 美しく響いた。
- 2140 **Mosem tuyor**
 モセム トウヨロ
 入口を兼ねた納屋 中
 モセムの土間に
- 2141 **an-oshikuru,**
 アノシキル,
 我・回る
 回り、
- 2142 **a-ramkobashtep**
 ア・ラムコバシテフ
 我・刀
 我が意のままにさ走る太刀の
- 2143 **seppa rar kan**
 セツパ ララ カン
 鐸 縁 副助は
 つばの縁を
- 2144 **a-kik hum konna**
 ア・キク フム コンナ
 我・叩く 音 は
 叩いて
- 2145 **naikosanu.**
 ナイコサヌ.
 金属音がする
 チリンと鳴らした。
- 2146 **Iyainumare**
 イヤイヌマレ
 驚いた
 恐れ入った、
- 2147 **kamui hura**
 カムイ フラ
 神 匂い
 良い香り、
- 2148 **tomi hura**
 トミ フラ
 財宝 匂い
 財宝の匂いが
- 2149 **rui rera ne**
 ルイ レラ ネ
 激しい 風 繫
 強い風のように押し寄せ、
- 2150 **i-emaknakur-**
 イ・エマクナクル・
 我・奥
 我はたじたじと
- 2151 **raiba kane.**
 ライバ カネ.
 移動させる 音調
 なった。
- 2152 **Ratki aba**
 ラトキ アバ
 垂れ下がった 簾戸
 垂れた簾戸に
- 2153 **a-kotekturi**
 ア・コテクトゥリ
 我・手を伸ばす
 手を伸ばして
- 2154 **a-omausuyere.**
 ア・オマウスイエレ.
 我・そよがせる
 風にそよぐように開けた。
- 2155 **Mintar ka ta**
 ミンタラ カ タ
 土間 上 場所
 内土間に
- 2156 **imeru tura**
 イメル トウラ
 きらめき ともに
 光とともに、
- 2157 **urar tura**
 ウララ トウラ
 霧 ともに
 霧とともに
- 2158 **a-rutkosanu.**
 ア・ルトコサヌ.
 我・押し入る
 踏み入った。
- 2159 **Harkiso ne**
 ハラキソ ネ
 左座 繫
 足を運び
- 2160 **a-urekushte.**
 ア・ウレクシテ.
 我・通る
 左座を進んだ。
- 2161 **Hoka etok ne**
 ホカ エトク ネ
 炉 行く先 繫
 炉の上座に
- 2162 **a-an hum konna**
 ア・アン フム コンナ
 座る・我音 は
 我は音を立てて
- 2163 **naikosanu.**
 ナイコサヌ.
 金属音がする
 座った。
- 2164 **Tu nishte urar**
 トウ ニシテ ウララ
 二つの かない 霧
 硬い霧を
- 2165 **re nishte urar**
 レ ニシテ ウララ
 三つの かない 霧
 幾重にも
- 2166 **a-shiokarire,**
 ア・シオカリレ,
 我・己の周りにめぐらせる
 周りに立てて
- 2167 **a-yaikotuima-**
 ア・ヤイコトウイマ・
 我・自ら遠く
 我は考えを
- 2168 **shiramsuipa.**
 シラムスイパ.
 己の心を揺らす
 遠くに巡らした。
- 2169 **Konep anuni**
 コネフ アヌニ
 何 よそ者
 どこかのよそ者、
- 2170 **konep oyabe** p.48
 コネフ オヤベ
 何 よそ者
 どこかの他人が
- 2171 **okai ruwe ne kuni batek**
 オカイルウエ ネ クニ バテク
 ある 跡 繫 必然 のみ
 いるとばかり
- 2172 **a-ramu rok wa**
 ア・ラム ロク ワ
 我・思う 完了 接続
 思っていたら、

- 2173 nep mokko
ネ ムッコ
何 思いがけず
思いがけず、
- 2174 “Popo”^{*49} ari
“ポポ” アリ
息子 引用
「息子」と
- 2175 i-ye-an hawe okai chiki
イ・イエ・アン ハウエ オカイ チキ
我・言われる 声 ある 条件
呼ばれて、
- 2176 eashka
エアシカ
頗る
とても
- 2177 iyoyamokte-an kane.
イヨヤモクテ・アン カネ。
不思議に思う・我 音調
驚いた。
- 2178 Boro shikup mat
ボロ シクッ マト
大きい 成長する 女
年かさの女は
- 2179 i-kohebuni
イ・コヘブニ
我・頭を上げる
我に向け顔を上げて、
- 2180 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イッケウ
二つの 霧 元
我を囲む何重もの
- 2181 re urar ikkeu
レ ウララ イッケウ
三つの 霧 元
霧の元を
- 2182 i-kocharikar.
イ・コチャリカラ。
我・払う
払いのけようとした。
- 2183 Ki p ne koroka
キ ッ ネ コロカ
するもの 繋 逆接
だけど
- 2184 naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
大方 二つの 回
何度も何度も
- 2185 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
試みても
- 2186 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 繋
私の姿を
- 2187 i-kar eaikap kane.
イ・カラ エアイカッ カネ。
我・する できない 音調
頭わにすることができなかった。
- 2189 yaikorbare
ヤイコロバレ
持つ
奮い立たせて
- 2190 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 は
喉を
- 2191 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
震わせて
- 2192 itak hawe
イタク ハウエ
言う 声
こう
- 2193 ene okai i,
エネ オカイ,
このように ある 形名
言った。
- 2194 “Koninkarkusu
“コニンカルクス
(語り掛けの合図)
「さあ、
- 2195 a-potonoke,
ア・ポトノケ,
我・息子殿
私の息子殿
- 2196 tane e-ekap-an
タネ エ・エカッ・アン
今 汝・挨拶する・我
おまえを抱擁し、
- 2197 e-musa-an
エ・ムサ・アン
汝・撫でる・我
おまえを撫でさすって
- 2198 kusu ne koroka
クス ネ コロカ
根拠 繋 逆接
やろうと思うが、
- 2199 etoko ta
エトコ タ
行く先 場所
その前に
- 2200 nep ubashkuma
ネ ヲ ヲバシクマ
何 言い伝え
物語を
- 2201 a-ki wa
ア・キ ヲ
我・する 接続
して、
- 2202 e-nure-an kusune.
エ・ヌレ・アン クスネ。
汝・聞かせる・我 意志
聞かせたいのだ。
- 2203 Somo ko anakne
ソモ コ アナクネ
否定 条件 は
そうしないと
- 2204 ene e-iramu i ka
エネ エ・イラム イ カ
このように 汝・思う 形名 も
腑に
- 2205 isam ruwe ne.
イサム ルウェ ネ。
ない 跡 繋
落ちないだろう。
- 2206 Koninkarkusu
コニンカルクス
(語り掛けの合図)
さあ、
- 2207 a-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
息子殿、
- 2208 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 は
今こそ
- 2209 nekona shinrit
ネコナ シンリト
どのように 出自
おまえが
- 2210 koro kuni p
コロ クニ ヲ
持つ 必然 もの
どんな先祖を
- 2211 e-ne ruwe ne i
エ・ネ ルウェ ネ イ
汝・である 跡 繋 形名
持つ者であるか
- 2212 pirikano a-ye wa
ピリカノ ア・イエ ワ
良く 我・言う 接続
はっきりと説明し、
- 2213 e-nure-an kusu ne
エ・ヌレ・アン クス ネ
汝・聞かせる・我 根拠 繋
聞かせてあげる
- 2214 ruwe tab an na.
ルウェ タパン ナ。
跡 これ ある (訴え)
からな。
- 2215 Pirikano nu yan!
ピリカノ ヌ ヤン!
良く 聞く 命令
耳を傾けなさい。
- 2216 Ambe tapne
アムベ タツネ
あること こう・そう
実のところ、
- 2217 teeta
テエタ
以前
昔、
- 2218 Tomisambechi p.49
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 2219 Shinutapka ta
シヌatapカ タ
地名 場所
シヌatapカに
- 2220 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父親が
- 2221 yayirwaki koro
ヤイリワキ コロ
兄弟がいない 持つ
男一人で、
- 2222 shine tureshi ne wa
シネ トウレシ ネ ワ
一つの妹 繋 接続
一人の妹と

3.4 狼神の妹とシヌatapカ彦が結ばれる

^{*49} 原綴り po。これに po が書き加えられている。

- 2223 okai ruwe ne.
オカイ ルウエ ネ.
ある 跡 繫
住んでいた。
- 2224 Okkayo ot ta
オッカヨ オトタ
若者 所 場所
兄、
- 2225 menoko ot ta
メノコ オトタ
女 所 場所
妹ともに
- 2226 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌
美しく、
- 2227 ainu ot ta hene
アイヌ オトタ ヘネ
人間 所 場所 も
人間の世界にも
- 2228 kamui ot ta hene
カムイ オトタ ヘネ
神 所 場所 も
神の世界にも
- 2229 eturbak be
エトゥルバク ベ
並ぶ もの
及ぶべき者は
- 2230 shinen ka isam.
シネン カイサム.
一人 も ない
一人もいなかった。
- 2231 E-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父親の
- 2232 kor rametok
コロ ラメトク
持つ 勇者
胆力と
- 2233 koro bawetok
コロ バウエトク
持つ 雄弁
弁の才は
- 2234 kamui or bakno
カムイ オロ バクノ
神 所 まで
神のいるところまで
- 2235 asuru ash ruwe ne.
アスル アシ ルウエ ネ.
噂 立つ 跡 繫
その噂が流れた。
- 2236 Shinrit itak
シンリト イタク
出自 言葉
先祖が
- 2237 chihoppa itak
チホッパ イタク
残される 言葉
残した言葉
- 2238 ene okai i ne kusu
エネ オカイ ネ クス
このように ある 形名 繫 根拠
どおりに
- 2239 Tunibok um mat
トゥニボク ウム マト
トゥニボク (村の名) ある 女
トゥニボクの女が
- 2240 Tomisambechi
トミサンベチ
地名
トミサンベチ、
- 2241 Shinutapkashi
シヌタプカシ
地名
シヌタプカに
- 2242 eitomnukar wa
エイトムヌカラ ワ
嫁ぐ 接続
嫁いで来た。
- 2243 oro ta iresu yubi
オロ タ イレス ユビ
所 場所 育てる 兄
そこで育ての兄、
- 2244 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉、
- 2245 Kamuiotobush
カムイオトブシ
人名
カムイオトブシ、
- 2246 Pon Yayepirika
ボン ヤイエピリカ
小さい ヤイエピリカ
ボンヤイエピリカと
- 2247 e-yubutari-
エ・ユブタリ・
兄弟合わせて
兄弟あわせて
- 2248 ine irwak ne
イネ イリワク ネ
四つの 兄弟 繫
四人が
- 2249 hekatpa ruwe ne.
ヘカトパ ルウエ ネ.
生まれる 跡 繫
生まれた。
- 2250 Raboki ta
ラボキ タ
間 場所
おりしも
- 2251 aokai anakne
アオカイ アナクネ
我 は
私の方と言えば、
- 2252 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天の
- 2253 horkeu kamui
ホロケウ カムイ
狼 神
狼神には、
- 2254 yayirwakikoro
ヤイリワキコロ
兄弟がいない
男兄弟がなかったが、
- 2255 tu turesh ne wa
トゥ トウレシ ネ ワ
二つの 妹 繫 接続
妹が二人いて、
- 2256 poniune menoko
ポニウネ メノコ
年下の 女
その小さな方が
- 2257 a-ne ruwe ne.
ア・ネ ルウエ ネ.
我・繫 跡 繫
私であった。
- 2258 Kamui a-ne kusu
カムイ ア・ネ クス
神 我・繫 根拠
私は神であるので
- 2259 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天で
- 2260 i-hokukore-an ko
イ・ホクコレ・アン コ
我・夫を与えられる 条件
夫を与えられたのに
- 2261 nep kusu
ネプ クス
何 根拠
なぜ
- 2262 ene yainu-an i ne ya,
エネ ヤイヌ・アニ ネ ヤ,
このように 考える・我 形名 繫 疑問
思い迷ったのか、
- 2263 a-ye poka
ア・イエ ポカ
我・言う さえ
口にするのも
- 2264 eyashtoma p
エヤシトマ プ
恥じる もの
恥ずかしいこと
- 2265 ne koroka
ネ コロカ
繫 逆接
だけれど
- 2266 an korachi p.50
アン コラチ
ある ように
ありのままを
- 2267 pirika p hene
ピリカ プ ヘネ
よい ものも
良いことも
- 2268 wem be hene
ウエム ベ ヘネ
悪い ものも
悪いことも
- 2269 somo a-ye ko
ソモ ア・イエ コ
否定 我・言う 条件
言わないでいると
- 2270 wen ruwe ne.
ウエン ルウエ ネ.
悪い 跡 繫
良くない。
- 2271 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
そこで
- 2272 ene ene nei katu
エネ エネ ネ カトゥ
このように このように 1 繫 2 どこ 姿・形・型
あったとおりのことを
- 2273 obitta a-ye hawe ne.
オビッタ ア・イエ ハウエ ネ.
皆 我・言う 声 繫
全部話す。
- 2274 Tane matkoro wa
タネ マトコロ ワ
今 妻を娶る 接続
シヌタプカ彦は既に妻を娶り、*50

- 2275 pokoro kane an.
ポコロ カネ アン.
(まるで)ように同時 ある
子を成している。
- 2276 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ男
おまえの父(シスタプカ彦)は
- 2277 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌
美丈夫で
- 2278 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
度胸もあり、
- 2279 a-koyairamhotari.
ア・コヤイラムホタリ.
我・恋慕する
私は恋い慕った。
- 2280 Orun batek yainu-an.
オルン バテク ヤイヌ・アン.
方向のみ 考える・我
彦のことばかりを考えていた。
- 2281 Kamui hoku
カムイ ホク
神 夫
神の夫を
- 2282 a-i-kore ko
ア・イ・コレ コ
我・与えられる条件
与えられても
- 2283 a-etoranne,
ア・エトランネ,
我・大儀に思う
うんざりで、
- 2284 a-koban.
ア・コバン.
我・拒む
夫を拒んだ。
- 2285 Itakkashi-an.
イタカシ・アン.
言葉に背く・我
言うことを聞かなかった。
- 2286 Kunne hene
クンネ ヘネ
夜も
夜も
- 2287 tokap hene^{*51}
トカプ ヘネ
昼も
昼も
- 2288 Wenramubekamam
ウエンラムベカムム
ひどく苦勞する
ひどく苦しい思いを
- 2289 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する 接続
して
- 2290 chish-an koro batek
チシ・アン コロ バテク
泣く・我 同時のみ
泣いてばかりで
- 2291 an-an awa kusu
アナン アワ クス
いる・我 展開 根拠
すごしていたので、
- 2292 iki-an kuni p
イキ・アン クニ プ
する・我 必然もの
私のふるまいが
- 2293 a-i-kobashte hine
ア・イ・コバシテ ヒネ
我・気付かれる 接続
知られるところとなって、
- 2294 i-enka ta hauutasa.
イ・エンカ タ ハウウタサ.
我・上 場所 罵声が飛び交う
私の上に非難の音が飛びかった。
- 2295 “Sonno wem buri ne.” ari
“ソノン ウェム ブリ ネ。” アリ
真に 悪い 行い 繋 引用
「まったく不道德なことだ。」と
- 2296 hawash koro
ハワシ コロ
言われる 同時
いわれ、
- 2297 a-i-kokobankar.
ア・イ・ココバンカラ.
我・許されない
人間との結婚は許されなかった。
- 2298 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
それで
- 2299 ene he tap ne
エネ ヘ タプ ネ
このように 疑問 これ 繋
このように
- 2300 a-ramu humi am be
ア・ラム フミ アム ベ
我・思う 気配 あるもの
私の望みが
- 2301 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう
- 2302 a-i-kokobankar
ア・イ・ココバンカラ
我・許されない
許されない
- 2303 hawe ne ko anakne
ハウエ ネ コ アナクネ
声 繋 条件 は
というのなら、
- 2304 a-yaikewor-
ア・ヤイケウオロ・
我・己の体
みずから
- 2305 ochiwe kuni
オチウエ クニ
淫事 必然
命を絶とうと
- 2306 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う 根拠
思い、
- 2307 keshto somo ibe-an no
ケシト ソモ イベ・アン ノ
毎日 否定 食事する・我 接続
食を絶ち、毎日
- 2308 chishkohotke-an awa
チシコホトケ・アン アワ
泣きながら寝る・我 展開
泣きながら寝ていたら、
- 2309 iresu yubi^{*52}
イレス ユビ
育てる 兄
育ての兄と
- 2310 Iresu sapo p.51
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉が、^{*53}
- 2311 shino eramubekamam^{*54}
シノ エラムベカムム
まことに 辛い思いをする
手を焼いて、
- 2312 eramusarak.
エラムサラク.
いまいましい
どうしたものかと気に病んだ。
- 2313 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
それで、
- 2314 shi nish kanto ot ta
シ ニシ カント オト タ
大きな空 天 所 場所
大空の天に
- 2315 shi horkeu tono
シ ホロケウトノ
大きな狼 殿
狼の大殿である
- 2316 a-keusutu an ruwe ne
ア・ケウストウ アン ルウェ ネ
我・伯父 ある跡 繋
伯父がいて、
- 2317 tapne nei katu
タプネ ネ カトゥ
こう・そう 1 繋 2 どこ 姿・形・型
このいきさつを
- 2318 iresu yubi
イレス ユビ
育てる 兄
私の兄が
- 2319 a-keusutu nure awa
ア・ケウストウ スレ アワ
我・伯父 聞かせる 展開
伯父に話したところ、
- 2320 a-keusutu
ア・ケウストウ
我・伯父
伯父の
- 2321 ene itak i
エネ イタキ
このように 言う 形名
言うことには、
- 2322 “Ochiu ari a-ye p
“オチウ アリ ア・イエ プ
姦通 引用 言われるもの
「淫ら事とか

*50 トウニボック姫が第一夫人。

*51 原ノートには hene が欠けているので補う。

*52 yubi. この語は後で書き加えられたもの。

*53 この「育ての兄」と「育ての姉」は兄の狼神とその上の妹のこと。今語っている「年かきの女」は下の妹である。

*54 原綴りは eramu bekam. 後に、これに-am が添えられている。

- 2323 kinin ari a-ye p anakne
 キニン アリ ア・イエ ヲ アナクネ
 淫乱 引用 言われるものは
 色狂いとかについては、
- 2324 kamui hene
 カムイ ヘネ
 神 も
 神でも
- 2325 ainu hene
 アイヌ ヘネ
 人間 も
 人間でも、
- 2326 shukupkuru
 シュクフクル
 若人
 若人
- 2327 ari a-ye p
 アリ ア・イエ ヲ
 引用 言われるもの
 と呼ばれる者、
- 2328 nokan kuru
 ノカン クル
 小さい人
 幼い者
- 2329 ari a-ye p anakne
 アリ ア・イエ ヲ アナクネ
 引用 言われるものは
 と呼ばれる者は、
- 2330 keutummu
 ケウトウム
 心
 そんな気持ちを
- 2331 somo ouchutkonno
 ソモ オウチュトコンノ
 否定 互いに異なる
 誰しも
- 2332 okai be ne.
 オカイ ベ ネ
 あるもの 繫
 抱くものだ。
- 2333 Tambe kusu
 タムベ クス
 これ 根拠
 それゆえ、
- 2334 ainu ari
 アイヌ アリ
 人間 引用
 人間と
- 2335 a-borse kuni p
 ア・ボロセ クニ ヲ
 よばれる 必然 もの
 呼ばれる者、
- 2336 Tomisambechi
 トミサムベチ
 地名
 トミサンベチ、
- 2337 Shinutapka ta
 シヌタツカ タ
 地名 場所
 シヌタプカの
- 2338 kamui rametok
 カムイ ラメトク
 神 勇者
 神のような勇者
- 2339 ne a yakka
 ネ ア ヤッカ
 繫 完了 譲歩
 は、
- 2340 tu makan shiri wano
 トウ マカン シリ ワノ
 二つの奥 様子 から
 幾世代も
- 2341 re makan shiri wano
 レ マカン シリ ワノ
 三つの奥 様子 から
 さかのぼる昔から
- 2342 kamui or bakno
 カムイ オロ バクノ
 神 所 まで
 神まで
- 2343 shinrichi
 シンリチ
 先祖
 その出自が
- 2344 a-ukoeraman
 ア・ウコエラマン
 知られる
 知られていて、
- 2345 kamui tutanu p ne.
 カムイ トツタヌ ヲ ネ
 神 次ぐ もの 繫
 神に次ぐ者であった
- 2346 Tambe kusu
 タムベ クス
 これ 根拠
 ために、
- 2347 a-ponmatkarku
 ア・ポンマトカルク
 我・幼い姪
 我が幼い姪が
- 2348 sambe renkaine
 サムベ レンカイネ
 心臓 意志に従う
 意のおもむくまま、
- 2349 keutum renkaine
 ケウトウム レンカイネ
 心 意志に従う
 心のままに
- 2350 kamui ne am be
 カムイ ネ アム ベ
 神 繫 あるもの
 神である者*55に
- 2351 rai bakno
 ライ バクノ
 死ぬまで
 命の限り
- 2352 oshikote p.52
 オシコテ
 惚れる
 情けをかけると
- 2353 hawe ne yakun
 ハウエ ネ ヤクン
 声 繫 条件
 言うのなら、
- 2354 chise tura
 チセ トウラ
 家 ともに
 家ごと、
- 2355 chashi tura
 チャシ トウラ
 チャシ ともに
 城ごと
- 2356 Tomisambechi
 トミサムベチ
 地名
 トミサンベチ、
- 2357 Shinutapka
 シヌタツカ
 地名
 シヌタプカに
- 2358 chioranke wa
 チオランケ ワ
 降りる 接続
 下って
- 2359 ainu menoko tura
 アイヌ メノコ トウラ
 人間 女 ともに
 人間の女とともに
- 2360 utush yakka
 ウトウシ ヤッカ
 相妻になる 譲歩
 相妻となっても、
- 2361 pirika kamui
 ビリカ カムイ
 よい 神
 かならずしも良い神には
- 2362 ot ta ka isam buri
 オト タ カ イサム ブリ
 所 場所 も ない 行い
 ない悪習とは
- 2363 somo ne katu
 ソモ ネ カトゥ
 否定 繫 姿・形・型
 いえない。
- 2364 renkaine
 レンカイネ
 意志に従う
 それで
- 2365 kamui ne yakka
 カムイ ネ ヤッカ
 神 繫 譲歩
 神だって
- 2366 re utushmat hene
 レ ウトウシマト ヘネ
 三つの 相妻 も
 相妻を
- 2367 ine utushmat hene
 イネ ウトウシマト ヘネ
 四つの 相妻 も
 何人も
- 2368 kor be ne.” ari
 コロ ベ ネ.” アリ
 持つもの 繫 引用
 持つのだ。」と言って
- 2369 sonno i-omap koro
 ソンノ イ・オマツ コロ
 真に 我・可愛がる 同時
 私をいとおしんで
- 2370 ramuoshma.
 ラムオシマ.
 同意する
 願いを聞き入れてくれた。
- 2371 Tambe kusu
 タムベ クス
 これ 根拠
 そこで、
- 2372 chise tura
 チセ トウラ
 家 ともに
 家ごと、
- 2373 chashi tura
 チャシ トウラ
 チャシ ともに
 城ごと

*55 シヌタプカ彦

- 2374 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
宝物を
- 2375 boronno boronno
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
ふんだんに
- 2376 a-okkeukashi
ア・オッケウカシ
我・うなじ
首に付けられ
- 2377 a-epirikare wa
ア・エピリカレ ワ
飾りつけられる 接続
美しく装われ
- 2378 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 2379 Shinutapka
シヌタツカ
地名
シヌタツカに
- 2380 a-oran wa
ア・オラン ワ
我・降りる 接続
降りて、
- 2381 ainu menoko a-tush wa
アイヌ メノコ ア・トゥシ ワ
人間 女 我・相妻となる 接続
人間の女と相妻になり、
- 2382 sonno ramoshi wano
ソンノ ラモシ ワノ
真に 心の底 から
心の底から、
- 2383 keutum oshiwano
ケウトウム オシワノ
心 内から
胸の内から
- 2384 a-obitta
ア・オビッタ
我・皆で
皆で
- 2385 uwekatarotke-an,
ウウエカタロトケ・アン、
仲がいい・我ら
仲良く暮らした。
- 2386 uwomap-an.
ウウオマフ・アン。
睦みあう・我ら
睦みあった。
- 2387 Nei wa ambe
ネ ワ アムベ
繋 接続 あること
そんなことが、
- 2388 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 繋
高い評判となって
- 2389 chihobunire.
チホブニレ。
起きる
知れ渡った。

3.5 狼神の妹が幸せを妬まれる

- 2390 Uwepirika-an kashpa hawe
ウウエピリカ・アン カシパ ハウエ
幸せに暮らす・我 甚だしい 声
私たちが幸せ過ぎるという噂に
- 2391 tuima okai be
トゥイマ オカイ ベ
遠い ある もの
遠くにいるもの、
- 2392 hanke okai be
ハンケ オカイ ベ
近い ある もの
近くに住む者が
- 2393 eiyekeshke.
エイイエケシケ。
嫉む
ねたみを抱いた。
- 2394 Tambe kusu
タムベ クス
これ 根拠
そこで、
- 2395 shukup turashi
シユクツ トウラシ
成長する 沿って
世をへるあいだ、
- 2396 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 のみ
争いと
- 2397 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 のみ
いくさばかりだった。
- 2398 uwesamanno p. 53
ウウエサマンノ
一緒に
一緒に
- 2399 a-uarkamka
ア・ウアッカムカ
我・互のただ一つの肌
皮膚がはがれるような
- 2400 otasashke
オタサシケ
苦勞を分かちあう
痛みを受けた。
- 2401 eritne shikup
エリトネ シクツ
つらい 成長する
過酷な日々を
- 2402 a-ki rokine
ア・キ ロキネ
我・する 接続
過ごしたあげく、
- 2403 tumi utur
トゥミ ウトゥル
戦い 間
戦いの中で
- 2404 a-eshini i ta
ア・エシニ イ タ
我・休む 形名 場所
休息したときに
- 2405 e-yaikosanke-an.
エ・ヤイコサンケ・アン。
汝・産む・我
私はおまえを産んだのだ。

- 2406 Umurek a-ne wa
ウムレク ア・ネ ワ
夫婦 我・繋 接続
私たち夫婦は
- 2407 sonno e-omap-an.
ソンノ エ・オマフ・アン。
真に 汝・可愛がる・我
まことにおまえを可愛がった。

3.6 神の世界へ去る

- 2408 Tanepo
タネポ
たった今
ようやく
- 2409 e-reye kane^{*56}
エ・レイエ カネ
汝・這う 程度
おまえが這うほどに
- 2410 e-iki i ta
エ・イキ イ タ
汝・する 形名 場所
なったときに、
- 2411 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父は
- 2412 mashkino
マシキノ
あまりに
あまりにも、
- 2413 ainu moshiri ta
アイヌ モシリ タ
人間 国土 場所
人間の世界で
- 2414 a-ukokeshke
ア・ウコケシケ
皆に妬まれる
憎しみを受け、
- 2415 a-ukoebokpa.
ア・ウコエボクパ。
憎まれる
嫉妬された。
- 2416 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 2417 ramushinne no
ラムシンネ ノ
安心する 接続
安心して
- 2418 ainu moshiri ot ta
アイヌ モシリ オト タ
人間 国土 所 場所
人間の世界に
- 2419 an eaikap.
アン エアイカブ。
ある できない
いることができない。
- 2420 'Kamui ot ta
カムイ オト タ
神 所 場所
『神々のところへ
- 2421 paye-an wa
パイエ・アン ワ
行く・我 接続
立ち去って、

*56 原ノートでは kane の後にもう一度 kane が書かれているが、誤記とみなし削除する。

- 2422 ramushinne no
ラムシンネ ノ
安心する 接続
安心して、
- 2423 inkush sak no
インクシ サクノ
危険な予感がする 欠く 接続
危ぶむことなく、
- 2424 hotashnu sak no
ホタシヌ サクノ
びくびくする 欠く 接続
怖れることなく、
- 2425 shino ukoro
シノ ウコロ
まことに結婚する
まことの結婚、
- 2426 sonno ukor
ソンノ ウコロ
真に結婚する
本当の結婚を
- 2427 a-ki kusu ne.
ア・キ クス ネ
我・する 根拠 繋
しよう』
- 2428 ari itak kane.
アリ イタク カネ
引用 言う 程度
とおまえの父は言った。
- 2429 A-niukesh koroka
ア・ニウケシ コロカ
我・しかねる 逆接
私は嫌だったが、
- 2430 ene a-kar i
エネ ア・カラ イ
このように我・する 形名
どのようにすることも、
- 2431 ene a-ye i
エネ ア・イエ イ
このように我・言う 形名
どのように言うことも
- 2432 isam kane.
イサム カネ
ない 程度
できない。
- 2433 Iresu yubi hene
イレス ユビ ヘネ
育てる 兄 例示
育ての兄も
- 2434 iresu sapo hene
イレス サポ ヘネ
育てる 姉 例示
育ての姉も、
- 2435 moshma
モシマ
ほか
他の
- 2436 e-yubutari hene
エ・ユブタリ ヘネ
汝・兄たち 例示
おまえの兄たちも、
- 2437 shino naa ubakno
シノ ナア ウバクノ
まことにまだ同じくらいに
まだ同じように、
- 2438 ubakno korachi
ウバクノ コラチ
同じくらいに ように
同じくらいに
- 2439 nokan shiri
ノカン シリ
小さい 様子
幼い様子であるが、
- 2440 kamui turanno^{*57}
カムイ トウランノ
神 ともに
神々とともに
- 2441 uitaknuye-an wa
ウイタクヌイエ・アン ワ
遺言する・我 接続
言い付けを残して、
- 2442 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
私たちは天空へ
- 2443 arki-an ruwe ne. p. 54
アッキ・アン ルウェ ネ
来る・我 跡 繋
昇ったのだ。
- 2444 Raboki ta
ラボキ タ
間 場所
その間に、
- 2445 ainu moshiri wano
アイヌ モシリ ワノ
人間 国土 始点
人間の世界で
- 2446 honkoro-an kane
ホンコロ・アン カネ
妊娠する・我 程度
私は子を宿し、
- 2447 rikin-an.
リキン・アン
あがる・我
天空へ昇ったのだ。
- 2448 Tam be kusu
タム ベ クス
このもの 根拠
そこで、
- 2449 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天空で
- 2450 nani pokor-an.
ナニ ポコロ・アン
すぐに子を産む・我
すぐに子を産んだ。
- 2451 Shine pom matkachi
シネ ポム マトカチ
一つの小さい少女
一人の娘を
- 2452 a-yaikosanke.
ア・ヤイコサンケ
我・産む
産んだ。
- 2453 Utushmat
ウトウシマト
相妻
私は相妻
- 2454 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 根拠
であるから、
- 2455 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天空に
- 2456 an-an yakka
アナン ヤッカ
いる・我 譲歩
いても、
- 2457 shinnai chise
シンナイ チセ
違った 家
別の家、
- 2458 shinnai chashi ot ta
シンナイ チャシ オトタ
違う チャシ 所 場所
別の館に
- 2459 an-an.^{*58}
アナン
いる・我
いた。
- 2460 A-matnepo hene
ア・マトネポ ヘネ
我・娘 例示
私の娘も、
- 2461 sonno a-yaikosanke p
ソンノ ア・ヤイコサンケ ヲ
真に 我・産む もの
私が産んだ者
- 2462 ne koroka
ネ コロカ
繋 逆接
ではあるのだが、
- 2463 nep kusu
ネッ クス
何 根拠
どうして
- 2464 ene yainu-an i
エネ ヤイヌ・アニ
このように考える・我 形名
そのように思う
- 2465 ne nankor a.
ネ ナンコラ
繋 だろう 疑問
ことだろうか。
- 2466 Kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
私は天空に
- 2467 shirepa-an i wano
シレパ・アニ ワノ
着く・我 形名 始点
着いたときから、
- 2468 shine to hene
シネ ト ヘネ
一つの日 例示
一日でも
- 2469 shine anchikar hene
シネ アンチカラ ヘネ
一つの晩 例示
一晩でも、
- 2470 to emko hene
ト エムコ ヘネ
日 半分 例示
半日でも、
- 2471 ponno ka
ボンノ カ
少し 例示
少しも

*57 狼神の妹の憑神のことを指すと推測される。

*58 シスタバカ彦と別の館で暮らした、ということと推測される。

- 2472 e-oirā-an eaikap.
エ・オイラ・アン エアイカフ。
汝・忘れる・我 できない
おまえを忘れることができない。
- 2473 Kunne hene
クンネ ヘネ
夜 例示
夜も
- 2474 tokap hene
トカフ ヘネ
昼 例示
昼も、
- 2475 e-eshikarun-an kasui
エ・エシカルン・アン カスイ
汝・思い出す・我 甚だしい
おまえをよく思い出し、
- 2476 a-nankotchake
ア・ナンコトチャケ
我・顔の前
私の顔の前に
- 2477 eerachitke.
エエラチトケ。
ぶらさがる
面影が浮かぶ。
- 2478 Sonno e-ewen-an
ソンノ エ・エウエン・アン
真に 汝・悪い・我
私はおまえの不在がつらく、
- 2479 e-nukar-an rusui.
エ・ヌカラ・アン ルスイ。
汝・見る・我 したい
おまえに会いたかった。
- 2480 Ibe poka
イベ ボカ
食事する 限度
食事も
- 2481 a-etoranne.
ア・エトランネ。
我・大儀に思う
喉を通らない。
- 2482 Otu keshpa ta
オトゥ ケシパ タ
二つの 毎年 場所
二年も
- 2483 ore keshpa ta
オレ ケシパ タ
三つの 毎年 場所
三年も、
- 2484 otu chish wembe
オトゥ チシ ウェムベ
二つの 泣く 涙のしずく
幾度となく
- 2485 ore chish wembe
オレ チシ ウェムベ
三つの 泣く 涙のしずく
悲しみの涙を
- 2486 a-yayekote.
ア・ヤイエコテ。
我・自らに結び付ける
流した。
- 2487 Makanneko
マカanneコ
あるときには
あるときは、
- 2488 hotke-an kane.
ホトケ・アン カネ。
寝る・我 程度
起き上がれなくなった。
- 2489 E-ewen-an p. 55
エ・エウエン・アン
汝・悪い・我
私はつらい思いをして、
- 2490 wen yairambekamam-an awa
ウェン ヤイラムベカマム・アン アワ
悪い みずから思い悩む・我 展開
悲しい思いをした。
- 2491 ne wa am be
ネ ワ アム ベ
繋 接続 あるもの
そのことで、
- 2492 kanto ot ta
カント オト タ
天 所 場所
天空の
- 2493 kamui utar
カムイ ウタラ
神 たち
神々も
- 2494 erambekamam.
エラムベカマム。
思い悩む
つらい思いをした。
- 2495 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 2496 chikoshiyante
チコシヤンテ
怒り罵る
私は神の怒りを
- 2497 a-i-y-ekarkar
ア・イ・イエカラカラ
我・される
招いた。
- 2498 'Isam buri
'イサム ブリ
ない 行い
『ありえない
- 2499 ne wa kusu
ネ ワ クス
繋 接続 根拠
振る舞いである。
- 2500 tu makan shir wa
トゥ マカン シリ ワ
二つの 奥にある 様子 始点
幾代も遡る
- 2501 re makan shir wa
レ マカン シリ ワ
三つの 奥にある 様子 始点
昔から、
- 2502 ramu isam be utar
ラム イサム ベ ウタラ
思う ない もの たち
分別のない者たちが
- 2503 kamui tomo
カムイ トモ
神 真中
神々の意向に
- 2504 a-ekokanu wa
ア・エココヌ ワ
我・委ねる 接続
従い、
- 2505 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいに
- 2506 a-kohoppa i
ア・コホッパ イ
残される 形名
置き去りにされることは
- 2507 boronno an wa
ボロンノ アン ワ
たくさん ある 接続
沢山ある。
- 2508 nekon ka
ネコン カ
どのように 例示
どうにかして
- 2509 e-poho wenno hene
エ・ポホ ウェンノ ヘネ
汝・息子 悪く 例示
おまえの息子は
- 2510 a-resu wa kusu
ア・レス ワ クス
我・育てる 接続 根拠
育つだろう。
- 2511 otu keshpa ta
オトゥ ケシパ タ
二つの 毎年 場所
二年も
- 2512 ore keshpa ta
オレ ケシパ タ
三つの 毎年 場所
三年も、
- 2513 shisak chiresu
シサク チレス
またとない 育てられる
比類ない養育、
- 2514 kamui chiresu
カムイ チレス
神 育てられる
神の如き養育を
- 2515 a-ekarkar wa
ア・エカラカラ ワ
される 接続
受けて、
- 2516 nisashnu shikup
ニサシヌ シクッ
元気である 成長する
おだやかな成長、
- 2517 ratchi shikup
ラチ シクッ
穏やかな 成長する
健やかな成長を
- 2518 ki wa
キ ワ
する 接続
遂げて、
- 2519 tane semor borono
タネ セモロ ボロノ
今 否定 大きく
今は少しばかり
- 2520 chishikupka wa am be
チシクッカ ワ アム ベ
成長する 接続 あるもの
成長した者である。
- 2521 hemanta kusu
ヘマンタ クス
何 根拠
どうして、
- 2522 onramkasu
オンラムカス
あまりにも
度を越えて
- 2523 e-eshikarun kasui wa
エ・エシカルン カスイ ワ
汝・思い出す 甚だしい 接続
おまえは息子を思い出し、
- 2524 e-otashumnere bakno
エ・オダシユムネレ バクノ
汝・病気になる 限度
病に倒れるまでに

- 2525 ki shiri ta an.
キ シリ タ アン.
する 様子 これ ある
なるのか。
- 2526 Shino wem buri ne.
シノ ウェム ブリ ネ.
まことに悪い 行い 繫
まことに良くないことだ。』
- 3.7 再び人間の世界へ降る
- 2527 Ari hawash koro
アリ ハワシ コロ
引用 言われる 同時
このように言われながら、
- 2528 sonno i-enkashi ta
ソンノ イ・エンカシ タ
真に 我・離れた上 場所
私の上で
- 2529 hau utasa.
ハウ ウタサ.
声 交わる
声が響いた。
- 2530 'Neino
ネノ
繫
『そのような
- 2531 wen katchamkoro be
ウェン カトチャムコロ ベ
悪い 悪心を持つ もの
悪い性根の者がいることで、
- 2532 a-ekotankoro p. 56
ア・エコタンコロ
占領される
我らは村を守り、
- 2533 a-eat^{*59} eaikap.
ア・エアト エアイカッ.
我・住む できない
住むことができない。
- 2534 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 2535 hokure hokure
ホクレ ホクレ
早く 早く
早く早く、
- 2536 e-eshikarun wa
エ・エシカルン ワ
汝・思い出す 接続
おまえが思い返すことで
- 2537 inne kamui utar
インネ カムイ ウタラ
大勢である 神 たち
多数の神々を
- 2538 chirambekamama
チラムベカママ
思い悩ませる
苦しませる
- 2539 e-ekarkar be
エ・エカラカラ ベ
汝・する もの
者が
- 2540 e-poho ne kusu
エ・ポホ ネ クス
汝・息子 繫 根拠
おまえの息子なのだから、
- 2541 hetak etak^{*60}
ヘタク エタク
さあ さあ
早く早く、
- 2542 ainu moshiri un
アイヌ モシリ ウン
人間 国土 方向
人間の世界へ
- 2543 ran ran.
ラン ラン.
下がる 下がる
降りなさい。
- 2544 E-poho
エ・ポホ
汝・息子
おまえの息子の
- 2545 ramma samake ta an wa
ラムマ サマケ タ アン ワ
いつも そば 場所 ある 接続
傍らにいて、
- 2546 iteki ramubekamam no
イテキィ ラムベカマム ノ
禁止 思い悩む 接続
悲しむことなく、
- 2547 ramma nubetne no
ラムマ スベトネ ノ
いつも 喜ぶ 接続
喜びながら
- 2548 batek an.
バテク アン.
のみ ある
日々を過ごしなさい。』
- 2549 ari i-ye-an koro
アリ イ・イエ・アン コロ
引用 我・言われる 同時
このように私は言われた。
- 2550 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界へ
- 2551 a-i-koeyomak.
ア・イ・コエヨマク.
我・追い払われる
私は追い出された。
- 2552 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 2553 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繫 譲歩
私も
- 2554 yaishiborore-an kusu
ヤイシボロレ・アン クス
堪え忍ぶ・我 根拠
我慢して、
- 2555 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界へ
- 2556 a-koikesui.
ア・コイケスイ.
我・立ち去る
向かった。
- 2557 Naani ka
ナアニ カ
大方 追加
まさに、
- 2558 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 2559 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいへ
- 2560 a-koikesui a koroka
ア・コイケスイ ア コロカ
我・立ち去る 完了 逆接
向かおうとしたが、
- 2561 hetopo sui
ヘトポ スイ
逆に 再び
もう一度、
- 2562 a-yaikotuima-
ア・ヤイコトウイマ・
我・自ら速く
私は
- 2563 shiramsuye.
シラムスイエ.
自らの心を揺らす
考え直した。
- 2564 I-keshke p batek
イ・ケシケ ヲ バテク
我・嫉む もの 限定
私たちを嫉む者、
- 2565 i-nonchi p batek
イ・ノンチ ヲ バテク
我・憎む もの 限定
憎む者ばかり
- 2566 uwatte awa
ウワツテ アワ
集まる 展開
集まった。
- 2567 umurek a-ne
ウムレク ア・ネ
夫婦 我・繫
私たち夫婦が
- 2568 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
しばらくの間、
- 2569 kanto or un
カント オルン
天 所 方向
天空へ
- 2570 baye-an i
バイエ・アニ
行く・我 形名
立ち去ったことを、
- 2571 tuima okai be
トゥイマ オカイ ベ
遠い ある もの
遠くにいる者たち、
- 2572 hanke okai be
ハンケ オカイ ベ
近い ある もの
近くにいる者たちは
- 2573 eramokai wa
エラムカイ ワ
知る 接続
察知

*59 Batchelor. Eat v.i. To be. To dwell. To be hung up as a pot over a fire. To stand (as a country or people).

*60 h-の脱落した形で記載されていることが注意される。

- 2574 shiran ko
シラン コ
有様である 条件
した。
- 2575 tapak i ta
タパッ イ タ
ここまで 形名 場所
ここに及んで
- 2576 tepak i ta
テパッ イ タ
ここまで 形名 場所
いまさら、
- 2577 a-poho
ア・ポホ
我・子
息子に
- 2578 a-nukan rusui *p. 57*
ア・ヌカン ルスイ
我・見る したい
会いたいから
- 2579 ari itak-an koro
アリ イタク・アン コロ
引用 言う・我 同時
といて、
- 2580 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいの
- 2581 upsoroho
ウッソロホ
内部
中に
- 2582 a-koahun eaikap.
ア・コアフン エアイカフ.
我・入る できない
入ることはできない。
- 2583 A-renka p kusu
ア・レンカ ッ クス
我・承知する もの 根拠
私の意志によって、
- 2584 sui nekon ka
スイ ネコン カ
再び どのように 追加
再び
- 2585 wen kamui
ウェン カムイ
悪い 神
悪神どもが
- 2586 hosarpa wa
ホサッパ ワ
振り向く 接続
振り返り、
- 2587 e-eramukowen
エ・エラムコウエン
汝・心が苦しい
おまえが苦しむ
- 2588 kunine hene
クニネ ヘネ
ように 例示
ことにでも
- 2589 shiriki yakne
シリキ ヤクネ
事態がある 条件
なれば、
- 2590 wen kuni
ウェン クニ
悪い 必然
良くないと
- 2591 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う 根拠
思った。
- 2592 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 2593 toop bet etokoho
トオッ ベト エトコホ
ずっと速く 川 前方
ずっと上流に
- 2594 kamui kar wen shiri
カムイ カラ ウェン シリ
神 作る 悪い 地面
神の造った険しい山があり、
- 2595 huttpaka ta
フトタッカ タ
山の頂上 場所
その山の頂き、
- 2596 oro ta anakne
オロ タ アナクネ
所 場所 提題
その場所は
- 2597 konep ainu hene
コネッ アイヌ ヘネ
何 人間 例示
人間も
- 2598 kamui hene
カムイ ヘネ
神 例示
神も
- 2599 bayekai ushike
バイエカイ ウシケ
行き来する ところ
行き来するところ
- 2600 somo ne.
ソモ ネ.
否定 繋
ではない。
- 2601 Ouse shit ta
オウセ シット タ
ただ 地面 場所
その家もない土地に、
- 2602 a-ewak i tura
ア・エワキ トウラ
我・住む 形名 ともに
私は家とともに
- 2603 ran-an wa
ラナン ワ
降りる・我 接続
降りた。そして、
- 2604 tane keshpa
タネ ケシパ
今 毎年
毎年
- 2605 teta an-an wa
テタ アナン ワ
ここで いる・我 接続
ここにいた。
- 2606 otuimashiri wa
オトウイマシリ ワ
遠くから 始点
遠くから
- 2607 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
ではあるが、
- 2608 ramma e-nukar-an kane
ラムマ エ・ヌカラ・アン カネ
いつも 汝・見る・我 程度
いつもおまえを見て、
- 2609 e-henkotpa-an kane.
エ・ヘンコトパ・アン カネ.
汝・領く・我 程度
領いていた。
- 2610 Tane tapakno
タネ タパクノ
今 これまで
私は今まで
- 2611 an-an awa
アナン アワ
いる・我 展開
ここにおいて、
- 2612 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 2613 an-ekutumkashi
アネケウトウムカシ
我・心の上
心が⁵
- 2614 kochashnatara.
コチャシナタラ.
落ち着く
落ち着いた。
- 2615 Sonno nuchaktek-an katu
ソンノ スチャクテク・アン カトゥ
真に 我・喜ぶ 様子
まことに嬉しく
- 2616 chakakke-an.
チャカクケ・アン.
喜ぶ・我
思った。
- 2617 Shino tumashnu-an.
シノ トウマシヌ・アン.
まことに 元気になる・我
本当に元気になった。
- 2618 Ramma
ラムマ
いつも
いつも、
- 2619 onne bakno
オンネ バクノ
老いる 限度
年老いるまで
- 2620 taban ushike ta *p. 58*
タバン ウシケ タ
この ところ 場所
この場所に
- 2621 an-an yakka
アナン ヤッカ
いる・我 譲歩
いても
- 2622 pirika ari
ピリカ アリ
よい 引用
良いと
- 2623 yainu-an bakno
ヤイヌ・アン バクノ
考える・我 限度
思うほど、
- 2624 shino nubetne-an
シノ スベトネ・アン
まことに 喜ぶ・我
本当に嬉しかった
- 2625 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 繋
のだ。
- 2626 Raboki ta⁶¹
ラボキ タ
間 場所
天空にいた頃は、

- 2627 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天空で
- 2628 a-yaikosanke
ア・ヤイコサンケ
我・産む
産んだ
- 2629 pom matkachi
ポム マトカチ
小さい 少女
娘を
- 2630 aokai utar
アオカイ ウタラ
我 たち
私たちは
- 2631 umurek a-ne wa
ウムレク ア・ネワ
夫婦 我・繋 接続
夫婦で
- 2632 a-omap.
ア・オマフ.
我・可愛がる
可愛がった。
- 2633 Tu okkashi ta
トゥ オッカシ タ
二つの 首の上 場所
それにも
- 2634 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三つの 首の上 場所
増して、
- 2635 shirikun kanto ot ta
シリクン カント オトタ
最も上にある 天 所 場所
天空の高みに
- 2636 okai
オカイ
ある
いる
- 2637 a-keusutu umurek
ア・ケウストゥ ウムレク
我・伯父 夫婦
私の伯父夫婦は
- 2638 ponno sonno
ポンノ ソンノ
少し 真に
まことに
- 2639 sambe etok
サムベ エトク
心臓 前方
心臓の先に
- 2640 omare
オマレ
置く
入れるようにして
- 2641 ukoomap wa
ウコオマフ ワ
皆で可愛がる 接続
姪を可愛がった。
- 2642 kanto ot ta
カント オトタ
天 所 場所
天空で
- 2643 tu makan shiri wano
トゥ マカン シリ ワノ
二つの 奥にある 様子 始点
幾代も遡る
- 2644 re makan shiri wano
レ マカン シリ ワノ
三つの 奥にある 様子 始点
昔から
- 2645 a-ukeshkoro be
ア・ウケシコロ ベ
継承される もの
受け継がれてきたもの、
- 2646 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻貝
白い巻貝、
- 2647 kamui chibanup newa
カムイ チバナフ ネワ
神 冠り物 と
神々しい頭巾と
- 2648 kaniyamour
カニヤモウル
鎖帷子
鎖かたびらを
- 2649 a-matnepo
ア・マトネポ
我・娘
伯父は私の娘に
- 2650 korbare wa
コロバレ ワ
与える 接続
与えた。
- 2651 shino ukoomap
シノ ウコオマフ
まことに 皆で可愛がる
本当に可愛がって
- 2652 koro okai
コロ オカイ
同時 ある
いた
- 2653 ruwe ne awa
ルウェ ネ アワ
跡 繋 展開
のだが、
- 2654 nei ainu moshiri
ネ アイヌ モシリ
どこ 人間 国土
私が人間の世界へ
- 2655 a-i-koeyomak i ta
ア・イ・コエヨマク イ タ
我・追い払われる 形名 場所
追い払われたときに、
- 2656 a-matnepo
ア・マトネポ
我・娘
娘は
- 2657 ramma i-ot ta batek
ラムマ イ・オトタ バテク
いつも 我・所 場所 限定
いつも私のところにばかり
- 2658 am be ne kusu
アム ベ ネ クス
ある もの 繋 根拠
いたものだから、
- 2659 a-tura wa
ア・トゥラ ワ
我・連れる 接続
一緒に
- 2660 teta a-eneusar
テタ ア・エネウサラ
ここで 我・話をする
ここで話をして
- 2661 koro an-an.
コロ アナン.
同時 いる・我
いた。
- 2662 Oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
まだ全く
- 2663 naa pom be p. 59
ナア ポム ベ
まだ 小さい もの
幼い者
- 2664 ne kusu
ネ クス
繋 根拠
であるから、
- 2665 nekon ka
ネコン カ
どのように 追加
何かを
- 2666 a-obembak ka
ア・オベムバク カ
気付かれる 追加
悟られることも
- 2667 somo ki.
ソモ キ.
否定 する
なかった。
- 2668 Ramma chinuchaktekka
ラムマ チヌチャクテッカ
いつも 喜ぶ
いつも嬉しそうに
- 2669 chiminakokur-
チミナコクル・
笑い
笑みを
- 2670 suipa kane
スイバ カネ
揺する 程度
浮かべ、
- 2671 shino i-koitaknu.
シノ イ・コイタクヌ.
まことに 我・よく聞く
私の言うことをよく聞いた。
- 2672 Boo a-uomapkar koro
ボオ ア・ウオマップカラ コロ
なおさら 我・共に可愛がる 同時
なおのこと私は可愛がって
- 2673 an-an awa
アナン アワ
いる・我 展開
いた。

3.8 白い巻貝の裏切り

- 2674 ta nahun wano
タ ナフン ワノ
これ たった今 始点
ここ数日、
- 2675 kar be kor kane
カラ ベ コロ カネ
作る もの 持つ 程度
娘は針仕事の材料を持って
- 2676 yaisoinere ko
ヤイソイネレ コ
外に出る 条件
自ら外に出ていった。

*61 raboki ta に過去の回想を表す用法を認めるべきかについては、なお検討を要する。

- 2677 to emko bakno
ト エムコ バクノ
日 半分 限度
半日ほど
- 2678 shiran ko
シラン コ
時がたつ 条件
すると、
- 2679 sonno nubetne
ソンノ スベトネ
真に 喜ぶ
嬉しそうに
- 2680 mina tura ek wa
ミナ トウラ エツワ
笑う ともに 来る 接続
笑いながらやって来て、
- 2681 ene itak i.
エネ イタキ.
このように 言う 形名
こう言った。
- 2682 'Taban ushike wano
'タブン ウシケ ワノ
この ところ 始点
『この場所から
- 2683 toop beni ta
トオッ ベニ タ
ずっと速く 川上 場所
ずっと上流へ
- 2684 yaiapkashte-an.
ヤイアッカシテ・アン.
みずから歩く・我
私は歩いていった。
- 2685 Tu iworso ka
トゥ イウォロソ カ
二つの 山奥 上
奥地の
- 2686 re iworso ka
レ イウォロソ カ
三つの 山奥 上
山々を
- 2687 a-urekushte.
ア・ウレクシテ.
我・通る
私は歩いた。
- 2688 Uturu ta
ウトウル タ
間 場所
その途中で、
- 2689 kamui nuburi
カムイ スブリ
神 山
神の如き山、
- 2690 nuburi kurka
ヌブリ クルカ
山 上
その山の上で
- 2691 a-ehorari kane
ア・エホラリ カネ
我・腰を据える 程度
私は座り、
- 2692 kemeiki-an kane.
ケメイキ・アン カネ.
我・運針する 程度
針仕事をした。
- 2693 Ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界、
- 2694 moshiri kurkashike
モシリ クルカシケ
国土 上
その世界を
- 2695 a-uwampare*⁶² kane.
ア・ウワムパレ カネ.
我・調べる 程度
私は見回した。
- 2696 Kamui kar iwor
カムイ カラ イウォロ
神 作る 奥地
神の造った奥山、
- 2697 iworso kurka
イウォロソ クルカ
山奥 上
その奥山を
- 2698 a-uwampare.
ア・ウワムパレ.
我・調べる
見回した。
- 2699 Usa nikaop hene
ウサ ニカオプ ヘネ
譲歩 木の実 例示
木の実の实りなども
- 2700 sonno pirika ruwe
ソンノ ピリカ ルウェ
真に よい 跡
よい様子を
- 2701 a-nukar chiki
ア・ヌカラ チキ
我・見る 条件
私は見て、
- 2702 sonno a-erayap
ソンノ ア・エラヤッ
真に 我・感心する
まことに感心し
- 2703 a-enuchaktek.
ア・エヌチャクテク.
我・嬉しい
嬉しく思った。
- 2704 Ainu moshiri bakno
アイヌ モシリ バクノ
人間 国土 限度
人間の世界ほど
- 2705 sonno pirika ushike
ソンノ ピリカ ウシケ
真に よい ところ
美しいところは
- 2706 isam.
イサム.
ない
他にない。
- 2707 Kanto ot ta
カント オト タ
天 所 場所
天空に
- 2708 okai-an
オカイ・アン
いる・我
いる
- 2709 tu okkashi*⁶³ ta
トゥ オッカシ タ
二つの 首の上 場所
よりも、
- 2710 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三つの 首の上 場所
それ以上に、
- 2711 sonno nuchaktek-an
ソンノ スチャクテク・アン
真に 我・喜ぶ
私は嬉しくなった
- 2712 ruwe*⁶⁴ tab an.
ルウェ タバン.
跡 これ ある
のだ。』
- 2713 ari
アリ
引用
娘はこのように
- 2714 hawean wa kusu
ハウエアン ワ クス
言う 接続 根拠
言ったので、
- 2715 sonno itak
ソンノ イタッ
真に 言葉
心からの言葉、
- 2716 pirika itak p. 60
ピリカ イタッ
よい 言葉
良い言葉を
- 2717 ye hawe ne kuni
イエ ハウエ ネ クニ
言う 声 繋 必然
発したように
- 2718 a-ramu wa
ア・ラム ワ
我・思う 接続
私は思った。
- 2719 kurkashike
クルカシケ
上
私は娘に
- 2720 a-uhenkotpa kane.
ア・ウヘンコトパ カネ.
我・頷く 程度
頷いた。
- 2721 'Ruwe un
'ルウェ ウン
跡 textbf 文終結
『その通りだ。
- 2722 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲歩
私も
- 2723 uben-an i ta
ウベン・アニ タ
若い・我 形名 場所
若いときに、
- 2724 beure-an i ta
ベウレ・アニ タ
若い・我 形名 場所
年少のときに、
- 2725 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界へ

*⁶² uwampare の m は後から書き加えられている。*⁶³ 始め ukkashi と書かれてたが okkashi に訂正されている。*⁶⁴ ruwe の we は後から書き加えられている。

- 2726 a-eiyeutanne wa
ア・エイエウタンネ ワ
我・仲間になる 接続
降りてきた。
- 2727 ratashkepar-an kusu
ラタシケパカラ・アン クス
山菜を取る・我 根拠
山菜をとるために、
- 2728 kim beka
キム バカ
山 場所
山で
- 2729 uweutanne-an wa^{*65}
ウウエウタンネ・アン ワ
仲間になる・我ら 接続
一緒になって
- 2730 iraukitupa-an kusu
イラウキトゥパ・アン クス
仕事をする・我 根拠
仕事をした。
- 2731 uweminaushi-an kane
ウウエミナウシ・アン カネ
微笑みあう・我ら 程度
笑い合い、
- 2732 uhautaroise-an kane.
ウハウタロイセ・アン カネ。
騒ぎ合う・我ら 程度
楽しく語り合った。
- 2733 Ikichi-an i ta
イキチ・アニ タ
する・我 形名 場所
そのときは、
- 2734 bakno a-enubetne p
バックノ ア・エヌベトネ プ
まで 我・喜ぶ もの
それ以上楽しいこと、
- 2735 a-enuchachakte p
ア・エヌチャチャクテ プ
我・喜ぶ もの
嬉しいことは
- 2736 isam ruwe ne.
イサム ルウエ ネ。
ない 跡 繋
無かった。
- 2737 Tane ne yakka
タネ ネ ヤッカ
今 繋 譲歩
今も
- 2738 nei bakihi
ネ バキヒ
繋 限度
そのときのことを
- 2739 a-eshikarun ko
ア・エシカルン コ
我・思い出す 条件
思い出すと、
- 2740 sonno nuchaktek-an.
ソンノ スチャクテック・アン。
真に 我・喜ぶ
まことに嬉しくなる。
- 2741 Tan tewano
タン テワノ
この これから
これから
- 2742 ne yakka
ネ ヤッカ
繋 譲歩
も、
- 2743 neino iki-an rusui.⁷
ネノ イキ・アン ルスイ。⁷
繋 する・我 したい
『そのようでありたい。』
- 2744 ari itak-an chiki
アリ イタク・アン チキ
引用 言う・我 条件
このように私が言うと、
- 2745 shino enubetne wa
シノ エヌベトネ ワ
まことに 喜ぶ 接続
娘はまことに喜んだ。
- 2746 keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある 条件
娘は毎日、
- 2747 kar be kor wa
カラ ベ コロ ワ
作るもの 持つ 接続
針仕事の材料を持って、
- 2748 kunne wano
クンネ ワノ
夜 始点
暗いうちから
- 2749 soine ko
ソイネ コ
外出する 条件
外に出た。
- 2750 humne
フムネ
あるとき
ときには
- 2751 tokesh ka ek.
トケシ カ エク。
日暮れ 追加 来る
帰りが夕方になった。
- 2752 Makaaneko
マカンネコ
あるときには
あるときは、
- 2753 onuman ka ek
オヌマン カ エク
夕べ 追加 来る
帰りが晩になる
- 2754 ranke wa
ランケ ワ
反復 接続
ことが続いた。
- 2755 teta i-arsotta
テタ イ・アソツタ
ここで 我・反対側の座に
炬の向かい側の座で
- 2756 mokor wa an
モコロ ワ アン
眠る 接続 ある
眠りについた
- 2757 ruwe ne kuni batek
ルウエ ネ クニ バテック
跡 繋 必然 限定
ものとはばかり
- 2758 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思っていた。
- 2759 sonno hetap ne
ソンノ ヘタプ ネ
真に これ 繋
しかし、そうではなかった。
- 2760 ituren kor be
イトウレン コロ ベ
憑く 持つもの
私は憑神の力が
- 2761 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 根拠
強いのだ。
- 2762 teeta kane p. 61
テエタ カネ
以前 程度
昔は、
- 2763 a-kor ituren
ア・コロ イトウレン
我・もつ 憑く
私の憑神の力には
- 2764 kamui ot ta ka
カムイ オトタ カ
神 所 場所 追加
神々の間でも
- 2765 umama isam.
ウママ イサム。
強調 ない
殆ど並ぶものがなかった。
- 2766 Bakno an
バックノ アン
まで ある
そのような
- 2767 shisak nubur mat
シサク スブル マト
またとない 霊力がある 女
類稀な霊力をもつ女
- 2768 a-ne.
ア・ネ。
我・繋
であるのだ。
- 2769 Yaikota ne yakka
ヤイコタ ネ ヤッカ
自らで 繋 譲歩
それは自分でも
- 2770 sonno a-eraman
ソンノ ア・エラマン
真に 我・知る
よく分かっている。
- 2771 a-shitoma p anakne
ア・シトマ プ アナクネ
我・恐ろしいもの 提題
私が恐ろしいと思うものは、
- 2772 sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 2773 kamui ot ta hene
カムイ オトタ ヘネ
神 所 場所 例示
神々の間にも、
- 2774 ainu ot ta hene
アイヌ オトタ ヘネ
人間 所 場所 例示
人間の間にも、
- 2775 nitnekamui ot ta hene
ニトネカムイ オトタ ヘネ
悪神 所 場所 例示
悪神の間にも、
- 2776 sonno shine p ka isam.
ソンノ シネ プ カ イサム。
真に 一つのものもない
まったく存在しない。

*65 「本妻と一緒に」 という意味であると推測される。

- 2777 **Bakno shisak nubur mat**
 バクノ シサク スブル マト
 まで またとない 霊力がある 女
 私はそれほどの霊力を持つ女
- 2778 **a-ne awa**
 ア・ネ アワ
 我・繫 展開
 であるが、
- 2779 **a-wenmatnepo**
 ア・ウェンマトネポ
 我・悪い娘
 私の愚かな娘は
- 2780 **an-otuiike**
 アン・オトウイイケ
 我・尻尾切れた奴
 尻の切れた奴だ。
- 2781 **onne ne manu p**
 オンネ ネ マヌ プ
 老いる 繫 というもの
 私は年を取り、
- 2782 **rettek ne manu p**
 レトテック ネ マヌ プ
 衰える 繫 というもの
 老衰して
- 2783 **a-ki kusu**
 ア・キ クス
 我・する 根拠
 きた。
- 2784 **oroyachiki**
 オロヤチキ
 驚いたことに
 意外なことに、
- 2785 **hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 始点
 娘は長い間
- 2786 **i-kosunke.**
 イ・コスンケ.
 我・偽る
 私に嘘をついていた。
- 2787 **A-shiketoko**
 ア・シケトコ
 我・目先
 私の目の前を
- 2788 **urar atte wa**
 ウラウ アトテ ワ
 霧 たたせる 接続
 霧で覆い、
- 2789 **chikokantama**
 チコカンタマ
 あざむくこと
 騙すに
- 2790 **ne wa ne yakka**
 ネ ワ ネ ヤッカ
 繫 接続 繫 譲歩
 しても、
- 2791 **orsaureko**
 オロサウレコ
 とんでもなく
 並大抵ではないことを
- 2792 **i-y-ekarkar hawe**
 イ・イエカッカ ハウエ
 我・する 声
 していた
- 2793 **ne rokokai ko**
 ネ ロコカイ コ
 繫 判明 条件
 のだった。
- 2794 **sonno sambe etok**
 ソンノ サムベ エトク
 真に 心臓 前方
 まことに心臓の先に
- 2795 **a-omare p**
 ア・オマレ プ
 我・入れるもの
 入れるように
- 2796 **ne kusu**
 ネ クス
 繫 根拠
 大切にしていたから、
- 2797 **ponno ka**
 ポンノ カ
 少し 追加
 少しも、
- 2798 **uhaita wen buri**
 ウハイタ ウェン ブリ
 釣り合いのとれない 悪い 行い
 過ちを
- 2799 **ki kuni ka**
 キ クニ カ
 する 必然 追加
 犯すこと、
- 2800 **koro kuni ka**
 コロ クニ カ
 持つ 必然 追加
 過ちをすることは
- 2801 **somo a-ramu p**
 ソモ ア・ラム プ
 否定 我・思うもの
 ないと思って
- 2802 **ne kusu**
 ネ クス
 繫 根拠
 いた。
- 2803 **a-noeisokor wa**
 ア・ノエイソコロ ワ
 我・真に受ける 接続
 私は娘を信じており、
- 2804 **sonno**
 ソンノ
 真に
 まことに
- 2805 **yaikoeramunin-an wa**
 ヤイコエラムニン・アン ワ
 油断する・我 接続
 油断して
- 2806 **an-an ruwe ne aan.**
 アナン ルウェ ネ アアン.
 いる・我 跡 繫 判明
 いたのだ。
- 2807 **Tap nahun wano**
 タップ ナフン ワノ
 これ たった今 始点
 ここ数日は、
- 2808 **tomisambechi**
 トミサムベチ
 地名
 トミサンベチ、
- 2809 **shinutapka**
 シヌタッパ
 地名
 シヌタッパカの
- 2810 **kamui ewak i**
 カムイ エワキ
 神 住む 形名
 神の住まい、
- 2811 **kamui tapkashi**
 カムイ タッカシ
 神 頂き
 神の頂きに
- 2812 **kamui kuror**
 カムイ クロロ
 神 雲
 黒々とした雲が
- 2813 **yaikar humi**
 ヤイカラ フミ
 振る舞う 気配
 かかる様子を、
- 2814 **shino**
 シノ
 まことに
 まことに
- 2815 **a-oyamokte apkor** p. 62
 ア・オヤモクテ アッコロ
 我・不思議に思う かのよう
 私は不思議に
- 2816 **yainu-an.**
 ヤイヌ・アン.
 考える・我
 思っていた。
- 2817 **Tam be kusu**
 タム ベ クス
 このもの 根拠
 そこで、
- 2818 **inkar-an awa**
 インカラ・アン アワ
 見る・我 展開
 よく見ると、
- 2819 **tanepo konna**
 タネポ コンナ
 たった今 提題
 まさしく、
- 2820 **ene ene**
 エネ エネ
 このように このように
 このように、
- 2821 **retar mokorir**
 レタラ モコリリ
 白い 巻貝
 白い巻貝、
- 2822 **a-wenmatnepo**
 ア・ウェンマトネポ
 我・悪い娘
 私の愚かな娘は
- 2823 **a-otuiike**
 ア・オトウイイケ
 我・尻の切れた者
 尻の切れた奴だ。
- 2824 **oroyachiki**
 オロヤチキ
 驚いたことに
 意外にも、
- 2825 **ene bak am be**
 エネ バク アム ベ
 このように 限度 あるもの
 くだらぬ者、
- 2826 **ibeoko ambe**
 イベオコ アムベ
 僅かである あること
 食物を散らかすような者は
- 2827 **hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 始点
 長い間、
- 2828 **chihoiyore**
 チホイヨレ
 乱心する
 淫らなふるまい、
- 2829 **chibauchikore**
 チバウチコレ
 乱心する
 罰当たりなことをしていた。

- 2830 **chikokantama**
チコカントマ
あざむくこと
私を騙して
- 2831 **i-y-ekarkar**
イ・イエカッカラ
我・する
いた
- 2832 **koro an i ka**
コロ アン カ
持つ ある **形名 追加**
ことに
- 2833 **a-eramishkare.**
ア・エラミシカレ.
我・知らない
私は気付かなかった。
- 2834 **Sonno hetap ne**
ソノ ヘタプ ネ
真に これ **繋**
驚いたことに、
- 2835 **a-wenmatnepo**
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘、
- 2836 **a-otuiike**
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
尻の切れた奴は
- 2837 **chihoiyore**
チホイヨレ
乱心する
乱心し、
- 2838 **aokai bak be**
アオカイ バク ベ
我 **限度** もの
私の
- 2839 **a-shiketoko**
ア・シケトコ
我・目先
目の前を
- 2840 **urar kushte awan.**
ウラウ クシテ アワン.
霧 被せる のだった
霧で覆ったのだ。
- 2841 **Eboso kusu**
エボソ クス
突き抜ける **根拠**
確かに、
- 2842 **kamui anakne**
カムイ アナクネ
神 **提題**
神というものは
- 2843 **tunash hosarpa**
トゥナシ ホサラパ
素早い 振り向く
すぐに気付く
- 2844 **somo ki p ne**
ソモ キ プ ネ
否定 するもの **繋**
ものではない
- 2845 **ari hawash awa**
アリ ハワシ アワ
引用 言われる **展開**
と言われている。
- 2846 **a-wenmatnepo**
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘、
- 2847 **arkamiashi**
アッカミアシ
化物
悪党は、
- 2848 **tap teta**
タッ テタ
これ ここで
ここに、
- 2849 **i-arsoke ta**
イ・アソケ タ
我・反対側の座 **場所**
炉の向かい側に
- 2850 **an kane**
アン カネ
ある **程度**
いて、
- 2851 **orsaureko**
オロサウレコ
とんでもなく
甚だしく
- 2852 **i-koyaikire koro**
イ・コヤイキレ コロ
我・馬鹿にする **同時**
私を軽んじ、
- 2853 **chibauchikore**
チバウチコレ
乱心する
罰当たりなことをして
- 2854 **koro an ko**
コロ アン コ
同時 ある **条件**
いたのだが、
- 2855 **a-koannotaine kane.**
ア・コアンノタイネ カネ.
我・気付かない **程度**
私は気付かずに、
- 2856 **A-toikoomap koro**
ア・トイコオマップ コロ
我・激しく愛する **同時**
娘をとても可愛がって
- 2857 **an-an rokokai**
アナン ロコカイ
いる・我 **判明**
いたのだった。
- 2858 **sonno wen yayashish**
ソノ ウエン ヤヤシシ
真に 悪い 悔やむ
私は激しく後悔し、
- 2859 **toi yayashish**
トイ ヤヤシシ
土 悔やむ
強く後悔
- 2860 **a-ki.**
ア・キ.
我・する
した。
- 2861 **Ambe tapne**
アムベ タプネ
あること このように
実のところはこのようだ。
- 2862 **a-wenmatnepo**
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘は
- 2863 **sonno kimun iwor**
ソノ キムン イウォロ
真に 山の奥地 奥地
山の奥、
- 2864 **iworso ka ta**
イウォロソ カ タ
山奥 上 **場所**
その奥地で
- 2865 **shinot**
シノト
遊ぶ
遊び、
- 2866 **yaiapkashte**
ヤイアッカシテ
自ら歩く
歩き回って
- 2867 **kor an i ta**
コロ アン タ
同時 ある **形名 場所**
いるときに、
- 2868 **kimuntounkuru**
キムントウンクル
キムント人
キムント彦に会った。
- 2869 **tu irwak ne wa**
トゥ イリワク ネ ワ
二つの兄弟 **繋 接続**
キムント彦は二人兄弟で、
- 2870 **nep wem buri ka**
ネプ ウェム ブリ カ
何 悪い 行い **追加**
何の悪い振る舞いも
- 2871 **korpa somo ki no**
コロパ ソモ キ ノ
持つ **否定** する **接続**
せずに、
- 2872 **obittano** *p. 63*
オビタノ
皆
二人とも
- 2873 **pirika irenka**
ピリカ イレンカ
よい 意図
よい意志を
- 2874 **korpa wa okai.**
コロパ ワ オカイ.
持つ **接続** ある
持っている。
- 2875 **Shisak rametok utar**
シサク ラメトク ウタラ
またとない勇者 たち
その類稀な勇者たちの
- 2876 **poniune ike**
ポニウネ イケ
年下の 方
年少の者は、
- 2877 **tanepo**
タネポ
たった今
今まさに、
- 2878 **ekimne**
エキムネ
山に行く
山での狩りを
- 2879 **eyaihanokkar kusu**
エヤイハノクカラ クス
稽古する **根拠**
覚えるために
- 2880 **kim ta**
キム タ
山 **場所**
山の中を
- 2881 **yaiapkashte ko**
ヤイアッカシテ コ
自ら歩く **条件**
歩き回っていた。
- 2882 **ukoekarpa wa**
ウコエカラパ ワ
出会う **接続**
二人は出会い、

- 2883 ukoitak.
ウコイタク.
会話する
言葉を交わした。
- 2884 Utashpa
ウタシパ
互いに
互いの
- 2885 ushinritka-
ウシンリトカ・
互いの先祖
先祖を明らかに
- 2886 bita kane.
ビタ カネ.
解く 程度
した。
- 2887 Nani nani
ナニ ナニ
すぐに すぐに
すぐに、
- 2888 sonno uwekatarotke.
ソンノ ウエカタロトケ.
真に 仲がいい
まことに仲良くなった。
- 2889 Keshto kim ta
ケシト キム タ
毎日 山 場所
毎日、山で
- 2890 unukar kuni
ウヌカラ クニ
会見 必然
会うことを
- 2891 euwerman aine
エウウェアマン アイネ
互いに承知する 接続
示し合わせ、
- 2892 ochiu ne kipa.
オチウ ネ キバ.
姦通 繋 する
淫らなことをした。
- 2893 Nei ta ene bakno^{*66}
ネ タ エネ バクノ
どこ 場所 このように 限度
私は
- 2894 an-an wa
アナン ワ
いる・我 接続
どこにいて、
- 2895 ochiu hene
オチウ ヘネ
姦通 例示
淫らなこと、
- 2896 kinin hene
キニン ヘネ
淫乱 例示
淫らなことについて
- 2897 a-eyaiko-
ア・エヤイコ・
我・自ら
考えを
- 2898 shiramse i
シラムセ イ
考える 形名
巡らせることが
- 2899 ne wa kusu
ネ ワ クス
繋 接続 根拠
あろうか。
- 2900 a-wenmatnepo
ア・ウエンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘は
- 2901 chihoiyore
チホイヨレ
乱心する
乱心し、
- 2902 kashi kobak ta
カシ コバク タ
上 方向 場所
その上、
- 2903 usa wen keutum
ウサ ウエン ケウトウム
譲歩 悪い 心
良くない企みを
- 2904 kor hawe
コロ ハウエ
持つ 声
した。
- 3.9 戦闘の発端
- 2905 'Nekona shiko p
'ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
『如何なる出自の者、
- 2906 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
如何なる素性の者が
- 2907 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 2908 shinutapka ta
シヌタツカ タ
地名 場所
シヌタツカの
- 2909 pon a-wenyubi
ボン ア・ウエンユビ
小さい 我・悪い兄
年少の悪兄
- 2910 ne wa
ネ ワ
繋 接続
であるのか。
- 2911 tapne tapne kane
タツネ タツネ カネ
このように このように 程度
このように、
- 2912 a-kot tutto
ア・コト トトト
我・持つ 母
私の母は
- 2913 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
年少の兄を
- 2914 omap kasui
オマップ カスイ
いとおしむ 甚だしい
ひどく可愛がり
- 2915 ewen kasui wa
エウエン カスイ ワ
よくない 甚だしい 接続
すぎて、
- 2916 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界へ
- 2917 a-koeyomak wa
ア・コエヨマク ワ
追い払われる 接続
追い出された。
- 2918 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 2919 kimun iwori
キムン イウオリ
山の奥地 奥地
山奥、
- 2920 etoko
エトコ
前方
川の上流に
- 2921 a-orap wa
ア・オラフ ワ
我ら・降る 接続
私たちは降ろされて
- 2922 okai-an
オカイ・アン
いる・我ら
そこで暮らして
- 2923 ruwe ne awa
ルウェ ネ アワ
跡 繋 展開
いたのだが、
- 2924 tap korachi
タップ コラチ
これのように
このように、
- 2925 tane
タネ
今
今は
- 2926 kimuntounkuru
キムントウンクル
キムント人
キムント彦、
- 2927 kamui ne am be
カムイ ネ アム ベ
神 繋 ある もの
神の如き者と
- 2928 a-ekatarotke.
ア・エカタロトケ.
我・親しくする
私は仲良くなった。
- 2929 Hokure p. 64
ホクレ
早く
早く、
- 2930 a-kor shiri
ア・コロ シリ
我・もつ 様子
できること
- 2931 ne yakne^{*67}
ネ ヤクネ
繋 条件
ならば、

*66 以下7行の解釈は未詳。

*67 a-kor shiri ne yakne の解釈は未詳。

| | | | | | |
|------|--|------|---|------|--|
| 2932 | tomisambechi un トミサムベチ ウン 地名 方向 トミサンベチの | 2949 | kusu ne. ⁷ クス ネ. ⁷ 根拠 繫 『ことができる。』 | 2966 | ari アリ 引用 と |
| 2933 | a-yubutari ア・ユブタリ 我・兄たち 兄たちを | 2950 | ari アリ 引用 このように | 2967 | yaikouwebekere kane ヤイコウウェベケレ カネ 思案する 程度 思った。 |
| 2934 | obittano オビトタノ 皆 残らず | 2951 | a-wenmatnepo ア・ウエンマトネポ 我・悪い娘 私の愚かな娘は | 2968 | yainu yakka ヤイヌ ヤッカ 考える 譲歩 そう思ったが、 |
| 2935 | a-ukoronnu wa ア・ウコロンス ワ 我・ことごとく殺戮する 接続 殺してしまおう。 | 2952 | hawean ko ハウエアン コ 言う 条件 言った。 | 2969 | retar mokorir レタラ モコリリ 白い 巻貝 白い巻貝は |
| 2936 | tomisambechi トミサムベチ 地名 トミサンベチの | 2953 | kimuntounkuru キムントウンクル キムント人 キムント彦は | 2970 | pirika kasui wa ピリカ カスイ ワ よい 甚だしい 接続 あまりにも美しく、 |
| 2937 | bentapkashi ベンタツカシ 頂き 上流の頂きで | 2954 | koban yakne コバン ヤクネ 嫌がる 条件 拒絶して、 | 2971 | sonno rai bakno ソンノ ライ バクノ 真に 死ぬ 限度 死んでも良いくらい |
| 2938 | easuruash エアスルアシ 噂が立つ 名高い | 2955 | a-wenmatnepo oro wa ア・ウエンマトネポ オロ ワ 我・悪い娘 所 始点 愚かな娘から | 2972 | omap hine オマッ ヒネ 可愛がる 接続 可愛く思った。 |
| 2939 | kamui koro be カムイ コロ ベ 神 持つ もの 神宝を | 2956 | a-emina ア・エミナ 我・笑う 嘲笑され、 | 2973 | nep ne yakka ネッ ネ ヤッカ 何 繫 譲歩 何であつても、 |
| 2940 | obittano オビトタノ 皆 残らず | 2957 | a-esapse kuni ア・エサフセ クニ 我・嘲笑う 必然 軽蔑されることを | 2974 | ye p wem be hene イエフ ウェム ベ ヘネ 言うもの 悪いもの 例示 娘の言うことが悪くとも、 |
| 2941 | kimunto kotan キムント コタン 地名 村 キムント村に | 2958 | niukesh. ニウケシ. しかねる 恐れた。 | 2975 | wen ari ウェン アリ 悪い 引用 悪いと |
| 2942 | a-orura yakne ア・オルラ ヤクネ 我・運ぶ 条件 運び入れたら、 | 2959 | Tam be kusu タム ベ クス このもの 根拠 そこで、 | 2976 | yainu somo ki no ヤイヌ ソモ キ ノ 考える 否定 する 接続 思わずに |
| 2943 | sonno ソンノ 真に まことに、 | 2960 | keutum ot ta anakne ケウトウム オト タ アナクネ 心 所 場所 提題 心の中では | 2977 | nu wa ヌ ワ 聞く 接続 聞き入れて、 |
| 2944 | besorun chashi ベソルン チャシ 川沿いにある チャシ 川沿いの崖にある館の | 2961 | 'Oar e-monkoaiikap. 'オアッ エ・モンコアイカフ. 全く 汝・無理である 『おまえではとても無理だ。』 | 2978 | eukoramuoshma ^{*68} エウコラムオシマ 皆で合意する 承諾した。 |
| 2945 | upsoroho ウァソロホ 内部 中で | 2962 | Oikkeusakno オイッケウサクノ わけもなく 理由なしに、 | 2979 | utashpa ubakno p. 65 ウタシパ ウバクノ 互いに 同じくらいに 互いに |
| 2946 | a-emokonno ア・エモコンノ 我・よく眠る よく眠る | 2963 | omotosakno オモトサクノ 理由もなく 原因なしに、 | 2980 | uoshikote ウオシコテ 互いに惚れる 恋心を抱き、 |
| 2947 | korachi コラチ ように みたいに、 | 2964 | nekona ene ネコナ エネ どのように このように なぜ | 2981 | ushinoramu ウシノラム 互いに想う 惚れた者同士 |
| 2948 | mokonno-an モコンノ・アン よく眠る・我 安心して眠る | 2965 | tumisapte-an i ta an. ⁷ トゥミサフテ・アニ タ アン. ⁷ 戦う・我ら 形名 これ ある 戦うのか』 | 2982 | usonnoramu kusu ウソンノラム クス 互いに恋心を抱く 根拠 であるから、 |

*68 eukoramuosh と書かれているが、eukoramuoshma と解釈する。

- 2983 sama shik sakno
サマ シク サクノ
そば 目 無くて
人目を避けて、
- 2984 oainusakno
オアイヌサクノ
人目を気にせず
人を避けて、
- 2985 keshto keshto
ケシト ケシト
毎日 毎日
毎日
- 2986 kim beka
キム ベカ
山 場所
山を
- 2987 uweterke.
ウウエテレケ.
互いに駆ける
駆けまわった。
- 2988 Hon batek
ホン バテク
腹 限定
懐妊すること、
- 2989 po batek
ポ バテク
子 限定
子を宿すことは
- 2990 usakka koro
ウサクカ コロ
互いに持たない 同時
なく、
- 2991 ikichi rokine
イキチ ロキネ
する 接続
そのようにしていた。
- 2992 kunne an ko
クンネ アン コ
夜 ある 条件
夜になると、
- 2993 teta mokor wa hene
テタ モコロ ワ ヘネ
ここで 眠る 接続 例示
ここで眠りに
- 2994 an ruwe ne kuni
アン ルウエ ネ クニ
ある 跡 繋 必然
ついたように
- 2995 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思われたが、
- 2996 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
意外にも、
- 2997 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村に
- 2998 chiomante wa
チオマンテ ワ
進行する 接続
行つて、
- 2999 sonno shiroma umurek
ソンノ シロマ ウムレク
真に 落ち着く 夫婦
落ち着いた夫婦のように
- 3000 nei katu
ネ カトゥ
繋 様子
振る舞う様子を、
- 3001 tane anakne
タネ アナクネ
今 提題
今は、
- 3002 kimunto un utar
キムント ウン ウタラ
地名 ある 者たち
キムントの村人は
- 3003 obittano
オビトタノ
皆
一人残らず
- 3004 eramokai wa
エラモカイ ワ
知る 接続
知った。
- 3005 tomisambechi un
トミサムベチ ウン
地名 方向
トミサンベチへ
- 3006 tumi sapte
トゥミ サプテ
戦い 出す
戦いを仕掛ける
- 3007 kuni i hene
クニ イ ヘネ
必然 形名 例示
ことも知った。
- 3008 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
長年に渡つて
- 3009 asuruash be
アスルアシ ベ
噂になる もの
名高い品物、
- 3010 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝
- 3011 ne kusu
ネ クス
繋 根拠
であるから、
- 3012 inne utara
インネ ウタラ
大勢である 者たち
大勢の村人は
- 3013 tumi oman kuni
トゥミ オマン クニ
戦い 行く 必然
戦いが始まることを
- 3014 sonno eichibachiba wa
ソンノ エイチバチバ ワ
真に 望む 接続
待ち望み、
- 3015 eukoorsutke.
エウコオロストケ.
激励し合う
励まし合った。
- 3016 Neiam be
ネアム ベ
その もの
そのことを
- 3017 a-wenmatnepo
ア・ウエンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘は
- 3018 shino enubetne
シノ エヌベトネ
まことに 喜ぶ
まことに喜んだ。
- 3019 a-eainukoro kusu
ア・エアイヌコロ クス
我・敬う 提題
娘は尊ばれ、
- 3020 inne utar oro wa
インネ ウタラ オロ ワ
大勢である 者たち 所 始点
大勢の人々から
- 3021 a-ukobekabeka
ア・ウコベカベカ
皆に支えられる
支持され、
- 3022 a-ukoainukor.
ア・ウコアイヌコロ.
皆に敬われる
敬われた。
- 3023 Tapne kane
タプネ カネ
このように 程度
そのような
- 3024 katkor katu
カトコロ カトゥ
振舞う 様子
振る舞いを
- 3025 a-ramnukare i
ア・ラムヌカレ イ
我・見抜く 形名
私が見通したことを、
- 3026 tane ponno
タネ ポンノ
今 少し
娘は少しは
- 3027 eraman wa
エラマン ワ
分かる 接続
察知して、
- 3028 shino
シノ
まことに
まことに、
- 3029 keutum ot ta p. 66
ケウトウム オト タ
心 所 場所
心の中で
- 3030 yaikouwebekere
ヤイコウエベケレ
思案する
思案して
- 3031 koro an ruwe ne.
コロ アン ルウエ ネ.
同時 ある 跡 繋
いるのだ。
- 3032 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
私が見るところでは、
- 3033 a-wenmatnepo
ア・ウエンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘は
- 3034 ene pom be
エネ ポム ベ
このように 小さいもの
幼い者
- 3035 ne koroka
ネ コロカ
繋 逆接
ではあるが、

- 3036 ebenubur be
エベヌブル ベ
巫術に優れるもの
霊力の強い者
- 3037 kone p ne^{*69} kusu
コネ ヲ ネ クス
繫 もの 繫 根拠
である。
- 3038 koro ituren
コロ イトゥレン
持つ 憑く
その憑神の力、
- 3039 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
その勇氣には、
- 3040 sonno sonno
ソンノ ソンノ
真に 真に
まことに、
- 3041 eirbak be
エイリバック ベ
並ぶ もの
並び立つものが
- 3042 tam moshiri ka ta hene
タム モシリ カ タ ヘネ
この 国土 上 場所 例示
この世界にも、
- 3043 kamui ot ta hene
カムイ オト タ ヘネ
神 所 場所 例示
神の世界にも
- 3044 isam.
イサム.
ない
いない。
- 3045 Sonno uben-an wa
ソンノ ウベン・アン ワ
真に 若い・我 接続
私が若い頃、
- 3046 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父に
- 3047 a-shinukare
ア・シヌカレ
我・自身を見せる
私自身を見せた
- 3048 an i ta
アニ タ
ある 形名 場所
ときに、
- 3049 ene moimoike-an a i
エネ モイモイケ・アン ア イ
このように 動く・我 完了 形名
私がしたことと
- 3050 ponno ka
ボンノ カ
少し 追加
少しも
- 3051 hoppa somo ki.
ホッパ ソモ キ.
後に残して去る 否定 する
変わらない。
- 3052 Sonno i-nepkoro kane.
ソンノ イ・ネッコロ カネ.
真に 我・ように 程度
まことに私にそっくりである。
- 3053 Okkayo rametok
オッカヨ ラメトク
若者 勇者
男の勇者に
- 3054 a-ekasure p
ア・エカスレ ヲ
我・凌ぐ もの
勝る者が
- 3055 a-ne ruwe ne.
ア・ネ ルウェ ネ.
我・繫 跡 繫
私である。
- 3056 I-nepkoro kane
イ・ネッコロ カネ
我・ように 程度
私と同じように、
- 3057 ituren hene
イトゥレン ヘネ
憑く 例示
憑神の力が強く、
- 3058 rametok kor i
ラメトク コロ イ
勇氣 持つ 形名
勇敢であることは
- 3059 sonno pirika koroka
ソンノ ビリカ コロカ
真に よい 逆接
まことに良いのだが、
- 3060 pirika buri
ビリカ ブリ
よい 行い
良いおこないと
- 3061 pirika keutum
ビリカ ケウトウム
よい 心
良い心を
- 3062 kor yakne
コロ ヤクネ
持つ 条件
持っていれば
- 3063 pirika p ne
ビリカ ヲ ネ
よい もの 繫
良い娘として
- 3064 boo a-eomapkar
ボオ ア・エオマップカラ
なおさら 我・可愛がる
なお可愛いがる
- 3065 noine am be
ノイネ アム ベ
らしく ある もの
のだが。
- 3066 hemanta
ヘマンタ
何
如何なる
- 3067 wen bito
ウエン ビト
悪い 人
悪者、
- 3068 hemanta
ヘマンタ
何
如何なる
- 3069 annitnekamui
アンニトネカムイ
全くの魔物
悪神を
- 3070 shieturente
シエトゥレンテ
憑いたふりをする
憑依させ、
- 3071 shikatkar kusu
シカトカレ クス
たぶらかす 根拠
それに惑わされたのか。
- 3072 katkoro shiri
カトコロ シリ
振舞う 様子
このようなおこないを
- 3073 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
するので、
- 3074 sonno okihi a-ki.
ソンノ オキヒ ア・キ.
真に 悲しみ 我・する
本当に心配だ。
- 3075 Ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神、
- 3076 ene am bito
エネ アム ビト
このように ある 人
このような貴人が
- 3077 tane anakne
タネ アナクネ
今 提題
今は、
- 3078 raka isam be ne p. 67
ラカ イサム ベ ネ
有益 ない もの 繫
何の实りもない者になった
- 3079 a-yainu shiri ne
ア・ヤイヌ シリ ネ
我・考える 様子 繫
のだと
- 3080 ari yainu-an chiki
アリ ヤイヌ・アン チキ
引用 考える・我 条件
思うと、
- 3081 a-koirushka.
ア・コイルシカ.
我・立腹する
私は腹が立つ。
- 3082 A-ebokpa kasuno
ア・エボクパ カスノ
我・憎む 越えて
私は憎むよりも
- 3083 a-tuyashkarap
ア・トゥヤシカラッ
我・慈しむ
愛おしく、
- 3084 a-eramboken.
ア・エラムボケン.
我・憐れむ
憐れに思う。
- 3085 Nekona hene
ネコナ ヘネ
どのように 例示
何を
- 3086 katkor apkusu
カトコロ アプクス
振舞う としても
しようと、

*69 konnepne と書かれているが kone p ne と解釈する。

- 3087 tane onne p
タネ オンネ ヲ
今 老いる もの
年を
- 3088 a-ne
ア・ネ
我・繫
取って
- 3089 tane rettek be
タネ レトテッ ベ
今 衰える もの
衰えて
- 3090 a-ne apkusu
ア・ネ アックス
我・繫 としても
いても、
- 3091 naa naa
ナア ナア
まだまだ
まだまだ
- 3092 a-shitoma kuni p
ア・シトマ クニ ヲ
我・恐ろしい 必然 もの
私が恐れる者は
- 3093 shinep ka
シネッ カ
一つ 追加
一人として、
- 3094 nei ta ka
ネ タ カ
どこ 場所 追加
どこにも
- 3095 isam ruwe ne.
イサム ルウエ ネ.
ない 跡 繫
いない。
- 3096 A-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘は
- 3097 a-ponashbekechi
ア・ポナシベケチ
我・小指
私の小指にも、
- 3098 a-ponurebechi
ア・ポヌレベチ
我・足の小指
足の小指にも
- 3099 a-bokashpare p
ア・ボカシバレ ヲ
我・不足に思う もの
及ばないものである。
- 3100 shiknu ihoma p
シクヌ イホマ ヲ
生きている 恐れる もの
生きることを怖れる者、
- 3101 tusa ihoma p
トゥサ イホマ ヲ
快復する 恐れる もの
蘇生を怖れる者が
- 3102 katkoro shiri^{*70} okai
カトコロ シリ オカイ
振舞う 様子 ある
おこなうことである。
- 3103 nekona hene
ネコナ ヘネ
どのように 例示
どのようにでも、
- 3104 a-renkaine
ア・レンカイン
我・意志で
私の意志で、
- 3105 chiraibakashnu
チライバカシヌ
懲罰をうける
懲らしめて
- 3106 chiraibanakte
チライバナクテ
きついお仕置き
罰を与える
- 3107 a-ekarkar
ア・エカラカラ
我・する
ことが
- 3108 eashkai koroka
エアシカイ コロカ
できる 逆接
できるのだが、
- 3109 kanto ot ta
カント オト タ
天 所 場所
天空の
- 3110 a-keusutu umurek
ア・ケウストゥ ウムレク
我・伯父 夫婦
伯父夫婦は
- 3111 ene hetap ne
エネ ヘタッ ネ
このように これ 繫
まことに、
- 3112 sambe etok
サムベ エトク
心臓 前方
心臓の先に
- 3113 omare
オマレ
置く
入れるようにして、
- 3114 ukoomap wa
ウコオマップ ワ
皆で可愛がる 接続
娘を可愛がった。
- 3115 base
バセ
重い
尊い
- 3116 kamui koro be hene
カムイ コロ ベ ヘネ
神 持つ もの 例示
神宝も
- 3117 senne saure
センネ サウレ
否定 緩い
少なからず
- 3118 a-ekashkamui Kore
ア・エカシカムイコレ
守護神に与えられる
守護神に与えた。
- 3119 a-eomapkar
ア・エオマップカラ
可愛がられる
可愛がられた
- 3120 ruwe am be
ルウエ アム ベ
跡 ある もの
娘は
- 3121 naa pom be
ナア ポム ベ
まだ 小さい もの
まだ幼い者、
- 3122 naa ramu sak be
ナア ラム サク ベ
まだ 思う 欠く もの
思慮が足りない者であり、
- 3123 ochiu eterke
オチウ エテレケ
姦通 跳ね回る
淫らなことを好み、
- 3124 kinin eterke.
キニン エテレケ.
淫乱 跳ね回る
淫らなおこないをした。
- 3125 Raboki ta
ラボキ タ
間 場所
そして
- 3126 ki hoiyo ne.
キ ホイヨ ネ.
する 乱心する 繫
乱心した。
- 3127 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 3128 sonno sonno
ソンノ ソンノ
真に 真に
まことに
- 3129 wen yayomap
ウェン ヤヨマップ
悪い 悔やむ
私は悔しがり、
- 3130 wen irushka
ウェン イルシカ
悪い 怒る
激しい怒り、
- 3131 toi irushka p. 68
トイ イルシカ
土 怒る
激しい憤りを
- 3132 a-ki koroka
ア・キ コロカ
我・する 逆接
覚えたのだが、
- 3133 naa ponno
ナア ポンノ
まだ 少し
少し
- 3134 yaikoshiramse-an
ヤイコシラムセ・アン
考える・我
考え直して
- 3135 yainita-an
ヤイニタ・アン
我慢する・我
我慢した
- 3136 ruwe ne.
ルウエ ネ.
跡 繫
のだ。
- 3137 Tane nani
タネ ナニ
今 すぐに
今すぐ

*70 shiri は鉛筆で跡から書き加えられている。

- 3138 **chikimattekka-an wa**
チキマトテッカ・アン ワ
慌てる・我 接続
急いで、
- 3139 **irushka-an wa**
イルシカ・アン ワ
怒る・我 接続
怒りに任せて
- 3140 **a-wenmatnepo**
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘を
- 3141 **a-koiki kuni**
ア・コイキ クニ
我・攻撃する 必然
懲らしめ、
- 3142 **a-wente kuni**
ア・ウェンテ クニ
我・悪くする 必然
成敗してしまうことを
- 3143 **a-eyaianasap.**
ア・エヤイアナサッ.
我・恐れる
私は恐れた。
- 3144 **Raboki ta**
ラボキ タ
間 場所
そして、
- 3145 **kanto or un hene**
カント オルン ヘネ
天 所 方向 例示
天空の神々に対して
- 3146 **yayeyashtoma-an.**
ヤイエヤシトマ・アン.
自ら恥じる・我
みずからを恥じた。
- 3147 **Tam be kusu**
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 3148 **ouse irukai**
オウセ イルカイ
ただ しばらくの間
しばらくの間
- 3149 **uturu ta**
ウトウル タ
間 場所
間、
- 3150 **kanto ot ta**
カント オト タ
天 所 場所
天空の
- 3151 **shinubur kamui**
シヌブル カムイ
神威強い 神
霊力の強い神、
- 3152 **utar orke**
ウタラ オロケ
たち 所
すべての
- 3153 **arobittano**
アロビタノ
すべて
神の
- 3154 **shik etoko**
シク エトコ
目 前方
目の前を
- 3155 **a-urarotte ruwe ne.**
ア・ウラロトテ ルウェ ネ.
我・霞をかける 跡 繋
私は霧で覆い隠した。
- 3156 **Okake ta**
オカケ タ
あと 場所
これから後は、
- 3157 **pirika kunine**
ピリカ クニネ
よい 目的
争いが収まるように、
- 3158 **nep ne yakka**
ネプ ネ ヤッカ
何 繋 譲歩
どのようなことでも
- 3159 **a-ki kusu ne.**
ア・キ クス ネ.
我・する 根拠 繋
私はするつもりだ。
- 3160 **Neiam be hene**
ネアム ベ ヘネ
その もの 例示
そのことは
- 3161 **e-eraman kusu ne.**
エ・エラマン クス ネ.
汝・知る 根拠 繋
おまえも知るようになる。
- 3171 **Raboki ta**
ラボキ タ
間 場所
そうこうするうちに、
- 3172 **oroyachiki**
オロヤチキ
驚いたことに
意外にも、
- 3173 **a-wenmatnepo**
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘、
- 3174 **an-otuike**
アノトウイイケ
我・尻尾切れた奴
尻の切れた奴は
- 3175 **kamui ewak i un**
カムイ エワキ ウン
神 住む 形名 方向
神の住まいへ
- 3176 **irukai**
イルカイ
しばらくの間
しばらくの間
- 3177 **oman wa inkar.**
オマン ワ インカラ.
行く 接続 見る
行ってみようとした。
- 3178 **Orowa**
オロワ
始点
それから、
- 3179 ***Ene shiran i^{*72}**
エネ シラン イ
このように 有様である 形名
『様子』
- 3180 **nukar**
ヌカラ
見る
見た
- 3181 **kashike un** *p. 69*
カシケ ウン
上 方向
上で、
- 3182 **pon ishimemokka wa**
ボン イシメモッカ ワ
小さい 挑発する 接続
少しの挑発をして、
- 3183 **ene shiriki i**
エネ シリキ イ
このように 事態がある 形名
相手がどう動くか、
- 3184 **ene hawash i**
エネ ハワシ イ
このように 言われる 形名
何を言うかを
- 3185 **nukar hene**
ヌカラ ヘネ
見る 例示
見たり
- 3186 **nu hene**
ヌ ヘネ
聞く 例示
聞いたり
- 3187 **ki orowa**
キ オロワ
する 始点
してから、

3.10 トミサンペチでの戦闘

*71 shinukarpare の re は鉛筆で後から書き加えられている。

*72 以下の 11 行は引用句と解釈したが、引用句中の人称は不定人称になっておらず、なお検討を要する。

- 3188 nani hoshihi
ナニ ホシビ
すぐに帰る
すぐに戻る
- 3189 kusu ne.
クス ネ
根拠 繫
つもりだ』
- 3190 ari itak ko
アリ イタク コ
引用 言う 条件
と言った。
- 3191 inne utar
インネ ウタラ
大勢である者たち
大勢の村人たちは
- 3192 hakma hakma.
ハクマ ハクマ.
ひそひそと話す ひそひそと話す
小声でささやいた。
- 3193 'Itekika itekika.^{*73}
'イテキカ イテキカ.
禁止 禁止
『それは駄目だ。
- 3194 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
大変
- 3195 iyaikipte hawe an.
イヤイキッテ ハウエ アン.
危うい 声 ある
危ない。
- 3196 Kamui katkemat
カムイ カトケマト
神 婦人
神である婦人は
- 3197 ki hawe ne.
キ ハウエ ネ.
する 声 繫
危ういことを言う。
- 3198 Hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
大昔から、
- 3199 kamui hene
カムイ ヘネ
神 例示
神々の間でも、
- 3200 ainu hene
アイヌ ヘネ
人間 例示
人間の間でも、
- 3201 ebetturashi p
エベトウラシ ヲ
匹敵する もの
匹敵するものが
- 3202 isam be tap
イサム ベ タッ
ない もの これ
ない
- 3203 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 3204 shinutapka ta
シヌタヅカ タ
地名 場所
シヌタヅカの
- 3205 kamui rametok utar
カムイ ラメトク ウタラ
神 勇者 たち
勇者の
- 3206 usanikiri
ウサニキリ
子孫
末裔である。
- 3207 usanikiri uneno
ウサニキリ ウネノ
子孫 同じ
末裔は揃いも揃って
- 3208 rametok batek
ラメトク バテック
勇者 限定
勇者ばかり
- 3209 okai nankoro awa
オカイ ナンコロ アワ
ある だろう 展開
であろう。
- 3210 ouse shinen
オウセ シネン
ただ 一人
たった一人
- 3211 e-ne wa
エ・ネ ワ
汝・繫 接続
で、
- 3212 nei bakno
ネ バクノ
どこ 限度
如何に
- 3213 nubur mat e-ne
ヌブル マト エ・ネ
霊力がある女 汝・繫
霊力の強い女、
- 3214 rametok e-ne yakka
ラメトク エ・ネ ヤッカ
勇者 女 繫 譲歩
勇敢な女であつても、
- 3215 sonno iyaikipte
ソンノ イヤイキッテ
真に 危うい
危うい
- 3216 ruwe tab an na.
ルウェ タパン ナ.
跡 これ ある 要求
おこないだ。
- 3217 Shittek kunak
シトテック クナク
落ち着く 引用
落ち着て
- 3218 ramu yan.
ラム ヤン.
思う 命令
ほしい。
- 3219 A-obittano
ア・オビタノ
我・すべて
我らは皆で
- 3220 uweutanne-an
ウウエウタンネ・アン
仲間になる・我ら
集まった
- 3221 uweyupke-an kane
ウウエユッケ・アン カネ
強く結びつく・我ら 程度
強固な集団として、
- 3222 taban tumunchi
タバン トウムンチ
この 戦争
この戦い、
- 3223 taban rorumbe
タバン ロルムベ
この 戦闘
この戦闘を
- 3224 a-sanke
ア・サンケ
我・出す
仕掛ける
- 3225 kusu ne na.
クス ネ ナ.
根拠 繫 要求
つもりだ。』
- 3226 ari a-ye ko
アリ ア・イエ コ
引用 言われる 条件
娘はこのように言われると
- 3227 toikoemina
トイコエミナ
激しく笑う
大いに
- 3228 koyaikush
コヤイクシ
できない
笑い、
- 3229 esapse kane
エサッセ カネ
馬鹿にする 程度
嘲笑した。
- 3230 'Tam moshiri ka ta
'タム モシリ カ タ
この 国土 上 場所
『この世界で、
- 3231 a-shitoma p
ア・シトマ ヲ
我・恐ろしいもの
私が恐れるもの
- 3232 anakne p. 70
アナクネ
は
は
- 3233 shinep ka isam.
シネッ カ イサム.
一つ 追加 死ぬ
何もない。
- 3234 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 3235 shinutapka ta
シヌタヅカ タ
地名 場所
シヌタヅカに
- 3236 okai
オカイ
ある
いる
- 3237 a-yubutari anakne
ア・ユブタリ アナクネ
我・兄たち 提題
兄たちは
- 3238 a-ponashbekechi
ア・ポナシベケチ
我・小指
私の小指にも、

*73 原ノートでは iteke と書かれているが鉛筆で itekika と訂正されている。

- 3239 a-ponurebechi
ア・ポヌレベチ
我・足の小指
足の小指にも
- 3240 a-epokashbare p
ア・エポカシバレ
我・不足に思う
及ばないもの
- 3241 ne ruwe ne.
ネ ルウエ ネ.
繫 跡 繫
である。
- 3242 Iteki iteki
イテキ イテキ
禁止 禁止
決して
- 3243 i-enisomap kuni
イ・エニソマツクニ
我・心配する 必然
私を心配する
- 3244 ramu yan.
ラム ヤン.
思う 命令
な。
- 3245 Tane oman-an yakne
タネ オマナン ヤクネ
今 行く・我 条件
行くとしても、
- 3246 shirutasa korachi
シルタサ コラチ
地面とぶつかる ように
取って返すように、
- 3247 nani nani
ナニ ナニ
すぐに すぐに
すぐに
- 3248 hoshi-bi-an
ホシビ・アン
戻る・我
帰る
- 3249 kusu ne.
クス ネ.
根拠 繫
つもりだ。
- 3250 Batek
バテック
のみ
ただ一つ
- 3251 ponno a-shitoma p
ボンノ ア・シトマ
少し 我・恐ろしいもの
気がかりなのは、
- 3252 a-kot totto batek
ア・コト トット バテック
我・持つ 母 限定
私の母
- 3253 ne ruwe ne.
ネ ルウエ ネ.
繫 跡 繫
である。』
- 3254 Ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 程度
娘はそのように言い、
- 3255 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンペチの
- 3256 upsoro
ウッソロ
内部
中にある
- 3257 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいに
- 3258 chioahunke hine
チオアフンケ ヒネ
入る 接続
入り、
- 3259 tapne tapne
タップネ タップネ
このように このように
様々な
- 3260 ishimemokka wa
イシメモッカ ワ
挑発する 接続
挑発をした。
- 3261 tapne
タップネ
このように
そのように
- 3262 iki awan shiri
イキ アワン シリ
する 判明 様子
したことを、
- 3263 oro ta eashiri
オロ タ エアシリ
所 場所 強調
まさに
- 3264 tapne nei katu
タップネ ネ カトゥ
このように 繫 様子
そのようであることを、
- 3265 a-ramnukare.
ア・ラムヌカレ.
我・見抜く
私は見通した。
- 3266 Sonno sonno
ソンノ ソンノ
真に 真に
まことに、
- 3267 ram oshi wano
ラム オシ ワノ
心 中 始点
心の底から
- 3268 shiyoro-an
シヨロ・アン
驚く・我
驚き
- 3269 oshserke-an ruwe ne.
オシセレケ・アン ルウエ ネ.
驚愕する・我 跡 繫
呆れた。
- 3270 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
悪党は
- 3271 shiyokunnure
シヨクンヌレ
威張る
傲慢にも、
- 3272 isaureramu kusu
イサウレラム クス
容易だと思ふ 根拠
容易であると思ひ、
- 3273 katkoro shiri
カトコロ シリ
振舞う 様子
あのように振る舞ひ、
- 3274 irara shiri
イララ シリ
悪戯する 様子
悪事をなした
- 3275 okai rokwa
オカイ ロックワ
ある 展開
のだが、
- 3276 a-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子の
- 3277 shimoye hetap ne
シモイエ ヘタップ ネ
働く これ 繫
戦いぶりには、
- 3278 ituren hetap ne
イトウレン ヘタップ ネ
悪く これ 繫
その憑神の力には、
- 3279 iramkursere *p. 71*
イラムクルセレ
不思議に思わせる
瞳目し、
- 3280 iramtoinere.
イラムトイネレ.
驚く
驚き呆れている。
- 3281 E-ki shiri
エ・キ シリ
汝・する 様子
おまえの様子は、
- 3282 sonno teeta kane
ソンノ テエタ カネ
真に 以前 程度
昔、
- 3283 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父が
- 3284 uben i ta
ウベニ タ
若い 形名 場所
若かった頃、
- 3285 beure i ta
ベウレ イ タ
若い 形名 場所
若者であった頃の
- 3286 ki ituren
キ イトゥレン
する 悪く
憑神の力や
- 3287 ki shimoye
キ シモイエ
する 働く
戦いぶりに
- 3288 neike huike
ネケ フイケ
どこに 隅
何ら
- 3289 e-hoppa
エ・ホッパ
汝・残す
遜色が
- 3290 somo ki shiri
ソモ キ シリ
否定 する 様子
ない。
- 3291 sonno shiyoro-an
ソンノ シヨロ・アン
真に 驚く・我
私はまことに驚いた

- 3292 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 繫
のだ。
- 3293 Arkamiashi
アッカミアシ
化物
悪党は
- 3294 hemanta ye p
ヘマンタ イェ プ
何 言うもの
何を言って
- 3295 irara shiri
イララ シリ
悪戯する様子
悪事を働き、
- 3296 shiyokunure
シヨクヌレ
威張る
傲慢な
- 3297 shiri okai.
シリ オカイ.
様子 ある
態度であったのか。
- 3298 Orowa eashka
オロワ エアシカ
始点 頗る
まさしく、
- 3299 kamui chibanakte p
カムイ チバナクテ プ
神 罰せられるもの
神に罰せられるもの
- 3300 kone p ne kusu
コネ ッ ネ クス
繫 もの 繫 根拠
であるから、
- 3301 otu wan keshto
オトゥワン ケシト
二つの十の毎日
二十日の間、
- 3302 ore wan keshto
オレ ワン ケシト
三つの十の毎日
三十日の間、
- 3303 eashka
エアシカ
頗る
まさしく
- 3304 wen kimattek
ウェン キマトテク
悪い 慌てる
ひどく慌て、
- 3305 toi kimattek.
トイ キマトテク.
土 慌てる
大いに慌てた。
- 3306 A-iwakokikkik
ア・イワコキッキク
岩に叩きつけられる
岩に叩きつけられ、
- 3307 a-iwakobenere.
ア・イワコベネレ.
岩で潰される
岩で身体を潰された。
- 3308 Kaniyamour
カニヤモウル
鎖帷子
鎖かたびらという
- 3309 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つもの
神宝が
- 3310 sak be ne ko
サク ベ ネ コ
欠くもの 繫 条件
無けれ
- 3311 anakne
アナクネ
は
ば、
- 3312 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
しばらくの間、
- 3313 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 3314 toi rai wen rai
トイ ライ ウエン ライ
土 死ぬ 悪い 死ぬ
ひどい死に方を
- 3315 ki p ne koroka
キ プ ネ コロカ
するもの 繫 逆接
していたのだが、
- 3316 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つもの
神宝の
- 3317 an kush keraipo
アン クシ ケライポ
ある 根拠 受益
おかげで、
- 3318 kashi oshiknu
カシ オシクヌ
上 生きる
生きながらえた
- 3319 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 繫
のだ。
- 3320 Chobarata
チョバラタ
いい気味である
まさにいい気味だ。
- 3321 ene hetap ne
エネ ヘタプ ネ
このようにこれ 繫
あのよう
- 3322 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではなく、
- 3323 yayotuwashi hawe
ヤヨトゥワシ ハウエ
自ら頼りにする 声
自らを頼りに
- 3324 okai rok pe
オカイ ロク ペ
ある 完了 もの
して、
- 3325 usa kamui koro be
ウサ カムイ コロ ベ
譲歩 神 持つもの
神宝も
- 3326 a-kowente kane.
ア・コウエンテ カネ.
痛めつけられる 程度
壊された。
- 3327 Katu chiwente
カトゥ チウエンテ
様子 痛めつけられる
愚かな娘が痛めつけ
- 3328 a-ekarkar shiri
ア・エカラカシ リ
される 様子
られて、
- 3329 ponno a-ehese kane
ボンノ ア・エヘセ カネ
少し 我・息をつく 程度
私は少し安心
- 3330 yainu-an.
ヤイヌ・アン.
考える・我
した。
- 3331 Nekona tapne
ネコナ タプネ
どのように このように
どのようにして
- 3332 yayashish hene
ヤヤシシ ヘネ
悔やむ 例示
悔しがり、
- 3333 yayekatuwen hene
ヤイェカトゥウエン ヘネ
恥をかく 例示
恥ずかしがり、
- 3334 yaikeshkoro humi
ヤイケシコロ フミ
後悔する 気配
後悔している
- 3335 am be an
アム ベ アン
あるもの ある
だろうか
- 3336 ari yainu-an chiki
アリ ヤイヌ・アン チキ
引用 考える・我 条件
思うと
- 3337 a-emina rusui hene
ア・エミナ ルスイ ヘネ
我・笑う したい 例示
可笑しく思ったり、
- 3338 a-ehese hene
ア・エヘセ ヘネ
我・息をつく 例示
安心したり
- 3339 ki kane
キ カネ
する 程度
する
- 3340 an-an ruwe ne.
アナン ルウェ ネ.
いる・我 跡 繫
のだ。
- 3341 A-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘が
- 3342 ramkobashte p ari
ラムコバシテ プ アリ
心を走らせる もの 手段
刀で
- 3343 tuiba p anakne
トゥイバ ッ アナクネ
切る もの 提題
斬った者は
- 3344 sonno kanna
ソンノ カンナ
真に 再び
再び

- 3345 yaikachippa eaikap be
ヤイカチツバ エアイカプベ
自ら蘇生する できない もの
蘇生することができない
- 3346 ne koroka
ネ コロカ
繫 逆接
のだが、
- 3347 heru ram ari
ヘル ラム アリ
ただの心 手段
私の一念で、
- 3348 e-yubutari
エ・ユブタリ
汝・兄たち
おまえの兄たちを
- 3349 obittano
オビトタノ
皆
一人残らず、
- 3350 iresu sapo
イレス サポ
育てる 姉
育ての姉
- 3351 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 譲歩
も、
- 3352 hanke ramachi
ハンケ ラマチ
近い 魂
その近い魂、
- 3353 tuima ramachi
トゥイマ ラマチ
遠い 魂
遠い魂を追いかけて
- 3354 a-konoshbakar wa
ア・コノシバカラ ワ
我・追いかける 接続
蘇生させた。
- 3355 too kamui ewak i
トオ カムイ エワキ
ずっと 神 住む 形名
兄と姉は神の住まいへ
- 3356 kohoshippa wa
コホシツバ ワ
帰る 接続
戻った。
- 3357 'Nep ene
'ネツ エネ
何 このように
『何者が
- 3358 i-koyaikire shiri okai
イ・コヤイキレ シリ オカイ
我・馬鹿にする 様子 ある
我らを侮ったのか。
- 3359 i-toikoronnun-an a yakka
イ・トイコロンヌ・アン ア ヤッカ
我・酷く殺される 完了 譲歩
我らは無残にも殺されたのだが、
- 3360 kamui
カムイ
神
神々が
- 3361 i-eramboken kusu
イ・エラムボケン クス
我・憐れむ 根拠
憐れに思っ、
- 3362 tap korachi
タツ コラチ
これように
このように
- 3363 kamuitusare-an wa
カムイトウサレ・アン ワ
蘇生する・我 接続
蘇生して、
- 3364 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいへ
- 3365 a-kohekompa ruwe
ア・コヘコムパ ルウエ
我・戻る 跡
戻ったのか。
- 3366 sonno yayiraike-an
ソンノ ヤイライケ・アン
真に ありがたく思う・我
まことに有難い
- 3367 ruwe ne yakka
ルウエ ネ ヤッカ
跡 繫 譲歩
のだが、
- 3368 a-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
我らの弟君、
- 3369 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国土 持つ 神
国土の神は
- 3370 konep kotani
コネツ コタニ
何 村
どこの村、
- 3371 konep moshiri
コネツ モシリ
何 国土
どこの世界へ
- 3372 chiomante
チオマンテ
進行する
行っった
- 3373 ruwe ta an.
ルウエ タ アン.
跡 これ ある
のか。』
- 3374 ari
アリ
引用
兄と姉はこのように
- 3375 shino ukonisomap koro
シノ ウコニソマップ コロ
まことに 皆で心配する 同時
心配しながら、
- 3376 kamui ewak i p. 73
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいを
- 3377 ebunkine wa
エブンキネ ワ
守る 接続
守護して
- 3378 okai ruwe
オカイ ルウエ
ある 跡
いる
- 3379 ne kusu
ネ クス
繫 根拠
のだ。
- 3380 tam be hemem
タム ベ ヘメム
このもの 例示
それを
- 3381 eraman wa
エラマン ワ
分かる 接続
知っておきなさい。
- 3382 iteki
イテキ
禁止
決して
- 3383 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいのことを
- 3384 enisomap yan.
エニソマップ ヤン.
心配する 命令
心配するな。

3.11 これからの戦闘

- 3385 Kimunto kotan wa
キムント コタン ワ
地名 村 始点
キムント村から
- 3386 tunashno
トゥナシノ
早く
まもなく、
- 3387 attumunchi
アトトゥムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 3388 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦闘が
- 3389 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 3390 shinutapkashi
シヌタツカシ
地名
シヌタツカへ向けて
- 3391 chiomante
チオマンテ
進行する
開始される
- 3392 kusu ne a koroka
クス ネ ア コロカ
根拠 繫 完了 逆接
であろうが、
- 3393 retar mokorir tura
レタラ モコリリ トウラ
白い 巻貝 とともに
白い巻貝は
- 3394 echi-ukohobumpa a yakka
エチ・ウコホブムパ ア ヤッカ
汝ら・互いに立ち向かう 完了 譲歩
おまえたちと戦ったときに、
- 3395 e-ituren humi
エ・イトゥレン フミ
汝・憑く 気配
おまえの憑神の力、
- 3396 e-shimoye shiri
エ・シモイエ シリ
汝・働く 様子
おまえの戦いぶりを

- 3397 nukar orowa
ヌカヲ オロワ
見る 始点
見て、
- 3398 sonno homatu
ソンノ ホマトウ
真に 驚く
まことに驚き、
- 3399 sonno iyokunure
ソンノ イヨクヌレ
真に 驚く
驚愕し、
- 3400 sonno ishitoma.
ソンノ イシトマ.
真に 恐ろしい気がする
恐れている。
- 3401 Shisak nubur mat
シサク ヌブル マト
またとない 霊力がある 女
比類のない 霊力を持つ 女
- 3402 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接続 繋 譲歩
であっても、
- 3403 sonno a-montabire p
ソンノ ア・モンタビレ フ
真に 忙しくさせられる もの
急襲を受けたもの
- 3404 kone p ne kusu
コネ ヲ ネ クス
繋 もの 繋 根拠
であるから、
- 3405 keshto kira batek
ケシト キラ バテック
毎日 逃げる 限定
逃げる ことばかりに
- 3406 eyairamushitne.
エヤイラムシトネ.
思い悩む
苦しんだ。
- 3407 Nei kan^{*74} humihi
ネ カン フミヒ
繋 上 音
その様子は
- 3408 kimunto kotan orowa
キムント コタン オロワ
地名 村 始点
キムント村
- 3409 ne yakka
ネ ヤッカ
繋 譲歩
からも
- 3410 a-nu.
ア・ヌ.
我・聞く
聞こえてきた。
- 3411 Kimunto un rup
キムント ウン ルフ
地名 ある 群れ
キムントの奴らは
- 3412 shino nisomap^{*75} yakka
シノ ニソマフ ヤッカ
まことに心配する ヤッカ
心配していても、 譲歩
- 3413 toi katchak be
トイ カトチャック ベ
土 臆病である もの
臆病者、
- 3414 wen katchak be batek
ウェン カトチャック ベ バテック
悪い 臆病である もの 限定
卑怯者ばかり
- 3415 uwatte p ne kusu
ウワテ ヲ ネ クス
集まる もの 繋 根拠
集まっており、
- 3416 ikaobash be anakne
イカオバシ ベ アナクネ
救援する もの 提議
救援に向かう者は
- 3417 shinep ka isam.
シネ ヲ カ イサム.
一つ 追加 ない
一人としていない。
- 3418 A-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘の
- 3419 hokuhu
ホクフ
夫
夫は、
- 3420 shino nisomap wa
シノ ニソマフ ワ
まことに心配する 接続
まことに心配して、
- 3421 ikaobash rusui yakka p. 74
イカオバシ ルスイ ヤッカ
救援する したい 譲歩
救援に向かいたいと思っても、
- 3422 tumunchi ikkeu
トゥムンチ イッケウ
戦争 理由
戦いの理由、
- 3423 rorumbe ikkeu
ロルムベ イッケウ
戦闘 理由
戦闘の理由が
- 3424 wem be ne kusu
ウェム ベ ネ クス
悪い もの 繋 根拠
良くないものであるから、
- 3425 turamkoro wa
トゥラムコロ ワ
臆する 接続
臆病になって、
- 3426 ikaobash kuni
イカオバシ クニ
救援する 必然
救援
- 3427 ekatubase wa
エカトゥバセ ワ
嫌がる 接続
しづらく、
- 3428 somo ikaobash.
ソモ イカオバシ.
否定 救援する
救援に向かわない。
- 3429 Nei kar sake
ネ カラ サケ
繋 作る 酒
醸された酒
- 3430 ne yakka
ネ ヤッカ
繋 譲歩
も
- 3431 neino somo kuba no
ネノ ソモ クバノ
繋 否定 飲む 接続
飲まずに、
- 3432 a-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘を
- 3433 tere wa okai
テレ ワ オカイ
待つ 接続 ある
待っている
- 3434 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 繋
のだ。
- 3435 A-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘は
- 3436 shino iyunin
シノ イユニン
まことに 病気になる
長い間、
- 3437 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
深い傷を
- 3438 iki aine
イキ アイネ
する 接続
負い、
- 3439 nuinak koroka
ヌイナック コロカ
隠れる 逆接
隠れているが、
- 3440 shino inukuri wa
シノ イヌクリ ワ
まことに 不自由である 接続
身体が不自由で、
- 3441 nei ta ka
ネ タ カ
どこ 場所 追加
どこかの
- 3442 ru hontomo ta
ル ホントモ タ
道 途中 場所
道の途中で
- 3443 yaishinire
ヤイシニレ
自ら休む
休んだり
- 3444 yayebotara
ヤイエボタラ
自ら治癒する
傷を治したりして
- 3445 koro an nankoro.
コロ アン ナンコロ.
同時 ある だろう
いるだろう。
- 3446 Tane
タネ
今
今は

*74 kan については未詳。

*75 原ノートでは nisobap と書かれているが、鉛筆で nisomap に訂正されている。

- 3447 ponno hene
ボンノ ヘネ
少し 例示
少し、
- 3448 yaikoshiramse
ヤイコシラムセ
考える
考えを巡らせて
- 3449 ponno ka
ボンノ カ
少し 追加
少しは
- 3450 yashtoma kuni
ヤシトマ クニ
恥ずかしい 必然
恥じているように
- 3451 a-ramu.
ア・ラム、
我・思う
思う。
- 3452 Ponno boka
ボンノ ボカ
少し 限定
少しは
- 3453 yomne nankoro.
ヨムネ ナンコロ、
懲りる だろう
懲りただろう。
- 3454 A-yaikomore p
ア・ヤイコモレ プ
我・自ら治める もの
静かに治められていたものが
- 3455 totto kotan
トトト コタン
母 村
母なる村、
- 3456 shinrit kotan
シンリト コタン
出自 村
先祖の村である
- 3457 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 3458 ne awa
ネ アワ
繫 展開
であるが、
- 3459 tapne am be kusu
タッネ アム ベ クス
このようにある もの 根拠
このような次第で、
- 3460 attumunchi
アトトゥムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 3461 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦闘が
- 3462 oman kuni
オマン クニ
行く 必然
起こるのは
- 3463 a-niukesh kusu
ア・ニウケン クス
我・出来かねる 根拠
耐え難い。
- 3464 utarpa rak be
ウタラパ ラク ベ
首領 末裔 もの
おまえは頭領の末裔、
- 3465 rametok rak be
ラメトク ラク ベ
勇者 末裔 もの
勇者の末裔
- 3466 e-ne kusu
エ・ネ クス
汝・繫 根拠
であるから、
- 3467 taban tumunchi
タバン トゥムンチ
この 戦争
この戦い、
- 3468 taban rorumbе
タバン ロルムベ
この 戦闘
この戦闘に
- 3469 yaitunankare
ヤイトゥナンカレ
立ち向かう
立ち向かい
- 3470 e-ki nankon na. *p. 75*
エ・キ ナンコン ナ、
汝・する だろう 要求
なさい。
- 3471 Taban ushike ta
タバン ウシケ タ
この ところ 場所
この場所で
- 3472 mono an-an yakka
モノ アナン ヤッカ
静かに いる・我 譲歩
私は静かにしていても、
- 3473 e-sermakkashi
エ・セレマッカシ
汝・背後の上
おまえの背後を
- 3474 a-ramkushbare
ア・ラムクシバレ
我・心を通させる
見守り、
- 3475 e-sermaka
エ・セレマカ
汝・背後
おまえの背後を
- 3476 a-ush kusu ne.
ア・ウシ クス ネ、
我・付く 根拠 繫
守護するつもりだ。
- 3477 Arabasakkuru
アラバサックル
親族のいない者
身寄りのない者よ、
- 3478 tun moimoike
トゥン モイモイケ
二人 動く
二人分の活躍、
- 3479 ren moimoike
レン モイモイケ
三人 動く
三人分の活躍を
- 3480 ki p tap okai na.
キ プ タッ オカイ ナ、
するもの これ ある 要求
しなさい。
- 3481 A-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子、
- 3482 a-potekpake
ア・ポテックパケ
我・頭領の息子
頭領である息子よ、
- 3483 huwoiki e-ki
フウオイキ エ・キ
頑張る 汝・する
勇敢に
- 3484 kusu ne
クス ネ
根拠 繫
戦い
- 3485 ruwe tab an na.
ルウェ タバン ナ、
跡 これ ある 要求
なさい。
- 3486 Eebaki ta
エエバキ タ
次 場所
これから
- 3487 kimunto ta
キムント タ
地名 場所
キムントに
- 3488 e-oman wa
エ・オマン ワ
汝・行く 接続
おまえが行くと、
- 3489 e-tureshi
エ・トゥレシ
汝・妹
おまえの妹の
- 3490 haukoro hawe hene
ハウコロ ハウエ ヘネ
話す 声 例示
声も
- 3491 e-nu nankor
エ・ヌ ナンコロ
汝・聞く だろう
聞くことになろう。
- 3492 orowa sui
オロワ スイ
始点 再び
それからまた、
- 3493 tumi tuika ta hene
トゥミ トウイカ タ ヘネ
戦い 上 場所 例示
戦いの最中にでも、
- 3494 katkoro shiri
カトコロ シリ
振舞う 様子
その振る舞いを
- 3495 e-nukar nankor
エ・ヌカラ ナンコロ
汝・見る だろう
見ることになろう。
- 3496 ne i ta^{*76}
ネ イ タ
繫 形名 場所
そのときは
- 3497 'A-kot totto
'ア・コト トトト
我・持つ 母
『私の母が

*76 原ノートでは ta の後に Aa と書かれているが、誤記とみなし削除する。

- 3498 kor ituren ari
コロ イトウレン アリ
持つ 憑く 引用
憑神の力で、
- 3499 kor nubur ari
コロ スブル アリ
持つ 霊力 手段
霊力で
- 3500 kar be nankor.
カラ ベ ナンコロ.
作るもの だろう
おこなったことだろう』
- 3501 ari e-yainu yakka
アリ エ・ヤイヌ ヤッカ
引用 汝・考える 譲歩
と申すてくれれば
- 3502 pirika na.
ピリカ ナ.
よい 要求
よい。
- 3503 Utarpa anakne
ウタラバ アナクネ
首領 提題
頭領というものは、
- 3504 rametok anakne
ラメトク アナクネ
勇者 提題
勇者というものは、
- 3505 nei ta bakno
ネ タ バクノ
どこ 場所 限度
いつの時にも、
- 3506 ratchi irenka
ラトチ イレンカ
穏やかな 意図
穏やかな意志、
- 3507 pirika irenka
ピリカ イレンカ
よい 意図
良い心掛け、
- 3508 ramu hauke keutum
ラム ハウケ ケウトウム
思う 緩やかになる 心
優しい心を
- 3509 koro ko anakne
コロ コ アナクネ
持つ 条件 提題
持っているならば、
- 3510 boo kamui orowano
ボオ カムイ オロワノ
なおさら 神 始点
神々からますます
- 3511 ramu a-ye ko
ラム ア・イエ コ
思う 言われる 条件
褒めたたえられる。
- 3512 boo boo
ボオ ボオ
なおさら なおさら
それですます、
- 3513 epirika
エピリカ
よい
善良で
- 3514 enishpa ne p
エニシパ ネ プ
裕福になる 繫もの
裕福な人物になる
- 3515 tap okai na.
タップ オカイ ナ.
これ ある 要求
のだ。
- 3516 A-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子よ、
- 3517 a-ki a itak
ア・キ ア イタク
我・する 完了 言葉
私の言葉を
- 3518 iteki oira no
イテキ オイラ ノ
禁止 忘れる 接続
忘れずに、
- 3519 tumunchi kinra
トゥムンチ キンラ
戦争 狂気
戦いの狂気、
- 3520 wem be kinra
ウエム ベ キンラ
悪いもの 狂気
戦闘の狂気に
- 3521 eyaitushtekka p. 76
エヤイトウシテッカ
沈黙する
身を委ねた
- 3522 e-ki a yakka
エ・キ ア ヤッカ
汝・する 完了 譲歩
としても、
- 3523 nei utur beka
ネ ウトル ベカ
繫 間 場所
その間に、
- 3524 e-eashkai bakno
エ・エアシカイ バクノ
汝・上手にする 限度
出来る限り
- 3525 yairamatte
ヤイラマテ
自らの心をあらしめる
正気を保って
- 3526 yainita wa
ヤイニタ ワ
我慢する 接続
我慢しなさい。
- 3527 nep ne yakka
ネプ ネ ヤッカ
何 繫 譲歩
何事も
- 3528 pirika kunine
ピリカ クニネ
よい 目的
めでたく収まるように
- 3529 ki wa
キ ワ
する 接続
して、
- 3530 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 3531 shinutapka
シヌタップカ
地名
シヌタップカの
- 3532 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む 形名
神の住まいの
- 3533 e-benkirechiu
エ・ベンキレチウ
汝・上流を治める
上流を治め、
- 3534 e-bankirechiu
エ・バンキレチウ
汝・下流を治める
下流を治め
- 3535 ki kush ne na.
キ クシ ネ ナ.
する 根拠 繫 要求
なさい。
- 3536 E-yubutari
エ・ユブタリ
汝・兄たち
あなたの兄は
- 3537 uatte a yakka
ウアトテ ア ヤッカ
皆で集まる 完了 譲歩
沢山いるが、
- 3538 obittano
オビタノ
皆
すべて
- 3539 shinnai chise
シンナイ チセ
違う 家
別の家、
- 3540 shinnai chashi
シンナイ チャシ
違う チャシ
別の館に
- 3541 esoyumpa utar
エソユムパ ウタラ
外に出る 者たち
住む者たち
- 3542 ne ruwe ne.
ネ ルウェ ネ.
繫 跡 繫
なのだ。
- 3543 Eani anakne
エアニ アナクネ
汝 提題
おまえは
- 3544 iyotta pon kuru
イヨッタ ポン クル
最も 小さい 人
最も幼い者
- 3545 e-ne yakka
エ・ネ ヤッカ
汝・繫 譲歩
であるが、
- 3546 sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 3547 kamui tutanu kur
カムイ トウタヌ クル
神 次ぐ 人
神の次に尊い者、
- 3548 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 3549 kamui ramachi
カムイ ラマチ
神 魂
神の如き魂
- 3550 e-ne ruwe tab an na.
エ・ネ ルウェ タパン ナ.
汝・繫 跡 これ ある 要求
であるのだ。

- 3551 Tam be hene
タム ベ ヘネ
このもの例示
そのことも、
- 3552 pirikano e-ramu wa
ピリカノ エ・ラム ワ
良く 汝・思う 接続
よく考えて、
- 3553 nei ta bakno
ネ タ バクノ
どこ場所 限度
いつも、
- 3554 ponno hene
ボンノ ヘネ
少し 例示
少しの
- 3555 uhaita buri
ウハイタ プリ
釣り合いのとれない 行い
過ちも
- 3556 iteki ki no
イテキキ キ ノ
禁止 する 接続
ないようにして、
- 3557 e-koro ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 男
おまえの父の
- 3558 ruwokake
ルウォカケ
跡
後を
- 3559 e-horari wa
エ・ホラリ ワ
汝・住まう 接続
継ぎ、
- 3560 kamui
カムイ
神
神に
- 3561 shikoinkare
シコインカレ
目を掛ける
我が身を守らせ
- 3562 e-ki kush ne na.
エ・キ クシ ネ ナ.
汝・する 根拠 繋 要求
なさい。
- 3563 Eebaki ta
エエバキ タ
次 場所
その次に、
- 3564 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村は
- 3565 pon kotan somo ne
ボン コタン ソモ ネ
小さい村 否定 繋
小さな村ではない。
- 3566 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
大昔から、
- 3567 kamui orwano
カムイ オロワノ
神 始点
神々によって
- 3568 a-ebunkine p. 77
ア・エブンキネ
保護される
守られ、
- 3569 a-more kotan
ア・モレ コタン
治められる 村
治められてきた村
- 3570 ne kusu
ネ クス
繋 根拠
であり、
- 3571 sonno boro kotan
ソンノ ボロ コタン
真に 大きい 村
まことに大きな村
- 3572 ne ruwe ne
ネ ルウェ ネ
繋 跡 繋
なのだ。
- 3573 sanke kotan
サンケ コタン
前方である 村
浜手の村、
- 3574 makun kotan
マクン コタン
奥にある 村
山手の村が
- 3575 arusoshkamu wa
アルソシカム ワ
重なる 接続
重なるように並んでいる。
- 3576 sanke kotan kor be
サンケ コタン コロ ベ
前方である 村 持つもの
浜手の村の頭領である
- 3577 poniune ike
ポニウネ イケ
年下の 方
幼い者
- 3578 turanno
トゥランノ
ともに
と
- 3579 ene e-wentureshi
エネ エ・ウェントウレシ
このように 汝・悪い妹
おまえの愚かな妹が
- 3580 ukatkar aine
ウカトカラ アイネ
互いを騙す 接続
一緒になって
- 3581 wen keutum
ウエン ケウトウム
悪い 心
悪事を
- 3582 kosap i ne ruwe ne.
コサプ イ ネ ルウェ ネ.
出す 形名 繋 跡 繋
仕掛けたのだ。
- 3583 Neptemowa^{*77}
ネプテモワ
どうにかして
何とかして、
- 3584 taban tumunchi
タバントムンチ
この戦争
この戦い、
- 3585 taban rorumbe
タバントルムベ
この戦闘
この戦闘を
- 3586 tu imakake
トゥ イマカケ
二つのその後
最後まで、
- 3587 re imakake
レ イマカケ
三つのその後
後々まで
- 3588 e-eboso ki wa
エ・エボソ キ ワ
汝・生きていく する 接続
生き延びることが
- 3589 ne chiki
ネ チキ
繋 条件
できたなら、
- 3590 kamui ewak i ta
カムイ エワキ タ
神 住む 形名 場所
神の住まいで
- 3591 pon tonotopo
ボン トノトポ
小さい酒
僅かな酒を
- 3592 e-shikupka
エ・シクッパ
汝・醸す
醸しなさい。
- 3593 yaikota
ヤイコタ
自らで
おまえがみずから
- 3594 e-kar inau
エ・カラ イナウ
汝・作る 木幣
作った木幣で
- 3595 e-esabane
エ・エサバネ
汝・頭領となる
祭主となり、
- 3596 e-kor tonoto ari
エ・コロ トノト アリ
汝・持つ 酒 手段
おまえが用意した酒で、
- 3597 kanto or un
カント オルン
天 所 方向
私は天空へ
- 3598 rikin-an rusui.
リキン・アン ルスイ.
昇る・我 したい
昇りたい。
- 3599 Neiam be batek
ネアム ベ バテク
そのもの 限定 繋
そればかりを
- 3600 sonno tane
ソンノ タネ
真に 今
まさしく
- 3601 a-eyaichibachipare koro
ア・エヤイチバチパレ コロ
我・自ら望む 同時
私は望んで

^{*77} 原ノートでは neptemeowa と書かれているが、neptemowa と解釈する。ユ集 i p. では、nep-temowa に「何とかして」「どうにかして」「どうにかこうにか」という訳語が与えられている。

- 3602 an-an ruwe ne.
アナン ルウェ ネ.
いる・我 跡 繫
いるのだ。
- 3603 Kamui ot ta anakne
カムイ オトタ アナクネ
神 所 場所 提題
神々の間では、
- 3604 nekona
ネコナ
どのように
どのような
- 3605 shinubur kamui hene
シヌブル カムイ ヘネ
神威強い 神 例示
霊力の強い神でも、
- 3606 sonno
ソノ
真に
まことに
- 3607 shibase kamui hene
シバセ カムイ ヘネ
真に重い 神 例示
尊い神でも、
- 3608 iyotta eikoituiba p
イヨッタ エイコイトウイバ
最も 欲しがる もの
最も望むものは
- 3609 ainu tekekar inau hemem
アイヌ テケカラ イナウ ヘメム
人間 手作りする 木幣 例示
人間の作った木幣と
- 3610 ainu kar tonoto hene
アイヌ カラ トノト ヘネ
人間 作る 酒 例示
人間の醸した酒と、
- 3611 nep ne yakka
ネプ ネ ヤッカ
何 繫 譲歩
何であれ、
- 3612 ainu kar aep
アイヌ カラ アエプ
人間 作る 食物
人間の作った食物
- 3613 ne ruwe ne.
ネ ルウェ ネ.
繫 跡 繫
なのだ。
- 3614 Tam be hene
タム ベ ヘネ
この もの 例示
そのことも
- 3615 e-eraman kusu ne.
エ・エラマン クス ネ.
汝・知る 根拠 繫
おまえは分かるはずだ。
- 3616 Tane e-kon rorumbe
タネ エ・コン ロルムベ
今 汝・持つ 戦闘
おまえの戦い、
- 3617 e-kot tumunchi
エ・コト トウムンチ
汝・持つ 戦争
おまえの戦闘に
- 3618 koikaobash
コイカオバシ
救援する
駆けつけ
- 3619 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する 接続
で、
- 3620 e-kasui-an anke
エ・カスイ・アン アンケ
汝・手伝う・我 しようとする
加勢したいと
- 3621 yainu-an koroka
ヤイヌ・アン コロカ
考える・我 逆接
私は思うのだが、
- 3622 neiam be ne yakka
ネアム ベ ネ ヤッカ
その もの 繫 譲歩
それも
- 3623 a-eyayekatuwen.
ア・エヤイエカトウウェン.
我・恥しい
恥ずかしい。
- 3624 Ramma tashi
ラムマ タシ
いつも 強調
いつも
- 3625 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界で
- 3626 a-i-y-ekeshke kusu
ア・イ・イエケシケ クス
我・妬まれる 根拠
私は妬まれた。
- 3627 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
昔、
- 3628 naa uben-an i wano
ナア ウベン・アニ ワノ
まだ若い・我 形名 始点
まだ若い頃に、
- 3629 naa beure-an i wano
ナア ベウレ・アニ ワノ
まだ若い・我 形名 始点
まだ若者であった頃に、
- 3630 kamui moshiri
カムイ モシリ
神 国土
神の世界へ
- 3631 a-koikesui orowa
ア・コイケスイ オロワ
我・立ち去る 始点
立ち去ってから、
- 3632 hetopo sui
ヘトポ スイ
逆に 再び
再び
- 3633 e-nukar-an
エ・ヌカラ・アン
汝・見る・我
おまえに会いたい
- 3634 rusui kasui
ルスイ カスイ
したい 甚だしい
と思ひ、
- 3635 a-otashumnere
ア・オタシユムネレ
我・病気になる
それで病に倒れた。
- 3636 oman ikiri
オマン イキリ
行く 列
そのことで
- 3637 i-eyomak-an.
イ・エヨマク・アン.
我・追い払われる
私は追い出された。
- 3638 Naa oman ikiri
ナア オマン イキリ
まだ 行く 列
さらに、
- 3639 a-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
愚かな娘は
- 3640 ochiu tushtekka
オチウ トウシテッカ
姦通 黙らす
淫らなことに夢中になり、
- 3641 kinin tushtekka
キニン トウシテッカ
淫乱 黙らす
情欲に憑りつかれた。
- 3642 sui wen renkabi
スイ ウェン レンカビ
再び 悪い 意志
その良くない意志の
- 3643 okai kusu
オカイ クス
ある 根拠
おかげで、
- 3644 taban tumunchi
タバン トウムンチ
この 戦争
この戦い、
- 3645 taban rorumbe
タバン ロルムベ
この 戦闘
この戦闘が
- 3646 chihetukure ko
チヘトウクレ コ
顔を突き出す 条件
始まる。
- 3647 kamui a-ne wa
カムイ ア・ネワ
神 我・繫 接続
神である私は
- 3648 onne tuika ta
オンネ トウイカ タ
老いる 上 場所
年老いて、
- 3649 tanebaki
タネバキ
今まで
今更
- 3650 tumikoro-an kuni
トウミコロ・アン クニ
戦う・我 必然
戦うわけにも
- 3651 a-eyainunuke.
ア・エヤイヌスケ.
我・出来かねる
いかない。
- 3652 A-ki ko
ア・キ コ
我・する 条件
戦うことが
- 3653 a-koyaikush be ka
ア・コヤイクシ ベ カ
我・できない もの 追加
できないのでは
- 3654 somo ne koroka
ソモ ネ コロカ
否定 繫 逆接
ないが、

- 3655 kamui or un hene
カムイ オルン ヘネ
神 所 方向 例示
神々に対して
- 3656 boo boo
ボオ ボオ
なおさら なおさら
あまりにも
- 3657 yashtoma-an.
ヤシトマ・アン。
恥ずかしい・我
恥ずかしい。
- 3658 Tam be kusu p. 79
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 3659 tumunchi ot ta
トゥムンチ オト タ
戦争 所 場所
戦いの中で
- 3660 ikasui-an
イカスイ・アン
手伝う・我
加勢することは
- 3661 somo ki koroka
ソモ キ コロカ
否定 する 逆接
しないが、
- 3662 tumunchi ka ta
トゥムンチ カ タ
戦争 上 場所
戦いの中で
- 3663 shiriki shiri
シリキ シリ
事態がある 様子
起きる出来事を
- 3664 e-nukar nankor.
エ・ヌカラ ナンコロ。
汝・見る だろう
おまえは見ることになろう。
- 3665 Naa naa
ナア ナア
まだ まだ
まだまだ、
- 3666 a-ye rusui be
ア・イエ ルスイ ベ
我・言う したいもの
言いたいことも
- 3667 boronno okai koroka
ボロンノ オカイ コロカ
たくさん ある 逆接
沢山あるが、
- 3668 tanto
タント
今日
今日は
- 3669 tam be bakno
タム ベ バクノ
この もの 限度
これで
- 3670 a-ye hawe ne na.
ア・イエ ハウェ ネ ナ。
言われる 声 繋 要求
終わりにする。
- 3671 Pirikano a-ye itak
ピリカノ ア・イエ イタク
良く 我・言う 言葉
私の言ったことを
- 3672 obittano
オビッタノ
皆
一つ残らず、
- 3673 eshikarun wa
エシカルン ワ
思い出す 接続
思い出し
- 3674 i-kore.
イ・コレ。
我・与える
なさい。
- 3675 Eebaki ta
エエバキ タ
次 場所
この次に、
- 3676 a-eashkai bakno
ア・エアシカイ バクノ
我・出来る 限度
出来る限り、
- 3677 naa arshino sui
ナア アラシノ スイ
まだ一度 再び
もう一度、
- 3678 e-nukar-an wa
エ・ヌカラ・アン ワ
汝・見る・我 接続
おまえに会って
- 3679 sui a-ye rusui be
スイ ア・イエ ルスイ ベ
再び 我・言う したいもの
言いたいことを
- 3680 a-ye kusu ne.
ア・イエ クス ネ。
我・言う 根拠 繋
話すつもりだ。
- 3681 Tumunchi oka bakno
トゥムンチ オカ バクノ
戦争 あと 限度
戦いが終わるまで、
- 3682 taban ushike ta
タバヌ ウシケ タ
この ところ 場所
私はこの場所に
- 3683 an-an kusu ne
アナン クス ネ
いる・我 根拠 繋
いるつもり
- 3684 ruwe ne.
ルウェ ネ。
跡 繋
なのだ。
- 3685 Tane
タネ
今
今から、
- 3686 a-tekehe ari
ア・テケヘ アリ
我・手 手段
私はみずから
- 3687 shuke-an wa
シュケ・アン ワ
炊事する・我 接続
煮炊きして、
- 3688 e-ibere-an kusu ne
エ・イベレ・アン クス ネ
汝・食事させる・我 根拠 繋
おまえに食事を出そう。
- 3689 e-ibe okere chiki
エ・イベ オケレ チキ
汝・食事を摂る 完了 条件
食べ終わったら、
- 3690 orotunashno
オロトゥナシノ
一刻も早く
早く
- 3691 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村へ
- 3692 koyaitekani
コヤイテカニ
討ちに来る
戦いに
- 3693 e-ki kusu ne
エ・キ クス ネ
汝・する 根拠 繋
行く
- 3694 ruwe tab an."'
ルウェ タバン"
跡 これ ある
のだ。]
- 3695 ari
アリ
引用
母はこのように言い、
- 3696 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 提題
今はまさしく、
- 3697 itak okere
イタク オケレ
言う 終了
話を終えた。

第4章 キムント村

4.1 ポンヤウンベの回想

- 3698 itak kese ta
イタク ケセ タ
言葉 末端 場所
言葉の終わりで、
- 3699 hokaetok un
ホカエトク ウン
横座 方向
母は横座にいる
- 3700 i-raukotabu
イ・ラウコタブ
我・抱える
我を抱き寄せ、
- 3701 poombepone
ポオムベポネ
ほんの少し
小さい子にするように
- 3702 i-eshikari.
イ・エシカリ。
我・つかまえる
我を抱きしめた。
- 3703 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 3704 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
神の香り、
- 3705 pirika hura
ピリカ フラ
よい 匂い
良い香りが
- 3706 itemka mau ne
イテムカ マウ ネ
人を回復させる 風 繋
人を回復させる風のように、

- 3707 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい風 繫
激しい風となって、
- 3708 i-emaknakur-
イ・エマツナクル・
我・奥
我を奥へ
- 3709 raiba kane. p. 80
ライバ カネ.
移動させる 程度
後ずさりさせた。
- 3710 “popo” ari
“ポポ” アリ
子供 引用
「息子よ」と
- 3711 “sambe” ari
“サムベ” アリ
心臓 引用
「心臓よ」と、
- 3712 itak kane.
イタク カネ.
言う 程度
母は言った。
- 3713 Ene hetap ne
エネ ヘタップ ネ
このようにこれ 繫
驚いたことに、
- 3714 tumashnu kusu
トゥマシヌ クス
元気になる 根拠
母は元気であるから、
- 3715 orsetakko
オロセタッコ
長い間
長い間、
- 3716 tuyetakneko
トゥイエタツネコ
ながながと
しばらくの間、
- 3717 i-koiyushte^{*78}
イ・コイユシテ
我・付けさせる
我に残さず話をした
- 3718 hawe okai rok be
ハウエ オカイ ロク ベ
声 ある 完了もの
のに、
- 3719 tane eashiri
タネ エアシリ
今 強調
まさしく
- 3720 shum kina ne
シユム キナ ネ
枯れる草 繫
萎れた草のように
- 3721 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
我の上で
- 3722 onoyoise kane.
オノヨイセ カネ.
もたれて泣く 程度
号泣した。
- 3723 Shitemkor kurka
シテムコロ クルカ
腕の中 上
母は我を腕の中で
- 3724 i-eantekar.
イ・エアンテカラ.
我・あらしめる
抱えた。
- 3725 I-toikokishma
イ・トイコキシマ
我・きつく抱く
強く抱きしめ、
- 3726 i-yupkekishma kane.
イ・ユプケキシマ カネ.
我・強く抱く 程度
激しく抱きしめた。
- 3727 Sonno
ソンノ
真に
まことに
- 3728 pon hekachi kishma
ポン ヘカチ キシマ
小さい子供 抱える
子供を抱くように、
- 3729 teinep kishma
テイネプ キシマ
赤子 抱える
赤子を抱くように、
- 3730 i-y-ekarkar kane.
イ・イエカツカラ カネ.
我・する 程度
我を抱きしめた。
- 3731 A-sannankashi
ア・サンナンカシ
我・顔の上
母は私の顔に
- 3732 shik omare.
シク オマレ.
目 入れる
目を向けた。
- 3733 Katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 繫 程度
あたりまえに
- 3734 i-erayap kuni p
イ・エラヤップ クニ プ
我・感心する 必然 もの
感心するもの、
- 3735 i-reka kuni p
イ・レカ クニ プ
我・ほめる 必然 もの
称賛するもの
- 3736 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接続 繫 条件
であるならば、
- 3737 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
さもあるが、
- 3738 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 始点
隅々まで
- 3739 i-uwambare
イ・ウワムバレ
我・調べる
我を見て
- 3740 kan iboro ka ta
カン イボロ カ タ
上 顔色 上 場所
顔色が
- 3741 koraikosamba
コライコサムバ
蒼ざめる
青くなり、
- 3742 i-tukarikepo
イ・トゥカリケポ
我・手前
我の手前へ
- 3743 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を
- 3744 atte kane.
アトテ カネ.
あらしめる 程度
落とした。
- 3745 Otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの回 強調
母は何度も
- 3746 i-shikoruye.
イ・シコロイエ.
我・抱き寄せ撫でる
私を抱きしめた。
- 3747 Ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの回 強調
幾度となく
- 3748 i-shikoruye.
イ・シコロイエ.
我・抱き寄せ撫でる
抱きしめた。
- 3749 Tu sui chishnoye
トゥ スイ チシノイエ
二つの回 泣きの捻り
幾度も
- 3750 re sui chishnoye
レ スイ チシノイエ
三つの回 泣きの捻り
涙を流した
- 3751 semkorachi.
セムコラチ.
ように
様子である。
- 3752 Kurkashike
クルカシケ
上
その上で、
- 3753 itak omare
イタク オマレ
言葉 入れる
母はこのように
- 3754 hawe ene okai i.
ハウエ エネ オカイ.
声 このようにある 形名
言った。
- 3755 “Sonno hetap ne p. 81
“ソンノ ヘタップ ネ
真に これ 繫
「驚いた。
- 3756 a-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子よ、
- 3757 e-pirika ruwe
エ・ピリカ ルウエ
汝・よい 跡
おまえの美しい様子は

*78 Ikoiyushte と書かれているが、i-koiyushte と解釈する。

- 3758 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではなく、
- 3759 sonno e-kor ainu
ソノノ エ・コロ アイヌ
真に 汝・持つ 人間
おまえの父の
- 3760 arke chiyasa
アッケ チャヤサ
半分 裂かれる
半分为裂いて
- 3761 arke chiponte
アッケ チボンテ
半分 小さくする
小さくした
- 3762 semkorachi
セムコラチ
ように
よくな
- 3763 e-an ruwe an.
エ・アン ルウェ アン.
汝・ある 跡 ある
様子である。
- 3764 Ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような者が
- 3765 ainu ne kusu
アイヌ ネ クス
人間 繫 根拠
人間であるのか。
- 3766 toi ka
トイ カ
土 上
地上に
- 3767 oterke i hetap okai.
オテレケ イ ヘタフ オカイ.
着地する 形名 これ ある
降りた者であるのか。
- 3768 Ene somun
エネ ソムン
このように もしかして
本当だろうか。
- 3769 e-an kuni
エ・アン クニ
汝・ある 必然
おまえのことを
- 3770 a-ramu i
ア・ラム イ
我・思う 形名
私は思っ
- 3771 ne kusu
ネ クス
繫 根拠
いたが、
- 3772 e-pirika ruwe an
エ・ピリカ ルウェ アン
汝・よい 跡 ある
おまえは美しい。
- 3773 ene am be
エネ アム ベ
このように ある もの
このような者
- 3774 ne wa kusu
ネ ワ クス
繫 接続 根拠
であるから、
- 3775 poo nesun
ポオ ネスン
ますますこそ
なおのこと、
- 3776 otuima shiri wano
オトウイマ シリ ワノ
遠くから 様子 始点
遠くから
- 3777 a-nukar yakka
ア・ヌカラ ヤッカ
我・見る 譲歩
見ても、
- 3778 kera poka^{*79}
ケラ ボカ
衰 限度
衰さえ
- 3779 a-erambetek kusu
ア・エラムベテク クス
人々・知らない 根拠
分からなかったのか。
- 3780 nekon boka
ネコン ボカ
どのように 限定
どうにか
- 3781 iki-an wa
イキ・アン ワ
する・我 接続
して、
- 3782 naa arshino hene
ナア アラシノ ヘネ
まだ一度 例示
一度だけでも
- 3783 ehankeno
エハンケノ
近くに
近くで
- 3784 a-nukan rusui kusu
ア・ヌカン ルスイ クス
我・見る したい 根拠
見たいと思っていた。
- 3785 iki-an ko
イキ・アン コ
する・我 条件
そのようにすると、
- 3786 kurkashike
クルカシケ
上
そのことで
- 3787 a-i-y-ebanakte
ア・イ・イエバナクテ
我・処罰される
罰せられ、
- 3788 a-eyaikatuwente kane
ア・エヤイカトウエンテ カネ
我・自ら恥じる 程度
みずからを貶める
- 3789 i-kar-am be
イ・カラ・アム ベ
我・される もの
ことに
- 3790 ne kusu
ネ クス
繫 根拠
なる。
- 3791 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しいことに
- 3792 kashike un sui
カシケ ウン スイ
上 ある 再び
加えて
- 3793 usa rametok koro shiri
ウサ ラメトク コロ シリ
譲歩 勇気 持つ 様子
勇敢であり、
- 3794 usa ituren shiri
ウサ イトウレン シリ
譲歩 悪く 様子
憑神の力も強い様子に
- 3795 irayapka okai.
イラヤパカ オカイ.
人を感心させる ある
感心した。
- 3796 Ene hetap ne
エネ ヘタフ ネ
このように これ 繫
何ということか。
- 3797 a-nukan rusui humi
ア・ヌカン ルスイ フミ
我・見る したい 気配
私は息子に会いたいと
- 3798 a-ramu humi
ア・ラム フミ
我・思う 気配
思っ
- 3799 okai rok be
オカイ ロク ベ
ある 完了 もの
いたのだが、
- 3800 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神 意志によって
神の計らいで、
- 3801 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 提題
今はまさに
- 3802 a-kishma kane
ア・キシマ カネ
我・抑える 程度
抱きしめて、
- 3803 a-pirkanukar eashkai
ア・ピリカヌカラ エアシカイ
我・よく見る できる
よく見ることができる
- 3804 shiri okai.
シリ オカイ.
様子 ある
のだ。
- 3805 Naa e-boro wa
ナア エ・ボロ ワ
まだ 汝・大きくなる 接続
おまえが大きくなってから
- 3806 e-hoppa-an i
エ・ホッパ・アニ
汝・残す 形名
別れた
- 3807 ne yakun
ネ ヤクン
繫 条件
のであれば、
- 3808 ene somo mashkino
エネ ソモ マシキノ
このように 否定 あまりに
これほどまで

*79 この語句の解釈については未詳。

- 3809 e-eshikarun-an i ka
エ・エシカルン・アニ カ
汝・思い出す・我 形名 も
おまえを思い出すことも
- 3810 somo ne koroka
ソモ ネ コロカ
否定 繋 逆接
なかった。
- 3811 mashkino e-pon kasui
マシキノ エ・ポン カスイ
あまりに 汝・幼い 甚だしい
まだ小さい
- 3812 naa e-tonon kane
ナア エ・トノン カネ
まだ 汝・乳を飲む 程度
乳飲み子である
- 3813 e-hoppa-an shiri
エ・ホッパ・アン シリ
汝・残す・我 様子
おまえとの別離を
- 3814 a-yaikoshiramse ko
ア・ヤイコシラムセ コ
我・考える 条件
思い返すと、
- 3815 sonno
ソノン
真に
まことに
- 3816 yaikoutumwente-an.
ヤイケウトウムウェンテ・アン。
気分を損なう・我
苦痛であった。
- 3817 Konep kamui buri hene
コネプ カムイ ブリ ヘネ
何 神 行い 例示
いかに神のおこない
- 3818 ne rok be kusu
ネ ロク ベ クス
繋 完了 もの 根拠
であろうとも、
- 3819 ene
エネ
このように
このように
- 3820 ramu nishte shiri
ラム ニشته シリ
思う かたい 様子
心を強くして
- 3821 okai i ta an
オカイ イ タ アン
ある 形名 これある
いられるのか、
- 3822 ari batek
アリ バテック
引用 限定
とばかり
- 3823 yainu-an ruwe ne.
ヤイヌ・アン ルウェ ネ。
考える・我 跡 繋
私は思っていた。
- 3824 Tane tap korachi
タネ タッ コラチ
今 これように
今はこのように、
- 3825 ainu moshiri ot ta
アイヌ モシリ オト タ
人間 国土 所 場所
人間の世界で
- 3826 a-yaikosanke a
ア・ヤイコサンケ ア
我・産む 完了
私が産んだ
- 3827 a-poho
ア・ポホ
我・子
息子に、
- 3828 sui ainu kotan ot ta
スイ アイヌ コタン オト タ
再び 人間 村 所 場所
再び人間の村で
- 3829 a-nukara kane
ア・ヌカラ カネ
我・見る 程度
邂逅し、
- 3830 a-kishma kane
ア・キシマ カネ
抑えられる 程度
抱きしめて
- 3831 a-koitak eashkai shiri
ア・コイタク エアシカイ シリ
我・話しかける できる 様子
話すことができた。
- 3832 sonno
ソノン
真に
まことに
- 3833 yaikobuntek-an
ヤイコブンテック・アン
喜ぶ・我
私は嬉しく思い、
- 3834 nubetne-an yakka
ヌベトネ・アン ヤッカ
喜ぶ・我 譲歩
喜んでいる。
- 3835 nep ka hokamba p
ネプ カ ホカムバ プ
何 も 難しい もの
何の難しい出来事も
- 3836 isam no
イサム ノ
ない 接続
無く、
- 3837 tutko rerko hene
トゥトコ レレコ ヘネ
二日 三日 例示
二日でも三日でも
- 3838 ukoreushi-an kane
ウコレウシ・アン カネ
一緒に泊まる・我ら 程度
一緒に泊まり、
- 3839 pirika uweneusar p. 83
ピリカ ウウェネウサラ
よい 歓談する
楽しい歓談を
- 3840 a-ki yakne
ア・キ ヤクネ
我・する 条件
続けることができたなら
- 3841 iyotta^{*80} pirika p
イヨッタ ピリカ プ
最も よい もの
とても良い
- 3842 ne koroka
ネ コロカ
繋 逆接
のだが、
- 3843 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻貝
白い巻貝、
- 3844 a-wenmatnepo
ア・ウェンマトネポ
我・悪い娘
私の愚かな娘の
- 3845 wen renkabi
ウェン レンカビ
悪い 意志
悪い企みが
- 3846 okai kusu
オカイ クス
ある 根拠
あるので無理だ。
- 3847 ouse irukai batek
オウセ イルカイ バテック
ただ しばらくの間 限定
わずかな間
- 3848 unukar-an shiri
ウヌカラ・アン シリ
会う・我 様子
会っただけ
- 3849 an yakka
アン ヤッカ
ある 譲歩
であるが、
- 3850 somo unukar-an
ソモ ウヌカラ・アン
否定 会う・我
会えない
- 3851 kasuno pirika.”
カスノ ピリカ.”
越えて よい
よりは良い。」
- 3852 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 程度
母はこのように言い、
- 3853 i-shikoruye.
イ・シコルイエ。
我・抱き寄せ撫でる
我を抱きしめた。
- 3854 Inu ne wa
イヌ ネ ワ
聞く 繋 接続
我は聞いただけ
- 3855 a-ki p ne koroka
ア・キ プ ネ コロカ
我・する もの 繋 逆接
ではあるが、
- 3856 nekona shino
ネコナ シノ
どのように まことに
どのように
- 3857 iki-an yakka
イキ・アン ヤッカ
する・我 譲歩
すればよいか
- 3858 a-attaraye.
ア・アッタライエ。
我・気絶する
分からなくなった。
- 3859 Tanto torino
タント トリノ
今日 一日中
一日中、

*80 原ノートでは iyot と書かれており、鉛筆で ta? という追記がされている。ここでは iyotta と解釈する。

- 3860 a-chimoshiriko-
ア・チモシリコ・
我・国土と共に
国土とともに
- 3861 suye^{*81} kane
スイェ カネ
揺する 程度
揺さぶられた
- 3862 semkorachi.
セムコラチ.
ように
ような気がした。
- 3863 Nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついているもの
如何なる生まれの者、
- 3864 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついているもの
如何なる育ちの者が
- 3865 uwesamanno^{*82}
ウエサマンノ
一緒に
共に育った
- 3866 a-ne ruwe nankor a.
ア・ネ ルウェ ナンコラ.
我・繫 跡 だろう 疑問
我らであるのか。
- 3867 Naa somo
ナア ソモ
まだ 否定
まだ
- 3868 konep ubashkuma
コネプ ウバシクマ
何 言い伝え
何の言い伝えも
- 3869 somo a-nu no^{*83}
ソモ ア・ヌ ノ
否定 我・聞く 接続
聞いて
- 3870 an-an awa
アナン アワ
いる・我 展開
いなかったが、
- 3871 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 提題
今はまさに、
- 3872 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
意外にも、
- 3873 tapne tapne kane
タップネ タップネ カネ
このように このように 程度
このような次第で、
- 3874 shinrit^{*84} kor be
シンリト コロ ベ
先祖 もの
我には先祖がいた
- 3875 a-ne rokokai.
ア・ネ ロコカイ.
我・繫 判明
のだ。
- 3876 Nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついているもの
如何なる生まれの者、
- 3877 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついているもの
如何なる育ちの者が
- 3878 tapne pirika kasui
タップネ ビリカ カスイ
このように よい 甚だしい
あまりに美しく、
- 3879 rametok koro kasui.
ラメトク コロ カスイ.
勇気 持つ 甚だしい
勇敢であったのか。
- 3880 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そのことを
- 3881 uneno
ウネノ
同じ
周囲の
- 3882 ainu orowano
アイヌ オロワノ
人間 始点
人間から、
- 3883 tapne kane
タップネ カネ
このように 程度
そのように
- 3884 a-ekeshke hawe
ア・エケシケ ハウエ
妬まれる 声
妬まれ、
- 3885 a-ebokpa
ア・エボッパ
妬まれる
嫉まれた
- 3886 hawe okai.
ハウエ オカイ.
声 ある
のか。
- 3887 Ramubekamampa kusu p. 84
ラムベカマムバ クス
思い悩む 根拠
つらい思いをして、
- 3888 naa
ナア
まだ
まだ
- 3889 nokan-an rokine
ノカン・アン ロキネ
幼い・我 接続
若いうちに
- 3890 i-hoppa wa
イ・ホッパ ワ
我・残す 接続
我を残して
- 3891 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 所 場所
神々のところで
- 3892 baye hawe
バイエ ハウエ
行く 声
向かったの
- 3893 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
であれば、
- 3894 sonno a-eramboken.
ソンノ ア・エラムボケン.
真に 我・憐れむ
本当に憐れた。
- 3895 Eebaki ta
エエバキ タ
次 場所
そして、
- 3896 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
私の母は
- 3897 sambe oshi wano
サムベ オシ ワノ
心臓 中 始点
まことに
- 3898 ram oshi wano
ラム オシ ワノ
心 中 始点
心の底から
- 3899 i-sambehauke
イ・サムベハウケ
我・心優しい
我を可愛がり、
- 3900 i-tuyashkarap kusu
イ・トゥヤシカラップ クス
我・慈しむ 根拠
我を可愛く
- 3901 i-omap kasui kusu
イ・オマッ カスイ クス
我・可愛がる 甚だしい 根拠
思いすぎた。
- 3902 i-ewen wa
イ・エウエン ワ
我・良くない 接続
つらい思いを抱き、
- 3903 orsetakko
オロセタクコ
長い間
長い間
- 3904 yaikcutumwente
ヤイケウトウムウエンテ
気分を損なう
心を痛め、
- 3905 yayeramushitne.
ヤイエラムシトネ.
気を腐らせる
苦しんだ。
- 3906 Kurkashike
クルカシケ
上
その上、
- 3907 a-ebanakte
ア・エバナクテ
処罰される
罰せられて

*81 chimoshikosuye に不定人称他動詞主格の a-が接合する理由については未詳。

*82 始め uwesamananno と書かれたが uwesamanno に訂正されている。

*83 始め Aki no と書かれたが Anu no に訂正されている。

*84 原ノートでは shinri と書かれているが、鉛筆で shinrit に訂正されている。

- 3908 katu chiwente
カトゥ チウエンテ
様子 痛めつけられる
痛めつけ
- 3909 a-ekarkar
ア・エカラカ
される
られて、
- 3910 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界、
- 3911 moshiriso kurka
モシリソ クルカ
国土の表面 上
その世界に
- 3912 a-koeyomak
ア・コエヨマク
追い払われる
追い出されたと
- 3913 ne manu ki ko
ネ マヌ キ コ
繫 という する 条件
いうのか。
- 3914 shik etoko takne kuni p
シク エトコ タクネ クニ プ
目 前方 短い 必然 もの
我は先が見通せない者、
- 3915 nubur sak kunip
ヌブル サク クニプ
霊力 欠く 形式名詞
霊力の無い者、
- 3916 tusu sak kuni p
トゥス サク クニ プ
霊能力 欠く 必然 もの
巫術の力の無い者
- 3917 a-ne p ne kusu
ア・ネ プ ネ クス
我・繫 もの 繫 根拠
であるが、
- 3918 taban ushike ta
タバン ウシケ タ
この ところ 場所
この場所に、
- 3919 a-kor kotan
ア・コロ コタン
我・もつ 村
我が村の
- 3920 emkoho ta
エムコホ タ
半分 場所
半分ほどの村に、
- 3921 a-kot tutto an wa
ア・コト トット アン ワ
我・持つ 母 ある 接続
我が母がいたのか。
- 3922 otuima shiri wano boka
オトウイマ シリ ワノ ボカ
遠くから 様子 始点 限定
遠くから
- 3923 i-nukar koro
イ・ヌカラ コロ
我・見る 同時
我を見て
- 3924 okai rokokai ko
オカイ ロコカイ コ
ある 判明 条件
いたのか。
- 3925 ponno poka
ボンノ ボカ
少し 限度
少しも
- 3926 a-erambetek no
ア・エラムベテク ノ
人々・知らない 接続
気付かずに
- 3927 uwesamanno
ウウエサマンノ
いっしょに
皆で
- 3928 okai-an awan.
オカイ・アン アワン.
いる・我 判明
暮らしていた。
- 3929 Neino ne i
ネノ ネ イ
繫 繫 形名
そのことを
- 3930 a-eraman wa
ア・エラマン ワ
我・知る 接続
我が知って
- 3931 ne yakne
ネ ヤクネ
繫 条件
いたならば、
- 3932 orotunashno
オロトゥナシノ
一刻も早く
早く
- 3933 kamui
カムイ
神
神である
- 3934 a-kot tutto ot ta
ア・コト トット オト タ
我・持つ 母 所 場所
母のところへ
- 3935 ek-an wa
エック・アン ワ
来る・我 接続
向かい、
- 3936 ohonno ohonno
オホノン オホノン
しばらく しばらく
しばらくの間、
- 3937 a-kot tutto tura
ア・コト トット トウラ
我・持つ 母 ともに
母と共に
- 3938 an-an wa
アナン ワ
いる・我 接続
滞在して、
- 3939 kamui orushbe
カムイ オルシベ
神 話
神々の話を
- 3940 a-uweneusar^{*85} noine
ア・ウウエネウサラ ノイネ
我・話し合う 推測
語り合ったこと
- 3941 am be ari
アム ベ アリ
ある もの 引用
であろうと
- 3942 yainu-an.
ヤイヌ・アン.
考える・我
我は思った。
- 3943 Eebaki ta
エエバキ タ
次 場所
そして、
- 3944 konep anuni
コネプ アヌニ
何 よそ者
如何なる余所者、
- 3945 konep oyabe
コネプ オヤベ
何 よそ者
如何なる侵入者が
- 3946 katkoro i
カトコロ イ
振舞う 形名
おこなったこと
- 3947 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 譲歩
であつても、
- 3948 tapne
タプネ
このように
あのよう、
- 3949 ene hetap ne
エネ ヘタップ ネ
このようにこれ 繫
我は激しく
- 3950 a-rushka humi
ア・ルシカ フミ
我・怒る 気配
怒ったこと
- 3951 okai rok awa
オカイ ロック アワ
ある 完了 展開
であろうが、
- 3952 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 3953 tantepota
タンテポタ
たった今
まさしく
- 3954 sonno a-tureshi
ソンノ ア・トゥレシ
真に 我・妹
我が妹
- 3955 ne awam be
ネ アワム ベ
繫 判明 もの
であったのだ。
- 3956 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではなく、
- 3957 chikosomokur-
チコソモクル・
否定
恐れを知ることも
- 3958 yaikatanu.
ヤイカタヌ.
畏れはばかる
なかった。

p. 85

*85 uweneusar に不定人称他動詞主格の a-が接合する理由については未詳。

- 3959 Kashi kobak ta
カシ コバク タ
上 方向 場所
その上、
- 3960 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちと
- 3961 iresu sapo hene
イレス サポ ヘネ
育てる 姉 例示
育ての姉は
- 3962 pirika shiri
ピリカ シリ
よい 様子
美しい姿を
- 3963 a-i-y-ekeshke shiri
ア・イ・イエケシケ シリ
我・妬まれる 様子
憎まれた。
- 3964 tane anakne
タネ アナクネ
今 提題
今は
- 3965 nei ta bakno
ネ タ バクノ
どこ 場所 限度
もう
- 3966 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 譲歩
手遅れであり、
- 3967 somo shiknu
ソモ シクヌ
否定 生きている
生きていない
- 3968 ruwe ne kuni
ルウェ ネ クニ
跡 繫 必然
と
- 3969 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う 根拠
思い、
- 3970 ene hetap ne
エネ ヘタップ ネ
このように これ 繫
激しい
- 3971 a-oshkoro humi
ア・オシコロ フミ
我・悔やむ 気配
後悔をして
- 3972 okai rok awa
オカイ ロク アワ
ある 完了 展開
いたのだが。
- 3973 kamui a-kor totto
カムイ ア・コロ トット
神 我・もつ 母
我が母は
- 3974 kamui ne kusu
カムイ ネ クス
神 繫 根拠
神であるので、
- 3975 sonno hetap ne
ソンノ ヘタップ ネ
真に これ 繫
まさしく
- 3976 ituren have
イトゥレン ハウエ
憑く 声
憑神の力が強い。
- 3977 ouse
オウセ
ただ
ただの
- 3978 heru ram ari
ヘル ラム アリ
ただの心 手段
思念の力で
- 3979 shiknurepa wa
シクヌレパ ワ
生き延びさせる 接続
生き返らせて、
- 3980 tane
タネ
今
今は
- 3981 kamui ewak i ta
カムイ エワキ タ
神 住む 形名 場所
神の住まいに
- 3982 baye wa
バイエ ワ
行く 接続
向かい、
- 3983 okai have
オカイ ハウエ
ある 声
そこで暮らしていると
- 3984 a-nu chiki
ア・ヌ チキ
我・聞く 条件
聞いて、
- 3985 eashka nubetne-an
エアシカ スベトネ・アン
願る 喜ぶ・我
我はまさに嬉しく思い、
- 3986 a-eyairaike.
ア・エイライケ。
我・感謝する
感謝した。
- 3987 Sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 3988 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻貝
白い巻貝、
- 3989 a-wentureshi
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹、
- 3990 a-otuiike *p. 86*
ア・オトゥイイケ
我・尻の切れた者
尻の切れた
- 3991 ne rokokai be
ネ ロコカイ ベ
繫 判明 もの
馬鹿者め。
- 3992 ene an kamui
エネ アン カムイ
このようにある 神
そのような神、
- 3993 ene am bito
エネ アム ビト
このようにある 人
そのような貴人が
- 3994 konep kamuye
コネプ カムイエ
何 神
如何なる神、
- 3995 konep bitoho
コネプ ビトホ
何 人
如何なる貴人を
- 3996 shikatkare kusu
シカトカレ クス
たぶらかす 根拠
騙したのか。
- 3997 senne wenno
センネ ウエンノ
否定 悪く
健やかに
- 3998 kanto ot ta
カント オト タ
天 所 場所
天空で
- 3999 shiko
シコ
生まれる
生まれ、
- 4000 kamui oro
カムイ オロ
神 所
神々の間で
- 4001 oshikup wa
オシクップ ワ
成長する 接続
成長し、
- 4002 base kamui utar
バセ カムイ ウタラ
重い 神 たち
尊い神々
- 4003 orwano hene
オロワノ ヘネ
始点 例示
からも
- 4004 sambe etok
サムベ エトク
心臓 前方
心臓の先に
- 4005 a-omare wa
ア・オマレ ワ
我・入れる 接続
入れるようにされた。
- 4006 tabakno
タバクノ
ここまで
さらに、
- 4007 kamui koro be hene
カムイ コロ ベ ヘネ
神 持つ もの 例示
神宝で、
- 4008 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
並みではない
- 4009 okai be
オカイ ベ
ある もの
神宝で
- 4010 a-ekashnukar wa
ア・エカシヌカラ ワ
見守られる 接続
見守られ、
- 4011 enubur shiri
エヌブル シリ
霊力がある 様子
霊力の強い様子

- 4012 okai ruwe
オカイ ルウェ
ある 跡
である
- 4013 okai ko
オカイ コ
ある 条件
の。
- 4014 konep tap reihe
コネプ タプ レヘ
何 これ その名
如何なる名を持つものが
- 4015 ochiu eterke
オチウ エテレケ
姦通 跳ね回る
淫乱というもの、
- 4016 kinin eterke
キニン エテレケ
淫乱 跳ね回る
情欲というもの
- 4017 ne wa
ネ ワ
繋 接続
であるのか。
- 4018 etushtek yakka
エトウシテク ヤッカ
夢中になって黙る 譲歩
それに惑わされたのだ。
- 4019 iteki i-ebokpa
イテキ イ・エボクパ
禁止 我・妬む
我を憎まずに、
- 4020 itekki
イテッキ
決して
我に嫉妬を
- 4021 i-eyayeitunnap no
イ・エヤイエイトウンナプ ノ
我・自ら嫉妬する 接続
せずに
- 4022 ki yakka
キ ヤッカ
する 譲歩
いたとしても、
- 4023 a-rushka p ne wa
ア・ルシカプ ネ ワ
我・怒る もの 繋 接続
我は怒ったのだが。
- 4024 a-kot tutto
ア・コト トトト
我・持つ 母
母が
- 4025 i-omap kasui i hene
イ・オマップ カスイ イ ヘネ
我・可愛がる 甚だしい 形名 例示
我を可愛がりすぎることに
- 4026 eyayeitunap.
エヤイエイトウンナプ.
自ら嫉妬する
妹は嫉妬をしたのだ。
- 4027 Kashike un
カシケ ウン
上 ある
その上、
- 4028 ikka irenka koro
イクカ イレンカ コロ
盗む 意図 持つ
盗みを働こうと
- 4029 eirenkasanke wa
エイレンカサンケ ワ
意志を示す 接続
して
- 4030 anun keutum
アヌン ケウトウム
よその心
余所者の心を
- 4031 onikniki wa
オニクニキ ワ
畳む 接続
丸め込み、
- 4032 tumunchi hene
トゥムンチ ヘネ
戦争 例示
恐ろしい
- 4033 a-shtoma^{*86} ike
ア・シトマ イケ
恐ろしい 方
戦いを
- 4034 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 4035 shinutapkakashi
シヌタプカカシ
地名
シヌタプカに
- 4036 omante kusu ne.
オマンテ クス ネ.
送る 根拠 繋
巻き起こそうとしている。
- 4037 Nei etoko
ネ エトコ
繋 前方
その前に、
- 4038 ene yayitakte
エネ ヤイトクテ
このように 自ら話す
みずからを
- 4039 yayomonnure
ヤヨモンヌレ
自慢する
過信する
- 4040 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接続 繋 譲歩
にしても、
- 4041 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではないことを
- 4042 kichi hawe p. 87
キチ ハウエ
する 声
した
- 4043 ne rokokai.
ネ ロコカイ.
繋 判明
のだ。
- 4044 Sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 4045 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は驚きの気持ちを
- 4046 a-yaikore yakka
ア・ヤイコレ ヤッカ
我・もつ 譲歩
抱いたが、
- 4047 ibeoko ambe
イベオコ アムベ
僅かである あること
頑是ない子供であるのに、
- 4048 ituren hetap ne
イトウレン ヘタプ ネ
悪く これ 繋
憑神の力のためか、
- 4049 shimoye hetap ne
シモイエ ヘタプ ネ
働く これ 繋
その戦いぶりのためか。
- 4050 koneptapteta
コネプタプテタ
何ということ
驚いたことに、
- 4051 ainu a-kot tutto
アイヌ ア・コト トトト
人間 我・持つ 母
人間の母が
- 4052 i-omap kashpa i
イ・オマップ カシパ イ
我・可愛がる 甚だしい 形名
我を可愛がってくれた
- 4053 ne yakka
ネ ヤッカ
繋 譲歩
としても、
- 4054 ram oshi wano
ラム オシ ワノ
心 中 始点
まさしく
- 4055 keutum oshi wano
ケウトウム オシ ワノ
心 中 始点
心の底から
- 4056 a-eyairaike p
ア・エヤイライケッ
我・感謝する もの
感謝するもの
- 4057 ne wa
ネ ワ
繋 接続
であるが、
- 4058 base kamui
バセ カムイ
重い 神
尊い神が
- 4059 inunukashki
イヌヌカシキ
可哀想に
憐れなことに、
- 4060 yaikatwente kane
ヤイカトウェンテ カネ
自ら恥じる 程度
恥を忍んで
- 4061 i-esambehauxe
イ・エサムベハウケ
我・心優しくする
我を可愛がってくれた
- 4062 hawe okai chiki
ハウエ オカイ チキ
声 ある 条件
のだ。

*86 原ノートには a-shitoma の i が脱落した形式が記載されている。

- 4063 rametok rak be
ラメトク ラク ベ
勇者 末裔 もの
我は勇者の末裔
- 4064 a-ne a koroka
ア・ネ ア コロカ
我・繫 完了 逆接
であるが、
- 4065 a-keutumkashi
ア・ケウトウムカシ
我・心の上
心の中で
- 4066 chishkot kane.
チシコト カネ.
泣く 程度
涙を流した。
- 4067 Pombe shinne
ポムベ シンネ
赤子 のように
子供のように、
- 4068 teinep shinne
テイネップ シンネ
赤子 のように
赤子のように、
- 4069 “Totto” ari
“トット” アリ
母 引用
「母よ」と
- 4070 itak-an kane
イタク・アン カネ
言う・我 程度
我は言い、
- 4071 chish turanno
チシ トウランノ
泣く とともに
泣きながら
- 4072 a-kot totto
ア・コト トット
我・持つ 母
我が母の
- 4073 temkoro ta
テムコロ タ
腕で抱える 場所
腕の中に
- 4074 a-koshikiru.
ア・コシキル.
我・回る
飛び込んだ。
- 4075 Rekut kashike
レクト カシケ
首 上
首の上に
- 4076 uturentekkororo
ウトウレンテックコロ
両手で持ち運ぶ
両腕を回すようにして
- 4077 a-shikoyubu kane.
ア・シコユブ カネ.
我・抱き締める 程度
抱きしめた。
- 4078 Iki-an chiki
イキ・アン チキ
する・我 条件
そうすると、
- 4079 a-kot totto
ア・コト トット
我・持つ 母
我が母は
- 4080 otu sui konna
オトウ スイ コンナ
二つの回 強調
何度となく、
- 4081 ore sui konna^{*87}
オレ スイ コンナ^{*87}
三つの回 提題
幾度となく、
- 4082 “Popo” ari
“ポポ” アリ
子供 引用
「息子よ」と
- 4083 “Sambe” ari
“サムベ” アリ
心臓 引用
「心臓よ」と
- 4084 itak kane.
イタク カネ.
言う 程度
言った。
- 4085 Kasa reubok un^{*88}
カサ レウボク ウン^{*88}
笠 下 ある
母は兜の下にある
- 4086 a-kimuikashi
ア・キムイカシ
我・頭上
私の頭の上を
- 4087 i-koruiruye.
イ・コルイルイェ.
我・撫でる
撫でた。
- 4088 A-sannanka ta
ア・サンナンカ タ
我・顔 場所
私の顔に
- 4089 i-echopnure.
イ・エチヨップヌレ.
我・接吻する
唇を当てた。
- 4090 Boronno i-omap aine
ボロンノ イ・オマップ アイネ
たくさん 我・可愛がる 接続
母は大いに我を可愛がり、
- 4091 eramushinne.
エラムシンネ.
安心する
心を落ち着けた。
- 4096 otu betchirbe
オトウ ベトチリベ
二つの水滴
水滴を
- 4097 ore betchirbe
オレ ベトチリベ
三つの水滴
滴らせて
- 4098 yaikarpare.
ヤイカヨパレ.
自ら為す
手を清めた。
- 4099 Pirika shu
ピリカ シュ
よい 鍋
美しい鍋の
- 4100 komsutna wano
コムストナ ワノ
鍋の耳の付け根 始点
耳元の方から
- 4101 obekarpare
オベカヨパレ
水を注ぐ
水を注いで、
- 4102 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
見事な煮炊きを
- 4103 koyairikta-
コヤイリクタ・
おのれより高く
手際良く
- 4104 ante kane.
アンテ カネ.
あらしめる 程度
おこなった。
- 4105 Shu chorboke
シュ チョロボケ
鍋 下
鍋の下へ
- 4106 eush eush
エウシ エウシ
顔を付ける 顔を付ける
頭を突き入れて
- 4107 kohotkuhotku kane
コホトクホトク カネ
身をかがめる 程度
身をかがめ、
- 4108 abe are.
アベ アレ.
火 置く
火を焚いた。
- 4109 Shu yake ta hene
シュ ヤケ タ ヘネ
鍋 陸の方 場所 例示
母は鍋の傍らで、
- 4110 tu pirika kuni p
トゥ ピリカ クニ ッ
二つのよい 必然 もの
大切な話を
- 4111 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ ッ
三つのよい 必然 もの
いくつも

4.2 母との別れ

p. 88

*87 ore sui konna は後から書き加えられている。

*88 この後に Asannankata lechop nu と書かれているが、線で抹消されている。

- 4112 i-ebakashnu.
イ・エバカシヌ。
我・教える
我に語り聞かせた。
- 4113 Ineapkusū
イネアックス
何と
何ということか。
- 4114 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
神である母が
- 4115 ye p anakne
イエ ヲ アナクネ
言うもの 提題
言うことは、
- 4116 nep ne yakka
ネ ヲ ネ ヤッカ
何 繫 譲歩
何であっても、
- 4117 sonno
ソノン
真に
まさしく
- 4118 “Ruwe un ruwe un.”
“ルウェ ウン ルウェ ウン。”
跡 文終結 跡 文終結
「その通りだ」
- 4119 ari keutum ot ta
アリ ケウトウム オトタ
引用 心 所 場所
と我は心の中で
- 4120 yainu-an kane.
ヤイヌ・アン カネ。
考える・我 程度
思った。
- 4121 Tane shu chi wa
タネ シュチ ワ
今 鍋 煮える 接続
母は鍋が煮えると
- 4122 yapte
ヤナテ
火から下ろす
炉鉤から外し、
- 4123 pirika aep
ピリカ アエッ
よい 食物
美味しそうな食物、
- 4124 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛の椀
高く盛り上げた飯を
- 4125 i-kobuni.
イ・コブニ。
我・捧げる
我に差し出した。
- 4126 Boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛の椀
高く盛り上げた飯を
- 4127 yaikobuni.
ヤイコブニ。
自ら給仕する
一人で用意した。
- 4128 Ibepo mashkin
イベポ マシキン
食事 ますます
空腹のあまり
- 4129 a-ekot noine
ア・エコト ノイネ
我・倒れ死にする 推測
倒れそうだと
- 4130 yainu-an awa
ヤイヌ・アン アワ
考える・我 展開
思っていたが、
- 4131 kamui a-koro totto
カムイ ア・コロ トトト
神 我・もつ 母
我が母が
- 4132 yayoteknare
ヤヨテクナレ
みずから手を下す
みずから
- 4133 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
見事な煮炊きをして、
- 4134 keran shuke
ケラン シュケ
おいしい 炊事する
美味しい食事を
- 4135 ki wa
キ ワ
する 接続
用意してくれた。
- 4136 tane
タネ
今
今はそれを
- 4137 a-e etokush
ア・エ エトクシ
我・食べる しようとする
食べようと
- 4138 shiri okai chiki
シリ オカイ チキ
様子 ある 条件
しているのだと、
- 4139 sonno
ソノン
真に
まことに
- 4140 a-eyaikobuntek kor
ア・エヤイコブンテク コロ
我・喜ぶ 同時
我は嬉しくなった。
- 4141 a-uina wa
ア・ウイナ ワ
我・取る 接続
我は食物を受け取り、
- 4142 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高くかざす
高くかざし、
- 4143 a-raunruke.
ア・ラウンルケ。
我・低くかざす
低くかざした。
- 4144 A-koonkami wa
ア・コオンカミワ
我・拝礼する 接続
我は拝礼してから、
- 4145 moire ibe
モイレ イベ
遅い 食事する
ゆっくりした
- 4146 a-koyaiurka^{*89}
ア・コヤイクルカ・
我・自らの上
食べ方で
- 4147 oma kane.
オマ カネ。
ある 程度
食べ始めた。
- 4148 Ineapkusū
イネアックス
何と
何とまあ、
- 4149 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
神である母は
- 4150 shuke eashkai wa
シュケ エアシカイ ワ
炊事する できる 接続
煮炊きが上手で
- 4151 humash nankor a.
フマシ ナンコラ。
気配がする だろう 疑問
あることか。
- 4152 Pirika aep
ピリカ アエッ
よい 食物
美味しい食物であり、
- 4153 sonno sonno
ソノン ソノン
真に 真に
まことに
- 4154 keraan kera pirika.
ケラアン ケラ ピリカ。
味がある 味 よい
味が良い。
- 4155 A-sambe ba wa
ア・サムベ バ ワ
我・心臓 上 始点
我は心臓の上から
- 4156 a-sambe kesh wa
ア・サムベ ケシ ワ
我・心臓 末端 始点
心臓の下まで
- 4157 ekoshituri.
エコシトウリ。
伸びる
落ち着いた気持ちになった。
- 4158 Eashka
エアシカ
頗る
まさしく、
- 4159 sambeshhuri.^{*90}
サムベシトウリ
心臓が伸びる
穏やかな気持ちになった。
- 4160 Irukai tom ta
イルカイ トム タ
しばらくの間 中心 場所
しばらくすると、
- 4161 shino tumashnu-an.
シノ トウマシヌ・アン。
まことに 元気になる・我
我はまことに元気になった。

*89 始め Aokoyaiurka と書かれたが、Akoyaiurka に訂正されている。

*90 a-esambeshhuri のような形式が期待されるが、原ノートの表記のままとする。

- 4162 A-kot totto
ア・コト トトト
我・持つ 母
我が母は
- 4163 ene itak i.
エネ イタキ.
このように言う 形名
このように言った。
- 4164 "A-wenmatnepo
"ア・ウエンマトネポ
我・悪い娘
「愚かな娘の
- 4165 wen renkabi
ウエン レンカビ
悪い 意志
悪い企みの
- 4166 okai kusu
オカイ クス
ある 根拠
ために、
- 4167 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 4168 irushka rui be
イルシカ ルイ ベ
怒る 激しいもの
激しい怒りを
- 4169 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 根拠
抱き、
- 4170 ibe poka
イベ ポカ
食事する 限度
食事も
- 4171 a-ctoranne.
ア・エトランネ.
我・大儀に思う
喉を通らなかつた。
- 4172 Keshto
ケシト
毎日
毎日、
- 4173 somo ibe-an no
ソモ イベ・アン ノ
否定 食事する・我 接続
食事をせずに
- 4174 yaikeutum-
ヤイケウトウム・
自らの気持ち
心を
- 4175 wente batek
ウエンテ バテック
悪くする 限定
痛めて
- 4176 ki^{*91} humi
キ フミ
する 気配
いた
- 4177 okai rok awa
オカイ ロック アワ
ある 完了 展開
のだが、
- 4178 a-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子が
- 4179 a-shuye aep
ア・シユイエ アエプ
我・煮る 食物
私の煮炊きした物を
- 4180 e kusu
エ クス
食べる 根拠
食べてくれたので、
- 4181 sonno nubetne-an
ソンノ ヌベトネ・アン
真に 喜ぶ・我
まことに嬉しく
- 4182 ruwe ne kusu
ルウェ ネ クス
跡 繋 根拠
なった。
- 4183 a-poho turanno
ア・ポホ トウランノ
我・子 ともに
私の息子と一緒に、
- 4184 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲歩
私も
- 4185 boronno boronno
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
沢山
- 4186 ibe-an kusu ne na.
イベ・アン クス ネ ナ.
食事する・我 根拠 繋 要求
食べることにしよう。
- 4187 Hokure hokure
ホクレ ホクレ
早く 早く
さあ早く、
- 4188 a-potonoke
ア・ポトノケ
我・息子殿
私の息子
- 4189 ne yakka
ネ ヤッカ
繋 譲歩
も、
- 4190 boronno boronno
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
沢山
- 4191 ibe kunak
イベ クナック
食事する 引用
食べ
- 4192 ramu yan. p. 90
ラム ヤン.
思う 命令
なさい。
- 4193 Taban tewano
タバン テワンノ
この これから
これから、
- 4194 tumunchi hene
トゥムンチ ヘネ
戦争 例示
戦いの中でも
- 4195 shino yupke p
シノ ユッケ プ
まことに強いもの
激しいものが
- 4196 e-kohobuni.
エ・コホブニ.
汝・立ち上がる
おまえに仕掛けられる。
- 4197 Sonno
ソンノ
真に
おまえはまことに
- 4198 e-shinki kusu ne
エ・シンキ クス ネ
汝・疲れる 根拠 繋
疲れることに
- 4199 ruwe tab an."
ルウェ タバン."
跡 これ ある
なる。」
- 4200 ari
アリ
引用
母はこのように言っ
- 4201 i-koorsutke kane.
イ・コオロステケ カネ.
我・励ます 程度
我を励ました。
- 4202 Sonno boronno
ソンノ ボロンノ
真に たくさん
我は大いに
- 4203 ibe-an.
イベ・アン.
食事する・我
食事をとった。
- 4204 Ibe ruoka
イベ ルオカ
食事する 跡
食事が
- 4205 chiobashpare
チオバシパレ
片付く
終わり、
- 4206 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
神である母は
- 4207 sui otu sui konna
スイ オトゥ スイ コンナ
再び 二つの 回 強調
何度となく、
- 4208 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 強調
幾度となく
- 4209 i-shikoruye kane.
イ・シコルイエ カネ.
我・抱き寄せ撫でる 程度
我を抱きしめた。
- 4210 Tap orowa
タップ オロワ
これ 始点
それから、
- 4211 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
我は神である母と
- 4212 ekoobi^{*92} wa
エコオビ ワ
別れる 接続
別れて

^{*91} a-ki という形式が期待されるが原ノートの表記のままとする。

- 4213 otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの回 強調
出立することに
- 4214 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの回 強調
どうしても
- 4215 oman-an kuni
オマナン クニ
行く・我 必然
気が
- 4216 an-etoranne koroka
アネトランネ コロカ
我・嫌がる 逆接
進まないが、
- 4217 ramma
ラムマ
いつも
いつかは
- 4218 oman-an kush ne a p
オマナン クシ ネ ア プ
行く・我 根拠 繋 完了もの
行かなければならないと、
- 4219 yupke rampo
ユッケ ラムポ
強い 心
気持ちを
- 4220 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・持つ
固めた。
- 4221 Itak-an hawe
イタク・アン ハウエ
言う・我 声
我はこのように
- 4222 ene okai i.
エネ オカイ.
このように ある 形名
言った。
- 4223 “Kamui a-kot totto
“カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
「神である母よ、
- 4224 tane tan tewano
タネ タン テワノ
今 この これから
これから
- 4225 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村に
- 4226 koyaitekani
コヤイテカニ
討ちに来る
攻撃を
- 4227 a-ki.
ア・キ.
我・する
しかける。
- 4228 Taban tumunchi
タバノ トムンチ
この 戦争
この戦い、
- 4229 taban rorumbé
タバノ ロルムベ
この 戦闘
この戦闘に
- 4230 a-yaiturashte
ア・ヤイトウラシテ
我・赴く
我は足を踏み入れる。
- 4231 tu imakake
トゥ イマカケ
二つの その後
戦いの後で、
- 4232 re imakake
レ イマカケ
三つの その後
戦闘の後で
- 4233 koyaikachibi
コヤイカチビ
生き返る
生き
- 4234 koyainusashi
コヤイヌサシ
助かる
永らえて
- 4235 a-ki i ta
ア・キ イ タ
我・する 形名 場所
いたときには、
- 4236 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
神である母に
- 4237 naa arshino
ナア アラシノ
まだ一度
もう一度
- 4238 a-nukar kuni
ア・ヌカク クニ
我・見る 必然
会いたい。
- 4239 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 4240 a-chibachiba wa
ア・チバチバ ワ
我・望む 接続
それを望んでいる。
- 4241 tumi montum ne
トゥミ モントウム ネ
戦い 腕の力 繋
それを戦いの力に
- 4242 a-kor kane
ア・コロ カネ
我・もつ 程度
して、
- 4243 shiarikiki-an p. 91
シアリキキ・アン
がんばる・我
奮戦する
- 4244 kusu ne
クス ネ
根拠 繋
つもり
- 4245 ruwe tab an.”
ルウェ タバン.”
跡 これ ある
だ。」
- 4246 ari itak-an chiki
アリ イタカン チキ
引用 言う・我 条件
我がこのように言うと、
- 4247 kamui a-kot totto
カムイ ア・コト トトト
神 我・持つ 母
神である母は
- 4248 okkeu kurkan
オッケウ クルカン
首 上
首の骨も
- 4249 isam kane
イサム カネ
ない 程度
折れそうなほど、
- 4250 otu henkuror
オトゥ ヘンクロロ
二つの うなづくこと
幾度となく、
- 4251 ore henkuror
オレ ヘンクロロ
三つの うなづくこと
何度となく、
- 4252 i-koanukar
イ・コアヌカラ
我・置く
我に顔き、
- 4253 i-henkotpa kane.
イ・ヘンゴトパ カネ.
我・口づけする 程度
我を愛撫した。
- 4254 “Ruwe un ruwe un.
“ルウェ ウン ルウェ ウン.
跡 文終結 跡 文終結
「その通りだ。
- 4255 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲歩
私も
- 4256 kanna
カンナ
再び
再び
- 4257 unukar-an kuni batek
ウヌカラ・アン クニ バテク
会う・我 必然 限定
会えることを
- 4258 sonno ram oshi wano
ソンノ ラム オシ ワノ
真に 心 中 始点
まことに
- 4259 keutum oshi wano
ケウトウム オシ ワノ
心 中 始点
心の底から
- 4260 a-chibachiba
ア・チバチバ
我・望む
望んで
- 4261 ruwe ne.”
ルウェ ネ.”
跡 繋
いる。」
- 4262 ari hawean
アリ ハウエアン
引用 言う
母はこのように言った。
- 4263 rikunsui kurka
リクンスイ クルカ
煙出しの穴 上
我は煙り出しの窓に

*92 この動詞に不定人称が表示されていない理由については未詳。

- 4264 a-korikoshma.
ア・コリコシマ。
我・飛び上がる
飛び上がった。
- 4265 Shioka un
シオカ ウン
自らの後 方向
後ろの方を、
- 4266 terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 場所
跳躍しながら
- 4267 ishiksamnere-an wa
イシッサムネレ・アン ワ
脇見をする・我 接続
横目で
- 4268 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
眺めた。
- 4269 konepkeukata
コネペケウカタ
間投詞
何ということか、
- 4270 konepkashita
コネッカシタ
間投詞
何としたことか。
- 4271 kamui a-kor totto
カムイ ア・コロ トトト
神 我・もつ 母
神である母は、
- 4272 ene hetap ne
エネ ヘタッ ネ
このように これ 繋
まさしく
- 4273 tumashnu kusu
トゥマシヌ クス
元気になる 根拠
元気であるから、
- 4274 i-koorsutke hawe
イ・コオロスツケ ハウエ
我・励ます 声
我を励ます声が
- 4275 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
並みではなかった
- 4276 okai awa
オカイ アワ
ある 展開
のだが、
- 4277 tane
タネ
今
今は
- 4278 isam-an shiri
イサム・アン シリ
ない・我 様子
我が立ち去った様子を
- 4279 nukar rokwa
ヌカラ ロクワ
見る 展開
見て、
- 4280 shum kina ne
シユム キナ ネ
枯れる 草 繋
萎れた草のように
- 4281 noikosamba.
ノイコサムバ。
倒れる
倒れた。
- 4282 “Popo” ari
“ポポ” アリ
子供 引用
母は「息子よ」と、
- 4283 “Sambe” ari
“サムベ” アリ
心臓 引用
「心臓よ」と
- 4284 itak kane.
イタク カネ。
言う 程度
言った。
- 4285 Erorun wa
エロルン ワ
上座の方へ 始点
上座から
- 4286 euturun wa
エウトウルン ワ
下座の方へ 始点
下座へと、
- 4287 temeshirikik koro
テメシリキク コロ
手で地面を叩く 同時
腕で座を叩きつけて
- 4288 chish hau konna
チシ ハウ コンナ
泣く 声 強調
泣く声か
- 4289 tununitara.
トゥヌニタラ。
美しい音が響く
響いた。
- 4290 Shiriki chiki
シリキ チキ
事態がある 条件
それを見て、
- 4291 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲歩
我も
- 4292 a-sambe ba wa
ア・サムベ バ ワ
我・心臓 上 始点
心臓の上から
- 4293 a-sambe kese *p. 92*
ア・サムベ ケセ
我・心臓 末端
下まで
- 4294 i-kobuyuisse
イ・コブユイセ
我・湿る
切なくなり、
- 4295 hese buira
ヘセ ブイラ
息をする 孔
息をする喉も
- 4296 an-i-kosheshe.
アニ・コセシケ。
我・ふさがれる
塞がれたような気になった。
- 4297 A-shikshutkonna
ア・シクシユトコンナ
我・目の端
我は目の端で
- 4298 ekobuyuisse.
エコブユイセ。
湿る
涙を流した。
- 4299 Tu kishnu nube
トゥ キシヌ ヌベ
二つの 僅かな 涙
微かな涙を
- 4300 re kishnu nube
レ キシヌ ヌベ
三つの 僅かな 涙
幾度となく
- 4301 a-yaikoranke.
ア・ヤイコランケ。
我・自ら流す
流した。
- 4302 Kamui a-koro totto
カムイ ア・コロ トトト
神 我・もつ 母
神である母は
- 4303 nekona tapne
ネコナ タッネ
どのように このように
如何に我を
- 4304 i-omap kasui wa
イ・オマッ カスイ ワ
我・可愛がる 甚だしい 接続
可愛く思うことか。
- 4305 ikichi shiri
イキチ シリ
する 様子
このような様子を
- 4306 a-nukar chiki
ア・ヌカラ チキ
我・見る 条件
見て、
- 4307 tu ok keutum ne
トゥ オク ケウトウム ネ
二つの 嘆き 心 繋
我は強い
- 4308 re ok keutum ne
レ オク ケウトウム ネ
三つの 嘆き 心 繋
悲しみを
- 4309 a-yaikore kane
ア・ヤイコレ カネ
我・持つ 程度
覚えた。

4.3 キムントの館

- 4310 kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
我は天空へ
- 4311 a-kotuikosanu
ア・コトウイコサヌ
我・消える
飛び上がり、
- 4312 bash kamui mau
バシ カムイ マウ
走る 神 風
速い神風、
- 4313 kamui mau etok
カムイ マウ エトク
神 風 前方
その神風の先に
- 4314 an-i-y-ekoshne-
アニ・イエコシネ・
我・軽々と
軽く
- 4315 buni kane.
ブニ カネ。
上げる 程度
持ち上げられた。

- 4316 An-ekisarshut-
アネキサラシユト・
我・耳の根元
我の耳元で
- 4317 komaukururu.
コマウクルル.
風が渦巻く
風が鳴った。
- 4318 Inehunak un
イネフナク ウン
どこかへ 方向
どこかへ
- 4319 oman-an aine
オマナン アイネ
行く・我 接続
我は飛んでいき、
- 4320 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
眺めると、
- 4321 kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 場所
暗い闇の中、
- 4322 kunne to ta
クンネ ト タ
暗い 日 場所
夜中
- 4323 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆接
ではあるが、
- 4324 a-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
人が噂をする
- 4325 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村
- 4326 an-ekotomka
アネコトムカ
我・推定する
であるらしい。
- 4327 tam boro to
タム ボロ ト
この 大きい 湖
大きな湖があり、
- 4328 shiroma atui
シロマ アトゥイ
落ち着く 海
穏やかな海
- 4329 shikobayar.
シコバヤラ.
さながらである
のようである。
- 4330 To bakehe
ト バケヘ
湖 先端
湖の上手は
- 4331 homar kane
ホマラ カネ
かすんでいる 程度
霞んでおり、
- 4332 to kese
ト ケセ
湖 末端
湖の下手も
- 4333 homar kane.
ホマラ カネ.
かすんでいる 程度
霞んでいる。
- 4334 To teksama
ト テッサマ
湖 すぐそば
湖の岸に
- 4335 tam boro kotan
タム ボロ コタン
この 大きい 村
大きな村、
- 4336 chikosheshe kotan
チコセシケ コタン
密集している 村
密集した村があり、
- 4337 noshkike
ノシキケ
真中
その真中に、
- 4338 chibuni tapkop
チブニ タップコフ
盛り上がる 小山
盛り上がった小山が
- 4339 chiekantoor-
チエカントオロ・
天
天を揺らすように
- 4340 shuiba kane.
シュイバ カネ.
揺らす 程度
聳えている。
- 4341 Makun kotan
マクン コタン
奥にある 村
山手の村は
- 4342 chinitaikoboye kane^{*93}
チニタイコボイエ カネ
森に混ざる 程度
森の木立と入り交じっている。
- 4343 to kurkashi p. 93
ト クルカシ
湖 上
湖の表面は
- 4344 kotesnatarata.
コテシナタラ.
平らになっている
穏やかである。
- 4345 Sanke kotan
サンケ コタン
前方である 村
浜手の村、
- 4346 kotan noshke
コタン ノシケ
村 真中
その村の真中にある
- 4347 tapkop ka un
タップコフ カ ウン
小山 上 方向
小山の上へ、
- 4348 a-kon ram konna
ア・コン ラム コンナ
我・持つ 心 textbf 強調
私の心は
- 4349 chiturituri.
チトゥリトゥリ.
伸びる
引き寄せられた。
- 4350 Tapka un
タップカ ウン
頂き 方向
小山の頂きへ、
- 4351 chikap reu shiri
チカフ レウ シリ
鳥 とまる 様子
我は鳥が止まるように
- 4352 a-shikobayar.
ア・シコバヤラ.
我・見せかける
降り立った。
- 4353 Tapkop ka ta
タップコフ カ タ
小山 上 場所
小山の上には
- 4354 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家、
- 4355 tam boro chashi
タム ボロ チャシ
この 大きい チャン
大きな館が
- 4356 uworeroshki.
ウウォレロシキ.
重なってそびえる
並んでいる。
- 4357 Soy un yakura
ソユン ヤクラ
外 ある 槽
外にある槽、
- 4358 yakura kurka
ヤクラ クルカ
槽 上
その槽の上に、
- 4359 oserhumsakno
オセレフムサクノ
音がしないよう
我は静かに
- 4360 an-i-y-eranke.
アニ・イェランケ.
我・下ろされる
降り立った。
- 4361 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
我が見ると、
- 4362 a-ewak ushike
ア・エワク ウシケ
我・住む ところ
我が住まいの
- 4363 poon emko bakno ka
ポオン エムコ バクノ カ
ごく小さい 半分 限度 追加
半分ほどの、
- 4364 pirika ka
ピリカ カ
よい 追加
良くは
- 4365 somo ki koroka
ソモ キ コロカ
否定 する 逆接
ない館であるが、
- 4366 chise soike
チセ ソイケ
家 家の外
家の周囲、

*93 この後に sanke kotan の風景を描写する定型句が期待されるが、原ノートにはみられない。

- 4367 chashi soike
チャシ ソイケ
チャシ 家の外
館の周囲は
- 4368 a-tomte ruwe
ア・トムテ ルウェ
輝かされる 跡
美しく飾られている。
- 4369 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 始点
その隅々にまで
- 4370 a-reka kane.
ア・レカ カネ.
我・ほめる 程度
我は感嘆した。
- 4371 Chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚かれた火が
- 4372 soi ta barse
ソイ タ バッセ
家の外 場所 燃える
外で燃える
- 4373 semkorachi
セムコラチ
ように
かのように、
- 4374 abe nubek
アベ スベク
火 光
囲炉裏の火は
- 4375 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
明るく輝いている。
- 4376 Humimoapkash
フミモアッカシ
静かに歩く
我は静かな歩みで
- 4377 a-kourebentok-
ア・コウレバントク.
我・足の先
足の先を
- 4378 kiru kane.
キル カネ.
向ける 程度
ひるがえし、
- 4379 Rorun burai ne
ロルン ブライ ネ
上座の 窓 繫
上座の窓に
- 4380 a-koyaitunashka.
ア・コヤイトウナシカ.
我・急ぐ
急いだ。
- 4381 Ratki burai
ラトキ ブライ
垂れ下がる 窓
垂れ下がった窓の
- 4382 burai chinki
ブライ チンキ
窓 裾
簾に
- 4383 a-kokkaechiu
ア・コッカエチウ
我・ひざまづく
我は膝をつき、
- 4384 burai kurkashi
ブライ クルカシ
窓 上
窓の簾に
- 4385 a-nankotukka.
ア・ナンコトウッカ.
我・顔をつける
顔を付けた。
- 4386 Sepka utur
セツカ ウトウル
簾の隙間 間
簾の隙間に
- 4387 a-shikbosore
ア・シクボソレ
我・目を通す
目をあてて
- 4388 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
眺めると、
- 4389 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 4390 upsoro
ウッソロ
内部
中に
- 4391 tan inne kuni p
タン インネ クニ プ
この 大勢である 必然 もの
大勢の者が
- 4392 euranrari.
エウランラリ.
いっぱいいる
並んでいる。
- 4393 Ineapkus
イネアックス
何と
何とまあ、
- 4394 kimunto un rup
キムント ウン ルプ
地名 ある 群れ
キムントの奴らは
- 4395 nishpa ne wa
ニシパ ネ ワ
長者 繫 接続
裕福である
- 4396 shiran nankor a. p. 94
シラン ナンコラ.
有様である だろう 疑問
ことか。
- 4397 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 4398 aman emboki
アマン エムボキ
梁 下
梁の下は
- 4399 chiibiyere
チイビイエレ
すきまなく
隙間なく、
- 4400 kamui kor be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝で
- 4401 a-etomte kane.
ア・エトムテ カネ.
輝かされる 程度
飾られている。

4.4 白い巻貝とキムント彦

- 4402 Oshiso un
オシソ ウン
右座 方向
右座の
- 4403 tap i-kotboki ta
タッ イ・コトボキ タ
これ 我・前 場所
我の間近に、
- 4404 kanakan kuni p
カナカン クニ プ
どういう 必然 もの
何者かが
- 4405 shiaworaiba awan.
シアウォライバ アワン.
家の中に入る のだった
入ってきた。
- 4406 Inne katkemat^{*94} utar
インネ カトケマト ウタラ
大勢である 婦人 たち
大勢の婦人が
- 4407 utomtaterke
ウトムタテレケ
ぶつかり合う
ぶつかり合うようにして、
- 4408 abe teksam ta
アベ テッサム タ
火 すぐそば 場所
火の傍らに
- 4409 pirika sotki
ピリカ ソトキ
よい 寝床
良い寝床を
- 4410 ukokarkar.
ウコカカカラ.
皆で作る
拵えた。
- 4411 Kashike ta
カシケ タ
上 場所
その上に
- 4412 kanakan kuni p
カナカン クニ プ
どういう 必然 もの
何者かが
- 4413 a-hotkere.
ア・ホトケレ.
寝かされる
寝かされた。
- 4414 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 4415 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
我が眺めると、
- 4416 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
我が愚かな妹である。

*94 原ノートでは katke と書かれているが、katkemat に訂正されている。

- 4417 **chiwente shiri**
チウエンテ シリ
痛めつけられる様子
痛めつけられた様子であり、
- 4418 **sonno mi kosonte**
ソンノ ミ コソンテ
真に 着る 小袖
身に着けた小袖も
- 4419 **chitata ruwe**
チタタ ルウエ
切り刻まれる跡
切り刻まれ、
- 4420 **wen yarbeshit**
ウエン ヤラベシト
悪い 破れたぼろ
ぼろ布が
- 4421 **eobetbetke**
エオベトベトケ
裂ける
裂かれたような
- 4422 **semkorachi.**
セムコラチ.
ように
様子である。
- 4423 **Ene hetap ne**
エネ ヘタプ ネ
このように これ 繫
驚いたことに、
- 4424 **saureko**
サウレコ
少なからず
並大抵ではない
- 4425 **chitomte kashpa**
チトムテ カシパ
輝いている 甚だしい
美しさ
- 4426 **ruwe okai rok**
ルウエ オカイ ロク
跡 ある 完了
であったのに、
- 4427 **herisarisa**
ヘリサリサ
髪が乱れる
髪は乱れ、
- 4428 **wen tottakap ne**
ウエン トトカプ ネ
悪い 吠の表面 繫
谷地坊主のように
- 4429 **shikaomare kane.**
シカオマレ カネ.
自らの上に入れる 程度
身体の上に広がっている。
- 4430 **Ray iboro oma**
ライ イボロ オマ
死ぬ 顔色 ある
死相が浮かんでおり、
- 4431 **ri chienunumbe**
リ チエヌヌムベ
高い 枕
高い枕の
- 4432 **kurkashike**
クルカシケ
上
上に
- 4433 **eoma kane.**
エオマ カネ.
頭を入れる 程度
寝ている。
- 4434 **Iniukesh nuwap**
イニウケシ ヌワプ
苦しむ うめく
苦しみな呻き声、
- 4435 **ta rui nuwap**^{*95}
タ ルイ ヌワプ
これ 激しいうめく
激しい呻き声、
- 4436 **hauke nuwap**
ハウケ ヌワプ
緩やかになる うめく
弱い呻き声を
- 4437 **uturare**
ウトウラレ
交互に続ける
出し、
- 4438 **ehautum konna**
エハウトゥム コンナ
声 強調
それが口の中で
- 4439 **tununitara.**
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
響いている。
- 4440 **Tanne chikupso**
タンネ チクプソ
長い 酒宴の座
長い酒宴の座が
- 4441 **chishiturire**
チシトゥリレ
伸びる
伸ばされている。
- 4442 **chikupso bake**
チクプソ バケ
酒宴の座 頭
酒宴の座の上手と
- 4443 **chikupso kese**
チクプソ ケセ
酒宴の座 末端
下手は
- 4444 **homar kane.** *p. 95*
ホマラ カネ.
かすんでいる 程度
霞んでいる。
- 4445 **Hayok num ikir**
ハヨク ヌム イキリ
武装する 集団 列
武装した集団は
- 4446 **kokinnatara kane shiran.**
コキンナタラ カネ シラン.
きらびやかである 程度 有様である
きらびやかである。
- 4447 **Matutar ka ta**
マトウタラ カ タ
女たち 上 場所
婦人たちは
- 4448 **inne kuni p**
インネ クニ プ
大勢である 必然 もの
大勢で
- 4449 **ukimattekka.**
ウキマトテッカ.
慌て合う
慌てた様子である。
- 4450 **“Nekon ne ruwe**
“ネコン ネ ルウエ
どのように 繫 跡
「どうしたことがか。
- 4451 **iyoserkere**
イヨセレケレ
驚くべし
驚いた。
- 4452 **kamui katkemat**
カムイ カトケマト
神 婦人
神である婦人は
- 4453 **nei ta oman ko**
ネ タ オマン コ
どこ 場所 行く 条件
どこへ行っても、
- 4454 **ambir bakno hene**
アムビリ バクノ ヘネ
かすり傷 限度 例示
爪の傷さえ
- 4455 **biro kuni**
ビロ クニ
傷がつく 必然
つくこと、
- 4456 **chiwente kuni**
チウエンテ クニ
痛めつけられる 必然
痛めつけられることは
- 4457 **a-ramu p**^{*96}
ア・ラム プ
我・思う もの
ないだろうと
- 4458 **ne wa kusu**
ネ ワ クス
繫 接続 根拠
思っていたのに。
- 4459 **chieshikarun ko**
チエシカルン コ
思い出す 条件
意外にも、
- 4460 **chiwente ruwe**
チウエンテ ルウエ
痛めつけられる 跡
痛めつけられるにしても、
- 4461 **a-koiki ruwe**
ア・コイキ ルウエ
攻撃される 跡
負けるにしても、
- 4462 **orsaureko**
オロサウレコ
とんでもなく
只事ではない。
- 4463 **inunukashki**
イヌヌカシキ
可哀想に
可哀想に。
- 4464 **ene shiran i**
エネ シラン ニ
このように 有様である 形名
なんと無残な
- 4465 **tam be ne ya.”**
タム ベ ネ ヤ.”
このもの 繫 疑問
ことか。」
- 4466 **ari haweokai.**
アリ ハウエオカイ.
引用 言う
婦人たちはこのように言った。

*95 原ノートでは wap と書かれているが、nuwap に訂正されている。

*96 somo a-ramu p のような語句が期待されるが、原ノートの表記のままとする。

- 4467 Chikupso kurka
チクッソ クルカ
酒宴の座 上
酒宴の座は
- 4468 rapkosanu.
ラッコサヌ.
静まる
静まり返った。
- 4469 Inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である 必然 もの
大勢の者たちは、
- 4470 homatpa rui kuni p
ホマトパ ルイ クニ プ
驚く 激しい 必然 もの
驚いたもの
- 4471 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
繫 もの 繫 根拠
であるから、
- 4472 inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である 必然 もの
大勢で
- 4473 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 繫
一斉に、
- 4474 a-wentureshihi
ア・ウェントウレシヒ
我・悪い妹
私の愚かな妹の
- 4475 kurkashike
クルカシケ
上
方に
- 4476 shikomarpa.
シコマラパ.
見つめる
目を向けた。
- 4477 Inkan ruwe konna
インカン ルウェ コンナ
見る 跡 強調
目を大きく
- 4478 kochainatara.
コチャイナタラ.
目を見開いている
見開いた。
- 4479 A-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹は
- 4480 tu kem rayochi
トゥ ケム ラヨチ
二つの 血 虹
ひどい血の虹とともに
- 4481 koekomomse
コエコモムセ
息が詰まる
息を詰まらせ、
- 4482 re kem rayochi
レ ケム ラヨチ
三つの 血 虹
不吉な血の虹とともに
- 4483 koekomomse kane.
コエコモムセ カネ.
息が詰まる 程度
喉を詰まらせている。
- 4484 Rorunso ka wa
ロルンソ カ ワ
上座 上 始点
上座で、
- 4485 kanakan kuni p
カナカン クニ プ
どういう 必然 もの
何者かが
- 4486 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
ひどく驚いた
- 4487 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
繫 もの 繫 根拠
様子で
- 4488 niwen chinikan
ニウエン チニカン
猛々しい 足踏み
荒々しく足を
- 4489 tuima turi.
トゥイマ トゥリ.
遠い 伸ばす
振り上げた。
- 4490 Tumpa maikan
トムムパ マイカン
鐸 音
刀の鐸の音が
- 4491 tununitara kane. *p. 96*
トゥヌニタラ カネ.
美しい音が響く 程度
鳴り響いた。
- 4492 Pon urar tapkop
ポン ウララ タップコフ
小さい 霧 小山
霧の小山が
- 4493 chishiruture.
チシルトゥレ.
入る
入ってきた。
- 4494 Urar tumu
ウララ トムム
霧 中
霧の中を
- 4495 a-shikechhari.
ア・シケチャリ.
我・目で散らす
我は目で散らして見た。
- 4496 Naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
大方 二つの 回
何度となく、
- 4497 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
幾度となく、
- 4498 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 繫
人間の姿を
- 4499 a-kar eaikap aine
ア・カラ エアイカプ アイネ
我・する できない 接続
見定めることができない。
- 4500 urar tum ta
ウララ トムム タ
霧 中 場所
暫くすると、霧の中で
- 4501 a-shiketoko
ア・シケトコ
我・目先
私の目の前が
- 4502 raikosanu.
ライコサヌ.
眩む
眩んだ。
- 4503 A-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
人が噂をする
- 4504 kimunto um be
キムント ウム ベ
地名 ある もの
キムントの
- 4505 poniune ike
ポニウネ イケ
年下の 方
年少の者、
- 4506 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹の
- 4507 hoku ne kotomno
ホク ネ コトムノ
夫 繫 推測
夫と思われる
- 4508 a-ramu p
ア・ラム プ
我・思う もの
者である。
- 4509 boro kur hetap ne
ボロ クル ヘタプ ネ
大きい人 これ 繫
もっと成長した者が
- 4510 ubishnasaikar
ウビシナサイカラ
浜で絡み合う
浜で睦み合い、
- 4511 ukimnasaikar
ウキムナサイカラ
山で絡み合う
山で睦み合った
- 4512 hawe okai kuni
ハウエ オカイ クニ
声 ある 必然
のかと
- 4513 a-ramu rokwa
ア・ラム ロクワ
我・思う 展開
思っていたが、
- 4514 tam pa ne wa
タム パ ネ ワ
この年 繫 接続
今年あたりに、
- 4515 i-turbakno kane
イ・トゥルバクノ カネ
我・匹敵する 程度
我と同じくらいに
- 4516 shukup kotomno
シュクフ コトムノ
成長する 推測
成長したらしい
- 4517 okai be
オカイ ベ
ある もの
者である。
- 4518 chitomtereshu p
チトムテレシュ プ
美しく育てられる もの
大切に育てられた者、
- 4519 chiarareshu p
チアラレシュ プ
大切に育てられる もの
立派に育てられた者

- 4520 sone kusu
ソネ クス
らしく 根拠
であるらしく、
- 4521 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金 小袖
金の小袖を
- 4522 nena^{*97} imi ne
ネナ イミ ネ
未詳 着物 繫
無造作に
- 4523 arutomechuu.
アルトメチウ.
身にまとう
着ている。
- 4524 Uwokkanikut
ウウォッカニクト
留め具の付いた帯
留め金のついた帯を
- 4525 tumamkosaiiba
トゥマムコサイバ
胴に巻く
胴に巻き、
- 4526 kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神授の刀で
- 4527 etembokkonna-
エテムボクコンナ・
脇の下が
- 4528 kochashnatara.
コチャシナタラ.
すっきりしている
きらびやかである。
- 4529 Kani pon kasa
カニ ボン カサ
黄金 小さい 笠
金の小さな兜、
- 4530 kasa rantubep
カサ ラントウベフ
笠 垂れた紐
その兜の紐を
- 4531 eyaisannotkirka-
エヤイサンノトキリカ・
自らの顎の上
顎の上で
- 4532 yuppa kane.
ユッパ カネ.
締める 程度
結んでいる。
- 4533 Kasa^{*98} kepsam ta
カサ ケッサム タ
笠 端 場所
兜の端で
- 4534 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 4535 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
明るく輝いている。
- 4536 Rametok sone
ラメトク ソネ
勇者 らしく
勇者であるらしく、
- 4537 rametok ibor
ラメトク イボロ
勇者 顔色
勇者の顔色が
- 4538 eibottumu
エイボトトゥム
顔色
異彩を
- 4539 shinnai kane.
シンナイ カネ.
違う 程度
放っている。
- 4540 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いたことに
驚いたことに、
- 4541 neike huike^{*99} p. 97
ネケ フイケ
どこに 隅
どこに
- 4542 a-ekot^{*100} kuni p
ア・エコト クニ ヲ
我・倒れ死にする 必然 もの
殺すべきところが
- 4543 okai nankor a.
オカイ ナンコラ.
ある だろう 疑問
あるだろうか。
- 4544 Tumam noshki wano
トゥマム ノシキ ワノ
胴体 真中 始点
身体の真中から
- 4545 setur besh kani
セトウル ベシ カニ
背 沿う 黄金
背中に下る金、
- 4546 rerar besh kani
レララ ベシ カニ
胸 沿う 黄金
胸に下る金が
- 4547 chituroshire.
チトゥラシレ.
廻る
付いている。
- 4548 Benram ka ta
ベンラム カ タ
胸 上 場所
胸の上で
- 4549 kani numachi
カニ スマチ
黄金 胸紐
金の胸紐が
- 4550 uruki ruwe
ウルキ ルウエ
閉じる 跡
結ばれている様子が
- 4551 kokinnatara.
コキンナタラ.
きらびやかである
美しい。
- 4552 Kurkashike
クルカシケ
上
身体の表面は
- 4553 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 4554 uweshimaka.
ウウエシマカ.
盛んに光る
輝いている。
- 4555 Arikinne
アリキンネ
まったく
まさしく
- 4556 riwak kamui ne
リワク カムイ ネ
帰る 神 繫
帰天する神のよう、
- 4557 riwak bito ne.
リワク ビト ネ.
帰る 人 繫
帰天する貴人のようである。
- 4558 Katu ne kane
カトウ ネ カネ
様子 繫 程度
あたりまえに
- 4559 ramusarak kuni p
ラムサラク クニ ヲ
気がかりである 必然 もの
心配し、
- 4560 homatu kuni p
ホマトウ クニ ヲ
驚く 必然 もの
驚く者
- 4561 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接続 繫 条件
であるならば
- 4562 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆接
さもあるうが、
- 4563 tu okne ibor
トゥ オクネ イボロ
二つの 悲しむ 顔色
悲しみの
- 4564 re okne ibor
レ オクネ イボロ
三つの 悲しむ 顔色
表情を
- 4565 yaikorbare kane.
ヤイコロバレ カネ.
持つ 程度
浮かべている。
- 4566 A-wentureshi
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹の
- 4567 nan kotchake
ナン コトチャケ
顔 前
顔の前に

*97 nena の意味に関しては未詳。

*98 始め kесе と書かれたが、kasa に訂正されている。

*99 原ノートでは uike と書かれているが huike と解釈する。

*100 a-ekote とみなして解釈する。

- 4568 eun eun
エウン エウン
顔を突き出す 顔を突き出す
顔を寄せて、
- 4569 itak ne manu^{*101}
イタク ネ マヌ
言葉 繫 という
言葉を発し、
- 4570 eraunkuchi
エラウンクチ
喉元
喉が
- 4571 tununitara hawe
トゥヌニタラ ハウエ
美しい音が響く 声
響くことは
- 4572 ene okai i.
エネ オカイ.
このようにある 形名
このようであった。
- 4573 “Usaine tap sui
“ウサイネ タッ スイ
さて これ再び
「これはひどい。
- 4574 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻貝
白い巻貝、
- 4575 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹、
- 4576 shisak nubur mat
シサク スブル マト
またとない 霊力がある 女
比類ない霊力のある女は、
- 4577 nei ta e-oman ko
ネ タ エ・オマン コ
どこ 場所 汝・行く 条件
どこに行っても
- 4578 konep e-eapte ambe
コネパ エ・エアッテ アムベ
何 汝・危うく思う あること
危険を察知する者
- 4579 ne wa kusu
ネ ワ クス
繫 接続 根拠
であるのに。
- 4580 nekona shino
ネコナ シノ
どのように まことに
如何なることを
- 4581 e-iki wa
エ・イキ ワ
汝・する 接続
して、
- 4582 chiwente hetap ne
チウエンテ ヘタッ ネ
痛めつけられる これ 繫
痛めつけられ
- 4583 chikoiki hetap ne
チコイキ ヘタッ ネ
いじめ これ 繫
攻撃されたのか。
- 4584 koneptapteta
コネツタツタ
何ということ
まことに
- 4585 irammayaisere
イラムマヤイセレ
気の毒である
可哀想な
- 4586 e-ki ruwe
エ・キ ルウエ
汝・する 跡
ことだ。
- 4587 orsaureko p. 98
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではない
- 4588 okai be ne ya.
オカイ ベ ネ ヤ.
ある もの 繫 疑問
ことがあったのか。
- 4589 Ene somo ne p^{*102}
エネ ソモ ネ プ
このように 否定 繫 もの
そうではない
- 4590 an yakka
アン ヤッカ
ある 譲歩
としても、
- 4591 orhemkusu
オロヘムクス
いったいどうして
何故我は
- 4592 yainu-an nankor a.
ヤイヌ・アン ナンコラ.
考える・我 だろう 疑問
そのように思うのか。
- 4593 Ouse shinennepo
オウセ シネンネポ
ただ 一人だけ
ただ一人で
- 4594 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 4595 shinutapka un
シヌタツカ ウン
地名 方向
シヌタツカへ
- 4596 e-oman kuni
エ・オマン クニ
汝・行く 必然
おまえが行くことに、
- 4597 oar a-koban yakka
オアラ ア・コバン ヤッカ
全く 我・拒む 譲歩
我は強く反対したのだが、
- 4598 kama kama
カマ カマ
越える 越える
それでも、
- 4599 ene chikoitakkashi
エネ チコイタクカシ
このように 言葉に背く
言うことを
- 4600 e-i-y-ekarkar
エ・イ・イエカッカ
汝・我・する
聞かなかった
- 4601 hawe okai awa
ハウエ オカイ アワ
声 ある 展開
のだ。
- 4602 e-ki rusui kusu
エ・キ ルスイクス
汝・する したい 根拠
おまえが望んで
- 4603 e-iki p ne kusu
エ・イキ プ ネ クス
汝・する もの 繫 根拠
したことであるのに、
- 4604 sonno hetap ne
ソンノ ヘタッ ネ
真に これ 繫
このように
- 4605 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
尋常ではない
- 4606 e-wente-an
エ・ウエンテ・アン
汝・痛めつけられる
傷を
- 4607 ruwe an.”
ルウエ アン.”
跡 ある
負ったのか。」
- 4608 ari
アリ
引用
キムント彦は
- 4609 tu okne itak
トゥ オクネ イタク
二つの 悲しむ 言葉
悲しみの言葉を
- 4610 ki kane.
キ カネ.
する 程度
発した。
- 4611 “kamui ukoiki
“カムイ ウコイキ
神 相争う
「神々の争いは
- 4612 yupke kan humihi
ユツケ カン フミヒ
強い 上 音
激しいものと
- 4613 a-nu yakka
ア・ヌ ヤッカ
我・聞く 譲歩
聞くが、
- 4614 ene ikaobash-an i ka
エネ イカオバシ・アニ カ
このように 救援する・我 形名 追加
我は加勢することも
- 4615 isam.
イサム.
ない
しなかった。
- 4616 E-tere-an aine
エ・テレ・アン アイネ
汝・待つ・我 接続
おまえを待っていると、
- 4617 a-kor tonoto hene
ア・コロ トノト ヘネ
我・持つ 酒 例示
酒も

*101 manu の後に p という形式が期待されるが、原ノートの表記のままとする。

*102 以下4行の解釈は未詳。

- 4618 anohor^{*103} kasui wa kusu
アノホロ カスイ ワ クス
長く続く 甚だしい 接続 根拠
古くなった。
- 4619 tanekuran
タネクラン
今夜
今晩は
- 4620 a-ekamuinomi
ア・エカムイノミ
我・祈りをする
その酒で神に祈り、
- 4621 orowa
オロワ
始点
それから
- 4622 attumunchi
アトウムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 4623 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦闘を
- 4624 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチに
- 4625 a-oyanke
ア・オヤンケ
我・上陸させる
上陸させて、
- 4626 a-omante kusu
ア・オマンテクス
我・行かせる 根拠
攻め寄せようと思った。
- 4627 tanepo
タネポ
たった今
今は、
- 4628 iku etoko
イク エトコ
酒を飲む 前方
酒宴の準備を
- 4629 a-oiki awa
ア・オイキ アワ
我・する 展開
しているが、
- 4630 raboki ta
ラボキ タ
間 場所
その最中に
- 4631 e-ek shiri an.”
エ・エッ シリ アン.”
汝・来る 様子 ある
おまえが戻ったのだ。」
- 4632 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 程度
このように言い、
- 4633 a-wentureshi
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹を
- 4634 koottemottem
コオトテモトテム
慰勞する
労り、
- 4635 omaoma.
オマオマ.
慰める
慰めた。
- 4636 Matutar utar p. 99
マトウタラ ウタラ
女たち たち
婦人たちは
- 4637 kusuri kar wa
クスリ カラ ワ
薬 作る 接続
薬を作り、
- 4638 a-wentureshi
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹に
- 4639 a-kure ko
ア・クレ コ
我・飲ませる 条件
飲ませた。
- 4640 tu kunnu mawe
トゥ クヌ マウエ
二つの 薬効がある 風
妹は効力のある気、
- 4641 re kunnu mawe
レ クヌ マウエ
三つの 薬効がある 風
薬効のある気を
- 4642 onnarukpa.
オンナルクパ.
飲み込む
飲み込んだ。
- 4643 A-wentureshi
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
愚かな妹は
- 4644 tane ponno
タネ ポンノ
今 少し
少し
- 4645 sambeshituri awan ko
サムベシトゥリ アワン コ
心臓が伸びる 判明 条件
落ち着いた様子である。
- 4646 orowano
オロワノ
始点
それから、
- 4647 baror^{*104} konna
バロロ コンナ
口 強調
妹は口の中で
- 4648 koshiunataru
コシウナタラ
うなる
声を出し、
- 4649 tu binu hushsa
トゥ ビヌ フシサ
二つの かすかな 息吹き
微かな魔払いの
- 4650 re binu hushsa
レ ビヌ フシサ
三つの かすかな 息吹き
息吹を
- 4651 yaikarbare.
ヤイカラバレ.
自ら為す
繰り返した。
- 4652 Nei korachi
ネイ コラチ
ネイ コラチ
そのことのように
それと共に、
- 4653 ene kurkashike
エネ クルカシケ
このように上
身体の表面に
- 4654 tu nishte^{*105} urar ne
トゥ ニシテ ウララ ネ
二つの かたい 霧 繫
濃い霧が
- 4655 re nishte urar ne
レ ニシテ ウララ ネ
三つの かたい 霧 繫
立ち込め、
- 4656 koekomomse a
コエコモムセ ア
息が詰まる 完了
息を詰まらせていた
- 4657 wen kem urar
ウェン ケム ウララ
悪い 血 霧
ひどい血の霧
- 4658 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 讓歩
も、
- 4659 irukai tom ta
イルカイ トム タ
しばらくの間 中心 場所
すぐに
- 4660 kohechawe.
コヘチャウエ.
はじける
はじけ飛んだ。
- 4661 Irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 繫 条件
しばらくすると、
- 4662 teeta kam ka
テエタ カム カ
以前 肉 上
以前の肉付きが
- 4663 iyeunu
イイエヌ
つく
戻った。
- 4664 kimuikashi ta
キムイカシ タ
頭上 場所
頭の上は
- 4665 teeta korachi
テエタ コラチ
以前 ように
以前のように、
- 4666 kamui koro be turanno
カムイ コロ ベ トウランノ
神 持つ もの とともに
神宝とともに、
- 4667 yaikokarkar
ヤイコカカ
一人でこしらえる
美しくなった。

*103 Batchelor. An-ohoro v.t. and v.i. To be lengthened. To have been kept for a long time. To lengthen.

*104 始め boror と書かれたが、baror に訂正されている。

*105 原ノートでは nishne と書かれているが nishte と解釈する。

- 4668 imi or unno
イミ オロ ウンノ
着物 所 方向
着物も、
- 4669 hoshkino^{*106} kasuno
ホシキノ カスノ
先に 越えて
元の姿を越える
- 4670 korachi
コラチ
ように
ほど
- 4671 yaikokarkar.
ヤイコカラカラ.
一人でこしらえる
美しくなった。
- 4672 Neike tapne
ネイケ タッネ
どこ このように
どこが
- 4673 chiwente rok be
チウエンテ ロク ベ
痛めつけられる 完了 もの
痛めつけられた
- 4674 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑問
というのか。
- 4675 tane am pirika
タネ アム ビリカ
今 ある よい
今の美しさは
- 4676 shioarwenrui.
シオアラウエンルイ.
もの凄
まさに素晴らしい。
- 4677 Isenramkusu
イセンラムクス
いつものように
以前と変わりなく、
- 4678 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃い霧、
- 4679 urar tumu
ウララ トムム
霧 中
その霧の中に
- 4680 yayomare.
ヤヨマレ.
自らを入れる
身体を入れている。
- 4681 Bishkanike
ビシカニケ
周囲
その周囲は
- 4682 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 4683 eshimaka kane.
エシマカ カネ.
輝く 程度
輝いている。
- 4.5 白い巻貝の話
- 4684 Sotki ka ta
ソトキ カ タ
寢床 上 場所
妹は寢床の上で
- 4685 matkosanu.
マトコサヌ.
さっと立ち上がる
飛び起きた。
- 4686 Pirika sotki
ピリカ ソトキ
よい 寢床
良い寢床を
- 4687 chuppa wa
チュッパ ワ
畳む 接続
畳み、
- 4688 shiso un kachenchai
シソ ウン カケンチャイ
右座 ある 掛け竿
右座の衣桁、
- 4689 kachenchai choroboki
カケンチャイ チョロボキ
掛け竿 下
その衣桁の下に
- 4690 oranrani.
オランラニ.
押し付ける
片付けた。
- 4691 Tap orowa
タップ オロワ
これ 始点
それから、
- 4692 abe tuisam
アベ トウイサム
火 すぐ側
火の傍らに
- 4693 ehorari kane.
エホラリ カネ.
居る 程度
座った。
- 4694 Tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 提題
まさしく、
- 4695 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 強調
喉の奥が
- 4696 uwetunuisse
ウウエトウスイセ
美しく響く
鳴り響き、
- 4697 itak hawe
イタク ハウエ
言う 声
このように
- 4698 ene okai i.
エネ オカイ.
このように ある 形名
言った。
- 4699 “Koninkar kusu
“コンンカラ クス
もしもし 根拠
「さてさて、
- 4700 utarpa utar
ウタラバ ウタラ
首領 たち
頭領たち、
- 4701 rametok utara
ラメトク ウタラ
勇者 たち
勇者たちが
- 4702 uatte yakka
ウアトテ ヤッカ
大勢集まる 譲歩
集まっているが、
- 4703 ikir bake ta
イキリ バケ タ
列 頭 場所
列の上手にいる
- 4704 kimunto un
キムント ウン
地名 ある
キムントの
- 4705 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 繫 ある もの
神である者たち、
- 4706 rametok utar
ラメトク ウタラ
勇者 たち
勇者たち、
- 4707 itak-an^{*107} chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
話すから
- 4708 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
良く 聞く 接続
よく聞いて
- 4709 i-kore yan.
イ・コレ ヤン.
我・与える 命令
ほしい。
- 4710 A-ye poka^{*108}
ア・イエ ポカ
我・言う 限度
話すのも
- 4711 eyashtoma p ne koroka
エヤシトマ ッ ネ コロカ
恥じる もの 繫 逆接
恥ずかしいが、
- 4712 tapne kane
タッネ カネ
このように 程度
あのよう、
- 4713 tomisambechi ot ta
トミサムベチ オト タ
地名 所 場所
トミサンベチへ
- 4714 oman-an wa
オマンアン ワ
行く・我 接続
私は向かった。
- 4715 sonno nep ka
ソンノ ネッ カ
真に 何 追加
まことに何も、

p. 100

^{*106} 始め oshkino と書かれたが、hoshkino に訂正されている。

^{*107} 始め itak と書かれたが itakan に訂正されている。

^{*108} 始め po と書かれたが poka に訂正されている。

- 4716 ponno ka
ボンノ カ
少し 追加
少しも
- 4717 a-shitoma p ka
ア・シトマ プ カ
我・恐ろしいもの 追加
恐れるものは
- 4718 isam ari
イサム アリ
ない 引用
ないと
- 4719 yainu-an kusu
ヤイヌ・アン クス
考える・我 根拠
思い、
- 4720 tapne tapne
タップネ タップネ
このように このように
あのよう
- 4721 ishimemokka-an.
イシメモッカ・アン.
挑発する・我
挑発をした。
- 4722 Neiam be
ネアム ベ
その もの
それで
- 4723 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
私の兄たちと
- 4724 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
年少の姉が
- 4725 rushka kusu
ルシカ クス
怒る 根拠
怒り、
- 4726 i-tasaroshki.
イ・タサロシキ.
我・立ち向かう
私に向かってきた。
- 4727 Arobittano
アロビトタノ
すべて
私は一人残らず
- 4728 a-eattamnere awa
ア・エアトタムネレ アワ
我・一刀のもとに斬る 展開
斬り捨てたが、
- 4729 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
年少の兄は
- 4730 ukemnu rui be
ウケムヌ ルイ ベ
互いに憐れむ 激しいもの
兄弟を憐れに
- 4731 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
繋 もの 繋 根拠
思い、
- 4732 tapne tapne
タップネ タップネ
このように このように
あのよう
- 4733 hawean kor
ハウエアン コロ
言う 同時
言いながら、
- 4734 i-kotetterke koroka
イ・コテテレケ コロカ
我・跳びかかる 逆接
私に向かってきた。
- 4735 keutum ot ta p. 101
ケウトウム オトタ
心 所 場所
心の中では、
- 4736 rauki mina
ラウキ ミナ
密かな 笑う
密かに笑い、
- 4737 rauki sapse
ラウキ サッセ
密かな 笑う
嘲って
- 4738 a-uwesuye kane.
ア・ウウエスイエ カネ.
我・揺する 程度
いた。
- 4739 A-annokar kuni batek
ア・アンノカクニ バテク
我・酷く殺す 必然 限定
無残な殺し方をしてやろうと
- 4740 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思ったが、
- 4741 ouse
オウセ
ただ
頭の中で
- 4742 yainu-an i takubi
ヤイヌ・アニ タクビ
考える・我 形名 限定
考えることしか
- 4743 ne awan
ネ アワン
繋 判明
できなかった。
- 4744 sonno hetap ne
ソンノ ヘタップ ネ
真に これ 繋
まことに驚いた。
- 4745 pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
年少の兄は、
- 4746 naa chikai hekachi
ナア チカイ ヘカチ
まだ 背負われる 子供
まだ背負われた子供、
- 4747 chikai teinap
チカイ テイネプ
背負われる 赤子
背負われた赤子
- 4748 ne kane okai be
ネ カネ オカイ ベ
繋 程度 ある もの
であるが、
- 4749 ituren hetap
イトウレン ヘタップ
憑く これ 繋
憑神の力のためか、
- 4750 shimoye hetap ne
シモイエ ヘタップ ネ
働く これ 繋
その戦いぶりのためか、
- 4751 koneptapteta
コネップタテタ
何ということ
驚くべき
- 4752 kichi shiri
キチ シリ
する 様子
強さである。
- 4753 shisak nubur mat
シサク スブル マト
またとない 霊力がある 女
私は比類ない霊力をもつ女、
- 4754 ituren kor be
イトウレン コロ ベ
憑く 持つ もの
憑神の力が強い女
- 4755 a-ne awa
ア・ネ アワ
我・繋 展開
であるが、
- 4756 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
年少の兄は
- 4757 nei ta bakno
ネ タ バクノ
どこ 場所 限度
どこまでも
- 4758 i-otamkote
イ・オタムコテ
我・斬る 展開
私に刀を向け、
- 4759 sonno ponno poka
ソンノ ボンノ ポカ
真に 少し 限度
少しも
- 4760 hekiru nittom
ヘキル ニトトム
振り向く 隙
振り向く隙を、
- 4761 hosari nittom
ホサリ ニトトム
振り向く 隙
振り返る隙を
- 4762 a-i-y-eniukeshte.
ア・イ・イエニウケシテ.
我・出来なくさせられる
与えない。
- 4763 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの 根拠
そこで、
- 4764 ponno ka
ボンノ カ
少し 追加
少し
- 4765 nuinak-am boka
ヌイナク・アム ボカ
隠れる・我 限定
隠れることも
- 4766 a-eaikap.
ア・エアイカプ.
我・出来ない
できなかった。
- 4767 Kira batek
キラ バテク
逃げる 限定
逃げることばかり、
- 4768 hoyubu batek
ホユブ バテク
走る 限定
走ることばかりで、

- 4769 sonno
ソノン
真に
まことに
- 4770 eyairamushitne
エヤイラムシトネ
思い悩む
私は苦戦を
- 4771 a-ki aine
ア・キ アイネ
我・する 接続
強いられた。
- 4772 i-kishma hine
イ・キシマ ヒネ
我・つかまえる 接続
兄は私を捕まえると、
- 4773 i-toikokoiki
イ・トイココイキ
我・激しく攻める
激しく攻撃し、
- 4774 i-toikokikkik.
イ・トイコキキキ.
我・激しく打ち叩く
激しく叩いた。
- 4775 Aokai bak be
アオカイ バク ベ
我 限定のもの
私は
- 4776 sonno
ソノン
真に
まことに
- 4777 i-yaiwenukare-an
イ・ヤイウエスカレ・アン
我・苦しめられる
苦しめられた。
- 4778 naani ka
ナアニ カ
大方 追加
もう少しで、
- 4779 rai ne yakka
ライ ネ ヤッカ
死ぬ 繋 譲歩
死ぬにしても
- 4780 semkatune
セムカトゥネ
並でなく
ひどい死に方を
- 4781 a-ki a koroka
ア・キ ア コロカ
我・する 完了 逆接
するところであったが、
- 4782 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
しばらくの間
- 4783 iki-an aine
イキ・アン アイネ
する・我 接続
もがいているうちに、
- 4784 i-obichi wa p. 102
イ・オビチ ワ
我・放す 接続
私は腕の中から抜け出した。
- 4785 kushkeraipo
クシケライポ
おかげで
そのおかげで、
- 4786 ohonno ohonno
オホンノ オホンノ
しばらく しばらく
しばらくの間、
- 4787 shine ushike ta
シネ ウシケ タ
一つのところ 場所
とある場所で
- 4788 shini-an.
シニ・アン.
休む・一人
休んでいた。
- 4789 Yayebotara-an aine
ヤイエボタラ・アン アイネ
自ら治癒する・我 接続
身体を治癒して、
- 4790 eashka
エアシカ
顔を
まさしく
- 4791 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 始点
長い間、
- 4792 yainimpa-an
ヤイニムパ・アン
自らを引きずる・我
身体を引きずり、
- 4793 reye-an kane
レイエ・アン カネ
這う・我 程度
這うようにしながら、
- 4794 kimunto kotan
キムント コタン
地名 村
キムント村に
- 4795 a-koshirepa ruwe ne.
ア・コシレパ ルウェ ネ.
我・到着する 跡 繋
辿り着いたのだ。
- 4796 Eboso kusu
エボソ クス
突き抜ける 根拠
道理で、
- 4797 asuru ash be
アスル アシ ベ
噂 立つもの
噂に名高い者が
- 4798 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ兄
年少の兄
- 4799 ne kusu
ネ クス
繋 根拠
である訳だ。
- 4800 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 繋
人間の姿を
- 4801 okai be hene
オカイ ベ ヘネ
あるもの 例示
している者
- 4802 ne kuni
ネ クニ
繋 必然
であると
- 4803 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思っていたが、
- 4804 a-ye rokokai
ア・イエ ロコカイ
言われる 判明
人が噂をする、
- 4805 chinomi kamui
チノミ カムイ
祭られる 神
祀られた神が
- 4806 toi ka oterke
トイ カ オテレケ
土 上 着地する
地上に降りた
- 4807 a-koenemba p
ア・コエネムバ P
似つかわしいもの
ような様子である。
- 4808 kashike un
カシケ ウン
上 ある
その上、
- 4809 ituren hetap
イトウレン ヘタップ
憑く これ
憑神の力のためか、
- 4810 moimoike hetap ne
モイモイケ ヘタップ ネ
動く これ 繋
その戦いぶりのためか、
- 4811 koneptapteta
コネップタプテタ
何ということ
まことに
- 4812 iramkursere
イラムクルセレ
不思議に思わせる
恐ろしく、
- 4813 iramtoinere
イラムトイネレ
驚く
脅威
- 4814 kichi shiri
キチ シリ
する 様子
である。
- 4815 eashka rai-am bakno
エアシカ ライ・アム バクノ
顔を 死ぬ・我 限度
私は死にそうになり、
- 4816 iyokunure-an
イヨクヌレ・アン
驚く・我
驚いた
- 4817 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 繋
のだ。
- 4818 Tapne kane
タップネ カネ
このように 程度
あのように、
- 4819 ituren shiri
イトウレン シリ
憑く 様子
憑神の力が強く、
- 4820 shimoipa shiri
シモイパ シリ
働き 様子
奮闘する
- 4821 okai be ne ko
オカイ ベ ネ コ
あるもの 繋 条件
ということ

- 4822 anakne
アナクネ
は
であれば、
- 4823 tumunchi kinra
トゥムンチ キンラ
戦争 狂気
戦いの狂気、
- 4824 rorumbe kinra
ロルムベ キンラ
戦闘 狂気
戦闘の狂気に
- 4825 eyaitushtekka*109
エヤイトウシテッカ
沈黙する
憑りつかれた
- 4826 ne*110 wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接続 繋 条件
ときには、
- 4827 kimunto kotan*111
キムント コタン
地名 村
キムント村の
- 4828 tukarike ush be
トゥカリケ ウシ ベ
手前 あるもの
手前で立ち止まる
- 4829 somo ne kuni
ソモ ネ クニ
否定 繋 必然
ことはないように
- 4830 a-ramu.
ア・ラム、
我・思う
思う。
- 4831 Tam be kusu
タム ベ クス
このもの根拠
そこで、
- 4832 taban tewano p. 103
タバノ テワノ
このこれから
これから
- 4833 attumunchi
アトウムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 4834 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦闘を
- 4835 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 4836 shinutapka un
シヌタプカ ウン
地名 方向
シヌタプカに
- 4837 a-omante eaikap kuni
ア・オマンテ エアイカクニ
我・行かせる できない 必然
仕掛けることはできないと
- 4838 a-ramu ruwe tab an.
ア・ラム ルウェ タバン、
我・思う 跡 これ ある
思う。
- 4839 Nekona shino
ネコナ シノ
どのように まことに
どのように
- 4840 ikichi-an ko
イキチ・アン コ
する・我 条件
すれば
- 4841 pirika ruwe ne ya.
ピリカ ルウェ ネ ヤ、
よい 跡 繋 疑問
よいだろうか。
- 4842 Tane anakne
タネ アナクネ
今 提題
今は、
- 4843 a-keutumkashi
ア・ケウトムカシ
我・心の上
私の心は
- 4844 chiukoboye
チウコボイエ
混ざっている
入り乱れ、
- 4845 tup ne rep ne
トゥップネ レップネ
二つ 繋 三つ 繋
心が二つになり、
- 4846 yainu-an.
ヤイヌ・アン、
考える・我
三つになったようである。
- 4847 Sonno yaikeukor-an
ソンノ ヤイケウコロ・アン
真に 苦勞する・我
私は戦いで辛酸を舐め、
- 4848 yomne-an ruwe tab an.”
ヨムネ・アン ルウェ タバン、”
懲りる・我 跡 これ ある
懲り懲りした。」
- 4849 ari isoitak.
アリ イソイタク、
引用 体験を話す
妹はこのように語った。
- 4850 Rauki mina
ラウキ ミナ
密かな 笑う
我は笑みを浮かべ、
- 4851 rauki sapse
ラウキ サッセ
密かな 笑う
嘲笑
- 4852 a-uwesuye.
ア・ウウェスイエ、
我・揺する
した。
- 4.6 年長のキムント彦が語る
- 4853 Chikupso kurka
チクッソ クルカ
酒宴の座 上
酒宴の座は
- 4854 rapkosanu
ラッコサヌ
静まる
沈黙し、
- 4855 shittoyakan
シトヤカン
地上一帯
周囲は
- 4856 kokishnatara.
コキシナタラ、
静まる
静まり返った。
- 4857 Konep hawe ka
コネップ ハウエ カ
何 声 追加
何の声も
- 4858 konep humi ka
コネップ フミ カ
何 音 textbf 追加
音も
- 4859 isam kane.
イサム カネ、
ない 程度
聞こえない。
- 4860 Inne kuni p
インネ クニッ
大勢である 必然 もの
大勢の者、
- 4861 okkayo ot ta
オッカヨ オト タ
若者 所 場所
男たちも
- 4862 matutar ka ta
マトウタラ カ タ
女たち 上 場所
婦人たちも、
- 4863 okkeu ka wa
オッケウ カ ワ
首 上 始点
襟首の上から
- 4864 chininarbare kane.
チニナラバレ カネ、
うなだれる 程度
うつむいている。
- 4865 A-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
人が噂をする
- 4866 kimuntounkuru
キムントウンクル
キムント人
キムントの
- 4867 kiyanne ike
キヤンネ イケ
年長である 方
年長の者
- 4868 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接続 繋 譲歩
は、

*109 始め eyaitushka と書かれたが eyaitushtekka に訂正されている。

*110 原ノートでは ne の後にもう一度 ne と書かれているが、誤記とみなし削除する。

*111 以下4行の解釈は未詳。

- 4869 inkinebe
インキネベ
どちら
弟と比べても、
- 4870 shiretok ot ta
シレットク オトタ
美貌 所 場所
その容貌や
- 4871 shibopke ot ta
シボナケ オトタ
着る物 所 場所
装束に
- 4872 urabokkari wa
ウラボッカリ ワ
優劣がある 接続
優劣が
- 4873 shiran nankor a.
シラン ナンコラ.
有様である だろう 完了
あるだろうか。
- 4874 Kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 繫
神の如き様子
- 4875 pirika kane.
ピリカ カネ.
よい 程度
である。
- 4876 Sake sapte koro
サケ サッテ コロ
酒 出す 同時
酒を取り出して
- 4877 okai awa ne yakka
オカイ アワ ネ ヤッカ
ある 展開 繫 譲歩
いたが、
- 4878 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しいもの
驚いたもの
- 4879 kone p ne kusu
コネ ヲ ネ クス
繫 もの 繫 根拠
であるから、
- 4880 rorunso kurka *p. 104*
ロルンソ クルカ
上座 上
上座に
- 4881 ehorarba kane
エホラバ カネ
居る 程度
座り、
- 4882 sonno pirikano
ソンノ ピリカノ
真に 良く
よく
- 4883 ikokanu wa okai.
イコカヌ ワ オカイ.
聞く 接続 ある
話を聞いている。
- 4884 Pon kimuntoumbe
ボン キムントウムベ
小さい キムント人
年少のキムント彦は、
- 4885 oshiso un
オシソ ウン
右座 方向
右座にいる
- 4886 retar mokorir
レタラ モコリリ
白い 巻貝
白い巻貝の
- 4887 rorke ehorarba
ロケ エホラバ
上手の座 居る
上手に座り、
- 4888 ikokanu wa okai.
イコカヌ ワ オカイ.
聞く 接続 ある
話を聞いている。
- 4889 Inu rokine
イヌ ロキネ
聞く 接続
話を聞いて
- 4890 obittano
オビタノ
皆
二人とも、
- 4891 okkeu ka wa
オクケウ カ ワ
首 上 始点
襟首の上から
- 4892 chininarbare kane
チニナラバレ カネ
うなだれる 程度
うつむき、
- 4893 shineanipo
シネアニポ
一箇所
同じところを
- 4894 shikomarba kane.
シコマラバ カネ.
目を向ける 程度
見つめている。
- 4895 Kiyanne ike
キヤンネ イケ
年長である 方
年長の者は
- 4896 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 強調
喉を
- 4897 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響かせて、
- 4898 ene itak i.
エネ イタキ.
このように言う 形名
このように言った。
- 4899 “Hetak hetak
“ヘタク ヘタク
さあ さあ
「さあさあ、
- 4900 a-kor tonoto
ア・コロ トノト
我・もつ 酒
我らの酒で
- 4901 kamui a-enomi.
カムイ ア・エノミ.
神 我・祈る
神を祭ろう。
- 4902 A-ku okere yakne
ア・ク オケレ ヤクネ
我・飲む 終了 条件
飲み終えたら、
- 4903 orotunashno
オロトゥナシノ
一刻も早く
早く
- 4904 tumi shikarkar
トゥミ シカラカラ
戦い 支度する
戦いの準備、
- 4905 wem be shikarkar
ウエム ベ シカラカラ
悪いもの 支度する
戦闘の準備を
- 4906 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する 接続
して、
- 4907 tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ、
- 4908 shinutapka un
シヌタプカ ウン
地名 方向
シヌタプカへ
- 4909 attumunchi
アトトウムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 4910 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦闘を
- 4911 a-omante kusu ne.
ア・オマンテ クス ネ.
我・行かせる 根拠 繫
仕掛けよう。
- 4912 Ramma tashi
ラムマ タシ
いつも 強調
いつものように、
- 4913 a-omante kusu
ア・オマンテ クス
我・行かせる 根拠
戦いの
- 4914 etoko a-oiki.
エトコ ア・オイキ.
前方 我・する
備えをしよう。
- 4915 Nisap ponyaumbe
ニサプ ポンヤウムベ
急に ポンヤウンベ
急にボンヤウンベ、
- 4916 toiyaumbe
トイヤウムベ
トイヤウンベ
トイヤウンベが
- 4917 taban ushike ta
タバウンシケ タ
この ところ 場所
この場所に
- 4918 ek hene
エク ヘネ
来る 例示
来るかも
- 4919 somo hene
ソモ ヘネ
否定 例示
しれない。
- 4920 tunashno
トゥナシノ
早く
早く、
- 4921 a-kot tonoto
ア・コト トノト
我・持つ 酒
我らの酒を

- 4922 a-osabitare
ア・オサビタレ
我・済ます
飲み干して
- 4923 kusu ne.”
クス ネ.”
根拠 繫
しまおう。」
- 4924 ari
アリ
引用
年長の者はこのように
- 4925 ibawetenke.
イバウェテンケ.
指図する
命令した。
- 4926 Inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である 必然 もの
大勢の者は
- 4927 “Ohaine kane.
“オハイネ カネ.
なるほど 程度
「確かに
- 4928 Ruwe un.”
ルウェ ウン.”
跡 文終結
その通りだ」
- 4929 ari
アリ
引用
と
- 4930 euweese-
エウウェエセ・
互いに承諾する
承諾の
- 4931 echiuba kane. *p. 105*
エチウバ カネ.
刺す 程度
返事をした。